

シヨロマ2遺跡

-厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 13-

2015.3

厚真町教育委員会



1. ショロマ2遺跡 俯瞰 NE→



2. 落とし穴群完掘状況(H25) NW→

カラー2



1. VH-01遺物出土状態 S→



2. 地すべり堆積層 E→



1. TP-44・45検出 SE→



2. TP-38断面 NE→

カラー4



1. 第Ⅲ群B1類土器



2. 棍棒形石器他

序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この母なる厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水の確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成25年10月に本体着工されました。

本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたショロマ2遺跡の発掘調査報告書であります。株式会社シン技術コンサルの御協力のもと平成25年度・26年度の2カ年にわたって行った発掘調査成果を記すもので、縄文時代、約4,600年前の集落跡とシカ猟の落とし穴などが多数見つかりました。

今後は、これらの貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として広く普及、活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く感謝申し上げる次第であります。

平成27年3月

厚真町教育委員会
教育長 兵頭 利彦

例 言

1. 本書は、平成 25・26 年度の厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査したショロマ 2 遺跡(登載番号：J-13-92)の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、北海道の委託を厚真町教育委員会(以下、町教委)が受託し、株式会社シン技術コンサル(以下、シン技術)が町教委の指導のもと発掘調査を行った。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。
調査担当者：乾 哲也(町教委)、長谷川 徹(シン技術)
調査員：工藤 肇・大谷 正芳(シン技術)
測量計測員：惣田 稔(シン技術)
測量技能作業員：海津 孝之・大山 眞由美・松並 恵里子(シン技術)
整備技能作業員：鈴木 貴之・日野 修・竹田 行雄・仁木 広行(シン技術)
調査協力：奈良 智法・岩橋 由久・服部 一雄・宮崎 美奈子・松井 昭(町教委)、
宮塚 義人(宮塚文化財研究所)、清水 昌樹(シン技術)
4. 本書の編集は乾のもと、長谷川、工藤、大谷、惣田が行い、整理・執筆分担は下記の通りである。
乾：指導、土器・石器(一次・二次整理)、I 章の執筆
長谷川：土器・石器(一次・二次整理)、II 章・IV 章の執筆
工藤：石器(一次整理)、II 章・IV 章の執筆
大谷：石器(一次・二次整理)、II 章・IV 章の執筆
惣田：労務・作業工程管理、各種図面・写真図版作成
5. 関連諸科学の同定分析については、町教委発注のもと以下の機関及び個人に依頼し、玉稿を賜った。
炭化物年代測定：株式会社 加速器分析研究所
炭化種子同定：Project Seeds 考古植物研究会 椿坂恭代
6. 調査・報告にあたり下記の方々より特段の御指導を賜った。
土器の整理・分類：大沼忠春(日本考古学協会員)
遺構図・遺物実測図作成指導：佐藤一夫(日本考古学協会員)
7. 土器・石器の実測は株式会社 シン技術コンサル が行った。
8. 出土遺物の写真撮影は有限会社 写真事務所クリーク 佐藤雅彦 が行った。
9. 本調査によって得られた資料等は、町教委で保管している。
10. 調査・報告にあたって下記の機関及び個人より御指導御協力を頂いた、記して感謝申し上げます。
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、北海道胆振総合振興局、北海道室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、千歳市埋蔵文化財センター、恵庭市郷土資料館、江別市郷土資料館、(株)第四紀地質研究所、厚真町幌内自治会、(株)佐藤組、(株)アースサイエンス 赤石慎三、阿部明義、新家水奈、稲垣和幸、氏江敏文、宇田川洋、内田和典、大泉博嗣、大島直行、大島秀俊、大谷敏三、岡 孝雄、笠原 興、川内谷修、工藤研治、河野本道、越田賢一郎、越田雅司、近藤 務、佐川俊一、末光正卓、鈴木将太、瀬川拓郎、園部真幸、高橋 理、田口 尚、竹田輝雄、田才雅彦、田中哲郎、田村俊之、千葉英一、富永勝也、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、二階堂啓也、西脇対名夫、畑 宏明、広田良成、藤原秀樹、三浦正人、蓑島栄紀、宗像公司、村田 大、村本周三、森岡健治、森田知忠、藪中剛司、米道 博(以上敬称略)

凡例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略称を用いた。なお、落とし穴以外の遺構略号には層位名を付加している。

[遺構] 住居跡：H 住居内の焼土：HF 住居内の土坑：PT 住居に伴う柱穴：HP 落とし穴：TP
TP内の杭穴：KP 土坑：P 焼土：F

[遺物] 土器：P 縄文土器：JP 剥片石器：FT 礫石器：ST
石斧石器群削片：SFC 剥片・削片：FC 礫：S

[遺物等集中] 土器集中：PB 礫集中：SB 石斧石器群削片集中：SFCB 剥片・削片集中：FCB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

[堆積土] 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b
白頭山苦小牧火山灰：B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c
樽前 d1 風化ローム：Ta-d1L 樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1S
樽前 d2 風化ローム：Ta-d2L 樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2P
地すべり堆積層：A・B・C・D 攪乱：KR

[色調] 小山・竹原編著『新版 標準土色帳』（2000）に従った。

[注記] 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。混入土の比率は以下の表記を用いた。

A+B：A と B が同量比混じる A-B：A を主体に B が多量に混じる

A=B：A を主体に B が少量 A≡B：A を主体に B が微量

φ：粒径（単位：mm） ↓：以下 （状態）：斑状・均一・縞状に混じる等

[層位] 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や倒木攪乱などの二次的に堆積したものには算用数字を用いた。また各層の上・中・下位については下記の略号を用いた。

U：上位 M：中位 L：下位 例：VbU、VbM、VbL 等

3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものもあるため図中のスケールに縮尺を明示した。

住居跡：1/40 住居跡に付属する炉跡・土坑・柱穴その他：1/20 落とし穴：1/40 土坑：1/40

焼土：1/20 集中遺物出土状態：1/20 または 1/10 土器実測図：1/3 土器拓影図：1/3

剥片石器実測図：1/2 礫石器実測図：1/3 または 1/4 石製品（垂飾）：1/2

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いた。

[線種] -----：オーバーハング ————：トレンチ -.-.-.-.-：攪乱・トレンチによる遺構推定

[落とし穴] 第Ⅱ章第Ⅱ節の落とし穴堆積図に以下のトーンを用いた。

：VI層 ：VII層 ：VIIa層 ：VIIb層 ：IX層 ：X層

[焼土] 被熱による土壌赤色化の度合いの表現に以下のトーンを用いた。

：焼土燃焼面範囲 ：付帯黒色部範囲

5. 遺物実測図中に以下の略号を用いた。

[断面] √—————√：たたき痕 |—————|：剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕

[平面] ：タール状物質付着範囲 ：黒色物質付着範囲

6. 一覧表中の石材については、乾・長谷川・工藤が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。緑泥片岩は緑色泥岩に含めている。また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Aga-Sh. : メノウ質頁岩 And. : 安山岩 Bl-Sch. : 青色片岩 Gni. : 片麻岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩 Obs. : 黒曜石
Sa. : 砂岩 Sch. : 片岩 Si II. : 珪化岩 II Sh. : 頁岩 Ta. : 滑石

本文目次

カラー図版	第5節 調査の概要…………… 10
1-1 ショロマ2遺跡 俯瞰	第6節 遺跡の位置…………… 11
1-2 落とし穴群完掘状況(H25)	1. 厚真町の概要…………… 11
2-1 VH-01 遺物出土状態	2. 遺跡の位置と周辺の環境…………… 15
2-2 地すべり堆積層	3. 調査区内の地形と地質…………… 18
3-1 TP-44・45 検出	
3-2 TP-38 断面	
4-1 第Ⅲ群 B1 類土器	
4-2 棍棒形石器他	
序 文	
例 言	
凡 例	
	第Ⅱ章 縄文時代の調査
	第1節 住居跡…………… 29
	第2節 落とし穴…………… 57
	第3節 土 坑…………… 91
	第4節 焼 土…………… 97
	第5節 土器集中…………… 107
	第6節 礫集中…………… 117
	第7節 石斧石器群削片集中…………… 157
	第8節 剥片・削片集中…………… 161
	第9節 包含層出土遺物…………… 162
	1. 土 器…………… 162
	2. 剥片石器…………… 176
	3. 礫石器・その他…………… 177
	第Ⅲ章 自然科学的分析
	第1節 ショロマ2遺跡における 放射性炭素年代(AMS 測定)…………… 197
	第2節 ショロマ2遺跡から 検出された植物種子…………… 200
	第Ⅳ章 まとめ…………… 204
	引用・参考文献…………… 205
	報告書抄録…………… 301
	奥 付
第Ⅰ章 調査の概要	
第1節 調査要項と体制…………… 1	
1. 調査要項…………… 1	
2. 調査体制…………… 1	
第2節 調査に至る経緯…………… 2	
1. 厚幌ダム建設事業…………… 2	
2. 発掘調査までの経緯…………… 2	
第3節 調査の方法…………… 3	
1. 発掘区の設定…………… 3	
2. グリッド設定…………… 5	
3. 包含層及び遺構調査の方法…………… 5	
4. 整理作業…………… 7	
第4節 遺物の分類…………… 8	
1. 土 器…………… 8	
2. 剥片石器…………… 8	
3. 礫石器…………… 9	

挿 図 目 次

第 I 章

図 I-1	厚幌ダム建設事業関連 埋蔵文化財包蔵地位置図……………	4
図 I-2	周辺の地形図及びグリッド設定図……………	6
図 I-3	グリッド模式図……………	7
図 I-4	厚真町内遺跡分布図……………	13
図 I-5	周辺の遺跡と地形面区分図……………	16
図 I-6	基本土層柱状図……………	21
図 I-7	地形面区分及び堆積模式図……………	22
図 I-8	調査範囲・土層断面実測・ 試掘坑位置図……………	23
図 I-9	調査区土層断面図 AE ライン……………	24
図 I-10	調査区土層断面図 12 ライン……………	25
図 I-11	調査区土層断面図 M ライン……………	26
図 I-12	調査区西壁土層柱状図……………	27
図 I-13	調査区西壁・北壁土層柱状図……………	28

第 II 章

図 II-1	遺構配置図……………	33
図 II-2	VH-01 平面及び断面図……………	39
図 II-3	VH-01 付属遺構平面及び断面図……………	40
図 II-4	VH-01 付属遺構断面図……………	41
図 II-5	VH-01 遺物分布図……………	42
図 II-6	VH-01 出土土器……………	43
図 II-7	VH-01 出土石器……………	44
図 II-8	VH-02 付属遺構平面及び断面図・ 出土遺物……………	47
図 II-9	VH-03 付属遺構平面及び断面図・ 出土石器……………	48
図 II-10	VH-04 付属遺構平面及び断面図・ 出土遺物……………	49
図 II-11	VH-05 平面及び断面図……………	52
図 II-12	VH-05 出土遺物……………	53
図 II-13	VH-06 付属遺構平面及び断面図……………	55
図 II-14	VH-06 出土石器……………	56
図 II-15	TP-01・02 平面及び断面図・出土土器……………	68

図 II-16	TP-03・04 平面及び断面図・出土遺物……………	69
図 II-17	TP-05・06 平面及び断面図・出土土器……………	70
図 II-18	TP-07・08 平面及び断面図……………	71
図 II-19	TP-09・10 平面及び断面図・出土遺物……………	72
図 II-20	TP-11・12 平面及び断面図・出土土器……………	73
図 II-21	TP-13 平面及び断面図・出土石器……………	74
図 II-22	TP-14 平面及び断面図・出土石器……………	75
図 II-23	TP-15・16 平面及び断面図・ 出土石器……………	76
図 II-24	TP-17・18 平面及び断面図……………	77
図 II-25	TP-19・20 平面及び断面図……………	78
図 II-26	TP-21・22 平面及び断面図・出土石器……………	79
図 II-27	TP-23・24 平面及び断面図……………	80
図 II-28	TP-25・26 平面及び断面図……………	81
図 II-29	TP-27・28 平面及び断面図・出土石器……………	82
図 II-30	TP-29～31 平面及び断面図……………	83
図 II-31	TP-32～34 平面及び断面図……………	84
図 II-32	TP-35・36 平面及び断面図……………	85
図 II-33	TP-37・38 平面及び断面図……………	86
図 II-34	TP-39 平面及び断面図……………	87
図 II-35	TP-40・41 平面及び断面図……………	88
図 II-36	TP-42・43 平面及び断面図……………	89
図 II-37	TP-44・45 平面及び断面図……………	90
図 II-38	VP-01～04 平面及び断面図・ 出土石器……………	95
図 II-39	VP-05～08 平面及び断面図……………	96
図 II-40	VP-10～15 平面及び断面図……………	97
図 II-41	VF-01～03 平面及び断面図・ 出土土器……………	102
図 II-42	VF-04～07 平面及び断面図・ 出土土器……………	103
図 II-43	VF-08～16 平面及び断面図・ 出土土器……………	104
図 II-44	VF-17～21 平面及び断面図・ 出土土器……………	105
図 II-45	VPB-01～03 平面・断面・垂直分布図……………	

	出土土器	110	図 II-67	VSB-22 平面・断面・垂直分布図	141
図 II-46	VPB-04・05 平面・断面・垂直分布図・ 出土土器	111	図 II-68	VSB-22 出土遺物	142
図 II-47	VPB-05 出土遺物	112	図 II-69	VSB-23 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	143
図 II-48	VPB-06・07 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	113	図 II-70	VSB-24 平面・断面・垂直分布図・ 出土土器	144
図 II-49	VPB-08・09 平面・断面・垂直分布図・ 出土土器	114	図 II-71	VSB-24 出土石器(1)	145
図 II-50	VPB-10~12 平面・断面・垂直分布図・ 出土土器	115	図 II-72	VSB-24 出土石器(2) その他	146
図 II-51	VSB-01 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	125	図 II-73	VSB-25・26 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	147
図 II-52	VSB-02 平面・断面・垂直分布図・ 出土土器	126	図 II-74	VSB-27~29 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	148
図 II-53	VSB-02 出土石器	127	図 II-75	VSB-30 平面・断面・垂直分布図	149
図 II-54	VSB-03・04 平面・断面・垂直分布図・ 出土土器	128	図 II-76	VSB-30 出土石器	150
図 II-55	VSB-06・07 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	129	図 II-77	VSB-31 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	151
図 II-56	VSB-08~10 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	130	図 II-78	VSB-32 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	152
図 II-57	VSB-11 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	131	図 II-79	VSFCB-01 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	159
図 II-58	VSB-12・13 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	132	図 II-80	VSFCB-01 出土石器	160
図 II-59	VSB-14・15 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	133	図 II-81	VFCB-01 平面・断面図・出土遺物	161
図 II-60	VSB-16・17 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	134	図 II-82	包含層出土土器(1)	165
図 II-61	VSB-17 出土石器	135	図 II-83	包含層出土土器(2)	166
図 II-62	VSB-18 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	136	図 II-84	包含層出土土器(3)	167
図 II-63	VSB-19 平面・断面・垂直分布図・ 出土遺物	137	図 II-85	包含層出土土器(4)	168
図 II-64	VSB-20 平面・断面・垂直分布図・ 出土石器	138	図 II-86	包含層出土土器(5)	169
図 II-65	VSB-21 平面・断面・垂直分布図	139	図 II-87	包含層出土土器(6)	170
図 II-66	VSB-21 出土石器	140	図 II-88	包含層出土土器(7)	171
			図 II-89	包含層出土剥片石器(1)	181
			図 II-90	包含層出土剥片石器(2)	182
			図 II-91	包含層出土礫石器(1)	183
			図 II-92	包含層出土礫石器(2)	184
			図 II-93	包含層出土礫石器(3)	185
			図 II-94	包含層出土礫石器(4)	186
			図 II-95	包含層出土礫石器(5)	187
			図 II-96	包含層出土礫石器(6)	188
			図 II-97	包含層出土礫石器(7)	189

図Ⅱ-98	包含層出土礫石器(8)……………	190
図Ⅱ-99	包含層出土礫石器(9)……………	191

図Ⅱ-100	包含層出土礫石器(10)……………	192
図Ⅱ-101	包含層出土礫石器(11)その他……………	193

表 目 次

第 I 章

表 I-1	シヨロマ2遺跡概要一覧表……………	10
表 I-2	シヨロマ2遺跡出土遺物一覧表……………	10
表 I-3	厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表……………	14

第 II 章

表 II-1	遺構群一覧表(1)……………	30
	遺構群一覧表(2)……………	31
	遺構群一覧表(3)……………	32
表 II-2	VH-01 属性表……………	41
表 II-3	VH-01. HF01~03 属性表……………	41
表 II-4	VH-01. PT01・02 属性表……………	42
表 II-5	VH-01. HP01・02・05~13 属性表……………	43
表 II-6	VH-01 出土土器属性表……………	45
表 II-7	VH-01 出土石器属性表……………	45
表 II-8	VH-01. HF01 出土炉石属性表……………	46
表 II-9	VH-02 属性表……………	46
表 II-10	VH-02. HF01 属性表……………	48
表 II-11	VH-02 出土土器属性表……………	48
表 II-12	VH-02 出土石器属性表……………	48
表 II-13	VH-03 属性表……………	51
表 II-14	VH-03. HF01 属性表……………	51
表 II-15	VH-03 出土石器属性表……………	51
表 II-16	VH-04 属性表……………	51
表 II-17	VH-04. HF01 属性表……………	51
表 II-18	VH-04. PT01・02 属性表……………	51
表 II-19	VH-04. HP01~03 属性表……………	51
表 II-20	VH-04 出土土器属性表……………	51
表 II-21	VH-04 出土石器属性表……………	51
表 II-22	VH-04 出土土製品属性表……………	53
表 II-23	VH-04. HF01 出土炉石属性表……………	54
表 II-24	VH-05 属性表……………	54
表 II-25	VH-05 出土土器属性表……………	54
表 II-26	VH-05 出土石器属性表……………	54

表 II-27	VH-06 属性表……………	54
表 II-28	VH-06. HF01 属性表……………	54
表 II-29	VH-06. HP01・02 属性表……………	56
表 II-30	VH-06 出土石器属性表……………	56
表 II-31	VH-06. HF01 出土炉石・礫属性表……………	57
表 II-32	落し穴属性表(1)……………	58
	落し穴属性表(2)……………	59
表 II-33	落し穴逆茂木跡属性表……………	74
表 II-34	落し穴出土土器属性表……………	75
表 II-35	落し穴出土石器属性表……………	91
表 II-36	VP 属性表……………	94
表 II-37	VP 出土石器属性表……………	94
表 II-38	VF 属性表……………	106
表 II-39	VF 出土土器属性表……………	106
表 II-40	VPB 属性表……………	109
表 II-41	VPB 出土土器属性表……………	116
表 II-42	VPB 出土石器属性表……………	116
表 II-43	VSB 属性表……………	117
表 II-44	VSB 出土土器属性表……………	124
表 II-45	VSB 出土石器属性表(1)……………	153
	VSB 出土石器属性表(2)その他……………	154
表 II-46	VSB 出土礫石器・礫比率円グラフ(1)……………	155
	VSB 出土礫石器・礫比率円グラフ(2)……………	156
	VSB 出土礫石器・礫比率円グラフ(3)……………	157
表 II-47	VSFCB-01 属性表……………	157
表 II-48	VSFCB-01 出土土器属性表……………	158
表 II-49	VSFCB-01 出土石器属性表……………	160
表 II-50	VFCB-01 属性表……………	161
表 II-51	VFCB-01 出土土器属性表……………	162
表 II-52	VFCB-01 出土剥片石器属性表……………	162
表 II-53	包含層出土土器属性表(1)……………	172
	包含層出土土器属性表(2)……………	173
	包含層出土土器属性表(3)……………	174

	包含層出土土器属性表(4)·····	175
表 II-54	包含層出土剥片石器属性表·····	180
表 II-55	包含層出土礫石器属性表(1)·····	194

	包含層出土礫石器属性表(2)その他··	195
表 II-56	包含層出土礫重量表·····	196

写真目次

図版 1-1	IV層木根・火山灰除去·····	209	図版 7-3	VH-04. HP03 断面·····	215
図版 1-2	V層検出·····	209	図版 7-4	VH-05 断面·····	215
図版 1-3	A区V層完掘·····	209	図版 7-5	VH-05 遺物出土状態·····	215
図版 1-4	B1区V層完掘·····	209	図版 8-1	VH-05 完掘·····	216
図版 1-5	B2区V層完掘·····	209	図版 8-2	VH-06 断面·····	216
図版 1-6	C区V層完掘·····	209	図版 9-1	VH-06 床面検出·····	217
図版 1-7	B2区断面·····	209	図版 9-2	VH-06. HF01 検出·····	217
図版 1-8	C区断面·····	209	図版 9-3	VH-06. HF01 断面·····	217
図版 2-1	VH-01 断面·····	210	図版 9-4	VH-06. HP01 断面·····	217
図版 2-2	VH-01 完掘·····	210	図版 9-5	VH-06. HP02 断面·····	217
図版 2-3	VH-01. HF01 検出·····	210	図版 10-1	TP-01 断面·····	218
図版 2-4	VH-01. HF01 断面·····	210	図版 10-2	TP-01 完掘·····	218
図版 3-1	VH-01. PT01 断面·····	211	図版 10-3	TP-02 検出·····	218
図版 3-2	VH-01. PT01 完掘·····	211	図版 10-4	TP-02 断面·····	218
図版 3-3	VH-01. HP01 断面·····	211	図版 10-5	TP-02 完掘·····	218
図版 3-4	VH-01. HP05 断面·····	211	図版 11-1	TP-03 検出·····	219
図版 3-5	VH-01. HP12・13 断面·····	211	図版 11-2	TP-03 断面·····	219
図版 3-6	VH-02 断面·····	211	図版 11-3	TP-03 完掘·····	219
図版 4-1	VH-02 完掘·····	212	図版 11-4	TP-04 検出·····	219
図版 4-2	VH-02. HF01 検出·····	212	図版 11-5	TP-04 断面·····	219
図版 4-3	VH-02. HF01 断面·····	212	図版 11-6	TP-04 完掘·····	219
図版 4-4	VH-03 断面·····	212	図版 12-1	TP-05 検出·····	220
図版 5-1	VH-03 遺物出土状態·····	213	図版 12-2	TP-05 断面·····	220
図版 5-2	VH-03. HF01 検出·····	213	図版 12-3	TP-05 完掘·····	220
図版 5-3	VH-03. HF01 断面·····	213	図版 12-4	TP-06 検出·····	220
図版 5-4	VH-04 遺物出土状態·····	213	図版 12-5	TP-06 断面·····	220
図版 6-1	VH-04 完掘·····	214	図版 12-6	TP-06 完掘·····	220
図版 6-2	VH-04. HF01 検出·····	214	図版 13-1	TP-07 検出·····	221
図版 6-3	VH-04. HF01 断面·····	214	図版 13-2	TP-07 断面·····	221
図版 6-4	VH-04. PT01・02 完掘·····	214	図版 13-3	TP-07 完掘·····	221
図版 7-1	VH-04. HP01 断面·····	215	図版 13-4	TP-08 断面·····	221
図版 7-2	VH-04. HP02 断面·····	215	図版 13-5	TP-08 完掘·····	221

図版 14-1	TP-09 断面	222	図版 21-4	TP-23 完掘	229
図版 14-2	TP-09 完掘	222	図版 22-1	TP-24・25 検出	230
図版 14-3	TP-10 検出	222	図版 22-2	TP-24 断面	230
図版 14-4	TP-10 断面	222	図版 22-3	TP-24 完掘	230
図版 14-5	TP-10 完掘	222	図版 22-4	TP-25 断面	230
図版 15-1	TP-11 検出	223	図版 23-1	TP-26 検出	231
図版 15-2	TP-11 断面	223	図版 23-2	TP-26 断面	231
図版 15-3	TP-11 完掘	223	図版 23-3	TP-26 完掘	231
図版 15-4	TP-12～14 検出	223	図版 23-4	TP-27 検出	231
図版 16-1	TP-12～14 調査状況	224	図版 23-5	TP-27 断面	231
図版 16-2	TP-12 断面	224	図版 23-6	TP-27 完掘	231
図版 16-3	TP-12 完掘	224	図版 24-1	TP-28 断面	232
図版 17-1	TP-13 断面	225	図版 24-2	TP-29 断面	232
図版 17-2	TP-13 完掘	225	図版 24-3	TP-29 完掘	232
図版 17-3	TP-14 断面	225	図版 24-4	TP-30 検出	232
図版 17-4	TP-14 完掘	225	図版 24-5	TP-30 断面	232
図版 17-5	TP-15 検出	225	図版 24-6	TP-30 完掘	232
図版 17-6	TP-15 断面	225	図版 25-1	TP-31 断面	233
図版 17-7	TP-15 完掘	225	図版 25-2	TP-31 完掘	233
図版 18-1	TP-16 上部断面	226	図版 25-3	TP-32 検出	233
図版 18-2	TP-16 上部完掘	226	図版 25-4	TP-32 断面	233
図版 18-3	TP-16 断面	226	図版 25-5	TP-32 完掘	233
図版 18-4	TP-17 断面	226	図版 26-1	TP-33 検出	234
図版 18-5	TP-17 完掘	226	図版 26-2	TP-33 断面	234
図版 19-1	TP-18 検出	227	図版 26-3	TP-33 完掘	234
図版 19-2	TP-18 断面	227	図版 26-4	TP-34・35 検出	234
図版 19-3	TP-18 完掘	227	図版 26-5	TP-34 断面	234
図版 19-4	TP-19 断面	227	図版 26-6	TP-34 完掘	234
図版 19-5	TP-19 完掘	227	図版 27-1	TP-35 断面	235
図版 20-1	TP-20 検出	228	図版 27-2	TP-35 完掘	235
図版 20-2	TP-20 断面	228	図版 27-3	TP-36・37 検出	235
図版 20-3	TP-20 完掘	228	図版 27-4	TP-36 断面	235
図版 20-4	TP-21 検出	228	図版 27-5	TP-36 完掘	235
図版 20-5	TP-21 断面	228	図版 27-6	TP-37 断面	235
図版 20-6	TP-21 完掘	228	図版 27-7	TP-37 完掘	235
図版 21-1	TP-22 断面	229	図版 28-1	TP-38 検出	236
図版 21-2	TP-22 完掘	229	図版 28-2	TP-38 断面	236
図版 21-3	TP-23 断面	229	図版 28-3	TP-38 完掘	236

図版 28-4	TP-38. KP01 断面	236	図版 34-5	VP-07 完掘	242
図版 28-5	TP-38. KP02 断面	236	図版 34-6	VP-08 断面	242
図版 29-1	TP-39 検出	237	図版 34-7	VP-08 完掘	242
図版 29-2	TP-39 断面	237	図版 34-8	VP-10 断面	242
図版 29-3	TP-39 完掘	237	図版 35-1	VP-10 完掘	243
図版 29-4	TP-40 検出	237	図版 35-2	VP-11 断面	243
図版 29-5	TP-40 断面	237	図版 35-3	VP-11 完掘	243
図版 29-6	TP-40 完掘	237	図版 35-4	VP-12 断面	243
図版 30-1	TP-41 検出	238	図版 35-5	VP-12 完掘	243
図版 30-2	TP-41 断面	238	図版 35-6	VP-13 断面	243
図版 30-3	TP-41 完掘	238	図版 35-7	VP-13 完掘	243
図版 30-4	TP-41. KP01 断面	238	図版 35-8	VP-14 断面	243
図版 30-5	TP-41. KP02・03 断面	238	図版 36-1	VP-14 完掘	244
図版 31-1	TP-42 断面	239	図版 36-2	VP-15 断面	244
図版 31-2	TP-42 完掘	239	図版 36-3	VP-15 完掘	244
図版 31-3	TP-43 検出	239	図版 36-4	VF-01 検出	244
図版 31-4	TP-43 断面	239	図版 36-5	VF-01 断面	244
図版 31-5	TP-43 完掘	239	図版 36-6	VF-02 検出	244
図版 31-6	TP-43. KP01 断面	239	図版 36-7	VF-02 断面	244
図版 31-7	TP-43. KP02 断面	239	図版 36-8	VF-03 完掘	244
図版 32-1	TP-44・45 検出	240	図版 37-1	VF-04 断面	245
図版 32-2	TP-44 拡張部分検出	240	図版 37-2	VF-05 検出	245
図版 32-3	TP-44 断面	240	図版 37-3	VF-05 断面	245
図版 32-4	TP-44 完掘	240	図版 37-4	VF-06 検出	245
図版 32-5	TP-45 断面	240	図版 37-5	VF-06 断面	245
図版 32-6	TP-45 完掘	240	図版 37-6	VF-07 検出	245
図版 33-1	VP-01 断面	241	図版 37-7	VF-07 断面	245
図版 33-2	VP-01 完掘	241	図版 37-8	VF-08 検出	245
図版 33-3	VP-02 断面	241	図版 38-1	VF-08 断面	246
図版 33-4	VP-02 完掘	241	図版 38-2	VF-09 検出	246
図版 33-5	VP-03 断面	241	図版 38-3	VF-09 断面	246
図版 33-6	VP-03 完掘	241	図版 38-4	VF-10 検出	246
図版 33-7	VP-04 断面	241	図版 38-5	VF-10 断面	246
図版 33-8	VP-04 完掘	241	図版 38-6	VF-11 検出	246
図版 34-1	VP-05 断面	242	図版 38-7	VF-11 断面	246
図版 34-2	VP-05 完掘	242	図版 38-8	VF-12 検出	246
図版 34-3	VP-06 断面	242	図版 39-1	VF-12 断面	247
図版 34-4	VP-06 完掘	242	図版 39-2	VF-13 検出	247

図版 39-3	VF-13 断面	247	図版 44-1	VSB-11 検出	252
図版 39-4	VF-14・VPB-12 検出	247	図版 44-2	VSB-12 検出	252
図版 39-5	VF-14 断面	247	図版 44-3	VSB-13 検出	252
図版 39-6	VF-15 検出	247	図版 44-4	VSB-14 検出	252
図版 39-7	VF-15 断面	247	図版 44-5	VSB-15 検出	252
図版 39-8	VF-16 検出	247	図版 44-6	VSB-16 検出	252
図版 40-1	VF-16 断面	248	図版 44-7	VSB-17 検出	252
図版 40-2	VF-17 検出	248	図版 44-8	VSB-18 検出	252
図版 40-3	VF-17 断面	248	図版 45-1	VSB-19 検出	253
図版 40-4	VF-18 検出	248	図版 45-2	VSB-20 検出	253
図版 40-5	VF-18 断面	248	図版 45-3	VSB-21 検出	253
図版 40-6	VF-19 検出	248	図版 45-4	VSB-22 検出	253
図版 40-7	VF-19 断面	248	図版 45-5	VSB-23 検出	253
図版 40-8	VF-20 検出	248	図版 45-6	VSB-24 検出	253
図版 41-1	VF-20 断面	249	図版 45-7	VSB-25 検出	253
図版 41-2	VF-21 遺物出土状態	249	図版 45-8	VSB-26 検出	253
図版 41-3	VF-21 断面	249	図版 46-1	VSB-27 検出	254
図版 41-4	VF-21 完掘	249	図版 46-2	VSB-28 検出	254
図版 41-5	VPB-01 検出	249	図版 46-3	VSB-29 検出	254
図版 41-6	VPB-02 検出	249	図版 46-4	VSB-30 検出	254
図版 41-7	VPB-03 検出	249	図版 46-5	VSB-31 検出	254
図版 41-8	VPB-04 検出	249	図版 46-6	VSB-32 検出	254
図版 42-1	VPB-05 検出	250	図版 46-7	VSFCB-01 検出	254
図版 42-2	VPB-06 検出	250	図版 46-8	VFCB-01 検出	254
図版 42-3	VPB-07 検出	250	図版 47-1	包含層遺物出土状況(H25)	255
図版 42-4	VPB-08 検出	250	図版 47-2	包含層遺物出土状況(H26. A 区)	255
図版 42-5	VPB-09 検出	250	図版 47-3	作業状況	255
図版 42-6	VPB-10 検出	250	図版 47-4	作業状況	255
図版 42-7	VPB-11 検出	250	図版 47-5	作業状況	255
図版 42-8	VSB-01 検出	250	図版 48	VH-01 出土遺物	256
図版 43-1	VSB-02 検出	251	図版 49	VH-01・02 出土遺物	257
図版 43-2	VSB-03 検出	251	図版 50	VH-03~05 出土遺物	258
図版 43-3	VSB-04 検出	251	図版 51	VH-06・TP-01・03~05・10 出土遺物	259
図版 43-4	VSB-06 検出	251	図版 52	TP-12~14・16・21・22・28 出土遺物	260
図版 43-5	VSB-07 検出	251	図版 53	VP-01・VF-01・03・04・09・10・19 出土遺物	261
図版 43-6	VSB-08 検出	251			
図版 43-7	VSB-09 検出	251			
図版 43-8	VSB-10 検出	251			

図版 54	VPB-01~06 出土遺物……………	262	図版 90	包含層出土礫石器(4)……………	298
図版 55	VPB-07~12 出土土器……………	263	図版 91	包含層出土礫石器(5)……………	299
図版 56	VSΒ-01・02 出土遺物……………	264	図版 92	包含層出土礫石器(6)その他……………	300
図版 57	VSΒ-03・04・06・07・10~13 出土遺物……………	265			
図版 58	VSΒ-15~17 出土遺物……………	266			
図版 59	VSΒ-18~21 出土遺物……………	267			
図版 60	VSΒ-21・22 出土遺物……………	268			
図版 61	VSΒ-23・24 出土遺物……………	269			
図版 62	VSΒ-24~27・29 出土遺物……………	270			
図版 63	VSΒ-30~32 出土遺物……………	271			
図版 64	VSFCB-01・VFCB-01 出土遺物……………	272			
図版 65	VH-01・04 炉石・VH-05 出土礫……………	273			
図版 66	VH-06 炉石・礫・VF-21 出土礫……………	274			
図版 67	VSΒ-01~03 出土礫……………	275			
図版 68	VSΒ-04・06・07 出土礫……………	276			
図版 69	VSΒ-08~10 出土礫……………	277			
図版 70	VSΒ-11~13 出土礫……………	278			
図版 71	VSΒ-14~16 出土礫……………	279			
図版 72	VSΒ-17~19 出土礫……………	280			
図版 73	VSΒ-20・21 出土礫……………	281			
図版 74	VSΒ-22~24 出土礫……………	282			
図版 75	VSΒ-24 礫石器・ VSΒ-25・26 出土礫……………	283			
図版 76	VSΒ-27~29 出土礫……………	284			
図版 77	VSΒ-30・31 出土礫……………	285			
図版 78	VSΒ-32・VSFCB-01 出土礫……………	286			
図版 79	包含層出土土器(1)……………	287			
図版 80	包含層出土土器(2)……………	288			
図版 81	包含層出土土器(3)……………	289			
図版 82	包含層出土土器(4)……………	290			
図版 83	包含層出土土器(5)……………	291			
図版 84	包含層出土土器(6)……………	292			
図版 85	包含層出土剥片石器(1)……………	293			
図版 86	包含層出土剥片石器(2)……………	294			
図版 87	包含層出土礫石器(1)……………	295			
図版 88	包含層出土礫石器(2)……………	296			
図版 89	包含層出土礫石器(3)……………	297			

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査要項と体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査業務 その2

委託者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部

事業計画者：室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所

受託者：厚真町教育委員会

調査・整理受託者：株式会社シン技術コンサル

遺跡名：シヨロマ2遺跡（J-13-92）

所在地：勇払郡厚真町字幌内 96-1・2

調査面積：平成 25 年度 2,305 m²・平成 26 年度 3,647 m²（うち遺構確認調査 3,123 m²）

受託期間：平成 25 年 4 月 11 日～平成 26 年 3 月 25 日・平成 26 年 4 月 9 日～平成 27 年 3 月 27 日

調査期間：（発掘）平成 25 年 6 月 18 日～10 月 31 日・平成 26 年 5 月 13 日～7 月 31 日

（整理）平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 3 月 14 日

平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 2 月 27 日

2. 調査体制

厚真町教育委員会	教 育 長	兵 頭 利 彦
生涯学習課	参 事	長谷川 栄治（平成 25 年度） 橋本 欣哉（平成 26 年度）
	主 幹	上田 敦子（平成 25 年度） 斉藤 雪美（平成 26 年度）
	調査担当者	乾 哲也
	調査協力者	奈良 智法 岩橋 由久（平成 25 年度）
シン技術コンサル	業務責任者	清水 昌樹
	調査担当者	長谷川 徹
	調査補助員	工 藤 肇（平成 25 年度・平成 26 年度整理業務） 大谷 正芳（平成 26 年度）
	計 測 員	惣 田 稔
	作 業 員	平成 25 年度 海津 孝之（測量技能作業員・写図工） 大山 真由美（測量技能作業員） 日野 修・鈴木 貴之（整備技能作業員） 発掘作業員 19 名 整理作業員 6 名
		平成 26 年度 松並 恵里子（測量技能作業員） 仁木 広行・竹田 行雄（整備技能作業員） 発掘作業員 11 名 整理作業員 13 名（11 月以降は 2 名）（乾）

第2節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業

町内を縦貫する厚真川中・下流域には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和46(1971)年には、現河口より上流38km地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和45年には洪水と渇水、昭和48・50・56年にも洪水が発生した。近年においては平成12年春の融雪期と平成13年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成18・21・23年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和59・60・63年には深刻な水不足にも見舞われており、平成19年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となった。平成26年春にも渇水となり、水田への引水ができず作付を断念する農家もあり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設は町民の切望として陳情されてきた。さらには市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和52年に北海道室蘭土木現業所(現北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、以下、室建管)により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成7(1995)年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業(厚幌導水路建設)が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度からの湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画である。平成24年度からは付随する町道や林道の切替工事も着手されている。厚幌ダム本体は河口から31.4kmの地点に堤体を建設する計画で、規模は堤体長516m、高さ47.2mのダムである。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400千 m^3 、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及がある。平成26年10月にダム堤体敷きの掘削が始まり本体着工に至っている。(乾)

2. 発掘調査までの経緯

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成12(2000)年7月6日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書(室土厚幌第158号)が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経て北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。事前協議区域は最深湛水面標高88.1m以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約315,700 m^2 に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所(現室建管)が委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。発掘調査は平成14(2002)年度の厚幌1遺跡から始まり、平成28年秋までの継続予定で、整理業務も含めた事業完了は平成29年度の予定である。

ダム湛水区域内については、平成 13 年 10 月に踏査(A調査)が行われ、周知の遺跡(オニキシベ 1 遺跡、上幌内 1 遺跡)を含め 16 カ所、面積 235,500 m²の「要試掘調査」の回答がなされた(平成 13 年 11 月 16 日付 教文第 4532 号)。その後の追加箇所も含め現在までに 21 遺跡、204,370 m²の要発掘・要遺構確認調査地点が確認され、うち約 80%の 164,726 m²の発掘調査を終えた(図 I-1)。

ショロマ 2 遺跡は、平成 13 年 10 月に道教委による A 調査で「要試掘調査(協議地⑩)」と回答され(平成 13 年 11 月 16 日付 教文第 4532 号)、平成 15 年 7 月と 9 月に B 調査が実施された。樽前 c テフラより下層の V 層黒色土より被熱礫や縄文土器片などの遺物が出土し、新たに「ショロマ 2 遺跡」として登載された。この結果、要発掘調査面積 3,200 m²と遺構確認調査 5,000 m²で、V 層黒色土のみの要発掘調査回答がされた(平成 15 年 11 月 14 日付 教文第 4692 号)。

本事業に伴う発掘調査は、厚幌ダム建設工事工程の中で調整され、隣接する厚真川林道の切替工事計画に合わせて調査年度が決定された。平成 24 年度のダム事務所との協議の中で、本遺跡南西側のショロマ 3 遺跡と合わせて、工事用取付道路敷設の切土造成や資材置き場等に利用されることが想定されたため、平成 25 年度に発掘調査することとなった。しかし町教委の調査員体制を十分に整えることが不可能であったため、道教委、ダム事務所との十分な協議の結果、民間調査機関へ発掘調査の一部を再委託することとなった。町教委はショロマ川を挟み南東に位置するショロマ 1 遺跡を 8,000 m²調査することとなり、本遺跡とショロマ 3 遺跡の発掘調査を再委託し、町教委担当者がこれらの調査進行を補助監督する工程を計画し、道教委や事業者からの承諾を得るところとなった。

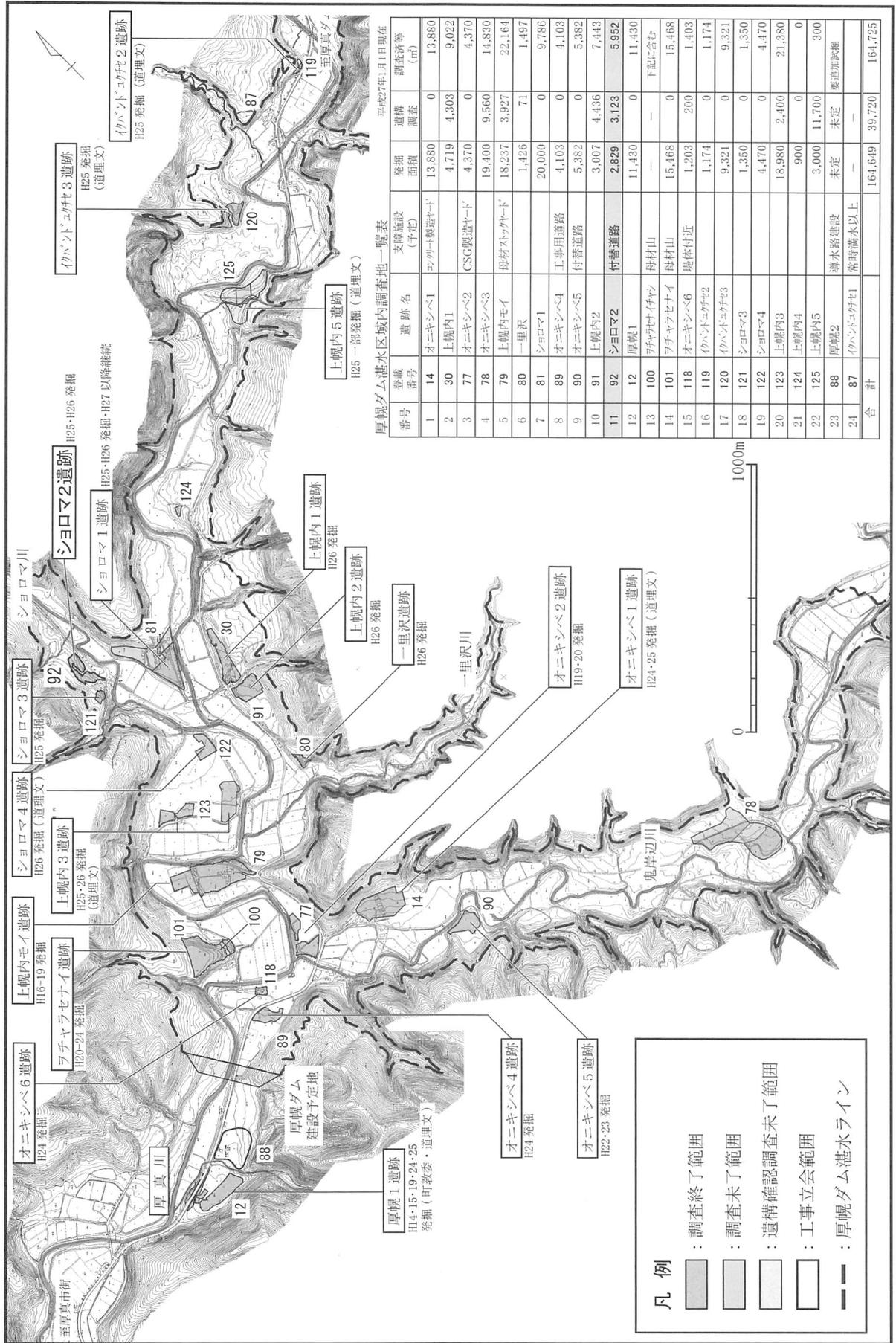
発掘調査の再委託については平成 24 年度より調整を始め、調査を受託する民間調査機関の調査体制、精度、発掘調査経費を考慮し、道内に本社があり調査実績を有する株式会社シン技術コンサル(以下、シン技術)への委託を考慮して調整を進めた。本遺跡については、全体の調査面積も広いことや一部保安林指定範囲もあることから、平成 25 年度のダム工事計画で引き渡しを急ぐ南部の発掘調査区域、継続して平成 26 年度に北部の遺構確認調査区域の 2 カ年にわたる発掘調査を計画した。

平成 25 年 4 月 10 日に委託者の室建管と町教委で発掘調査の契約締結が交わされ、同時にシン技術への発掘調査の再委託承諾願いが承認された。調査準備として伐採や火山灰除去、発掘作業員体制の一部整備等を町教委で進め、同時にシン技術は調査員体制や計画工程の確定と作業員との雇用契約準備、グリッド杭設置等を進めた。平成 25 年 4 月 17 日に町教委はシン技術とで「ショロマ 3 遺跡発掘調査支援委託業務」を締結し、6 月中旬までの発掘調査を実施した後に引き続き、本遺跡の「ショロマ 2 遺跡発掘調査支援委託業務」を締結した。なおシン技術への再委託契約は、調査範囲拡張や期間延長の可能性、出土遺物点数の確定によって整理業務の内容や作業員人数などの変更の可能性もあることから「発掘調査支援委託業務」と「整理報告書刊行委託業務」とで区分した。(乾)

第 3 節 調査の方法

1. 発掘区の設定(図 I-2)

ショロマ 2 遺跡の発掘調査範囲は、ダム湛水地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの道教委の試掘調査によって回答された「要発掘範囲」・「要遺構確認調査」に基づいている。調査区の東側の厚真川林道まで、南側の一部及び南端部は林道敷設の際の切り通しによって遺物包含層が消失していた。なお、平成 25 年度の発掘調査の結果、一部が現厚真川林道の下に広がることが判明したが、林道切替工事終了後の平成 28 年度に調査することとなっている。発掘調査対象の層位は樽前 c テフラより下層の V 層黒色土層で、西側及び北側は試掘調査



図I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

において被熱礫のみの出土であったことから、重機を併用した「遺構確認調査」と回答されている。

なお試掘調査の回答では調査区中央部の低湿地部分も含まれていたが、発掘調査開始前の表土除去作業と合わせて一部を掘開したところ、樽前 b テフラが水流により流出し、青灰色シルトと基盤の砂岩岩盤を確認し、黒色土や泥炭層などの堆積も確認できなかったことから調査区より除外した。

これらを踏まえ平成 25 年度の発掘調査面積は 2,305 m²、平成 26 年度は発掘調査面積 524 m²、遺構確認調査 3,123 m²で、2 カ年の調査面積は合計で 5,952 m²となった。(乾)

2. グリッド設定

平成 25 年度の発掘調査計画は、ショロマ 2 遺跡の他に 3 カ所の予定があったため、グリッド名称を統一し、3 遺跡を網羅する予定であった。しかしショロマ 1 遺跡の調査地点が約 300m 離れていることから、近接するショロマ 2・3 遺跡を網羅するグリッド名称に留めた。ただし、公共座標に基づく設定であるため、グリッド方眼は一致する。

ショロマ 2 遺跡の調査範囲は、地形面的に北側に開析する小沢縁辺部や東側のショロマ川の浸食崖まで拡張される可能性もあったことから、河岸段丘面全面を網羅できる北東側にグリッド網原点 A-0 杭(日本平面直角座標系第 X II 系 X=-135,535.0 Y=-20,310.0)を図上設置した。グリッドは 5m 四方の方眼で、起点は北東角を原点とし、名称は、南北の X 軸を A・B…Y・Z・AA・AB…のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3…のアラビア数字列とした。なお 5m 四方のグリッドを V 層発掘調査時に剥片類と礫の出土位置記録を行うために、2.5m 四方に 4 分割した中グリッドを設定した。また報告書作成における図中の位置関係を示すため、5m グリッドを 1m 四方に 25 分割した小グリッドを定義した(図 I-3)。

現地での測量は、ダム建設事業の 3 級基準点を与点とするトータルステーション 4 級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド杭設置をシン技術が行った。現地における Z 座標はグリッド杭設定の際の基準杭及び遺物取り上げ時の機械点杭に移設している。(乾・惣田)

3. 包含層及び遺構調査の方法

調査の準備段階として、発掘調査前年の平成 25 年 3 月に調査区及び排土置き場の伐採作業を町教委が実施した。さらに平成 25 年 5 月下旬からはシン技術の調査担当者立会のもと重機により樹根を残しながら表土層から IV 層(樽前 c テフラ)までの掘削除去を行った。発掘調査開始日の 6 月 18 日より作業員を投入し、残存した樹根の枝根の処理と V 層上面の検出作業を人力作業で実施し、発掘調査開始面に至った。人力調査区内の地形図はこの V 層上面において 1m 間隔で Z 座標単点を記録し、等高線図作成ソフトで処理したものである。

平成 26 年度の準備工も 25 年度同様に樽前 c テフラまで重機と人力で除去した。26 年度は遺構確認調査が主体で、調査員と作業員 5 名以上による重機と人力併用で行った。表土除去後、樽前 b テフラを除去し、上層黒色土の III 層上面ないしは上位にて出土遺物等の有無を確認している。その後、IV 層の樽前 c テフラと下層黒色土 V 層を重機で 10cm 前後ずつ掘削し、落とし穴や土坑などの遺構確認面である VI 層上面の検出作業を行った。この際、礫等の遺物回収も行い、ややまとまって出土する範囲は黒色土を残し、調査期間中に人力調査した。なお、調査区内の地形図作成にあたっては、VI 層上面の調査終了後に単点記録を行った。

包含層調査は南側の半島状に突出する尾根状地形から開始し、尾根頂部に堆積状態を確認するため、トレンチを掘開した。発掘調査はグリッド単位で行い、1 面の掘削深度は 5cm 前後とし、漸移層 VI 層



図 I-2 周辺の地形図及びグリッド設定図

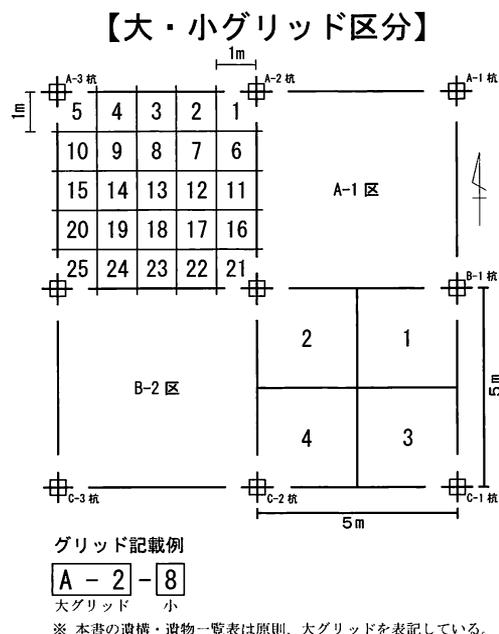


図 I-3 グリッド模式図

でプリントした輪郭図を下地に測量技能作業員が作成した。各調査経過の写真記録は調査員が 35mm 一眼レフデジタルカメラで撮影した。

出土遺物は、土器・石器全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認のうへ、計測員と測量技能作業員がトータルステーションによる 3 次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿(日付・グリッド・層位・遺物名等)の記載も行い、データ入力ミスの補完を行った。礫及び剥片類に関しては単独の位置記録を行わず、層位を記録し 4 分割による中グリッド若しくは遺構単位で取り上げた。礫集中や焼土については、調査時点で炭化物を確認したものは土壌サンプルを回収し、町教委の指導のもとフローテーション作業を発掘現場事務所で行った。(乾)

4. 整理作業

出土遺物の一次整理は、シン技術が発掘調査段階から遺物水洗作業と調査区遺構名や種別等の台帳確認作業、注記作業の一部を行い、引き続きの厚真町軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校)で行った。平成 25 年度は町教委が一部を担い、平成 26 年度は出土遺物量も少量であったことからシン技術が行った。

二次整理は発掘調査終了後に、平成 25 年度は町教委指導のもとシン技術が行い、平成 26 年度は町教委の協力のもとシン技術が行った。遺構及び遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業や遺構図等の第二原図、トレース図作成はパソコンでのデジタル編集(0s Windows Adobe IllustratorCS6)で行った。遺物の写真は(有)写真事務所クリークが行い、35mm 一眼レフデジタルカメラで撮影し、パソコン(0s Windows Adobe PhotoshopCS)でのコントラスト補正等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトウェアで行い、本文の Word 文書と共に印刷所へのデジタル入稿した。フローテーション処理後の選別作業は一次及び二次選別をシン技術で行い、確認作業と分析同定の委託発注業務を町教委が行った。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは分類及び調査区遺構毎にコンテナに収納し、軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校)に収蔵している。(乾)

上面までを掘削した。遺物包含層である黒色土 V 層調査は調査区南側より開始し、北側へ調査範囲を広げていった。

遺構調査は、包含層掘開中に土器片や礫、焼土粒、焼骨片を一定の範囲で集中的に検出確認した際に、堆積状態観察のためのベルトを設定し、範囲確定の精査を行った。遺構の可能性等を早い段階でとらえることにより、黒色土等の被覆土の層厚を記録することができ、層位からの帰属時期の推定条件としている。土坑や住居跡などの掘り込みを伴う遺構については、VI 層上面を確認面とし、ジョレンで遺構平面形の検出確認作業を行った。記録図化は、完掘後にトータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを記録し、堆積状態については半截状態で調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。遺物出土状態等微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し、1/5 や 1/10 縮尺

第4節 遺物の分類

1. 土器

縄文時代早期から縄文時代晩期までをローマ数字に群別し、アルファベットで時期細分した。

第Ⅰ群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A類 貝殻文・条痕文土器群。今回の調査では出土していない。
- B類 早期後葉の東釧路式土器群。
- B1類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。今回の調査では出土していない。
- B2類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。
- B3類 中茶路式に相当するもの。
- B4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第Ⅱ群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A類 縄文丸底・尖底土器群。
- A1類 美沢3式や網文式土器などの前半期に相当するもの。今回の調査では出土していない。
- A2類 静内中野式や加茂川式土器などの後半期に相当するもの。
- B類 円筒下層式系土器群または植苗式、大麻Ⅴ式などの前期後葉の土器群。
- B1類 円筒下層式系土器群。今回の調査では出土していない。
- B2類 植苗式、大麻Ⅴ式に相当するもの。

第Ⅲ群土器 縄文時代中期に属する土器。

- A類 中期前葉の円筒上層式系土器群。
- B類 中期後葉から末葉の土器群。
- B1類 萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。
- B2類 柏木川式に相当するもの。
- B3類 北筒式に相当するもの。

第Ⅳ群土器 縄文時代後期に属する土器。

- A類 後期初頭の土器群。
- A1類 a 古段階の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状を構成する土器。
- A1類 b 天祐寺式に相当するもの。Ⅳ群 A1類 a 土器に併存する。非在地系。今回の調査では出土していない。
- A1類 c Ⅳ群 A1類 a 土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。今回の調査では出土していない。
- A2類 新段階の余市式、あるいはタブコブ式の新段階。階段状の器表面、斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。
- B類 後期前葉の土器群。
- B1類 新段階のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯、縄線文または地文に縄文のみが施されているもの。
- B2・B3類 大津式、入江式に相当するもの。今回の調査では出土していない。
- C類 後期中葉の土器群。今回の調査では出土していない。
- D類 後期後葉の土器群。今回の調査では出土していない。

第Ⅴ群土器 縄文時代晩期に属する土器群。

今回の調査では出土していない。

2. 剥片石器

ポイント類

便宜的に長軸4cmを境に石鏃と石槍・石銚とを区分した。

A「石鏃」

- 1 細身で薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
- 3 明瞭な茎部をもつもの。

4 不明瞭な茎部をもつもの。

5 片岩製で続縄文時代に特徴的な無茎鏃。

B「石槍」・「石銚」

4cm以上のものはB類とした。

- 1 明瞭な茎部をもつもの。
 - a 茎部端が平ら。 b 茎部端が尖る。
 - c 茎部に抉りがあるもの。

2 不明瞭な茎部をもつもの。

C 欠損品・未製品。

石 錐

A 剥片の一部に機能部を作出したもの。

B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。

C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。

D 柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。

E 他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A 「つまみ付きナイフ」

1 素材の周縁にのみ加工を施したもの。

2 素材の片面全体に加工を施したもの。

3 素材の両面全体に加工を施したもの。

4 横形石匙。

B 素材端部に刃部が形成されているもの。

1 「ラウンド・スクレイパー」

2 「エンド・スクレイパー」

C 素材に刃部が形成されているもの。

1 「サイド・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

2 「コンケイブ・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

3 「抉入石器」

D 続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」

E 欠損品。

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

F 石器転用品でナイフ状の石器やつまみのないナイフと思われるもの。

RF・UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものをRF、使用によるとと思われる微細剥離のあるものをUFとして扱う。

ピエス・エスキュー

石 核

1 素材礫の平坦面にたたき痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部にたたき痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

II 平面形が方形～不整形で幅広のものでA・Bに分類される。

A 扁平のもの。

1 素材礫の平坦面にたたき痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部にたたき痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの。

1 素材礫の平坦面にたたき痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部にたたき痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

III 平面形が円形や楕円形のもの。

A 扁平のもの。

B 球形のもの。

IV 破片のため上記に分類不可のもの。

3. 礫石器

石 斧

A 磨製石斧。

1 両刃。 2 片刃。

B 未製品1 剥離・敲打により完成品に近い大きさまで整形されているもの。

C 未製品2 礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲打調整により素材礫形状が不明瞭なもの。

D 未製品3 剥離・敲打調整が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

E 欠損品。

たたき石

たたき痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

I 平面形が縦長のものでA・Bに分類される。

A 扁平のもの。

1 素材礫の平坦面にたたき痕を有するもの。

2 素材礫の側縁稜あるいは端部にたたき痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの。

すり石

- A 断面三角形の礫の稜にすり面のあるもの。
- B 断面楕円形の礫の側縁にすり面のあるもの。
- C 扁平礫の側縁にすり面があるもの。
- D 北海道式石冠。
- E 上記以外のもの。

砥石

素材礫の形状が変形する研面を有するもの。

石鋸

素材礫長軸の側縁に並行する擦痕を有し、使用部断面形が「U」・「V」字状のもの。

石錘

素材礫に対向する抉りを有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。

線條痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線條痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、平坦面に擦痕・たたき痕があるもの。たたき石で手持ちできるものでも、900 g 以上のものは台石とした。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧(打点)部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

その他

棍棒形石器、棍棒様石器、擦り切り溝のある礫、円板状石製品、垂飾。

第5節 調査の概要

ショロマ2遺跡は平成25・26年の2カ年にわたってシン技術が町教委指導監督のもとに発掘調査、整理業務を行った。以下、概要について記す。

発掘調査は樽前cテフラより下層黒色土V層及び漸移層VI層が対象で、縄文時代早期後葉～後期前葉にかけての幅広い時期にわたる遺物が出土している。本遺跡の主體的時期は縄文中期後葉の萩ヶ岡1式～天神山式土器と後期初頭から前葉にかけての余市式土器群である。

検出遺構は、竪穴式住居跡6軒、落とし穴45基、土坑14基、焼土21カ所、土器集中12カ所、礫集中31カ所等が検出された。住居跡は半島状に突出する調査区南端部付近に4軒、ほぼ中央部に1軒、北端部付近に1軒の計6軒を検出した。このうち、南端部付近の住居群は周囲の出土遺物等より縄文時代中期後葉の所属時期と思われる。検出遺構で最も多い落とし穴は、13基を除き全て溝状タイプであり、約70mに及ぶ配列を確認した。この配列は、落とし穴覆土の堆積などから2列以上が重なるものと考えられる。

出土遺物は土器4,222点、剥片石器352点、礫石器981点、剥片類2,365点、礫11,885点、その他319点、合計20,124点が出土し、平成25年度調査区の南部に多く出土している。縄文土器では早期後葉のコッタロ式、中茶路式、東釧路IV式が調査区の南端部付近に集中する傾向がある。前期

表I-1 ショロマ2遺跡概要一覧表

項目	平成25年度 発掘調査	平成26年度 発掘調査	平成26年度 遺構確認 調査	合計
調査面積(m ²)	2,305m ²	524m ²	3,123m ²	5,952m ²
竪穴住居跡	5	-	1	6
Tピット	33	7	5	45
土坑	7	-	7	14
焼土	15	1	5	21
土器集中	11	-	1	12
礫集中	23	2	6	31
SFCB	1	-	-	1
FCB	1	-	-	1
小計	96	10	25	131
遺物総点数	17,597	335	2,183	20,115

表I-2 ショロマ2遺跡出土遺物一覧表

	V層	攪乱	小計	試掘	表採	小計
土器	4,218	4	4,222	12	4	16
剥片石器	352	-	352	-	-	-
礫石器	979	2	981	18	3	21
石製品	2	-	2	-	-	-
剥片類	2,363	2	2,365	1	-	1
SFC	317	-	317	-	-	-
礫	11,884	1	11,885	130	16	146
合計	20,115	9	20,124	161	23	184
総計						20,308

前葉の静内中野式、中期ではサイベ沢Ⅶ式、萩ヶ岡 1 式・2 式、天神山式、柏木川式、北筒式の後半の各時期が出土しており、分布が調査区の南半部に偏る傾向にある。後期では余市式、タプコブ式の複数期にわたる土器型式が確認されている。

石器類では剥片石器では各器種が出土しているものの、茎部が不明瞭な石槍がやや多く出土している。これらが縄文時代中期後葉から後期前葉に帰属すると思われる。礫石器では、板状礫を素材とする中期後葉のすり石が南端部付近から中央部付近にかけて出土する傾向にあった。

特筆すべき遺物は、棍棒形石器が 2 点、棍棒様石器とした類似品 1 点が出土している。なお、石狩地方南部の中期後葉の遺跡からの出土例が多い三角形土器片加工品は、皆無であった。（乾）

第 6 節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に広がる、人口 4,709 人(平成 27 年 1 月末日現在)の農業の町である。町域の総面積は 404.61 千㎡で、流路 52.3km の二級河川厚真川水系と同入鹿別川右岸に広がり南北 32.5km、東西 17.3km と細長く、南部は約 6.5km にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高 200～600m の山地が続き、町域総面積の約 70% を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100 m 前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯(以下、苫東)内で苫小牧市と接する。

厚真の語源は 3 説ほどあるが、有力な説としてアイヌ語の「アットマム」(at-to-mam・向こうの湿地帯)で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという(厚真村 1956)。

町内は大きく 5 つの地区に分かれ、沿岸部の浜厚真地区、厚真川下流域の上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の富里・幌内地区、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。

以下に厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差点部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。また、平成 3 年に日勝峠を含む「石勝樹海ロード」が全面開通する以前は札幌方面から厚真町市街地を通過し、日高・十勝へ抜けるルートともなっていた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区市街地は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点にある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治 44 年から昭和 24 年まで早来駅とを結ぶ軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。山地は標高 400m 以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜で壮年期地形の様相を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m 付近の夕張山地南域に源流部がある。

B 歴史的環境

(1) 先史時代

厚真町内には現在 136 ヲ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の

軌道跡やトーチカなどの第二次世界大戦時の戦争遺跡までの時期幅がある(図I-4、表I-3)。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向がある。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡は安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器(札滑型細石刃核等)のブロックが調査されている(町教委2006)。縄文時代では浜厚真3遺跡で東釧路Ⅱ式土器が出土している(道埋文2003)。後続する東釧路Ⅲ式やコッタロ式土器が多量に出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的な極少量の遺物が出土しているに過ぎない。上流域では、中茶路式期以降が遺跡の増加傾向にあり、厚真川流域において縄文時代の人の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前葉の静内中野式期で、厚幌2遺跡(J-13-88)、オコッコ1遺跡(107)、幌内5遺跡(57)、ニタツナイ遺跡(104)、豊丘遺跡(69)、鹿沼7遺跡(99)などでは多量の被熱礫や哺乳綱の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼7遺跡や幌内5遺跡、ニタツナイ遺跡、オコッコ1遺跡では露頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期で遺跡数がピークとなる。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数は激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰降下(10世紀前葉)以降の擦文中期以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる様相を示している。アイヌ文化期についても、厚幌ダムや厚幌導水路建設事業に伴う発掘調査で13世紀以降17世紀中葉に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出されており、中世アイヌ文化期の一様相の解明に期待が高まっている。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正5(1916)年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を教材として学校に保管する許可書が発行されたのが最初である(厚真村郷土研究会1956)。これ以降、現在に至るまでを大きく3期に分けることが可能である。

a. 厚真村郷土研究会・埋蔵文化財の地域自主的な研究(昭和20年代後半から40年代中頃)

元厚真村長 亀井喜久太郎氏が昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を発刊した(厚真村郷土研究会1956)。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」(昭和48年から昭和59年)

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センター(以下、苫埋文)による苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、59年までの12年間で厚真町域では新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和51年調査の厚真1遺跡(苫埋文1986)では、この地域で初めての落とし穴が確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」(赤石1999)の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡8軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した(苫埋文1987)。共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡2軒を調査している(苫埋文1987)。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始(平成10年以降)

道教委による豊川1遺跡、鯉沼2遺跡などの調査が行われたほか、高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真3遺跡の調査では、187基の落とし穴が検出されている(道埋文2003)。

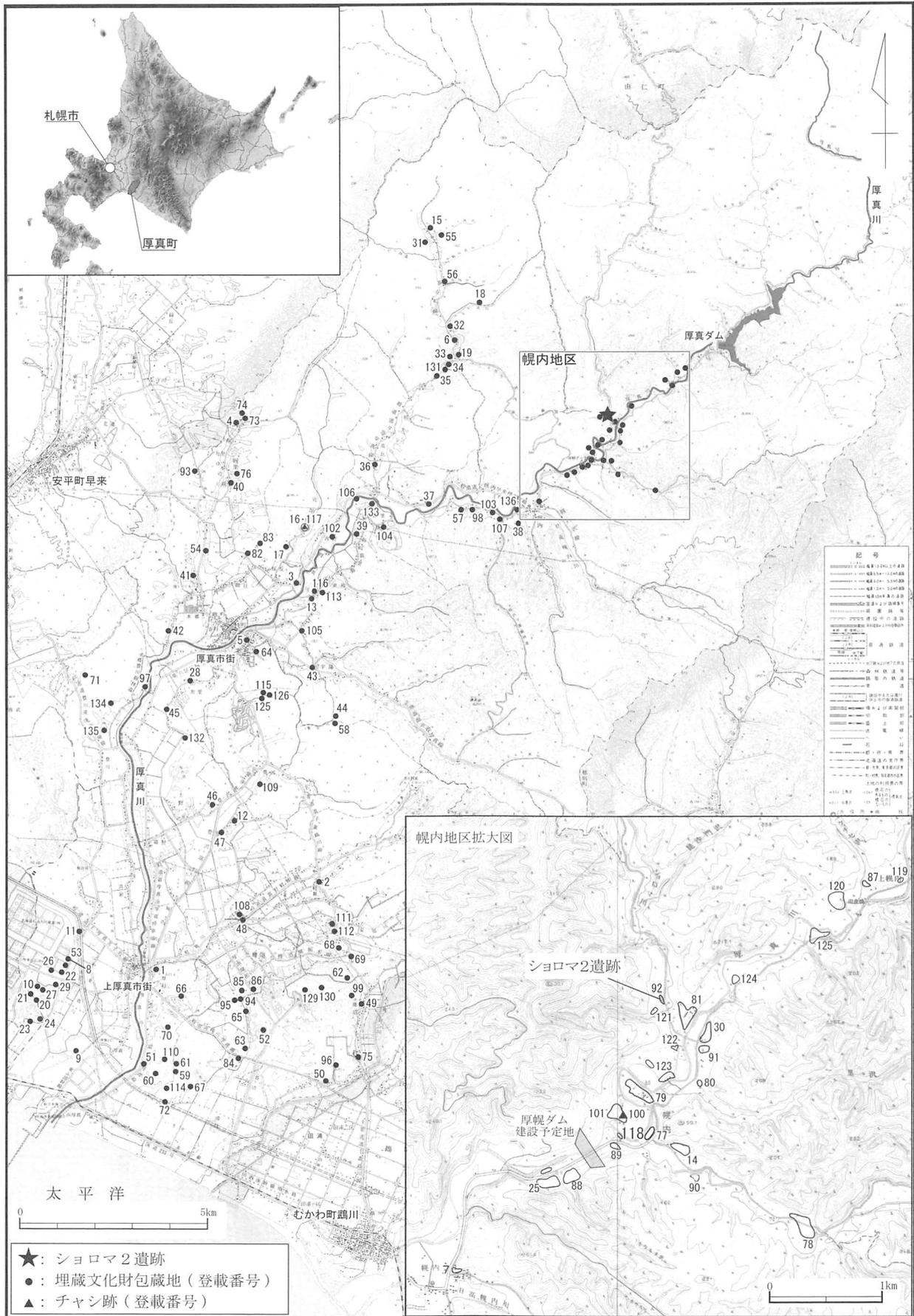


図 I-4 厚真町内遺跡分布図 (平成 27 年 2 月現在)

表 I-3 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表

平成27年1月1日現在

登録番号	種別	名称	登録番号	種別	名称	登録番号	種別	名称
1	遺物包含地	上厚真遺跡	51	遺物包含地	厚和1遺跡	101	遺物包含地	ヲチャラセナイ遺跡
2	遺物包含地	軽舞遺跡	52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	102	遺物包含地	吉野1遺跡
3	遺物包含地	朝日遺跡	53	溝穴遺構	厚真13遺跡	103	遺物包含地	幌内7遺跡
4	遺物包含地	幌里1遺跡	54	遺物包含地	本郷3遺跡	104	集落跡	ニタツポロ沢遺跡
5	遺物包含地	新町遺跡	55	遺物包含地	高丘11遺跡	105	遺物包含地	宇隆3遺跡
6	遺物包含地	高丘1遺跡	56	遺物包含地	高丘12遺跡	106	遺物包蔵地	富里2遺跡
7	遺物包含地	幌内1遺跡	57	墳墓・盛土遺構	幌内5遺跡	107	遺物包蔵地	オロッコ1遺跡
8	集落跡	共和遺跡	58	溝穴遺構	豊沢4遺跡	108	遺物包含地	軽舞2遺跡
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	59	遺物包含地	厚和2遺跡	109	遺物包蔵地	豊沢5遺跡
10	溝穴遺構	厚真10遺跡	60	遺物包含地	厚和3遺跡	110	溝穴遺構	厚和10遺跡
11	遺物包含地	厚真11遺跡	61	遺物包含地	厚和4遺跡	111	遺物包含地	豊丘2遺跡
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	112	遺物包蔵地	豊丘3遺跡
13	遺物包含地	東和遺跡	63	遺物包含地	厚和5遺跡	113	遺物包蔵地	東和2遺跡
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	64	遺物包含地	新町2遺跡	114	遺物包含地	浜厚真5遺跡
15	遺物包含地	高丘3遺跡	65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	115	遺物包蔵地	豊沢6遺跡
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	66	遺物包含地	厚和6遺跡	116	遺物包蔵地	東和3遺跡
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	117	遺物包含地	桜丘2遺跡
18	遺物包含地	高丘2遺跡	68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡
19	集落跡	高丘10遺跡	69	遺物包含地	豊丘遺跡	119	溝穴遺構	イクバンドユクチセ2遺跡
20	集落跡	厚真1遺跡	70	集落跡	厚和7遺跡	120	遺物包含地	イクバンドユクチセ3遺跡
21	溝穴遺構	厚真2遺跡	71	集落跡	豊川1遺跡	121	遺物包含地	シヨロマ3遺跡
22	溝穴遺構	厚真3遺跡	72	遺物包含地	浜厚真3遺跡	122	遺物包含地	シヨロマ4遺跡
23	集落跡	厚真4遺跡	73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	123	遺物包含地	上幌内3遺跡
24	遺物包含地	厚真5遺跡	74	遺物包含地	幌里神社遺跡	124	遺物包含地	上幌内4遺跡
25	集落跡	厚幌1遺跡	75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	125	溝穴遺構	上幌内5遺跡
26	集落跡	厚真7遺跡	76	溝穴遺構	幌里3遺跡	126	遺物包含地	豊沢7遺跡
27	集落跡	厚真8遺跡	77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	127	遺物包含地	豊沢8遺跡
28	遺物包含地	美里2遺跡	78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	128	遺物包含地	ライカルマイ遺跡
29	墳墓	厚真12遺跡	79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	129	遺物包含地	長沼1遺跡
30	遺物包含地	上幌内1遺跡(旧幌内3遺跡)	80	遺物包含地	一里沢遺跡	130	溝穴遺構	長沼2遺跡
31	遺物包含地	高丘4遺跡	81	集落跡	シヨロマ1遺跡	131	遺物包含地	高丘13遺跡
32	遺物包含地	高丘5遺跡	82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	132	遺物包含地	上野1遺跡
33	遺物包含地	高丘6遺跡	83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	133	遺物包含地	富里3遺跡
34	遺物包含地	高丘7遺跡	84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	134	遺物包含地	豊川3遺跡
35	遺物包含地	高丘8遺跡	85	溝穴遺構	鯉沼3遺跡	135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡
36	遺物包含地	高丘9遺跡	86	溝穴遺構	鯉沼4遺跡	136	遺物包含地	幌内8遺跡
37	遺物包含地	富里1遺跡	87	遺物包含地	イクバンドユクチセ遺跡			
38	遺物包含地	幌内4遺跡	88	遺物包含地	厚幌2遺跡			
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡			
40	遺物包含地	幌里2遺跡	90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡			
41	遺物包含地	本郷1遺跡	91	溝穴遺構	上幌内2遺跡			
42	遺物包含地	本郷2遺跡	92	遺物包含地	シヨロマ2遺跡			
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	93	溝穴遺構	幌里4遺跡			
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	94	集落跡	厚和8遺跡			
45	遺物包含地	美里1遺跡	95	遺物包含地	厚和9遺跡			
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	96	遺物包含地	鹿沼6遺跡			
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	97	遺物包含地	豊川2遺跡			
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	98	遺物包含地	幌内6遺跡			
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	99	溝穴遺構	鹿沼7遺跡			
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	100	チャシ跡	ヲチャラセナイチャシ跡			

平成 12 年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係わる事前協議書が提出され、道教委によって A・B 調査が開始された。発掘調査は平成 14 年から町教委により継続的に行われ、本事業に伴って上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2・4・5・6 遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡など 17 遺跡の発掘調査を終えている。また平成 24 年度からは道埋文も本事業の発掘調査に入り、平成 26 年度までの 12 年間の調査終了面積は約 164,726 m²で全体面積の約 80%の進捗率となっている。

平成 15 年には総延長 24.5km に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が北海道開発局より提出され、B 調査等は未了箇所があるものの、現在 11 遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認されている。平成 19 年度から発掘調査が開始され、厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡、富里 2 遺跡、幌内地区の幌内 5・7 遺跡や厚幌 1 遺跡で発掘調査を実施した。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成 28 年秋まで継続し、29 年度に整理業務を終え、ダム事業に係わる一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定となっている。

(3) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692(元禄 5)年に書かれた『續々群書類従 蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」である(野澤 1692)。その後、寛政年間(18 世紀末)に八王子千人同心ら数名の和人が浜厚真に移り住むものの定住には至らなかった。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・高倉 1985)で、安政 5(1858)年 6 月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて 3 泊している。この時、町内にはアツマ(厚真河口)、キムンコタン(現厚和・厚和 1 遺跡)、チケツへ(現本郷)、トンニカ(現富里)、ニタツナイ(現富里・ニタツナイ遺跡周辺)の 5 ヲ所のコタンが記録されている。比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、一連の発掘調査においても煙管や寛永通寶が出土していない考古学的事実とも一致している。中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容を示すものと思われる。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム湛水地域内等の試掘・発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2 遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、富里 2 遺跡、ニタツナイ遺跡、ヲイカルマイ遺跡などのほか、厚和 1 遺跡、幌内 5 遺跡で耕作地から近世アイヌの土坑墓が単独で発見されている。(乾)

2. 遺跡の位置と周辺の環境

A 地理的環境

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲としたい。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流である鬼岸辺川、ショロマ川がある。分水嶺を介して鬼岸辺川は東方の鶴川水系むかわ町豊田地区へ、本遺跡が所在するショロマ川は分水嶺を越えて石狩川水系夕張川の夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約 4.8km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鶴川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区

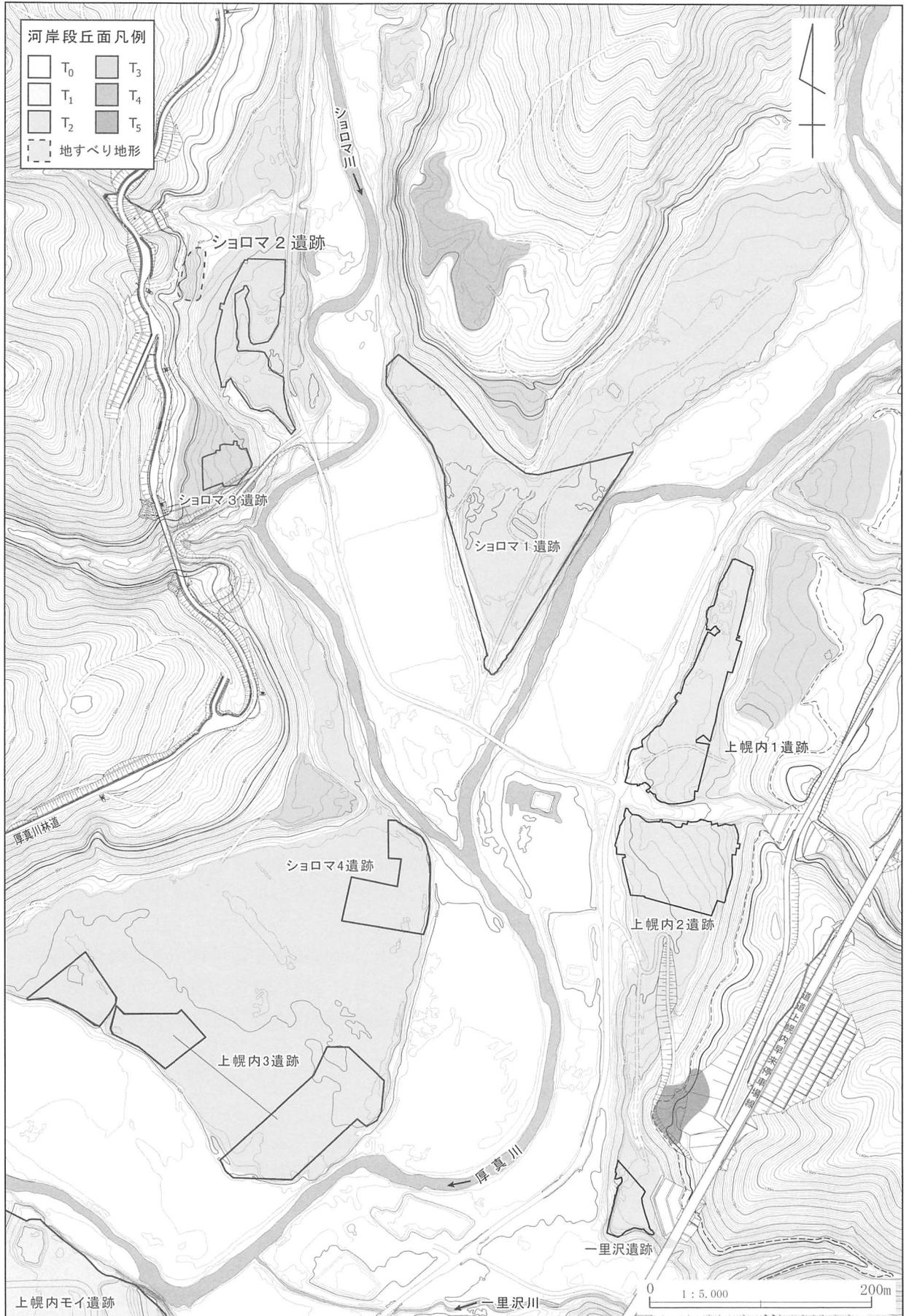


図 I-5 周辺の遺跡と地形面区分図

は標高約 150～250mの山地に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形の“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流～中流域まで発達し、厚真川上流域の上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識として $T_0 \sim T_5$ 面に細分されている(出穂 2006)。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に離水時期を把握することができる。支流域まで含めた詳細な検討はされていないものの、概ね連動しているものと思われる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約 35.6km に位置し、厚真川とショロマ川の合流点よりショロマ川上流 430m の右岸に所在している。ショロマ川の水源地は直線距離で北北東側約 9.3km、由仁町との境界にある標高約 494m 峰を水源とする。南北に約 6.8km にわたる標高約 300m 山稜から東向きの半島状に突出した山塊先端部の河岸段丘面(厚真川本流 T_2 面対比・標高約 70～77m)に形成されている。段丘面は南北に約 200m、東西に約 70m の範囲で概ね南東方向を長軸とし、南側を頂点とする直角三角形の地形面となっている。東縁部はショロマ川の浸食攻撃面となっており、当段丘面から比高差約 16m の段丘崖となっている。遺跡の立地環境としてショロマ川が開析する沢口にあたり、段丘面先端部からは厚真川との合流点付近の南東方向への眺望が利き、隣接するショロマ 3 遺跡や南東方向対岸のショロマ 1 遺跡を望むことができる。遺跡が立地する段丘面の北側には無名の沢が開析し、開口部は緩い傾斜面の沖積錐地形が発達している。また、本遺跡とショロマ 3 遺跡との間にも小規模な沢地形が形成され、数カ所の湧水地点があり、生活利水環境としては好条件と言える。

B 歴史的環境

上幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 24 遺跡が所在する(図 I-1)。最上流のイクバンドユクチセ 2 遺跡(J-13-119)は厚真川の河口より約 37km の地点にあるが、さらに約 1.5 km 上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。調査対象の約 80% を終え本地区の特徴が見え始めている。時期的な特徴として縄文時代の遺跡の多くは中茶路式以降であり、これ以前の東釧路系土器群や貝殻文系土器群はほぼ皆無に近い。また、中茶路式と東釧路Ⅳ土器がセットとなって出土し、これらに石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器(町教委 2004)が伴う。これに対し、厚真川中下流域や苫小牧市苫東地区での試掘・発掘調査ではコッタロ式や東釧路Ⅲ式、貝殻文・条痕文系土器群の遺跡が確認されており、厚真川流域においては海岸部から上流域への縄文文化の進入拡散が想定される。継続する縄文前期前半期も遺跡や出土遺物が少ない傾向にあり、本地域での遺跡数や遺構数の安定的な増加は縄文時代前期後葉の植苗式から円筒土器上層 a 式期にみられる(町教委 2014)。また縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群も各遺跡から出土しており、この時期の富良野盆地系土器も多い。時期の偏りも見受けられると同時に富良野盆地系土器が伴う特徴も見逃せない。また、擦文文化期中期以降中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多く、発掘調査が行われた遺跡は上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2 遺跡などがあり、平成 20・22 年度にはヲチャラセナイチャシ跡も全面発掘調査されている。

C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述した松浦武四郎の記録が最も古い。ヲチャラセナイやカニシユウ(現一里沢遺跡)、ヲニケレベ(現鬼岸边)、シヨウロマ(現ショロマ)、メルクンナイなどが記載されている。厚真川から鶴川水系、夕張水系への沢に「ル」(路)の付く地名が多く、複数の山越えルートが存在する地域でもある。

ショロマ(現ショロマ川)も『厚真村史』(1956)では語源として「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ(滝)・ル(路)・マ(泳ぎ渡る)とも読み取れる。明治 29 年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を道として馬車で木材や木炭を運び出したこと、明治・大正

期の夕張山地への熊狩の記録(『厚真村史』1956)から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛(おそうし)へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」が敷設されている。これらのルートは厚真川本流と鬼岸边川との合流点付近で1本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と穂別方面、日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点でもある。人やモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定できる。

ショロマ川流域に関する松浦武四郎の記述には「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」またこの流域について「マタヤツチセ 是冬分鷲、熊等を取に來りし時の小屋」、「ソウ 滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の楳木立に成り」、「ベンケヤツチセ 是も獵師の立置処〜中略〜うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と3つの地名を書き記している。「ソウホコマナイ」は夕張市滝ノ上地区にある「草木舞沢川」に相当すると思われ、夕張川との合流点には滝ノ上チャシ跡が所在している。この他、鷲鷹、熊狩の地域でもあることが記されており、現在でも1月〜3月にかけて厚真川とショロマ川との合流付近一帯はオオワシ・オジロワシが数羽ほど飛来、越冬している。(乾)

3. 調査区内の地形と地質

A 地形

発掘調査区の微地形については、人力調査区域では樽前cテフラ直下のV層上面、重機による遺構確認調査区域ではVI層上面での地形測量となっており測量面が異なるので、標高値を略した概要のみを述べる(図I-7)。

ショロマ2遺跡は降下堆積の樽前dテフラが覆う河岸段丘面上に立地しているが、調査区内は、起伏に富む微地形が発達している。本段丘面は厚真川本流域で分類されたT₂面に対比される。調査区北半には南北方向約50m、東方向へ約20mのL字状に開析する沢地形が発達し、水流が停滞する湿地となっている。この沢状地形下流部を境界に調査区内を北半部と南半部に大きく区分することができる。調査年度では概ね南半部が平成25年度調査区、北半部が平成26年度調査区となり、南半部は南東部が林道によって切土消失しているものの起伏が多い変化に富む地形となっている。以下に遺構遺物の時期的な概況と合わせて記す。

地形面①：南東部は東西に開析する沢地形によって半島状に突出している。半島状地形は北西-南東軸に約40m、北東-南西軸に最大約15mの範囲で、先端部へは尾根状の地形を呈する。北西の基部は平坦面を形成しており、隣接する地形面②bの旧河道跡と思われる低位面との比高差60cmとなっている。この突出した尾根状地形に縄文時代中期後葉の竪穴式住居跡や焼土、土器集中、被熱破碎礫を主体とする礫集中が分布しており、包含層中の出土遺物も他の地区よりも密集的に出土している。またVI層からは縄文時代早期後葉の中茶路式や東釧路IV式土器等が出土している。

地形面②：旧河道跡と思われる低位面で、調査区南半部を横断する北東から南西方向への流路と思われる。残存する長軸が20mで幅は約25m、流路幅からショロマ川の支流旧河道跡の可能性もある。微地形でa・bの2面に細分でき、河川の段階的離水状況によって形成された平坦面と思われる。2a面は河川離水時の河道幅で、2b面は自然堤防状の堆積離水時に生じる溜まりの可能性もある。この地形面では住居が構築されておらず、中期後葉の土器集中や礫集中のほか後期初頭から前葉にかけての土器集中や大型板状礫を主体とする礫集中が散在している。包含層より出土する遺物も少量であり、粘性や保水性に富むシルト質黒色土であったことから日常的な利用の頻度が低かった可能性もある。

地形面③：ほぼ南北に約20m、東西に約6mの帯状の低地面で、規模から隣接する湿地の初源段階の旧河道跡と思われ、南西側の沢状地形へと流下していたことが想定される。隣接する地形面②aとの比高差は約30〜80cmを測る。

地形面④：地形面②と並行する長軸約17m、短軸約7mの小丘状の地形で、地形面②と③の浸食によって取り残されたものと思われる。標高値は北西側の地形面⑤よりやや低いが、本来は一連の地形面であった可能性がある。この小丘状の地形面頂部にはやや平坦な面もあり、竪穴式住居跡1軒が検出されている。この地形面より北半部は遺構・遺物共に減少する。

地形面⑤：調査区北半部の主体面で安定した平坦面となっている。中央部の小沢(湿地)によって東西に分断されているがVI層上面における標高値から、地形面形成時において本来は同一面であったものと思われる。西側は調査区外の急傾斜地からの再堆積土砂影響を受けている可能性があるため、地形面区分として細分した。本地形面は全体的に、ショロマ川下流側の南方向へ僅かに傾斜し、ショロマ2遺跡が立地する本来のショロマ川の河岸段丘面を示すものと思われ、他の地形面区分はその後の堆積、浸食によって形成されたと思われる。

地形面⑥：調査区の北端部付近で、調査区外の北側にある無名の小沢からの沖積錐堆積物によって形成された北西-南東方向の緩い斜面地形面。調査区内は扇央から扇端にかけての地形面で、傾斜が緩くなる扇端付近を⑥b、扇央部の傾斜面を⑥aと細分した。扇端付近の緩い斜面では、竪穴式住居跡や土坑、礫集中などの遺構がややまとまって検出しており、地形面を意識した遺構立地と思われる。

B 地質

本遺跡は耕作や造植林等による近現代の攪乱が殆ど生じておらず、遺跡の保存状態は極めて良好であった。概ね調査区の北西側は堆積層が厚く発達するが、南東側は黒色土の発達も弱く、樽前dテフラ降下以降の堆積層は薄い。本遺跡は河岸段丘面に立地しているが、その基底面は隣接する小沢や湿地部分での重機による掘削確認において数10cmの堆積層を挟み、砂岩・泥岩の岩盤に至った。同様の基盤岩盤は東側のショロマ川浸食崖でも確認できる。また周辺の遺跡の基本土層と異なる堆積物として、樽前dテフラ降下以降、近代に至るまでの間に4層に及ぶ地すべり堆積物がある。地すべり堆積物も含め、調査区内の堆積状態は地形と合致し複雑な様相を示している。以下先述の基本的な層序と地形面区分も合わせて記述する。なお、調査区内の堆積状態の記載にあたっては図示したメインセクションのほか西側と北側の壁面柱状図、落とし穴完掘の壁面の土層も参考とした。

笹根等の植物毛根が主体となる表土層は平均10cm程度確認でき、調査区西側では樽前aテフラを起源とする黒色砂質土層が発達する範囲もある。近世前半に降下した樽前a・bテフラが連続的に堆積し、両テフラに挟在する黒色砂質土中には駒ヶ岳c2テフラが斑状に堆積している。なお、樽前bテフラの直下には有珠bテフラが数ミリ程度の層厚で確認できるところもある。

これらの近世火山噴出物の堆積層以下に遺物包含層となる黒色腐植土Ⅲ層とⅤ層が樽前cテフラを挟んで堆積している。本遺跡では樽前cテフラより上層の黒色土をⅢ層とし、調査区全面に安定的に堆積しているが遺構遺物は確認されていない。下層の黒色土Ⅴ層は縄文時代の遺物包含層であるが調査区南東部の地形面①・②・④は発達が悪く層厚が薄く、縄文時代中期の竪穴式住居跡がⅣ層の樽前cテフラを除去した段階で埋まりきらずに大きく窪んだ状態で検出した。段丘面先端部であることから風向風速や地形面傾斜の流出等の諸環境により、腐植土の発達が弱いものと思われる。調査区北部の地形面③・⑤・⑥では黒色土の発達が比較的良好い。

調査区内の起伏に富む地形はⅧ層の樽前dテフラ降下以降に生じた洪水堆積物Ⅶ層に起因する。なお、開析する沢地形内以外は樽前d2テフラが全面に堆積している。調査区内の落とし穴完掘後の壁面及び坑底面の観察では、地形面①について、Ⅷa層の樽前d1テフラの上層にd2テフラに起因する水成堆積シルト層が被覆しており、暗緑灰色のd1層が降下堆積時の状態を保っている。これに対し、地形面②ではフォールユニットの樽前d1テフラが堆積せず、Ⅷb層の樽前d2テフラが落とし穴壁面下部に認められる。上部にはd1とd2テフラによるラミナが発達しており、一定量の水流を伴

う再堆積のⅦ層であることがわかった。地形面③・④・⑤では水成堆積物の被覆が認められず、樽前 d1 テフラが堆積しているものの、色調が褐色を呈し不明瞭な堆積状態である。

これらより樽前 d テフラ降下直後にショロマ川の流路が埋没し一時的なダム湖状態が生じ、地形面③・④・⑤は水没を免れた範囲で、地形面①は水没した範囲と思われる。その後、ショロマ川の流水が回復した時などに地形面②から越流が発生し、降下堆積の d1 テフラの浸食が生じたものと思われる。堆積状態から南東部の地形面①は、その冠水時の一時的な水没による言わば沈殿堆積物にパックされたものと思われる。なお地形面①と③・⑤では落とし穴坑底面に河岸段丘堆積物の最上層と思われる灰白色のシルト層が堆積しているが、地形面②では落とし穴坑底面において樽前 d2 テフラであることから、樽前 d テフラ降下以前からの沢状地形が想定され、降下直後においても低い地形であったことから、ここからの越流減少が発生したものと思われる。なお、地形面①と③がほぼ同じ標高面でありながら、冠水の差異が生じているのは、現在に至るまでの期間において大規模地震等による基盤層をも含む沈降、傾斜が想定される。

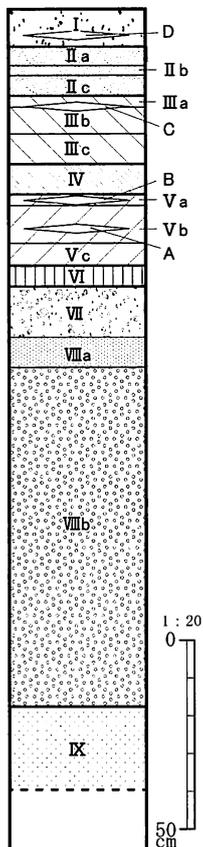
地形面⑤では樽前 d テフラ降下後に風成堆積物と思われる樽前 d2 起源のシルト層が約 20cm 堆積する。先述の地形面①のⅦ層と成因が異なるが、再堆積層として表記はⅦ層に一括した。また、樽前 d1 テフラも地形面①のものとは色調が異なるがフォールユニットであるため、こちらについてもⅧa 層と一括表記している。

これに対し地形面⑥も樽前 d テフラの再堆積層Ⅶ層がフォールユニットⅧa・Ⅷb 層を直接被覆している。地形面の傾斜より調査区の北側に存在する開析谷からの流出堆積物であることが想定される。ただし、再堆積Ⅶ層の最上層には地形面①・②では確認されなかったシルト岩の角礫を多量に含むことから、やや時間差を有する別の堆積物の可能性もある。

このような樽前 d テフラ降下直後の大規模な洪水堆積様相を確認できる事例は厚幌地区の特徴でもあり、再堆積層によってパックされた降下時の樽前 d テフラの堆積状態を観察できる極めて珍しい事例である。今後、河岸段丘面と樽前 d テフラ再堆積層との関係を厚真川本流と支流も含めた検討により、火山災害に伴う山間部の河川上流域で発生する土石流などのモデルケースともなりうると思われる。

本調査区内でのもう一つの特徴的な堆積層に地すべり堆積物がある。調査区の西側の急傾斜地の崩壊によって、調査区内に流出した再堆積層(移動体)である。地すべり A～D の 4 層が確認されており、最新時期のものは表土直下から樽前 a テフラより上層の黒褐色砂質土層との間に堆積する地すべり堆積物 D で、層位より近現代の発生年代が想定される(図 I-12 柱状図 W-06・07 : D1 層、W-10 : D2・D3 層)。現地表面においてもマウンドとして規模などを確認できるが、発生時期についてはトドマツの植林年代から 50 年前以前に発生したものと思われる。また樽前 b テフラ降下直前の小規模な堆積物 C も調査区西側壁面 W-12 区で確認されている。調査区内で最も広範囲で厚い地すべり堆積物 B は、樽前 c テフラより下層で Va 層と Vb 層上位の間に堆積している。層位的に厚幌 1 遺跡(町教委 2004・2010・2014)で確認されている堆積物形成時期と同時期と思われ、厚幌 1 遺跡の発掘調査では縄文時代中期末葉の北筒式土器が堆積物直下より出土している(町教委 2014)。本堆積物は大規模地震を起因とする地すべり堆積物(田近・大津・八幡 2004)であることが報告されているが、当遺跡で確認された堆積物は発生時期は同時期であるものの移動体本体そのものではなく、調査区北側の沢から流出した土石流堆積物の可能性もある。この堆積物 B は調査区西側の地形面⑤において溝状・楕円形タイプの落とし穴を被覆している。厚幌 1 遺跡においても同じ調査例が確認されている。

(乾)



- I 層：表土 10YR3/1 黒褐色砂質土 ササ等の植物の根が濃い。層厚10cm前後。
 地すべり堆積物：表土からIIa層の間にD1・D2・D3を確認した。
 D1；10YR4/4 褐色 シルト VIII層に多量のVI層土を含む。
 D2；2.5Y5/4 黄褐色 粘土質シルト 灰色粘土質シルトに多量のシルト岩と微量のVIIIa層を含む。
 D3；10YR6/6 明黄褐色 上位Ta-a、下位がTa-b再堆積層からなる。
- II 層：近世火山噴出物及び黑色砂質腐植土。
 a；樽前 a テフラ (Ta-a) 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰1739年降下。層厚8cm前後。
 b；黑色砂質腐植土層 10YR2/1 黑色 新千歳空港(美沢川流域の遺跡群)の調査における0黒層に相当する。本層中には駒ヶ岳 c2 テフラ((Ko-c2) 10YR8/3 浅黄橙色 砂質降下火山灰1694年降下)が部分的に堆積している。
 c；樽前 b テフラ (Ta-b) 2.5YR7/3 浅黄色 細礫質降下軽石1667年降下。層厚20～30cm前後。
- III 層：黑色腐植土。
 a；砂質シルト 7.5YR2/1 黑色 II d・e層を斑状に含む。層厚1cm前後。
 やや赤みあり。近世初頭遺物包含層。
 地すべり堆積物：IIIa層とIIIb層との間にC1を確認した。
 C1；10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト VIIIa層に少量のVIIIb層、微量のV層を含む。
 b；シルト 10YR1.7/1 黑色 やや粘性あり。層厚10cm前後。
 上位から中位が中・近世アイヌ文化期遺物包含層。
 下位が擦文文化期包含層。IIIb層とIIIc層との層境に白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm シルト質降下火山灰 10世紀前半降下)が部分的に堆積する。
 c；砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚10cm前後。続縄文～縄文晩期後半の包含層。
- IV 層：樽前 c テフラ (Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石 B. P. 2500年前降下。層厚10cm前後。
- V 層：黑色腐植土。
 a；シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚2cm前後。縄文晩期前半の遺物包含層。
 地すべり堆積物：VaからVb層の間に堆積するC1・C2・C3層を確認した。本層は厚幌地区に広く堆積する大規模地震に伴う堆積物。
 B1；10YR3/3 暗褐色 シルト V層土に少量のVI層とVIIIb層、微量のVIIIa層を含む。
 B2；10YR3/3 黒褐色 シルト V層土に少量のVIIIb層とシルト岩を含む。
 B3；10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト VIIIa層に少量のVIIIb層、微量のV層を含む。
 b；シルト 10YR1.7/1 黑色 層厚25cm前後。縄文中・後期の遺物包含層。
 c；シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚15cm前後。縄文前・中期の遺物包含層。
 地すべり堆積物：Vc層からVI層の間にある層でB1・B2・B2'・B2''を検出した。
 A1；10YR3/2 黒褐色 砂質シルト V層に多量の風化したシルト岩を含む。
 A2；10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト VIII層に多量のシルト岩(φ30↓)を含む。
 A2'；10YR4/4 褐色 砂質シルト VIII層に多量のV層土(φ30↓)と少量のシルト岩を含む。
 A2''；10YR3/3 暗褐色 灰色の粘土質シルトに少量のVIIIa層を含む。
- VI 層：漸移層 2.5YR4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚10cm前後。縄文早期の遺物包含層。
- VII 層：樽前dテフラ主体の洪水堆積層。部分的にラミナが発達する。
 a；7.5YR5/3 にぶい褐色 混礫シルト VIII層にシルト岩角礫を多量に含む。
 b；7.5YR6/8 橙色 樽前d風化ローム VIII層にVIIIa層を層状に少量含む。
 c；10YR6/6 明黄褐色 樽前d風化ローム VIII層にVIIIa層を均質に少量含む。
 d；5Y5/3 灰オリーブ色 樽前d1主体層 VIII層にVIIIb層を均質に少量含む。
 e；2.5Y7/4 浅黄色 樽前d風化ローム VIII層にVIIa層を均質に微量含む。
- VIII 層：樽前dテフラ。約8,000～9,000年前の降下テフラ。
 a；樽前d1テフラ (Ta-d1) 5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア(φ5↓) 層厚8cm前後。
 b；樽前d2テフラ (Ta-d2) 5YR4/8 赤褐色 中礫質降下スコリア 層厚90cm前後。
 部分的に水成風化により灰黄褐色の粘土化している。
- IX 層：河岸段丘堆積物 2.5Y7/1 灰白色 水成堆積シルト層。シルト岩小片を含む。粘性強い。

図 I -6 基本土層柱状図

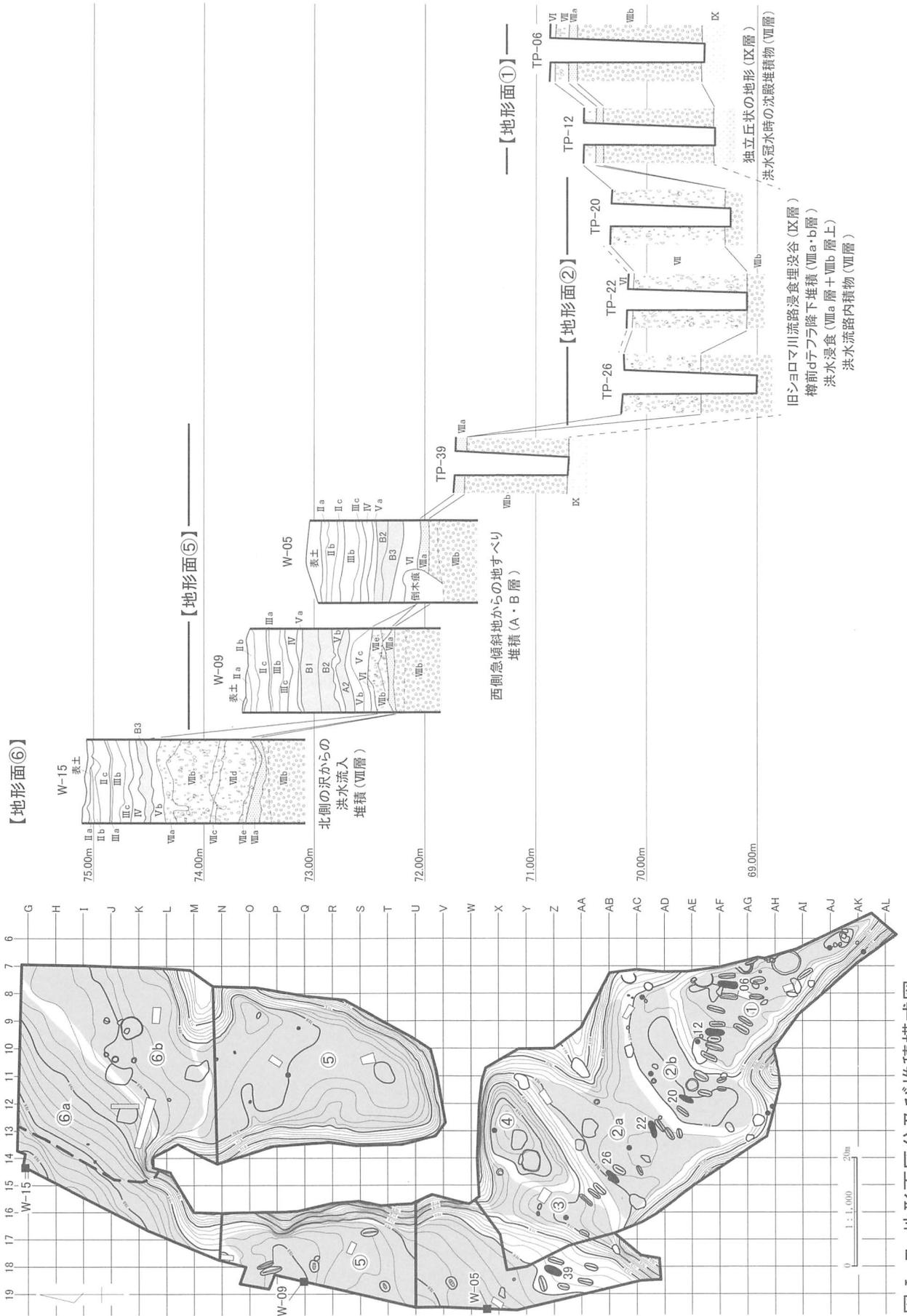


図 I-7 地形区分及び堆積模式図

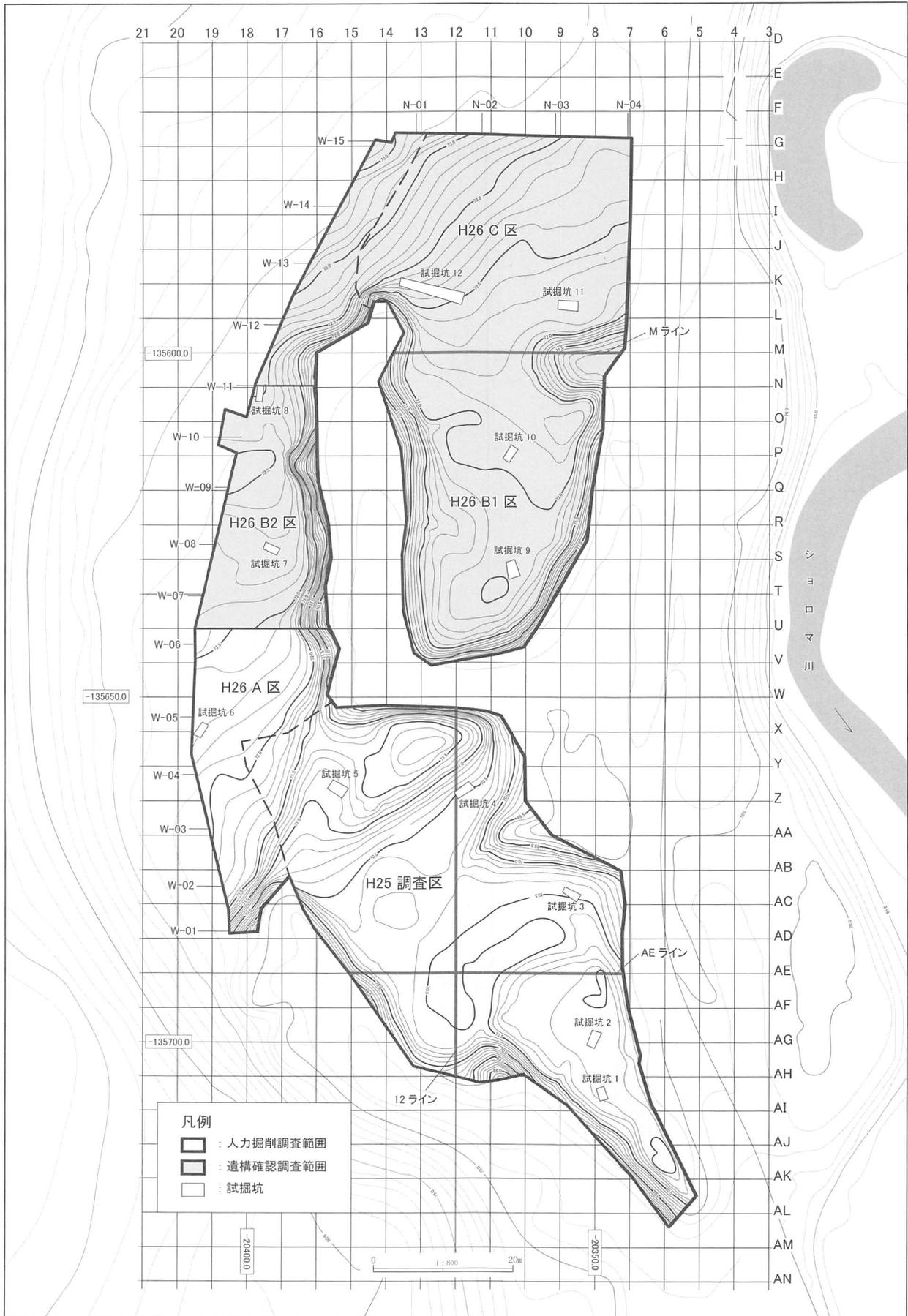


図 I-8 調査範囲・土層断面実測・試掘坑位置図

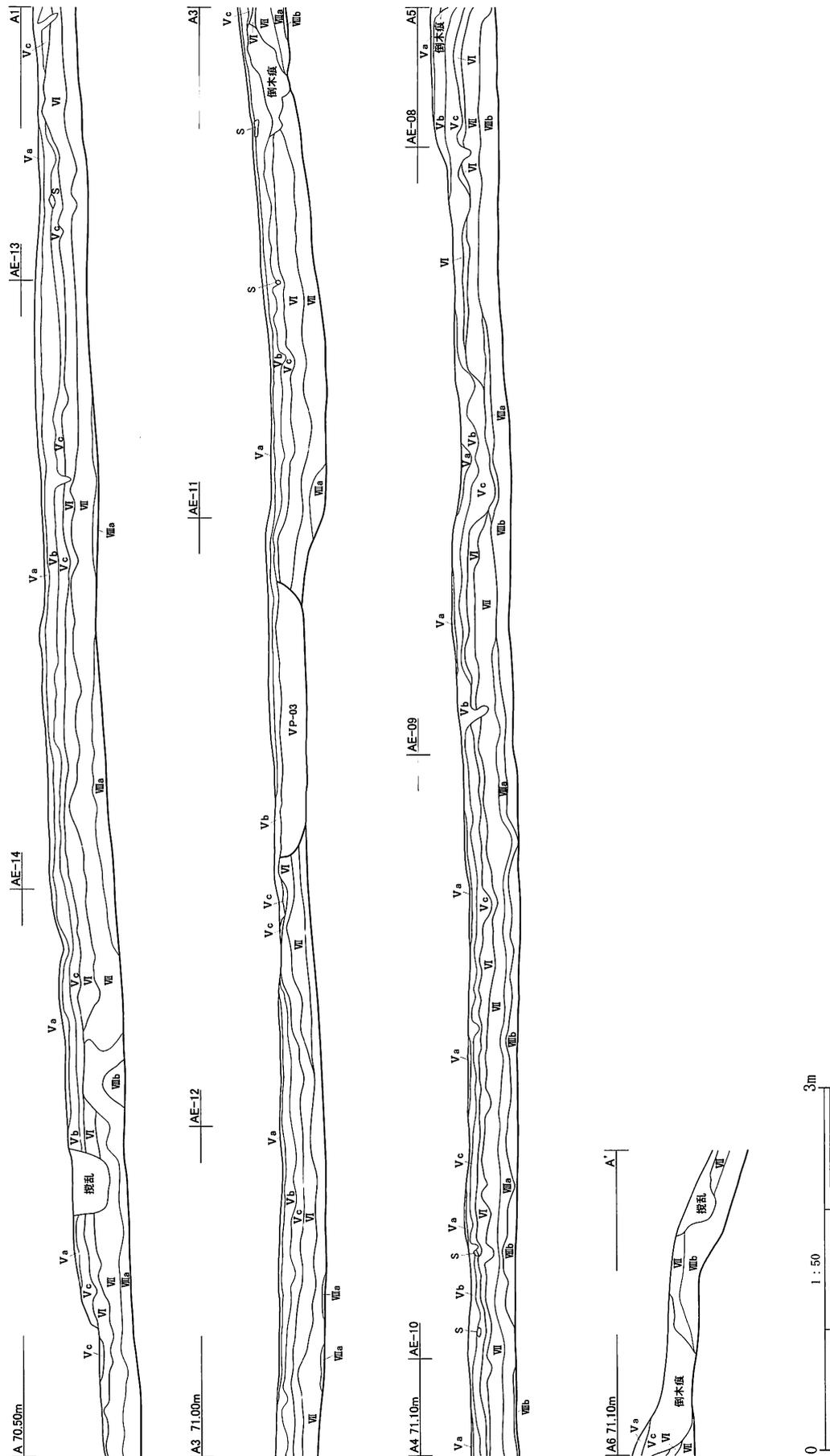


図 I-9 調査区土層断面図 AEライン

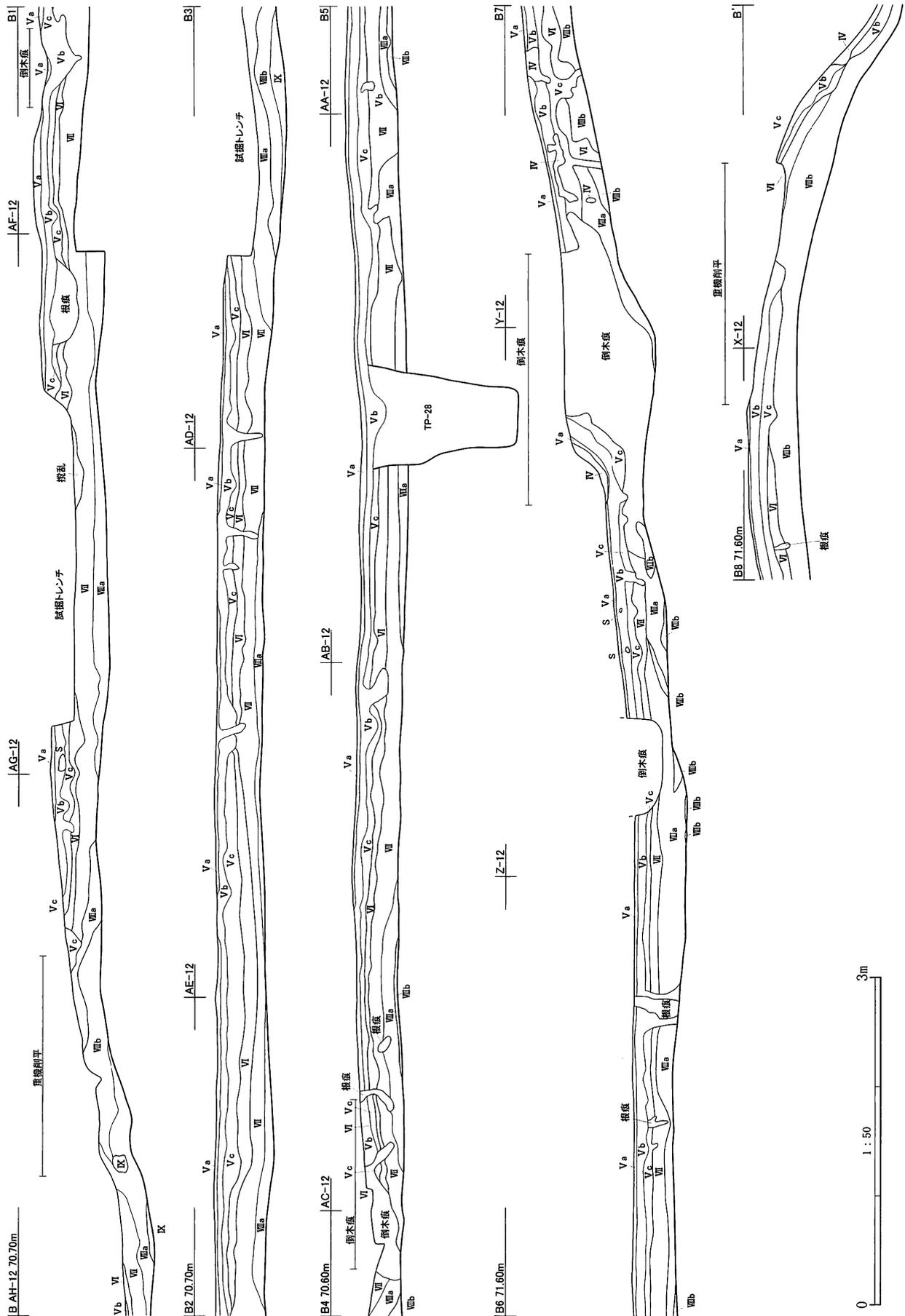


図 I-10 調査区土層断面図 12ライン

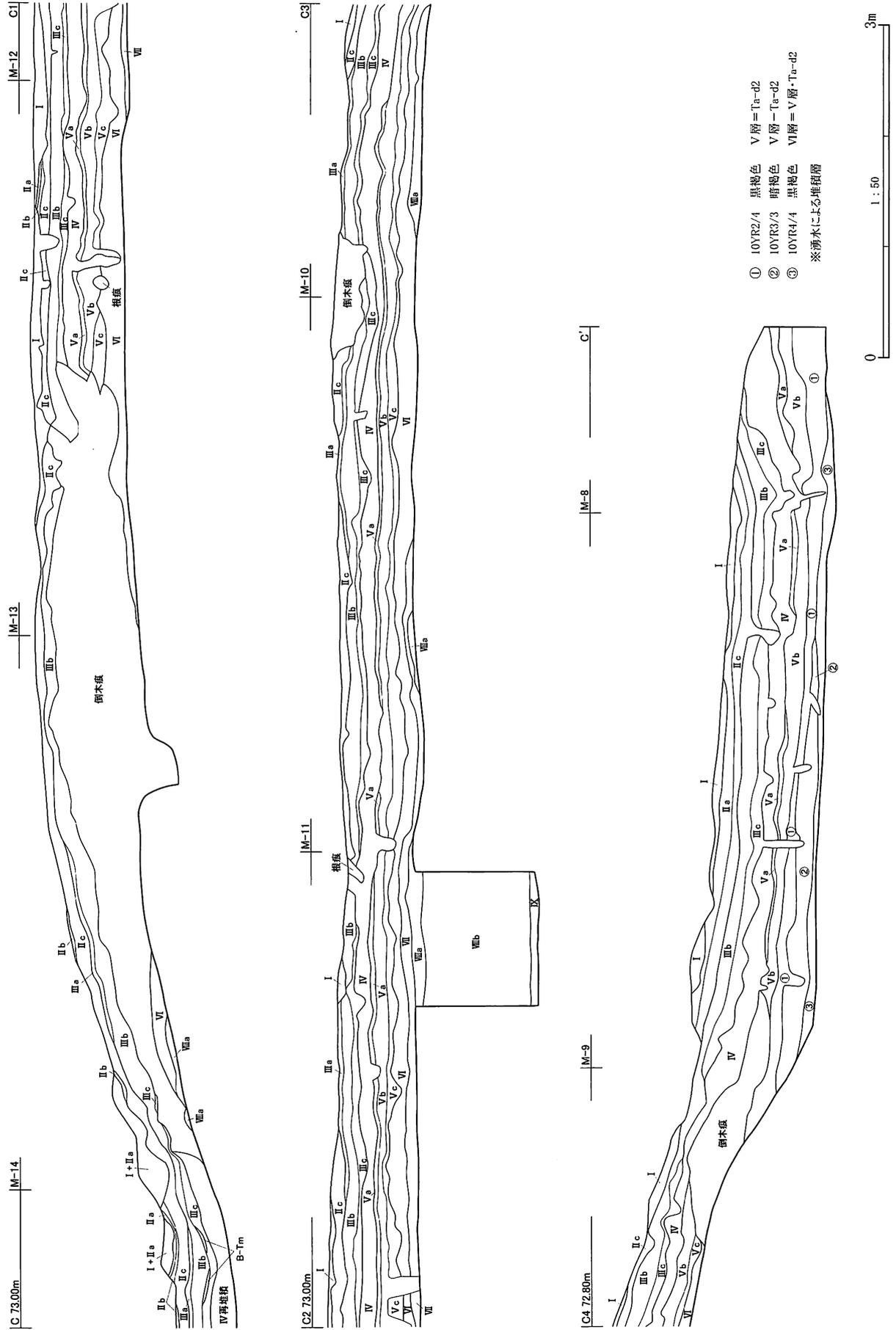


図 I-11 調査区土層断面図 Mライン

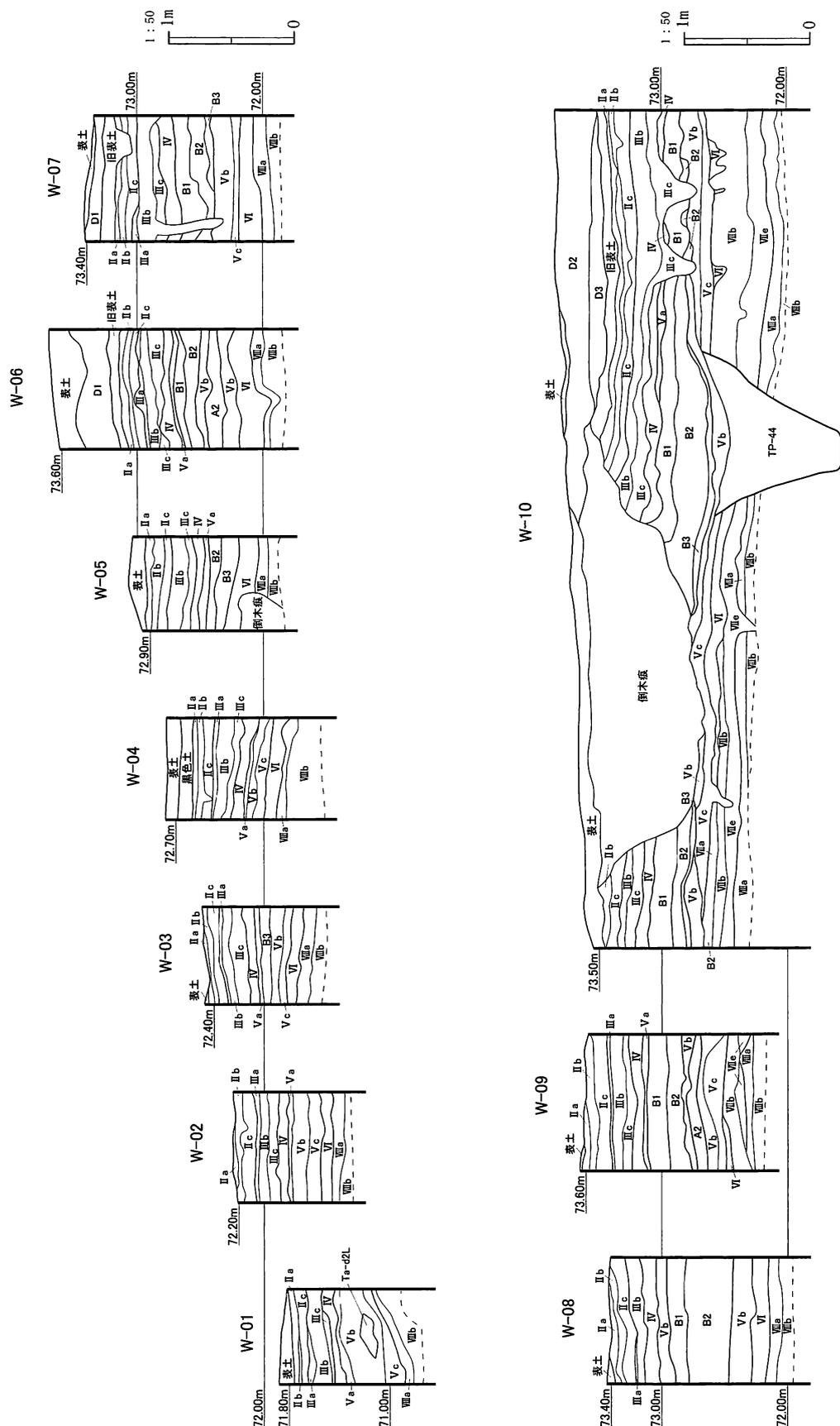


図 I-12 調査区西壁土層柱状図

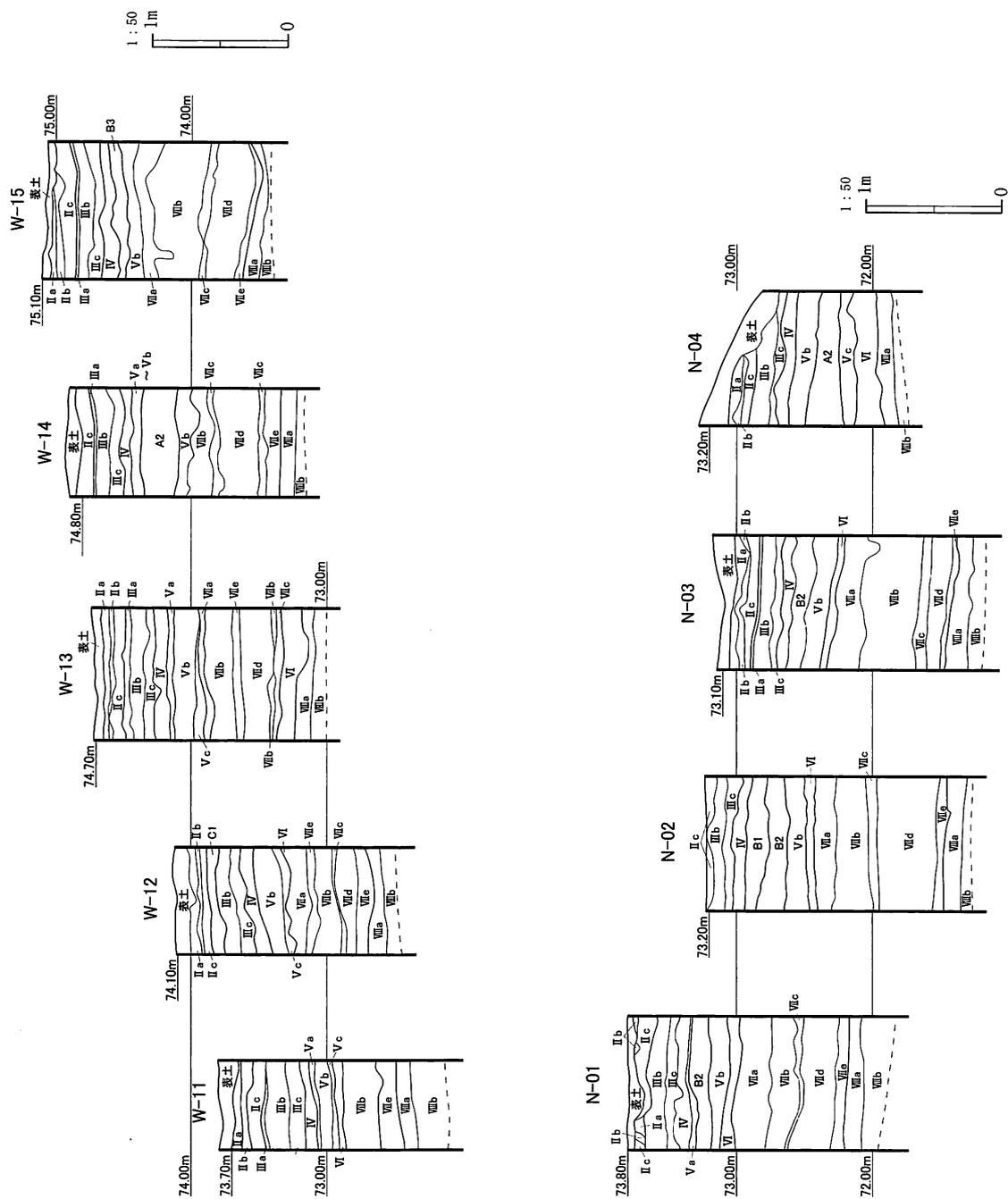


図 I-13 調査区西壁・北壁土層柱状図

第Ⅱ章 縄文時代の調査

本章で取り扱う考古学的遺構及び遺物は、Ta-c テフラより下層の黒色腐植土(V層)及びその下位の漸移層(VI層)より出土したものである。調査区中央南～東部にかけてはVI層直下に洪水堆積層(VII層)が、同北～西部ではVb層上部に地すべり堆積層Aが、さらに同西部にはVa層より上位に地すべり堆積層Bがある。以上の結果、V層では少なくとも2回以上の地すべり堆積層が確認された。

ショロマ2遺跡は厚真川の支流ショロマ川右岸段丘70～73m(厚真川のT₂面に相当する)に立地しており、調査区内外のL・M-14・15グリッドやAA-10・11グリッド及びAC・AD-16グリッドには湧水地点が認められる。流出する水の影響で土壌が粘土化している部分も確認できた。Z・AA-10・11グリッドでは縄文時代前期の土器を伴う礫群(VSB-24)が検出されている。

V層の調査は、平成25年は人力により本調査を行った。平成26年は平成25年調査区の北西～北部に広がるA区を人力により本調査を行い、B1・B2・C区を重機と人力により遺構確認調査を行った。

遺構は竪穴式住居跡(以下、住居跡)6軒、落とし穴45基、土坑14基、焼土21基、土器集中12ヵ所、礫集中31ヵ所、石斧石器群削片集中(以下、SFCB)1ヵ所、剥片・削片集中(以下、FCB)1ヵ所の計131基を検出した。

V層出土遺物は、遺構出土の遺物を含め土器4,218点、剥片石器352点(RF・UFを含む)、礫石器979点、石製品2点、SFC317点、FC2,363点、礫11,884点の計20,115点が出土している。このうち土器については、縄文時代早期後葉に属するコッタロ式から後期前葉のタプコプ式に属するものまで出土している。主体となるのは縄文時代中期後葉の萩ヶ岡1・2、天神山式と後期初頭の余市、タプコプ式である。

(長谷川)

第1節 住居跡

平成25年の調査により5軒、平成26年の調査により1軒の計6軒を検出した。調査区南端の南に延びる狭い尾根上に3軒、この3軒より北部に小型の住居跡1軒、調査区中央のY-14グリッドを中心とする南西に延びる緩やかな高まりに1軒、調査区北部J-09グリッド平坦地に1軒を検出している。VH-01・02・03・04は縄文時代中期後葉、VH-05は縄文時代後期初頭、VH-06は土器が出土していない為、時期を特定できなかった。

VH-01 (図Ⅱ-2～7 カラー2-1 図版2-1～4、3-1～5、48-1～11、49-1～4、65-1)

位置：AG・AH-06・07 層位：Vb層上位 規模：535×(402)×31cm

出土点数：土器107点、石器30点、SFC21点、FC594点、礫160点

長軸方向：N-12° W 平面形：楕円形 付属遺構：HF01～03、PT01・02、HP01・02・05～13

確認・調査：V層上面を調査中にAH-07グリッドを中心とする径5m、最大深30cmの窪みとして検出した。このため窪みの検出状態の写真撮影を行い、窪みの中心から東西南北に幅20cmのトレンチを掘削し、トレンチの断面において壁の立ち上がりや床面の確認を行い住居跡と判断した。この確認により、おおよその広がりや範囲を考慮して、主な遺物を残しながら調査を進めた。なお、東壁側に長軸360cm、短軸62cm、深さ10cmのベンチ構造を確認した。

堆積状態：床面より厚さ数cmのTa-d1やTa-d2に黒色土が混じる4～6層が堆積し、この層を覆う

表Ⅱ-1 遺構群一覧表(1)

遺構名	時期	規模(cm)			グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸	深さ/ 厚さ				
VH-01	縄文時代中期後葉	535	(402)	31	AG・AH -06・07	Vb	HF01～03・PT01・ 02・HP01・02・05～13	VP-01より新しい
VH-02	縄文時代中期後葉	(346)	(163)	48	AF・AG -06・07	Vb	HF01	TP-01より新しい
VH-03	縄文時代中期後葉	159	136	11	AC-07	Vb	HF01	
VH-04	縄文時代中期後葉	397	(339)	21	X・Y- 13・14	Vb	HF01・PT01・02・ HP01～03	
VH-05	縄文時代後期初頭	(344)	(176)	40	AE-07	Vb		VP-02より古い
VH-06	縄文時代中期～後期	433	407	25	J・K- 08・09	Vb	HF01・HP01・02	
TP-01	縄文時代中期後葉以前	235	61	78	AF・AG-06	Ⅶ		VH-02より古い
TP-02	縄文時代中期～後期	283	149	129	AF-10・11	Ⅶ		
TP-03	縄文時代中期～後期	295	90	132	AE・AF-07	Ⅵ		
TP-04	縄文時代中期～後期	329	105	130	AE・AF-08	Ⅵ		
TP-05	縄文時代中期～後期	278	138	112	AG-07	Ⅵ		
TP-06	縄文時代中期～後期	361	126	132	AE・AF-07	Ⅵ		
TP-07	縄文時代中期～後期	252	117	146	AE-11	Ⅵ		
TP-08	縄文時代中期～後期	180	101	122	AD-12・13	Ⅶ		
TP-09	縄文時代中期～後期	298	116	142	AF・AG-09	Ⅵ		
TP-10	縄文時代中期～後期	317	97	134	AH・AI-07	Ⅵ		
TP-11	縄文時代中期～後期	280	96	122	AE・AF-09	Ⅵ		
TP-12	縄文時代中期～後期	343	125	122	AE・AF-09	Ⅵ		
TP-13	縄文時代中期～後期	241	124	157	AE・AF-09	Ⅶ		
TP-14	縄文時代中期～後期	332	119	128	AE・AF -09・10	Ⅵ		VSB-16より古い
TP-15	縄文時代中期～後期	(326)	93	117	AE・AF-08	Ⅶ		
TP-16	縄文時代中期～後期	263	88	119	AD-12	Ⅵ		
TP-17	縄文時代中期～後期	318	99	122	AE-10	Ⅵ		
TP-18	縄文時代中期～後期	292	95	143	AF・AG -08・09	Ⅵ		
TP-19	縄文時代中期～後期	260	92	128	AG-08	Ⅵ		
TP-20	縄文時代中期～後期	271	93	114	AD・AE-11	Ⅵ		
TP-21	縄文時代中期～後期	257	104	125	AD-12・13	Ⅵ		
TP-22	縄文時代中期～後期	323	109	110	AC-12・13	Ⅵ		
TP-23	縄文時代中期～後期	294	75	92	Z・AA-15	Ⅵ		
TP-24	縄文時代中期～後期	260	82	84	AA-15	Ⅵ		
TP-25	縄文時代中期～後期	278	106	107	AA-14・15	Ⅵ		
TP-26	縄文時代中期～後期	292	109	120	AA・AB-14	Ⅵ		VF-13より古い
TP-27	縄文時代中期～後期	256	123	108	AB-14	Ⅵ		
TP-28	縄文時代中期～後期	92	90	126	AA-11・12	Ⅵ		
TP-29	縄文時代中期～後期	187	74	108	AB・AC-14	Ⅵ		
TP-30	縄文時代中期～後期	185	91	96	Z・AA-16	Ⅵ		
TP-31	縄文時代中期～後期	267	100	110	AC・AD -12・13	Ⅵ		
TP-32	縄文時代中期～後期	171	95	128	AE・AF-11	Ⅵ		
TP-33	縄文時代中期～後期	160	75	71	AE・AF-11	Ⅵ		
TP-34	縄文時代中期～後期	275	106	120	Z・AA-18	Ⅵ		
TP-35	縄文時代中期～後期	247	115	90	AA-17・18	Ⅵ		
TP-36	縄文時代中期～後期	180	101	122	AD-12・13	Ⅵ		
TP-37	縄文時代中期～後期	298	116	142	AF・AG-09	Ⅵ		
TP-38	縄文時代中期～後期	317	97	134	AH・AI-07	Ⅵ	KP01・02	逆茂木跡2
TP-39	縄文時代中期～後期	280	96	122	AE・AF-09	Ⅵ		
TP-40	縄文時代中期～後期	343	125	122	AE・AF-09	Ⅵ		
TP-41	縄文時代中期～後期	241	124	157	AE・AF-09	Ⅵ	KP01～04	逆茂木跡4
TP-42	縄文時代中期～後期	332	119	128	AE・AF -09・10	Ⅵ		
TP-43	縄文時代中期～後期	(169)	93	117	AE・AF-08	Ⅵ	KP01・02	逆茂木跡2
TP-44	縄文時代中期～後期	263	88	119	AD-12	Ⅵ		

表Ⅱ-1 遺構群一覧表(2)

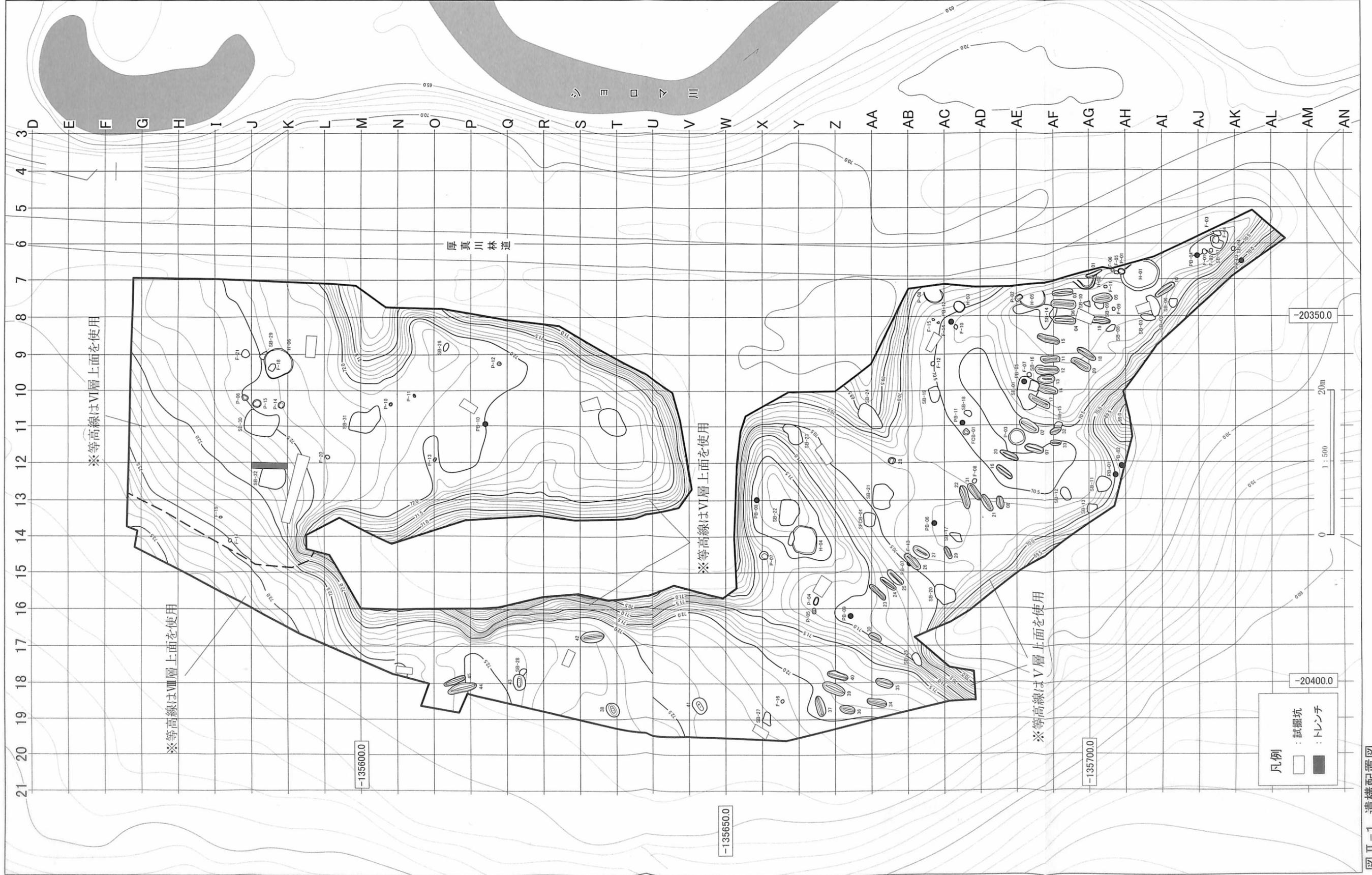
遺構名	時期	規模(cm)			グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸	深さ/ 厚さ				
TP-45	縄文時代中期～後期	318	99	122	AE-10	VI		
VP-01	縄文時代中期後葉以前	109	88	19	AG-06	VI		VH-01より古い
VP-02	縄文時代後期初頭以降	102	73	23	AE-07	VI		VH-05より新しい
VP-03	縄文時代	227	226	31	AD・AE-11	VII		
VP-04	縄文時代	114	66	5	Y-15	Vc		
VP-05	縄文時代	77	53	16	Y-15・16	Vc		
VP-06	縄文時代	92	80	17	I-10	Vc		
VP-07	縄文時代	119	118	26	W・X-14	VII		
VP-08	縄文時代	(270)	(191)	7	AB-07	VII		
VP-10	縄文時代	52	43	6	M-10	VII		
VP-11	縄文時代	50	32	14	N-10	VII		
VP-12	縄文時代	56	55	20	P-09	VII		
VP-13	縄文時代	56	36	8	N・O-11	VII		
VP-14	縄文時代	99	85	7	J-10	VII		
VP-15	縄文時代	120	113	22	J-10	VII		
VF-01	縄文時代中期後葉	74	62	7	AJ-06	VII		
VF-02	縄文時代中期後葉	54	50	7	AJ-06	VII		
VF-03	縄文時代中期後葉	102	85	33	AJ-05	VII		掘り込み炉
VF-04	縄文時代中期後葉	(115)	70	15	AJ-05	VII		掘り込み炉
VF-05	縄文時代	60	50	8	AG-06	VII		
VF-06	縄文時代	46	34	3	AG-06	VII		
VF-07	縄文時代	62	60	12	AE-09	VII		
VF-08	縄文時代	68	58	3	AC-12	VI		
VF-09	縄文時代中期後葉	47	43	6	AG-07	VII		
VF-10	縄文時代中期後葉	68	54	7	AC-08	VII		
VF-11	縄文時代	45	37	5	AG-07	VI		
VF-12	縄文時代	63	55	8	AB-09	VI		
VF-13	縄文時代	54	46	12	AB-14	Vc		TP-26より新しい
VF-14	縄文時代中期後葉	35	27	4	AB-08	Vc		
VF-15	縄文時代	40	27	3	AB-08	Vc		
VF-16	縄文時代	48	42	6	X-18	VbL		
VF-17	縄文時代	52	39	9	I-14	VbL		
VF-18	縄文時代	112	81	8	J-09	VbM		VH-06より新しい
VF-19	縄文時代後期前葉	42	27	5	I-13	VbL		
VF-20	縄文時代	65	51	8	L-11	VbL		
VF-21	縄文時代	110	108	26	I-08・09	VII		掘り込み炉 礫38点
VPB-01	縄文時代後期初頭	64	51	-	AG-12	Va		
VPB-02	縄文時代後期初頭	82	44	-	AG-12	VbU		
VPB-03	縄文時代中期後葉	24	18	-	AH-07・08	VbM		
VPB-04	縄文時代中期後葉	125	104	-	AI・AJ-06	Vb		
VPB-05	縄文時代後期前葉	156	133	-	AE-09・10	Va～ VbM		
VPB-06	縄文時代後期前葉	148	108	-	AB-13	Va		
VPB-07	縄文時代後期前葉	39	26	-	AB-14	VbU		
VPB-08	縄文時代中期後葉	137	110	-	W-12・13	Va～ VbU		
VPB-09	縄文時代後期初頭	157	127	-	Z-16	Va		
VPB-10	縄文時代前期後葉	69	43	-	P-10	VbM		
VPB-11	縄文時代後期初頭	18	16	-	AC-11	VbL		
VPB-12	縄文時代中期後葉	26	13	-	AB-08	VbL		
VSb-01	縄文時代後期初頭	366	314	-	AE-10	Va		
VSb-02	縄文時代中期後葉	306	154	-	AH-07	VbM ～L		
VSb-03	縄文時代中期後葉	208	109	-	AH-07・08	VbU		
VSb-04	縄文時代中期後葉	67	48	-	AJ・AK-06	VbM		
VSb-06	縄文時代中期	125	118	-	AI-07	VbM		
VSb-07	縄文時代後期初頭	229	134	-	AI-05・06	Va ～bM		

表Ⅱ-1 遺構群一覧表(3)

遺構名	時期	規模(cm)			グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸	深さ/ 厚さ				
VSΒ-08	縄文時代後期	131	75	-	AG-08	Va		
VSΒ-09	縄文時代中期後葉	143	103	-	AG-07	VbM ~L		
VSΒ-10	縄文時代中期後葉	93	80	-	AF・AG-07	VbM		
VSΒ-11	縄文時代中期後葉	219	192	-	AG-12	VbU ~M		
VSΒ-12	縄文時代後期	185	137	-	AF-12・13	VbM		
VSΒ-13	縄文時代後期初頭	142	121	-	AF・AG-13	Va		
VSΒ-14	縄文時代後期	173	103	-	AE・AF -07・08	Va		
VSΒ-15	縄文時代中期後葉	116	107	-	AF-10・11	VbU ~M		
VSΒ-16	縄文時代中期後葉	158	144	-	AE-09	VbL ~Vc		TP-14より古い
VSΒ-17	縄文時代中期後葉	202	102	-	AC-13・14	VbL ~Vc		
VSΒ-18	縄文時代中期後葉	137	81	-	AC-10	VbM		
VSΒ-19	縄文時代中期後葉	239	174	-	AB-09・10	VbU ~L		
VSΒ-20	縄文時代中期後葉	349	257	-	AB・AC-15	VbM ~L		
VSΒ-21	縄文時代中期後葉	347	327	-	AA-12・13	VbM ~L		
VSΒ-22	縄文時代後期前葉	375	292	-	X-13	VbM		
VSΒ-23	縄文時代後期初頭	336	238	-	X-10・13 Y-11	VbL		
VSΒ-24	縄文時代前期前葉	434	222	-	Z・AA -10・11	VbM ~L		
VSΒ-25	縄文時代後期初頭	209	119	-	AB-17	Va		
VSΒ-26	縄文時代後期初頭	113	69	-	O-08	Va		
VSΒ-27	縄文時代中期後葉	203	128	-	X-18・19	VbM ~L		
VSΒ-28	縄文時代中期後葉	99	77	-	Q-17	VbM		
VSΒ-29	縄文時代中期後葉	117	97	-	J-08・09	VbM ~L		
VSΒ-30	縄文時代中期	478	399	-	I・J -10・11	VbM ~L		
VSΒ-31	縄文時代後期初頭	494	336	-	L・M -10・11	VbM ~L		
VSΒ-32	縄文時代中期	352	338	-	J-12	VbM ~L		
VSFCB-01	縄文時代後期初頭	215	182	-	Z-13	Vb		
VFCB-01	縄文時代後期初頭	90	89	-	AC-11	Vc		

ようにVb層を主体とする黒色土にややTa-d2Lが混じる3層が、さらに上位にVb層を主体とする2層が堆積する。また、住居跡の西側と南側の周縁にはV層にTa-d1とTa-d2が混じる掘り上げ土が分布しており、その厚さは8~10cmほどである。

石組炉:住居跡床面のほぼ中央に「コ」の字状に開く石組を検出した。この中央に焼土が確認され、石組炉と判断した。この石組炉をVH-01.HF01として調査を行った。HF01は長軸81cm、短軸72cmで石組は14個体前後の炉石からなり、炉外へ倒れるように検出した。石組の外側からは写真(カラー2-1)に示したⅢ群B1類土器が出土している。炉跡はHF01のほかにもこの南側にも掘り込みをもたないHF02・03が検出した。その規模はHF02が長軸51cm、短軸40cm、厚さ9cm、HF03が長軸33cm、短軸



図II-1 遺構配置図

31cm、厚さ 12cm である。いずれも炉石などを伴わないことで、地床炉と判断した。

その他の施設：住居跡北端で長軸 76cm、短軸 61cm、深さ 24cm の土坑 PT01 を検出した。検出面では北海道式石冠の破片や石斧の未成品と思われる遺物が出土した。また、PT01 の底面では柱の跡 HP11 も確認した。PT02 は HF01 の東側で検出され、平面が楕円形で、長軸 57cm、短軸 47cm、深さ 15cm である。HP は住居跡全体で 11 ヶ所検出した。壁の立ち上がりに近接するものが多く、やや大きな径の HP01・02 は壁際より離れる位置で HF03 に隣接して検出した。

遺物出土状態：VH-01 の覆土内で多量の FC が検出されている。土器片などは HF01 の周辺で確認されるものが多い。

出土遺物 (図 II-6-1~7、7-8~15) : 1~7 はⅢ群 B1 類に属する土器である。1 は 4 個の山形突起をもち、口縁から胴部下半まで復元した。口縁部は外反し肥厚する。胴部に向かい緩やかにすぼまる器形である。肥厚帯には縄文施文後に幅 1cm ほどの縦位の貼付文を施し、これに半截竹管による押圧文を加える。粘土紐による貼付文は突起を囲むように施され、これにも半截竹管による押圧文を加える。口縁部から胴部にかけては垂下する貼付文の起点・終点及び中間地点に瘤状の貼り付けを行い、半截竹管の先端による刺突文が加えられる。地文は LR 斜縄文である。2 は口縁部に棒状の突起が形成され、この突起に 3 条の横位貼付文を施し、これに半截竹管による押圧を加える。口縁部肥厚帯は断面が「P」の字状となり、肥厚帯には「D」の字状の貼付瘤を貼り付け、半截竹管の外表面による「D」の字状の刺突文列が、上下 2 段に施される。突起部下の口縁部には瘤状の貼付文に半截竹管による刻線文が施される。地文は LR 斜縄文である。3 は突起の頂部を欠き、炉の側で出土した口縁部肥厚帯に棒状工具による刺突文列が施される。これに並行する貼付文には爪形文が施される。突起下には瘤状の貼付文を施し、刺突文が加えられる。地文は結束第 2 種の羽状縄文である。4 は口縁部で、口唇部とその下部に 3 条の幅の細い貼付文を付し、これに爪形文が施される。横方向の貼付文上にはこれを跨ぐように縦位の貼付文が施される。地文の結束第 1 種羽状縄文は、貼付文を施す以前に施文される。5 は口縁部肥厚帯の破片で、半截竹管による押引文と地文の LR 斜縄文が施される。6 は半截竹管による押引文と地文の縄文が施される。7 は地文の縄文が施される。8 はポイント類 A3 類の有茎石鏃で、2 点の破片が接合した。表面は平坦剥離によるもので、器面のほぼ中央まで達する剥離が施される。裏面縁辺部に剥離調整が行われる。9 はポイント類 B2 類の石槍で、表面に幅広の並行剥離が認められ、縁辺には微細な剥離調整が行われる。10 はポイント類の基部片である。11 は RF で剥片の端部に対し両面からの剥離で先端部を作出する。器面右側縁に微細剥離が認められる。12 は石斧未成品で 2 点の破片が接合した。主に両側縁からの剥離で器面を整えているが、両面ともに自然面が残されており、縁辺には敲打痕が、裏面の一部にはすり面が認められる。13 はたたき石で、表面中央にやや窪むたたき痕を認め、たたきは側面にも及ぶ。裏面には縦位に窪みが連続するたたき痕が認められる。14 は扁平方形の台石でたたき痕が平坦面や側面に認められる。15 は大型の台石で両面にたたき痕が認められる。

VH-02 (図 II-8 図版 3-6、4-1~3、49-5~10)

位置：AF・AG-06・07 層位：Vb 層上位 規模：(346)×(163)×48cm

出土点数：土器 12 点、石器 7 点、FC5 点、礫 12 点

長軸方向：N-14° W 平面形：不整円形 付属遺構：HF01

確認・調査：AG-07 グリッド周辺の V 層上面を精査中に、上面から最深部にかけて約 30cm の窪みとして検出した。この窪みを住居跡と想定し、検出状態の写真撮影を行った。撮影後に窪みの中心付

近を通るように東西・南北に幅約 20cm のトレンチを掘削し、土層堆積及び壁・床面の確認調査を実施した。この調査で、Vb 層から掘り込まれ、VII層を床面とするベンチ構造の住居跡と判断した。なお、床面精査中に本住居跡以前の構築と判断される TP-01 を確認した。

堆積状態：壁及び床面直上に 3・4 層が流れ込むように堆積し、この両層を覆うように Vb 層を主体とする 1・2 層が堆積する。

炉：住居跡の南側壁際に長軸 24cm、短軸 21cm、厚さ 6cm の焼土を検出した。半截し調査を行った結果、火床面に二次加熱部を有する地床炉と判断した。

遺物出土状態：遺物は住居跡の西側に偏って出土している。層位は覆土上層のことが多い。

出土遺物 (図Ⅱ-8-1~6)：1・2 はⅢ群 B1 類に属する土器である。1 は山形の突起をもち、突起と口縁部肥厚帯には半截竹管による刺突文が施される。肥厚帯直下の口縁部には縄文が施される。2 は胴部で、LR 斜縄文が施される。3 はエンド・スクレイパーで、刃部に微細剥離が認められる。裏面に転礫面が、縁部には微細剥離が認められる。4 は扁平長方形のたたき石で 2 点が接合された。両面と、左下部角にもたたき痕が認められる。5 は欠損するたたき石で、両面にたたき痕が認められる。6 は扁平な素材のたたき石で、両面及び側面にたたき痕が認められる。

VH-03 (図Ⅱ-9 図版 4-4、5-1~3、50-1)

位置：AC-07 層位：Vb 層 規模：159×136×11cm

出土点数：土器 1 点、石器 2 点、FC2 点、礫 2 点

長軸方向：N-40° E 平面形：不整円形 付属遺構：HF01

確認・調査：AB~AD グリッドの東側を 2m ほど道路側(東側)に拡張し、VI層面を精査中に黒い落ち込みとして検出した。当初、大型の土坑としていたが、遺構の床面西側に焼土が検出されたため、住居跡として調査を行った。完掘後に住居跡内外の柱穴の確認を行ったが、柱穴として判断されるものはなかった。このため柱穴を伴わない住居跡と判断した。

堆積状態：1 層を除くすべての層が流れ込み層と思われる。1 層は木の根の攪乱層と思われ、2 層は Vb 層を主体とする窪地にたまった堆積層で、3・4 は VII 層が主体となる土層である。

炉：住居跡中央より西側に偏ったところで焼土を検出した。長軸 51cm、短軸 40cm、厚さ 7cm である。半截し調査を行った結果、火床面に二次加熱部を有する地床炉と判断した。

遺物出土状態：Ⅲ群 B1 類土器が出土するが細片のため掲載しなかった。

出土遺物 (図Ⅱ-9-1)：1 はポイント類 B1a 類に属する石銛である。表面に器面中央に達する深い剥離調整を施す。さらに縁辺部に浅い剥離を施し微細な調整剥離を加えている。裏面は表面とほぼ同様の剥離工程だが、器面中央に達する剥離は表面の剥離よりやや幅が広いものとなっている。

VH-04 (図Ⅱ-10 図版 5-4、6-1~4、7-1~3、50-2~5、65-2)

位置：X・Y-13・14 層位：Vb 層上位 規模：397×(339)×21cm

出土点数：土器 4 点、石器 5 点、石製品 1 点、FC13 点、礫 50 点

長軸方向：N-86° W 平面形：隅丸方形 付属遺構：HF01、PT01・02、HP01~03

確認・調査：V層上面調査中に Y-14 グリッドを中心とする径 5m ほど、最大深 10cm の窪みとして検出した。このため窪みの検出状態の写真撮影を行い、窪みの中心から東西・南北に幅 20cm ほどのトレンチを掘削し、断面において壁の立ち上がりや床面の確認を行い住居跡と判断した。この確認により、おおよその広がりや範囲を考慮して、遺物を残しながら調査を行った。

堆積状態：床面直上には Ta-d1・d2 に V 層が混じる 4～6 層が堆積する。上層に 1～3 層があり、1 層は Vb 層に Ta-d1 パミスが混じる掘り上げ土、2・3 層は Vb 層を主体とする土層である。4～6 層は床面直上に堆積する層である。

石組炉：住居跡の中央よりやや北東に、2 個の礫を残す石組炉を検出した。この炉の灰の広がり西側の礫側に偏り検出した。焼土は不整楕円形で規模は長軸 50cm、短軸 32cm、深さ 21cm である。

その他の施設：炉跡以外の施設は土坑 2 基、柱穴 3 ヶ所が検出される。このうち土坑は Ta-d1 スコリア層をやや掘り込む播鉢状や深皿状の窪みである。

遺物出土状態：炉の周辺から南西側の土坑周辺にかけて遺物の集中が見られる。

出土遺物 (図Ⅱ-10-1～4)：1 はⅢ群 B1 類土器の突起部分である。山形状の突起の表面が剥落しているが、粘土紐を貼り付けた痕跡が残される。2 はエンド・スクレイパーで、下縁が急角度に調整される。微細剥離が下縁から左側縁に残され、裏面には主剥離面が残されている。3A はいわゆる「トコロ式コア」(其田・河野 1980) である。円形あるいは楕円形の原石を半月形状に調整したのちに、石核の稜線側からの打撃で打面を形成し、打面調整を行った後に打面から石刃様の剥片を得ている。3B は 3A に接合される。4 は垂飾の欠損品である。全面研磨されるが一部に敲打痕が認められ、また孔の一部も残されている。

VH-05 (図Ⅱ-11・12 図版 7-4・5、8-1、50-6～12、65-3)

位置：AE-07 **層位**：Vb 層上位 **規模**：(344)×(176)×40cm

出土点数：土器 8 点、石器 7 点、SFC1 点、FC4 点、礫 22 点

長軸方向：N-25° W **平面形**：不整円形 **付属遺構**：なし

確認・調査：当初、道路の断面で確認し、V 層から掘り込まれた住居跡と推定した。この落ち込みを確認するため幅約 20cm のトレンチを設定し掘削した。トレンチでは床面を確認し、西・南・北壁を確認した。調査はこのトレンチから掘り開き、遺物を残してほぼ完掘に至った。遺物出土状態の写真撮影を行った後、遺物を取り上げ、床面を精査した。なお VH-05 と VP-02 は重複しているが、VP-02 が住居跡を切って構築されているため、新しい時期の遺構と確認できた。床面では柱穴などの付属施設は確認できなかった。

堆積状態：床面直上の一部に 3 層が認められるが、大部分の床面は 2 層により覆われている。さらにこの 2 層の上部には 1 層が堆積している。

遺物出土状態：住居跡の北西側に床面直上から床面より 2～10 cm 浮いた状態で大型板状の礫とともにⅢ群 B1 類及びⅣ群 A1 類の土器が出土している。住居跡がまだ埋まりきらない状態に一括して捨てられた可能性も考えられたため土層堆積状態を精査したが、一括廃棄されたことについては確認できなかった。

出土遺物 (図Ⅱ-12-1～7)：1 はⅢ群 B1 類に属する土器である。4 ヶ所に棒状の突起をもち、口縁部は三角形に肥厚する。突起及び肥厚帯には半截竹管による刺突文が施される。刺突文は突起を囲むような貼付文状に、口縁部肥厚帯には上下 2 段に半截竹管による刺突文が施される。肥厚帯から胴部にかけて地文の縄文施文後に半截竹管による縦横位の沈線文が施される。2 はⅣ群 A1 類 a の土器である。口縁部肥厚帯、その下部の肥厚帯は段状になっている。胴部には地文施文後に 4 条のタガ状の貼付帯が施される。3 はⅠ群 B4 類の土器である。口縁部はやや内傾する緩い山形状になる。口唇は丸みをもつ。短軸絡条体第 1 類の回転文が施される。4 はⅢ群 B1 類胴部片の土器である。結束第 1 種羽

状縄文が施される。5は石錐である。器面下部の両側縁に微細な剥離痕が認められる。6は欠損しているたたき石で、棒状の礫端部にたたき痕が認められる。7は台石である。平坦面にたたき痕が認められる。

VH-06 (図Ⅱ-13・14 図版8-2、9-1~5、51-1~3、66-1)

位置：J・K-08・09 層位：Vb層上位 規模：433×407×25cm

出土点数：石器3点、FC16点、礫14点

長軸方向：N-71° W 平面形：不整形円形 付属遺構：HF01、HP01・02

確認・調査：V層調査中に炉の石組と思われる礫を検出したため、この礫の周囲を掘削し「L」の字状の石組として確認した。さらにこの石組を中心に土層断面観察用のベルトを残し、調査を行った。この結果、VI層を床面とする浅い住居跡と判断した。

堆積状態：床面直上に5層が堆積し、さらに上位に2層・1層と堆積している。また3・4層は住居の立ち上がり付近で検出している。土層観察の結果、掘り込み面はV層中位より掘り込まれていることが判明した。

石組炉：床面のほぼ中央に「L」の字状の石組を検出した。この内側に小規模な焼土を検出した。さらにサブトレンチを入れ土層の堆積状況を確認したところ、石組の南西側に立ち上がりを確認したため、掘り込みをもつ炉跡と判断した。炉の石組は北東側に2個、西側に1個検出するが、この炉の西側に炉に関連するものと思われる焼けた礫がまとまって検出された。

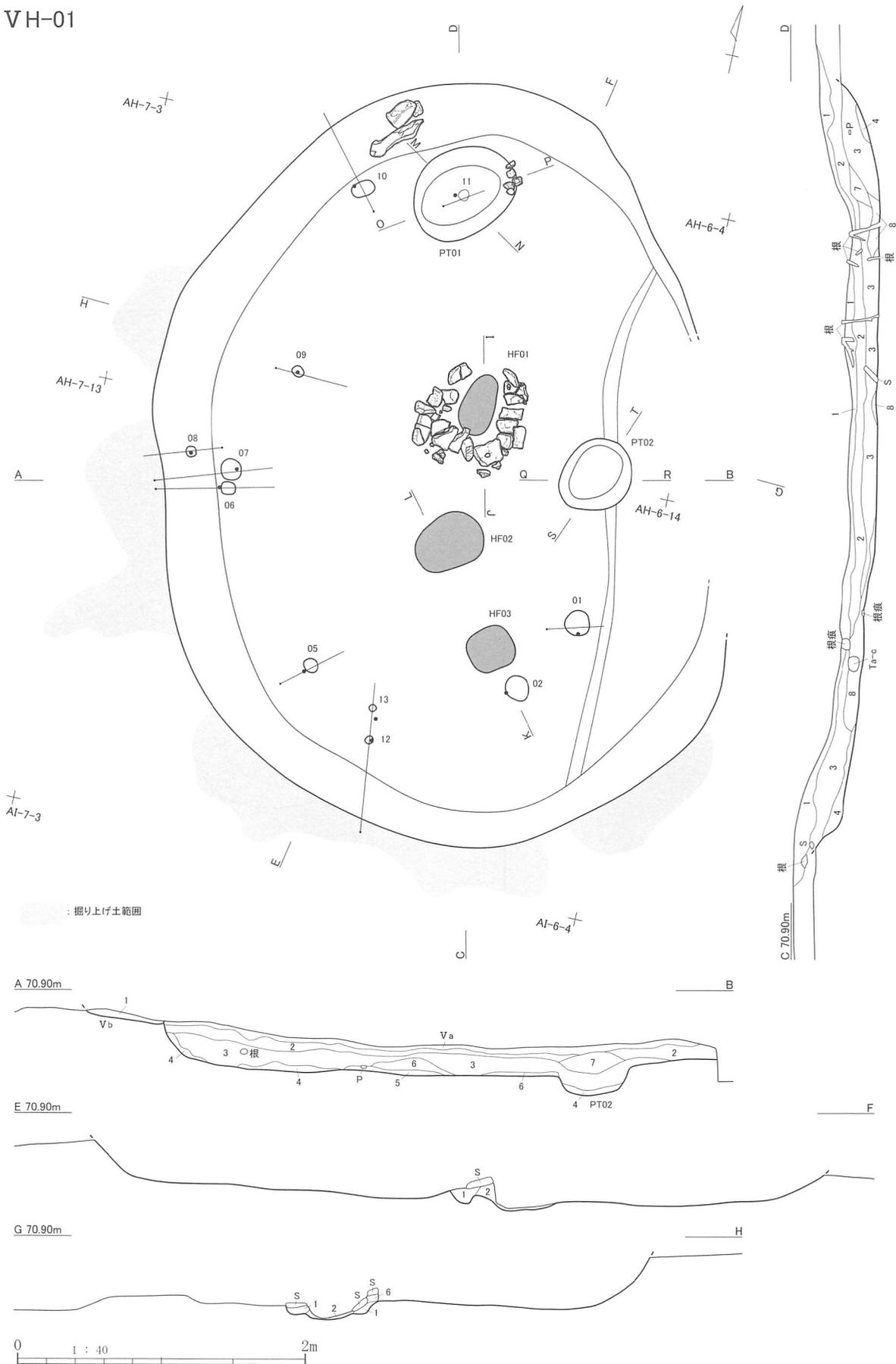
その他の施設：HP2カ所を検出した。2カ所とも炉跡の北側に位置する。

遺物出土状態：床面から出土する土器はなく、本住居の時期を決定する判断にかける。覆土において礫が出土している。

出土遺物 (図Ⅱ-14-1~3)：1はつまみ付きナイフで、主に表面に調整を加え器面を整えている。下縁及び両側縁に微細剥離が認められる。2は台石で、表面及び側縁にたたき痕が認められる。3は大型板状の礫を用いた石皿で、表面にすり面とたたき面の痕跡が残されている。

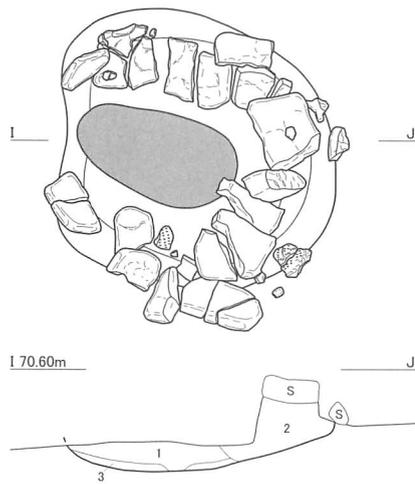
(長谷川)

VH-01



図II-2 VH-01 平面及び断面図

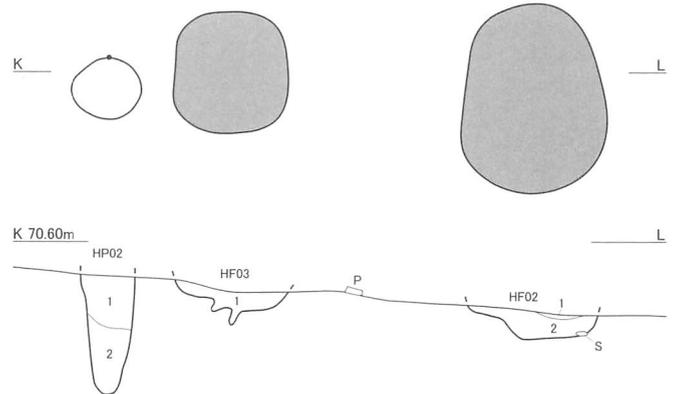
VH-01.HF01



VH-01.HF01

- 1 5YR4/6 赤褐色 焼土-Ta-d1+炭化物
- 2 5YR2/2 黒褐色 V=焼土+炭化物
- 3 5YR4/1 褐色 Ta-d1S(φ3↓)

VH-01.HF02・03・HP02



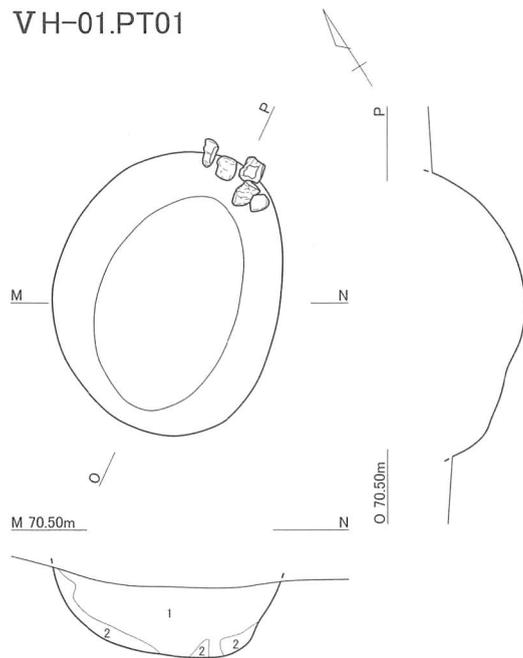
VH-01.HF02・HF03

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 V+Ta-d1
- 2 5YR5/6 明赤褐色 焼土+灰状

VH-01.HP02

- 1 5YR3/4 暗赤褐色 Ta-d1+Ta-d2P=V
- 2 5YR4/8 赤褐色 Ta-d1P+Ta-d1S

VH-01.PT01



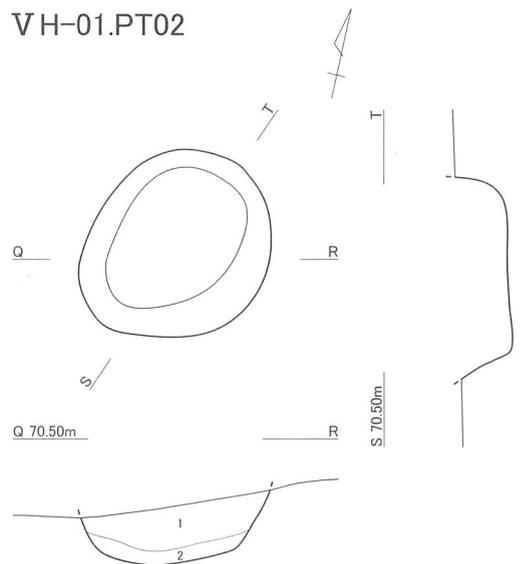
VH-01.PT01

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 Vb=Ta-d2P+炭化物
- 2 5YR4/6 赤褐色 Ta-d1L=Vb

VH-01

- 1 10YR2/2 黒褐色 Ta-c=Vb
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 Vb=Ta-c
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色 Vb=Ta-d2L
- 4 5YR4/8 赤褐色 Ta-d2L=Vb
- 5 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L
- 6 7.5YR4/3 褐色 Ta-d1+Vb
- 7 7.5YR2/2 黒褐色 Vb=Ta-d1+Ta-d2L
- 8 7.5YR3/4 暗褐色 Ta-d1+Ta-d2=Vb

VH-01.PT02



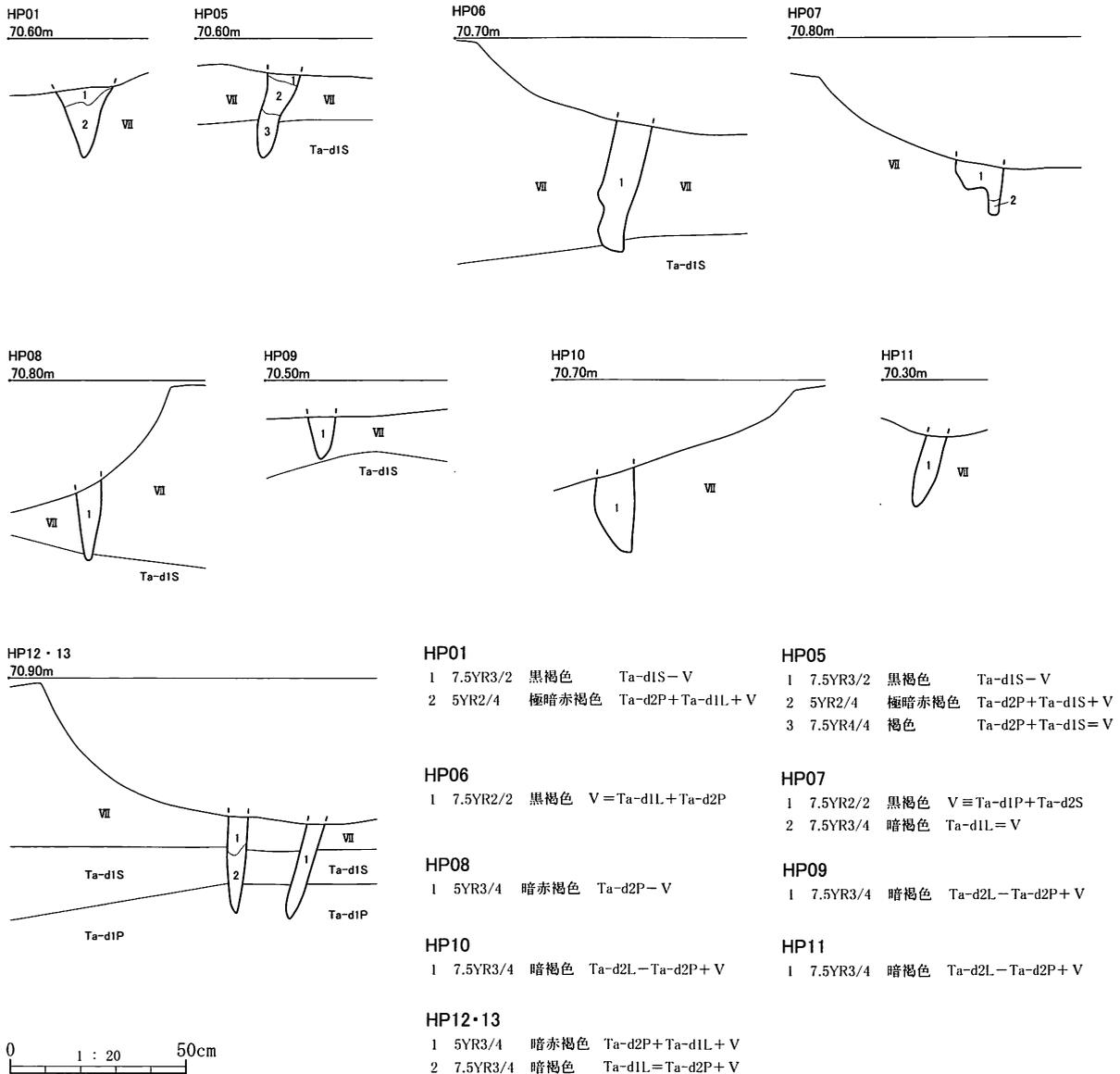
VH-01.PT02

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 Vb=Ta-d2
- 2 2.5YR4/8 赤褐色 Ta-d2L=Vb

0 1 : 20 50cm

図Ⅱ-3 VH-01 付属遺構平面及び断面図

VH-01.HP01・05～13



図II-4 VH-01 付属遺構断面図

表II-2 VH-01属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				深さ	付属遺構	備考
					上端		下端				
					長軸	短軸	長軸	短軸			
II-2	カラー2-1 2-1・2	AG・AH- 06・07	Vb	N-12°W	535	(402)	474	(348)	31	HF01～03・ PT01・02・ HP01・02・05～13	土器107点、石器30点 SFC21点、FC594点 礫160点

表II-3 VH-01.HF01～03属性表

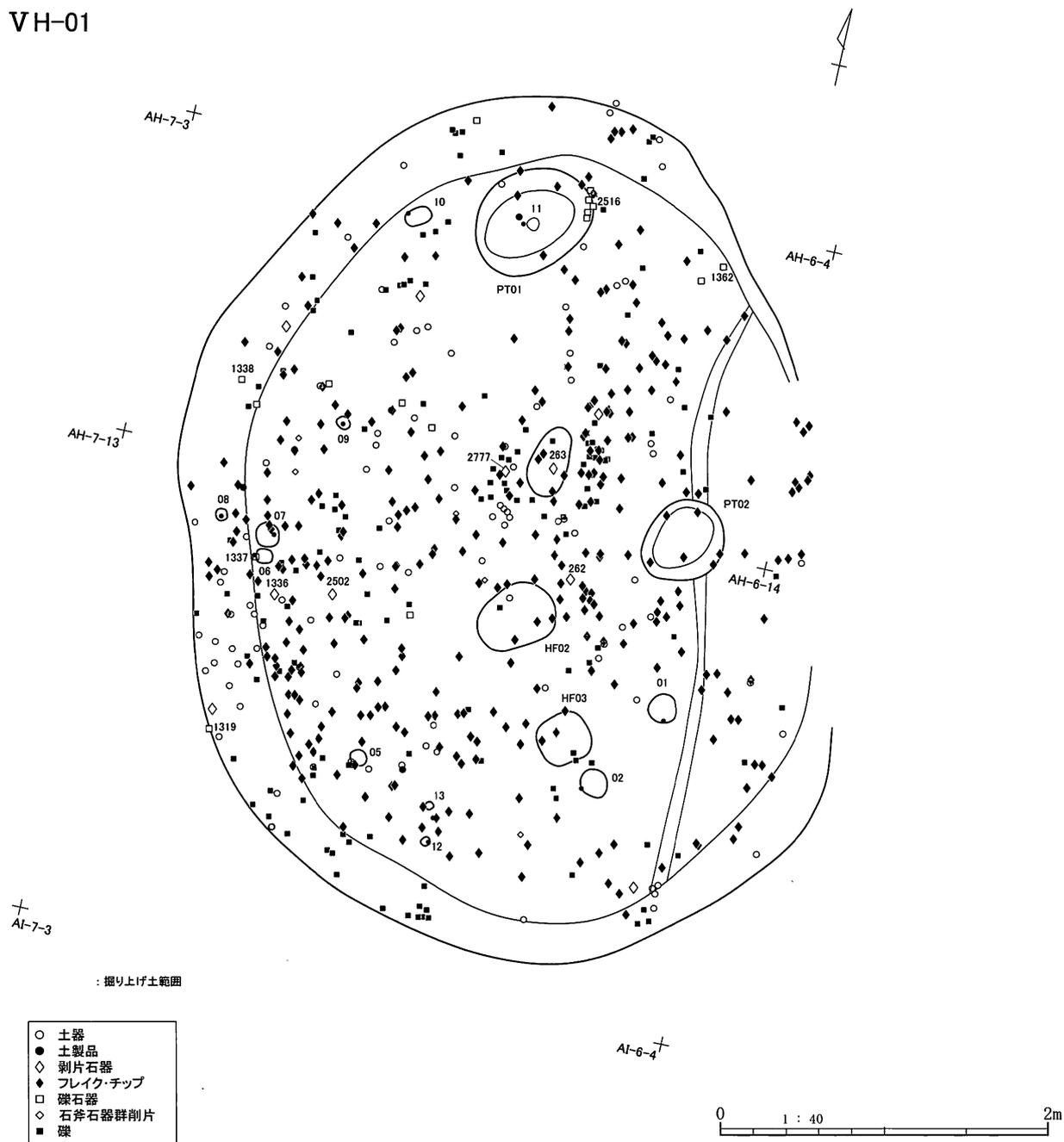
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	タイプ	平面形	規模(cm)				深さ	灰・骨片の有無	備考
							上面		底面				
							長軸	短軸	長軸	短軸			
II-3	2-3・4	HF01	AG・AH- 06・07	3	石組炉	楕円形	81	72	-	-	8	無	FC89点、炉石37点
	-	HF02		3	地床炉	楕円形	51	40	-	-	9	無	FC50点、礫1点
	-	HF03		3	地床炉	楕円形	33	31	-	-	12	無	FC14点

※属性表内、フローテーション処理で抽出したFC点数を加えてある。

表Ⅱ-4 VH-01.PT01・02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)					備考
						上面		底面		深さ	
						長軸	短軸	長軸	短軸		
Ⅱ-3	3-1・2	PT01	AG・AH-06・07	3	楕円形	76	61	54	37	24	FC4点
	-	PT02			楕円形	57	47	43	32	15	

VH-01



図Ⅱ-5 VH-01 遺物分布図

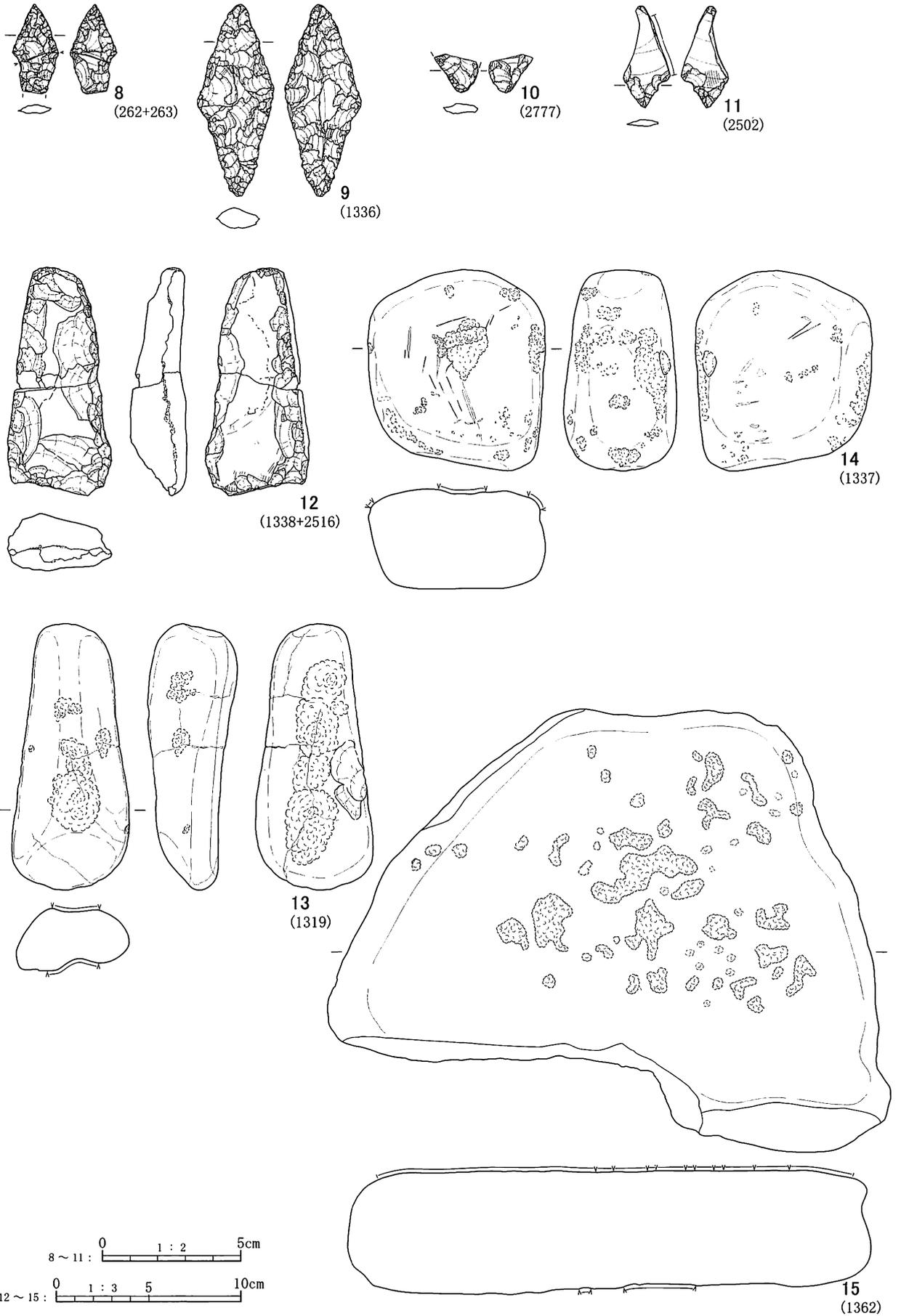
表II-5 VH-01.HP01・02・05~13属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	平面形		規模(cm)			傾き(度)	備考
			調査面/坑底面		上端	下端	深さ		
II-4	3-3	HP01	円形/ -		26	-	20	0	
II-3	-	HP02	楕円形/ -		28	-	33	0	
II-4	-	HP03	-		-	-	-	-	自然営力による落ち込みのため欠番
	-	HP04	-		-	-	-	-	自然営力による落ち込みのため欠番
	3-4	HP05	円形/ -		9	-	24	15	
	-	HP06	円形/ -		10	-	32	12	
	-	HP07	円形/ -		13	-	15	1	
	-	HP08	円形/ -		7	-	22	0	
	-	HP09	円形/ -		8	-	12	2	
	-	HP10	楕円形/ -		11	-	14	0	
	-	HP11	円形/ -		6	-	20	17	
	3-5	HP12	円形/ -		5	-	28	0	
	3-5	HP13	円形/ -		5	-	28	14	



図II-6 VH-01 出土土器

0 1:3 5cm



図II-7 VH-01 出土石器

表II-6 VH-01出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
II-6-1	48-1	JP097	III B1	VH-01	2	2	口縁部 ~胴部	山形突起・ 肥厚帯/ 直立 ゆるやかに すぼまる	LR縄文- 貼付文- 押圧文- 半截竹管文- LR斜縄文/ 貼付文 LR斜縄文	繊維少量	VSB-03 出土土器 (胴部)と 接合
				VSB-03	V	1					
				AF-07	Vb	18					
				AG-07							
				AG-09							
				AH-07							
				AH-08							
				AI-06							
AJ-07	Vc	1									
AK-05	Va	1									
II-6-2	48-2	JP020A	III B1	VH-01	3	1	口縁部	棒状突起・ 断面P字状 肥厚帯・外傾	貼付文・沈線文・半截竹管 による刺突文・「D」の字状 貼付文・瘤状貼付文- ミガキ/LR斜縄文	砂粒少量	
				AI-06	Vc	1					
II-6-3	48-3	JP073	III B1	VH-01	3	3	口縁部	突起欠損・外反	貼付文・爪形文・ 棒状工具による刺突文・ 結束第2種羽状縄文	砂粒少量	
II-6-4	48-4	JP031	III B1	VH-01	3	1	口縁部 ~胴部	平縁・外傾	無文-貼付文・貼付文・ 爪形文-ミガキ/結束 第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒少量	
				VH-02	1	2					
				AF-11	Vb	1					
II-6-5	48-5	JP095	III B1	VH-01	1	1	口縁部	-	半截竹管による押引文・ LR斜縄文・ミガキ	砂粒少量	
II-6-6	48-6	JP074	III B1	VH-01	2	1	胴部	外傾	半截竹管による押引文・ LR斜縄文	砂粒少量	
II-6-7	48-7	JP077	III B1	VH-01	3	4	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	

表II-7 VH-01出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
II-7-8	48-8	-	262	ポイント類	A3	1	(32.9)	16.4	4.0	(1.8)	Obs.	茎部欠、接(263)
II-7-9	48-9	-	1336	ポイント類	B2	2	69.6	27.6	9.8	14.5	Obs.	完形
II-7-10	48-10	-	2777	ポイント類	C	3	(16.5)	12.5	4.7	(0.8)	Obs.	茎部片
II-7-11	48-11	-	2502	RF	-	4	37.1	16.9	2.3	1.4	Obs.	完形
II-7-12	49-1	VST002	1338	石斧	B	2・3	125.0	58.0	30.8	264.2	Gr-Mud.	未成品、接(2516)
II-7-13	49-2	-	1319	たたき石	IA3	1	144.3	62.9	47.7	415.0	Sa.	完形
II-7-14	49-3	-	1337	台石	-	2	108.9	94.4	60.8	950.0	Sa.	完形
II-7-15	49-4	-	1362	台石	-	2	300.5	234.9	69.2	6,800.0	Sa.	完形

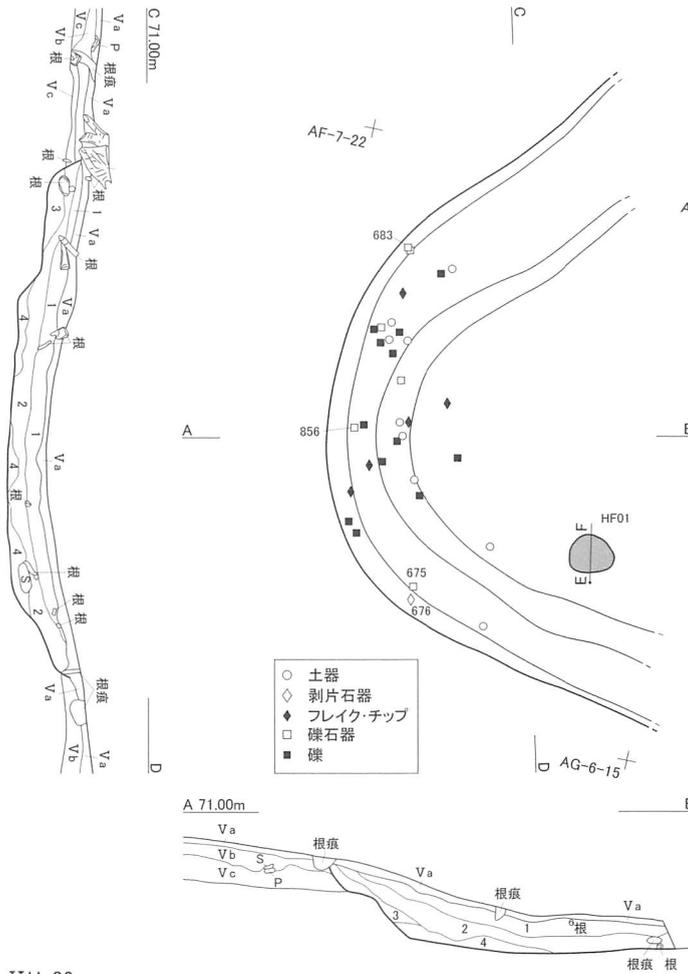
表Ⅱ-8 VH-01.HF01出土炉石属性表

図版 番号	個体 名称	遺物番号	グリッド	長軸(mm)	重量(g)	備考
			層位	短軸(mm)	被熱	
			状態	厚さ(mm)	石材	
65-1	VS332	2764・2766・2767・2768・2769	AH-06	452.0	8,900.0	
			3	205.8	○	
			完形	73.0	Sa.	
	VS333	2755・2757・2758・2760・2761・2799	AH-06	317.5	2,900.0	
			3	107.2	○	
			略完形	45.0	Sa.	
	VS334	2774・2775・2779・2780	AH-06	253.3	1958.0	
			3	123.9	○	
			完形	51.2	Sa.	
	VS335	2770・2771・2772・2773・2778	AH-06	291.5	4,284.0	
			3	218.0	○	
			完形	46.9	Sa.	
	-	2776	AH-06	179.1	1,126.0	
			3	118.0	○	
			完形	32.0	Sa.	
	VS336	2762・2763	AH-06	221.0	(1,596.0)	
			3	(167.0)	○	
			欠損	(32.1)	Sa.	
	VS337	2765-5・2765-6・2765-7・2765-10	AH-06	(66.1)	(85.5)	
			3	44.0	○	
			欠損	(29.8)	Sa.	
	VS338	2765-2・2765-3・2765-4	AH-06	49.5	(79.6)	
			3	(46.1)	○	
			欠損	(37.0)	Sa.	
	-	2754	AH-06	149.9	592.0	
			3	90.0	○	
完形			31.9	Sa.		
VS340	2756-1・2756-2	AH-06	(35.0)	(4.9)		
		3	(28.9)	-		
		欠損	(6.7)	Sa.		
-	2759	AH-06	(27.5)	(7.0)		
		3	(20.0)	○		
		欠損	(12.9)	Sa.		
-	2765-8	AH-06	(26.1)	(4.3)		
		3	(18.1)	○		
		欠損	(12.8)	Sa.		
-	2765-9	AH-06	(31.0)	(13.8)		
		3	(22.0)	○		
		欠損	19.8	Sa.		
-	2765-1	AH-06	(47.0)	(68.4)		
		3	(46.8)	○		
		欠損	34.1	Sa.		

表Ⅱ-9 VH-02属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)					付属遺構	備考
					上端		下端		深さ		
					長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-8	3-6 4-1	AF・AG- 06・07	Vb	N-14°W	(346)	(163)	(223)	(123)	48	HF01	土器12点、石器7点 FC5点、礫12点

VH-02

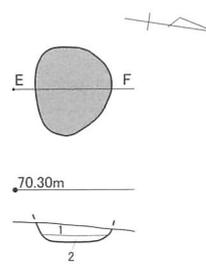


VH-02

- 1 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ta-dP
- 2 10YR3/3 暗褐色 Vb=VII
- 3 10YR3/1 黒褐色 VII=Vb(φ5↓)
- 4 10YR5/8 黄褐色 VII≡Vb(φ10↓)

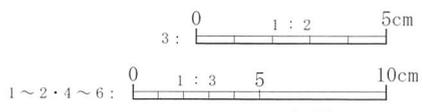
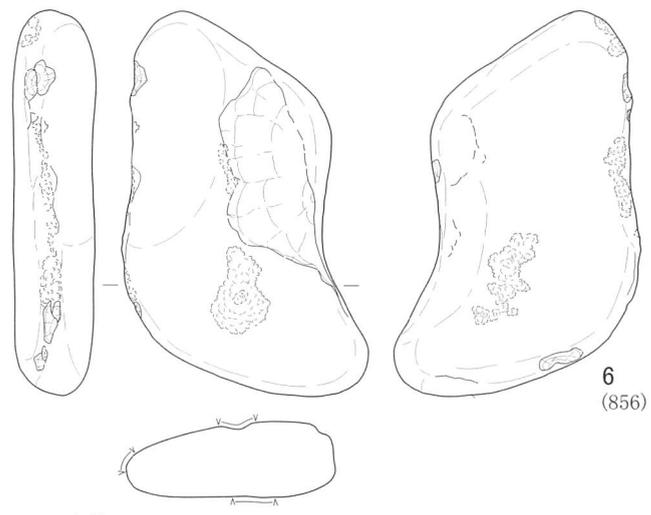
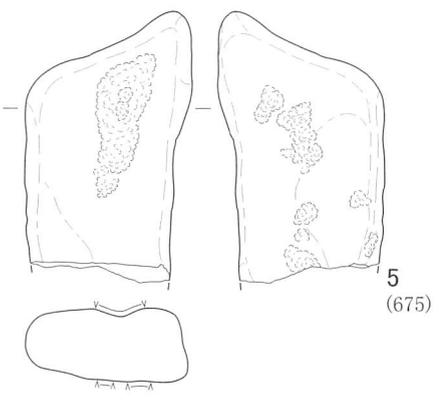
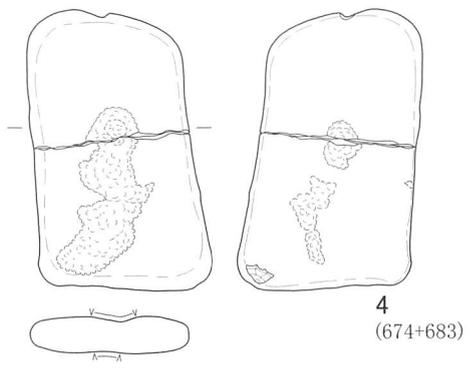
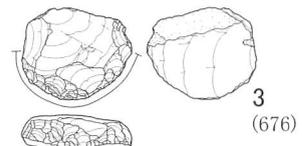
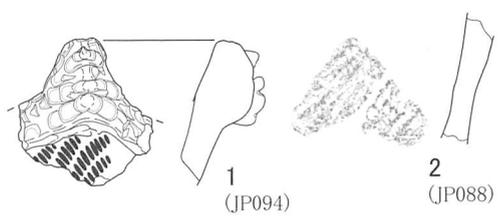
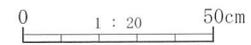


VH-02.HF01



VH-02.HF01

- 1 5YR5/8 明赤褐色 焼土+Vc≡Ta-d1
- 2 5YR3/3 暗褐色 Vb+焼土



図II-8 VH-02 付属遺構平面及び断面図・出土遺物

表Ⅱ-10 VH-02.HF01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	タイプ	平面形	規模(cm)					灰・骨片の有無	備考
							上面		底面		深さ		
							長軸	短軸	長軸	短軸			
II-8	4-2・3	HF01	AF・AG-06・07	-	地床炉	楕円形	24	21	-	-	6	無	

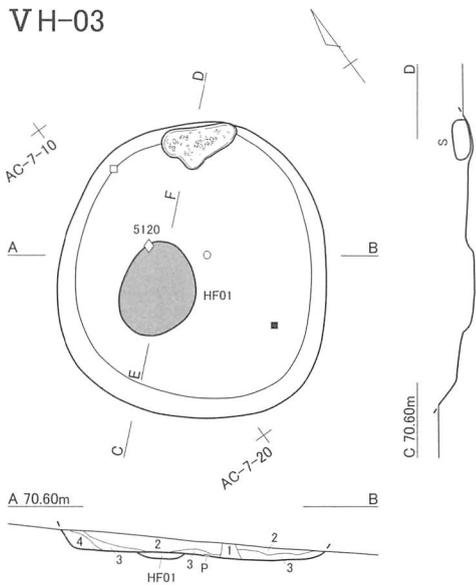
表Ⅱ-11 VH-02出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
							口縁-口唇/ 胴部/ 底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
II-8-1	49-5	JP094	ⅢB1	1	1	口縁部	山形状突起・ 断面三角形/外傾	半截竹管文・ミガキ・ LR斜縄文	砂粒少量	
II-8-2	49-6	JP088	ⅢB1	4	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	

表Ⅱ-12 VH-02出土石器属性表

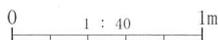
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
II-8-3	49-7	-	676	ナイフ・スクレイパー類	B2	1	28.6	24.1	8.5	6.6	Obs.	完形
II-8-4	49-8	VST005	674	たたき石	ⅡA1	1	112.8	68.1	14.9	168.0	Sa.	完形、被熱、接(683)
II-8-5	49-9	-	675	たたき石	I A1	1	(106.9)	64.8	29.7	(270.0)	Sa.	欠損
II-8-6	49-10	-	856	たたき石	ⅡA3	2	152.6	97.8	30.2	550.0	Sa.	完形

VH-03

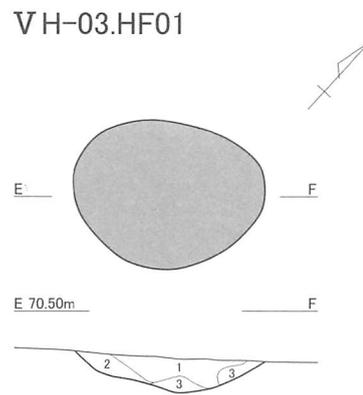


VH-03

- 1 10YR4/1 褐灰色 Ta-c≡Vb
- 2 10YR2/1 黒色 Vb≡Ta-d2L
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ta-d2L-Vb≡焼土
- 4 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L≡Vb

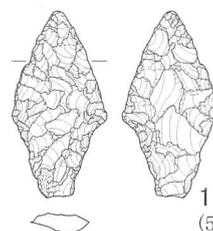
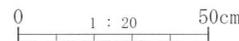


VH-03.HF01



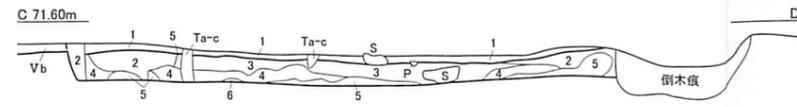
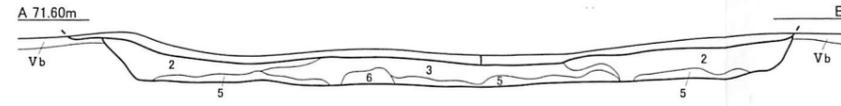
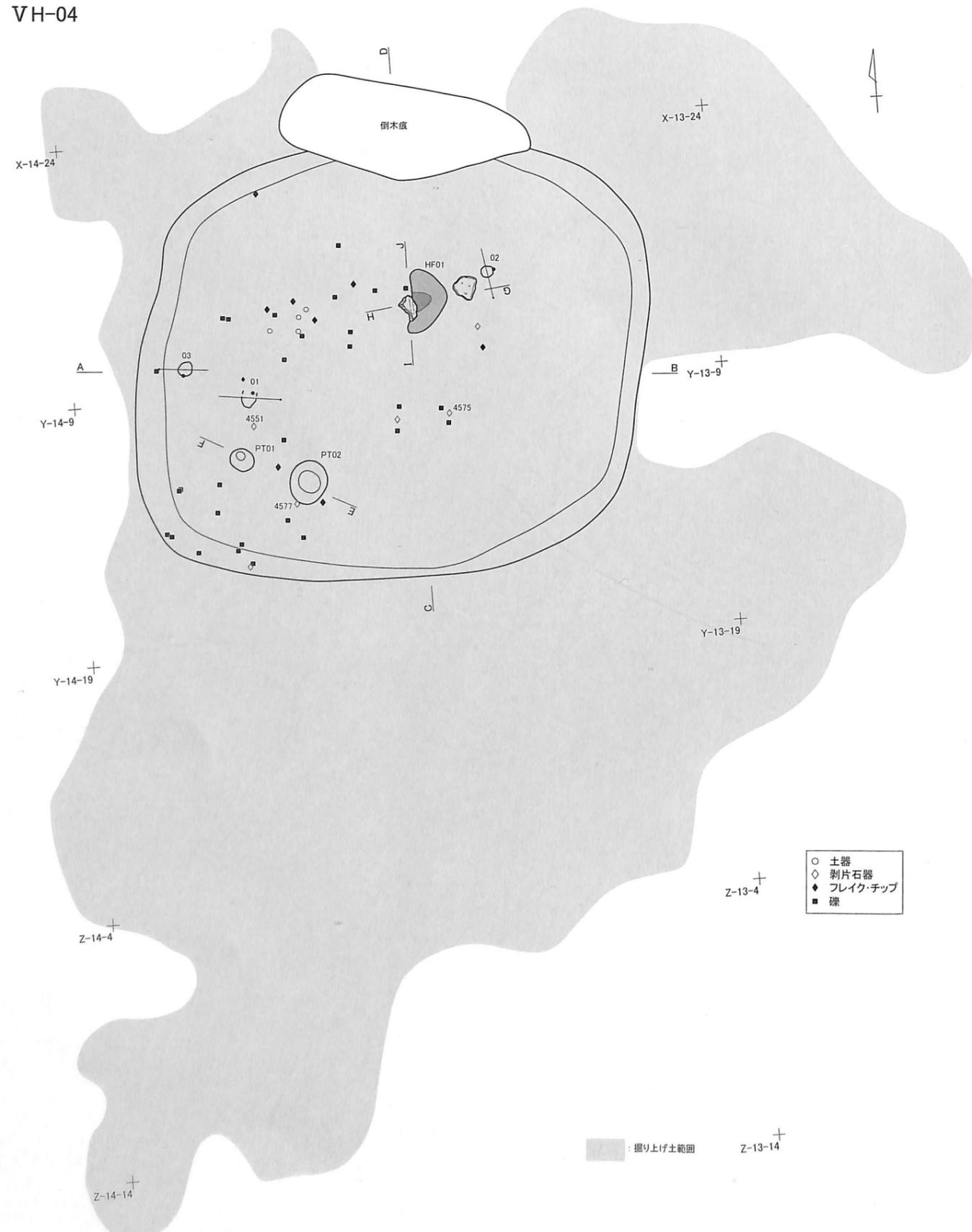
VH-03.HF01

- 1 5YR4/6 赤褐色 焼土≡Vb
- 2 2.5YR4/6 赤褐色 焼土≡V+炭化物
- 3 5YR3/6 暗赤褐色 焼土≡V



図Ⅱ-9 VH-03 付属遺構平面及び断面図・出土石器

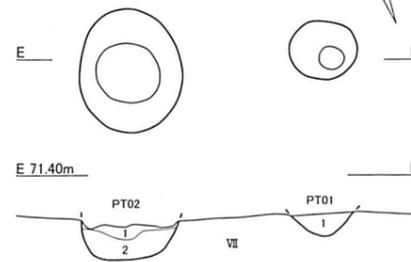
VH-04



VH-04

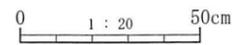
- | | | | |
|---|--------|-------|----------------|
| 1 | 5YR3/1 | 黒褐色 | Vb=Ta-dP |
| 2 | 5YR2/1 | 黒褐色 | Vb=Ta-d1 |
| 3 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Vb+Ta-d1+Ta-d2 |
| 4 | 5YR2/3 | 極暗赤褐色 | Vb-Ta-d1+Ta-d2 |
| 5 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2=Ta-d1 |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2 |

VH-04.PT01・02

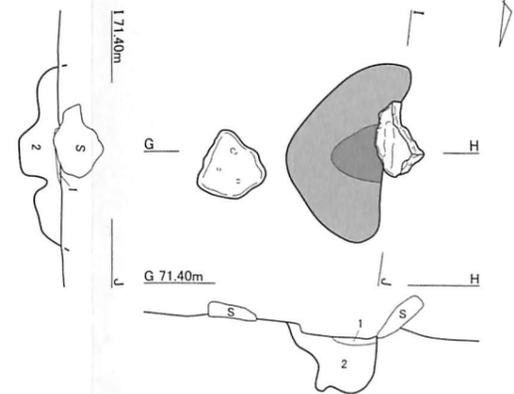


VH-04.PT01・02

- | | | | |
|---|--------|------|----------------|
| 1 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Vb=Ta-d1L |
| 2 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d1+Ta-d2+Vb |

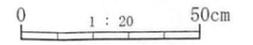


VH-04.HF01

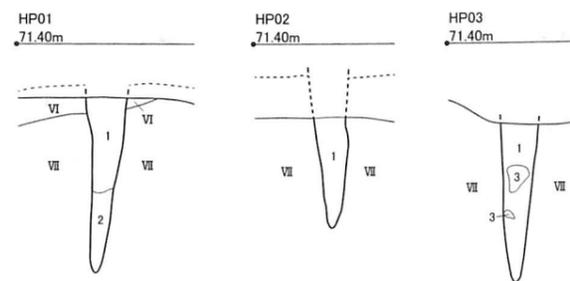


VH-04.HF01

- | | | | |
|---|--------|--------|-------|
| 1 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | 灰-焼土 |
| 2 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Vb-焼土 |

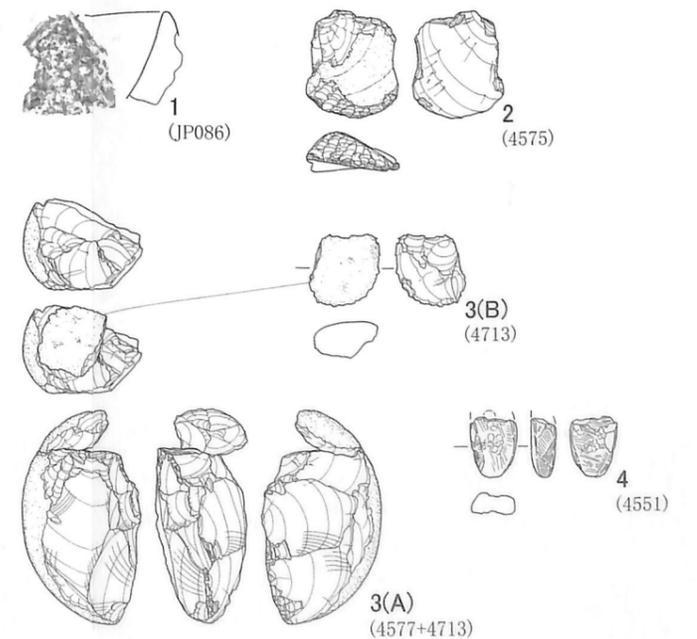
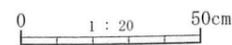


VH-04.HP01 ~ 03



VH-04.HP01~03

- | | | | |
|---|--------|------|----------|
| 1 | 5YR3/1 | 黒褐色 | Vb=Ta-d1 |
| 2 | 5YR2/1 | 黒褐色 | Vb=Ta-d2 |
| 3 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d2=Vb |



図II-10 VH-04 附属遺構平面及び断面図・出土遺物

表II-13 VH-03属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)					付属遺構	備考
					上端		下端		深さ		
					長軸	短軸	長軸	短軸			
II-9	4-4 5-1	AC-07	Vb	N-40°E	159	136	140	126	11	HF01	土器1点、石器2点 FC2点、礫2点

表II-14 VH-03.HF01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	タイプ	平面形	規模(cm)					灰・骨片の有無	備考
							上面		底面		深さ		
							長軸	短軸	長軸	短軸			
II-9	5-2・3	HF01	AC-07	-	地床炉	楕円形	51	40	-	-	7	無	FC2点

表II-15 VH-03出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
II-9-1	50-1	-	5120	ポイント類	B1	3	50.1	25.0	6.0	6.1	Obs.	完形

表II-16 VH-04属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)					付属遺構	備考
					上端		下端		深さ		
					長軸	短軸	長軸	短軸			
II-10	5-4 6-1	X・Y- 13・14	Vb	N-86°W	397	(339)	361	(317)	21	HF01・PT01・02・ HP01~03	土器4点、石器5点 石製品1点、FC13点、礫50点

表II-17 VH-04.HF01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	タイプ	平面形	規模(cm)					灰・骨片の有無	備考
							上面		底面		深さ		
							長軸	短軸	長軸	短軸			
II-10	6-2・3	HF01	X・Y-13・14	-	石組炉	楕円形	50	32	-	-	21	無	FC1点

表II-18 VH-04.PT01・02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)					備考
						上面		底面		深さ	
						長軸	短軸	長軸	短軸		
II-10	6-4	PT01	X・Y-13・14	3	楕円形	19	16	8	6	8	
		PT02		3	楕円形	35	29	17	24	11	

表II-19 VH-04.HP01~03属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	平面形		規模(cm)			傾き(度)	備考
			調査面/坑底面		上端	下端	深さ		
II-10	7-1	HP01	-	-	12	-	(50)	3	
	7-2	HP02	円形/	-	9	-	(30)	0	
	7-3	HP03	円形/	-	11	-	44	1	

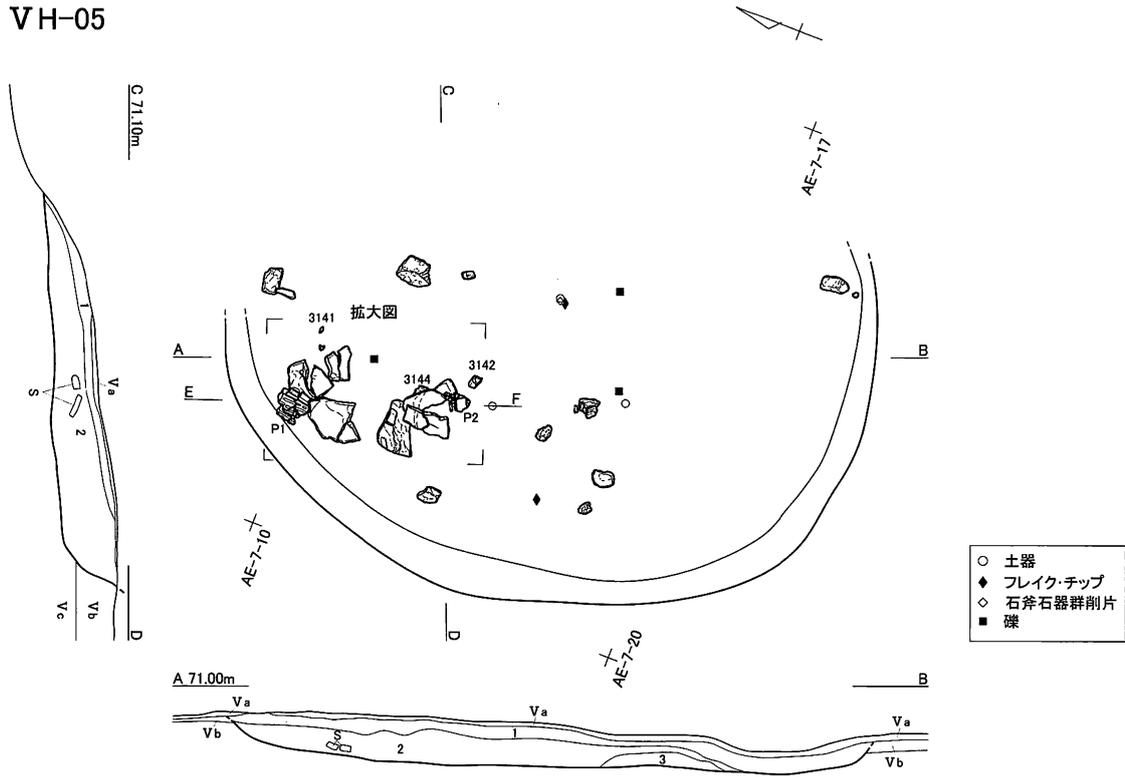
表II-20 VH-04出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
							口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面- 内面		
II-10-1	50-2	JP086	III B1	3	1	突起	山形状突起	剥落-ミガキ	砂粒少量	

表II-21 VH-04出土石器属性表

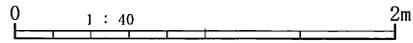
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
II-10-2	50-3	-	4575	ナイフ・スクレイパー類	B2	1	30.2	25.9	9.4	7.4	Obs.	完形
II-10-3	50-4	-	4577	石核	-	2	19.2	20.9	9.1	3.6	Obs.	完形、接(4713)

VH-05



VH-05

- 1 7.5YR2/2 黒褐色 Vb=Ta-d1+Ta-d2
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 Vb+Ta-d1+Ta-d2+炭化物
- 3 7.5YR3/2 黒褐色 Vb=Ta-d2+Ta-d1+炭化物



VH-05 出土遺物拡大図

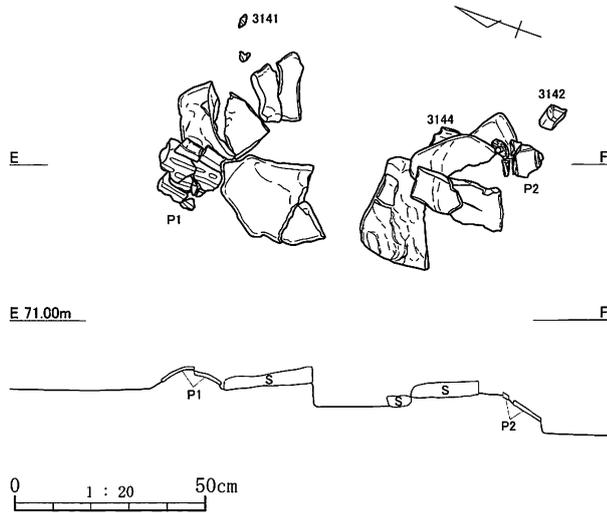
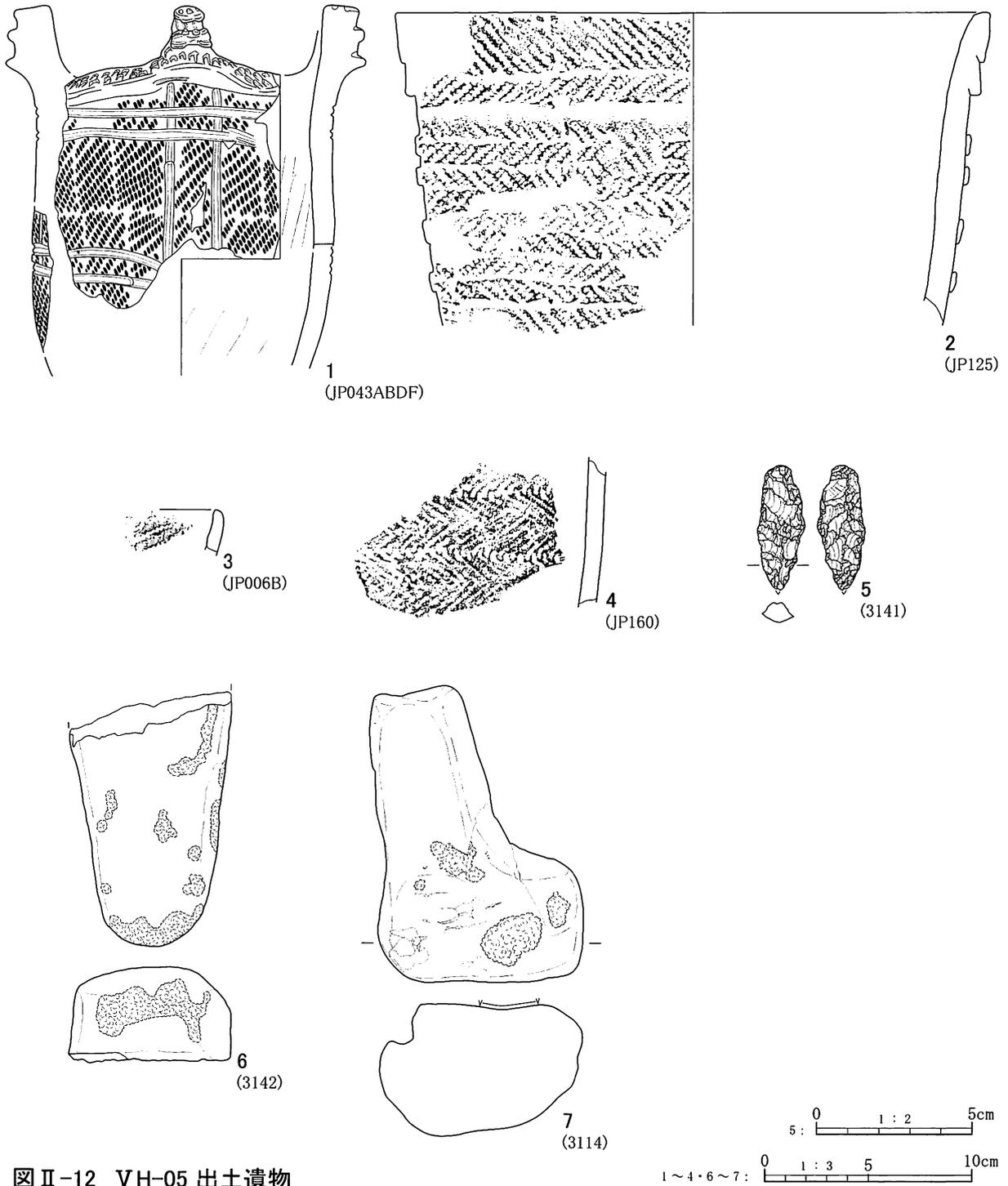


図 II-11 VH-05 平面及び断面図



図II-12 VH-05 出土遺物

表II-22 VH-04出土石製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-10-4	50-5	-	4551	垂飾	-	VH-04	1	(17.2)	13.0	6.7	(2.4)	Ta.	

表Ⅱ-23 VH-04.HF01出土炉石属性表

図版番号	個体名称	遺物番号	グリッド	長軸(mm)	重量(g)	備考
			層位	短軸(mm)	被熱	
			状態	厚さ(mm)	石材	
65-2	-	4916	Y-14	(185.0)	(1,114.0)	
			2	(139.0)	○	
			欠損	35.0	Sa.	
-	-	4917	Y-13	193.2	1,162.0	
			2	192.8	○	
			完形	36.2	Sa.	

表Ⅱ-24 VH-05属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)					付属遺構	備考
					上端		下端		深さ		
					長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-11	7-4・5 8-1	AE-07	Vb	N-25°W	(344)	(176)	(325)	(170)	40	-	土器8点、石器7点 SFC1点、FC4点、礫22点

表Ⅱ-25 VH-05出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考			
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面- 内面					
Ⅱ-12-1	50-6	JP043A	ⅢB1	AC-08	Va	1	口縁部 ~胴部	棒状・突起・ 断面三角形肥厚帯/ 張り出し	貼付文・ 半截竹管に よる刺突文/ 沈線文・ LR斜縄文	砂粒少量				
		JP043B										Vb	2	
		JP043D										VH-05	1	3
		JP043F										AB-07	Vb	1
Ⅱ-12-2	50-7	JP125	IVA1a	VH-05	1	1	口縁部 ~胴部	平縁・外反	ミガキ-LR斜縄文- ミガキ/タガ状貼付帯・ LR/RL斜縄文-ミガキ	砂礫中量				
Ⅱ-12-3	50-8	JP006B	I B4	VH-05	1	1	口縁部	波状口縁・外傾	単軸絡条体第一類	砂粒少量				
Ⅱ-12-4	50-9	JP160	ⅢB1	VH-05	2	1	胴部	外傾	結束第一種羽状縄文	砂粒少量				

表Ⅱ-26 VH-05出土石器属性表

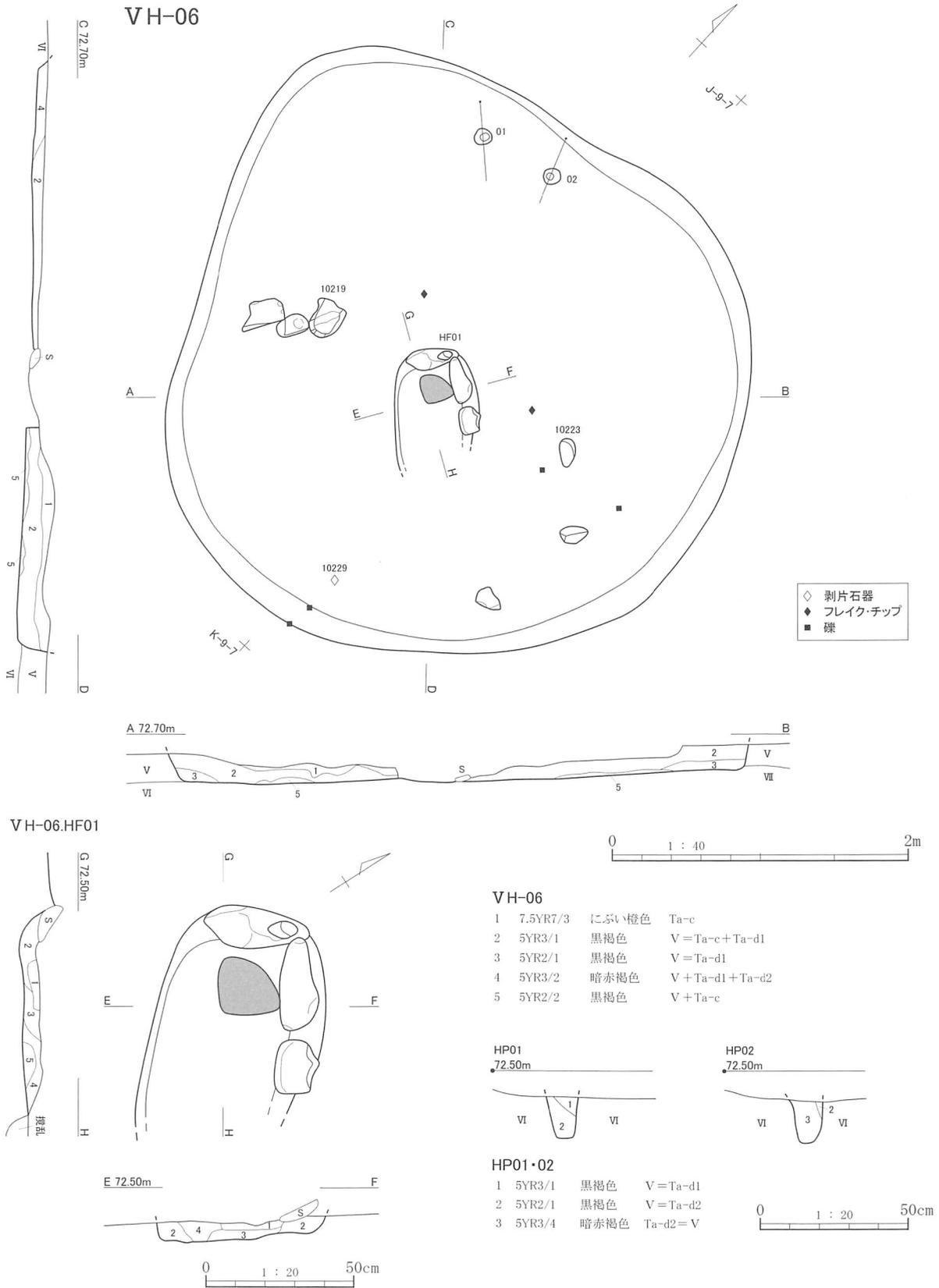
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-12-5	50-10	-	3141	石錐	D	1	40.4	15.1	7.8	4.5	Obs.	完形
Ⅱ-12-6	50-11	-	3142	たたき石	A3	1	(117.8)	78.2	44.0	(535.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-12-7	50-12	-	3114	台石	-	1	147.7	98.5	69.2	1220.0	Sa.	完形

表Ⅱ-27 VH-06属性表

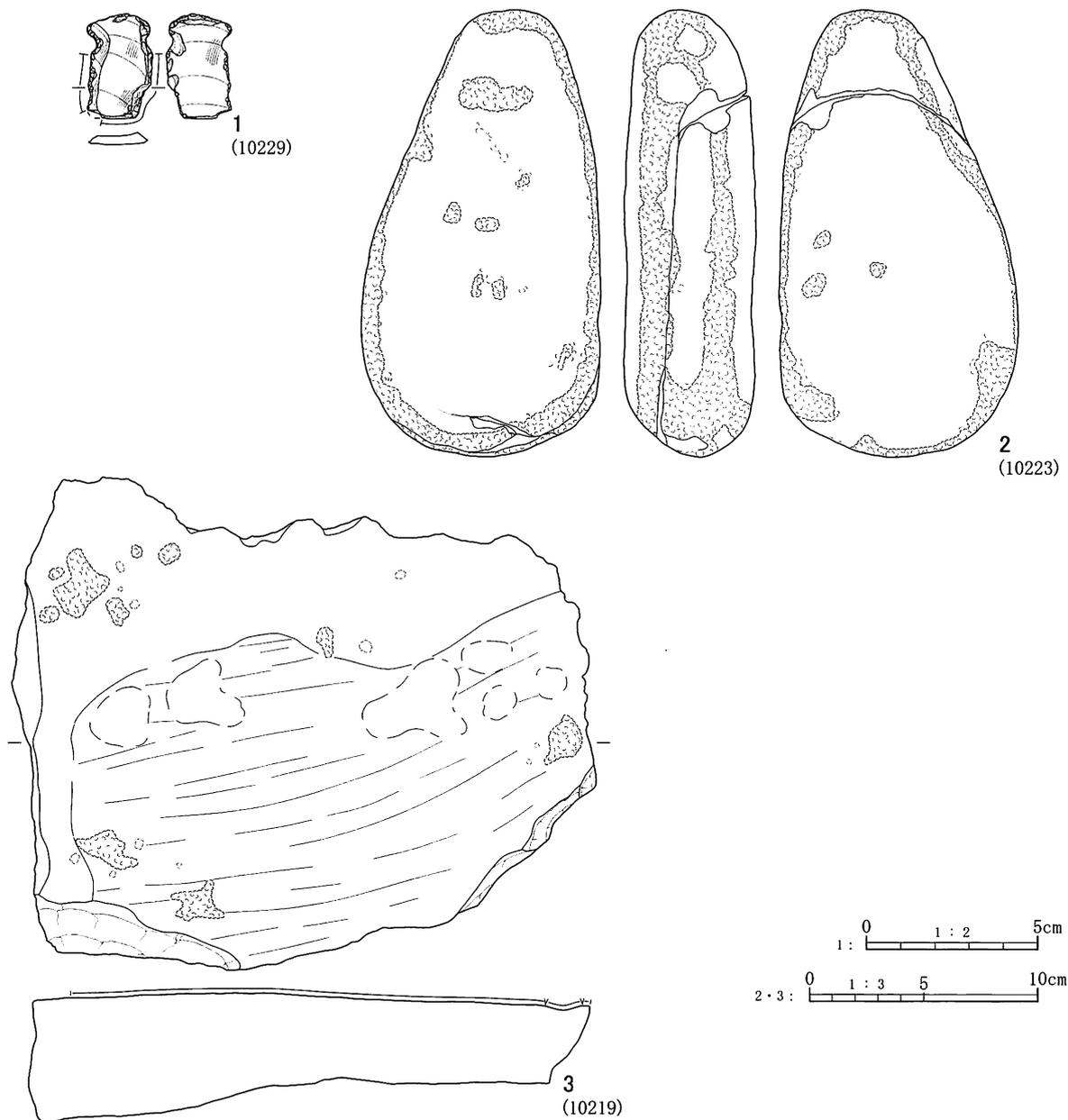
挿図番号	図版番号	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)					付属遺構	備考
					上端		下端		深さ		
					長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-13	8-2 9-1	J・K- 08・09	Vb	N-71°W	433	407	403	379	25	HF01 HP01・02	石器3点、FC16点、礫14点

表Ⅱ-28 VH-06.HF01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	タイプ	平面形	規模(cm)				深さ	灰・骨片 の有無	備考
							上面		底面				
							長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-13	9-2・3	HF01	J・K- 08・09	1	石組炉	不整楕円形	(84)	58	(66)	43	9	無	FC12点



図II-13 VH-06 付属遺構平面及び断面図



図Ⅱ-14 VH-06 出土石器

表Ⅱ-29 VH-06.HP01・02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	平面形	規模(cm)			傾き(度)	備考
			調査面/坑底面	上端	下端	深さ		
Ⅱ-13	9-4	HP01	円形/ -	12	-	(50)	3	
	9-5	HP02	円形/ -	9	-	(30)	0	

表Ⅱ-30 VH-06出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-14-1	51-1	-	10229	ナイフ・スクレイパー類	A1	2	31.1	(18.2)	3.7	(3.2)	Obs.	刃部欠
Ⅱ-14-2	51-2	-	10223	台石	-	2	198.5	104.5	57.6	1,544.0	Sa.	完形
Ⅱ-14-3	51-3	-	10219	石皿	-	1	252.5	211.2	60.0	4,058.0	Sa.	完形

表II-31 VH-06.HF01出土炉石・礫属性表

図版 番号	個体 名称	遺物番号	グリッド	長軸(mm)	重量(g)	備考
			層位	短軸(mm)	被熱	
			状態	厚さ(mm)	石材	
66-1	VS350	10357、10358	J-09	(333.3)	2,344.0	
			3	(165.5)	○	
			欠損	49.3	Sa.	
	-	10356	J-09	335.5	1,950.0	
			3	161.0	○	
			完形	30.5	Sa.	
	-	10355	J-09	187.8	1,476.0	
			3	153.8	○	
			完形	36.1	Sa.	
	-	10220	J-09	317.4	2,678.0	
			1	(187.3)	○	
			欠損	50.2	Sa.	
	-	10221	J-09	236.5	2,118.0	
			2	137.1	○	
			完形	48.0	Sa.	
	-	10218	J-09	(185.3)	1,324.0	
			1	(141.2)	○	
			欠損	54.2	Sa.	

第2節 落とし穴

平成25年の調査により33基、平成26年の調査により12基の計45基を検出した。調査方法は、検出状況を確認・撮影後に半截するか、セクションベルトを残して掘り広げ、土層断面を確認・撮影・実測した。その後残りを掘り上げ完掘した。平面を確認・撮影・実測して終了とした。

形態分類：落とし穴の形態分類は、坑底面の長短比及び杭穴の有無を基準とする『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』（苫埋文 1987）での分類案を基に、長短比数値に若干の変更を加えた『厚幌1遺跡』（厚真町教委 2004）での分類に従い、細分を含め6タイプに分けた。このうちB2型は今回の調査では認められず、5種類の形態のものを見出すに至った。

A型：底面の長短比が8以上で、長さに対して幅が狭い溝状のタイプ

A1型：長軸が2m以上のもの A2型：長軸が2m未満のもの

B型：底面の長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ

B1型：杭穴がないもの B2型：杭穴があるもの

C型：底面の長短比が4未満のもので、楕円形や円形に近いタイプ

C1型：杭穴がないもの C2型：杭穴があるもの

形態別内訳数はA1型26基、A2型5基、B1型10基、C1型1基、C2型3基である。A型は31基、B型は10基、C型は4基でA型の溝状タイプが総数の6割以上を占める。

堆積状態：落とし穴の堆積状況は、基本的に覆土上位に黒色土の自然堆積層(V層)が存在するが、検出面でTa-d2パミスが堆積するものがある。これは落とし穴の埋没過程での周辺遺構の排土あるいは流れ込みを想定できるものである。中～下位には落とし穴の壁面崩落土や流れ込み土が堆積している。

掘り上げ土はTP-39の周囲で検出した。これはVb層中で確認され、Vb・VI層を主体としTa-d2パミスが混じる褐色または暗褐色土である。

分布と配列：配列はTP-10・28・42の単独型とTP-44・45を除き、短軸方向においてTP-41・38・43の列と、これと別の列としてのTP-01～37に分けられる。それぞれ等高線に対し並行・直交する配

列が考えられる。

新旧関係：TP-01(古)とVH-02(新)、TP-14(古)とVSB-16(新)、TP-17(古)とVSB-01(新)、TP-26(古)とVF-13(新)の新旧関係が明らかになった。TP-01はVH-02に切られていることにより、縄文時代中期後葉以前に属すると判断できるものである。さらに堆積状態の項でも述べたように、隣接する落とし穴には検出面でTa-d2パミスが観察されるものがあり、隣接する落とし穴に掘り上げ土を捨てたことも想定でき、それによる新旧があると考えられる。

表Ⅱ-32 落とし穴属性表(1)

挿図番号	図版番号	遺構名	分類	平面形 調査面/ 坑底面	グリッド	調査面 層位	調査面 規模(cm)		坑底面 規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	杭 跡	重 複	調査面長 短比	坑底面長 短比	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸							
Ⅱ-15	10-1・2	TP-01	B1	長楕円形/ 長楕円形	AF・AG -06	VII	235	61	245	32	78	N-22°W	-	有	3.85	7.66	土器2点、FC1点
Ⅱ-15	10-3~5	TP-02	B1	長楕円形/ 長楕円形	AF- 10・11	Vb	283	149	253	33	129	N-30°E	-	無	1.90	7.67	石器3点、FC2点 SFC1点、礫14点
Ⅱ-16	11-1~3	TP-03	A1	長楕円形/ 溝状	AE・AF -07	VI	295	90	257	27	132	N-4°W	-	無	3.28	9.52	土器2点、礫6点
Ⅱ-16	11-4~6	TP-04	B1	長楕円形/ 長楕円形	AE・AF -08	VI	329	105	269	38	130	N-4°E	-	無	3.13	7.08	土器1点、石器3点 FC1点、礫3点
Ⅱ-17	12-1~3	TP-05	B1	長楕円形/ 長楕円形	AG-07	VI	278	138	(113)	27	112	N-7°E	-	無	2.01	4.19	土器4点、石器2点 礫16点
Ⅱ-17	12-4~6	TP-06	A1	長楕円形/ 溝状	AE・AF -07	VI	361	126	286	28	132	N-5°E	-	無	2.87	10.21	
Ⅱ-18	13-1~3	TP-07	A1	長楕円形/ 溝状	AE-11	VI	252	117	200	15	146	N-14°E	-	無	2.15	13.30	石器1点、FC4点 SFC1点、礫5点
Ⅱ-18	13-4・5	TP-08	A2	長楕円形/ 溝状	AD- 12・13	VII	180	101	147	18	122	N-79°E	-	無	1.78	8.17	
Ⅱ-19	14-1・2	TP-09	A1	長楕円形/ 溝状	AF・AG -09	VI	298	116	223	26	142	N-29°E	-	無	2.57	8.58	
Ⅱ-19	14-3~5	TP-10	A1	長楕円形/ 溝状	AH・AI -07	VII	317	97	237	16	134	N-35°W	-	無	3.27	14.81	土器6点、石器1点 FC4点、礫3点
Ⅱ-20	15-1~3	TP-11	A2	長楕円形/ 溝状	AE・AF -09	VII	280	96	198	20	122	N-0°S	-	無	2.92	9.90	
Ⅱ-20	15-4 16-1~3	TP-12	A1	長楕円形/ 溝状	AE・AF -09	VII	343	125	268	22	122	N-4°E	-	無	2.74	12.18	土器1点、石器1点 礫16点
Ⅱ-21	15-4、16-1 17-1・2	TP-13	B1	長楕円形/ 溝状	AE・AF -09	VII	241	124	139	19	157	N-6°E	-	無	1.94	7.32	石器4点、FC1点 礫26点
Ⅱ-22	15-4、16-1 17-3・4	TP-14	A1	長楕円形/ 溝状	AE・AF -09・10	VII	332	119	282	31	128	N-17°E	-	有	2.79	9.10	石器4点、礫16点
Ⅱ-23	17-5~7	TP-15	A1	長楕円形/ 溝状	AE・AF -08	VII	(326)	92	284	15	117	N-16°E	-	無	-	18.93	土器1点
Ⅱ-23	18-1~3	TP-16	A1	長楕円形/ 溝状	AD-12	VI	263	88	217	14	119	N-36°E	-	無	2.99	15.50	石器1点
Ⅱ-24	18-4・5	TP-17	A1	長楕円形/ 溝状	AE-10	VII	318	99	221	22	122	N-23°E	-	無	3.21	10.05	
Ⅱ-24	19-1~3	TP-18	A1	長楕円形/ 溝状	AF・AG -08・09	VII	292	95	232	20	143	N-31°E	-	無	3.07	11.60	
Ⅱ-25	19-4・5	TP-19	B1	長楕円形/ 長楕円形	AG-08	VI	260	92	211	28	128	N-5°E	-	無	2.83	7.54	
Ⅱ-25	20-1~3	TP-20	A1	長楕円形/ 溝状	AD・AE -11	VI	271	93	227	16	114	N-25°E	-	無	2.91	14.19	
Ⅱ-26	20-4~6	TP-21	A1	長楕円形/ 溝状	AD-12・ 13	VI	257	104	210	21	125	N-59°E	-	無	2.47	10.00	石器2点、礫3点
Ⅱ-26	21-1・2	TP-22	A1	長楕円形/ 溝状	AC-12・ 13	VI	323	109	284	30	110	N-72°E	-	無	2.96	9.47	石器1点
Ⅱ-27	21-3・4	TP-23	A1	長楕円形/ 溝状	Z・AA -15	VI	294	75	233	22	92	N-45°E	-	無	3.92	10.59	

表II-32 落とし穴属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	分類	平面形	グリッド	調査 面 層位	調査面 規模(cm)		坑底面 規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	杭 跡	重 複	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	備考
				調査面/ 坑底面			長軸	短軸	長軸	短軸							
II-27	22-1~3	TP-24	A1	長楕円形/ 溝状	AA-15	VI	260	82	205	17	84	N-36°E	-	無	3.17	12.06	
II-28	22-1・4	TP-25	A1	長楕円形/ 溝状	AA- 14・15	VI	278	106	218	13	107	N-45°E	-	無	2.62	16.77	
II-28	23-1~3	TP-26	A1	長楕円形/ 溝状	AA・AB -14	VI	292	109	215	23	120	N-48°E	-	有	2.68	9.35	
II-29	23-4~6	TP-27	A2	長楕円形/ 溝状	AB-14	VI	256	123	155	14	108	N-29°E	-	無	2.08	11.07	
II-29	24-1	TP-28	C1	不整形形/ 隅丸方形	AA- 11・12	VI	97	87	(69)	45	126	N-28°E	-	無	1.11	(1.46)	石器1点、礫1点
II-30	24-2・3	TP-29	A2	長楕円形/ 溝状	AB・AC -14	VII	187	74	137	13	110	N-63°E	-	無	2.53	10.50	
II-30	24-4~6	TP-30	A2	長楕円形/ 溝状	Z・AA -16	VI	185	91	125	10	96	N-28°E	-	無	2.03	12.55	
II-30	25-1・2	TP-31	A1	長楕円形/ 溝状	AC・AD -12・13	VI	267	100	226	18	110	N-56°E	-	無	2.67	12.55	
II-31	25-3~5	TP-32	B1	長楕円形/ 長楕円形	AE・AF -11	VI	171	95	119	16	128	N-15°W	-	無	1.80	7.44	
II-31	26-1~3	TP-33	B1	長楕円形/ 長楕円形	AE・AF -11	VI	160	75	117	17	71	N-5°E	-	無	2.13	6.88	
II-31	26-4~6	TP-34	A1	長楕円形/ 溝状	Z・AA -18	VI	277	106	245	18	120	N-12°E	-	無	2.61	13.60	礫1点
II-32	26-4 27-1・2	TP-35	A1	長楕円形/ 溝状	AA- 17・18	VI	247	115	204	17	90	N-15°E	-	無	2.15	12.00	礫1点
II-32	27-3~5	TP-36	B1	長楕円形/ 長楕円形	Z-18	VI	213	108	152	26	90	N-14°E	-	無	1.97	5.85	
II-33	27- 3・6・7	TP-37	A1	長楕円形/ 溝状	Y-18	VI	289	119	247	21	117	N-74°E	-	無	2.43	11.76	石器1点、礫1点
II-33	カラー3-2 28-1~3	TP-38	C2	円形/ 楕円形	S・T-18	VI	208	167	108	48	121	N-64°E	2	無	1.25	2.25	
II-34	29-1~3	TP-39	B1	長楕円形/ 長楕円形	Y-17・18 Z-18	VI	328	140	279	35	118	N-23°E	-	無	2.34	7.97	
II-35	29-4~6	TP-40	A1	長楕円形/ 溝状	Y・Z-17	VI	293	103	264	17	73	N-16°E	-	無	2.84	15.53	礫1点
II-35	30-1~3	TP-41	C2	楕円形/ 長楕円形	V-18	VI	231	184	139	52	108	N-56°E	4	無	1.26	2.67	
II-36	31-1・2	TP-42	A1	長楕円形/ 溝状	S-16	VI	320	151	257	22	107	N-7°W	-	無	2.12	11.68	
II-36	31-3~5	TP-43	C2	楕円形/ 長楕円形	Q-17・ 18	VI	219	170	119	48	116	N-89°W	2	無	1.29	2.48	
II-37	32-1~4	TP-44	A1	長楕円形/ 溝状	O・P- 17・18	地A	403	132	338	26	106	N-16°W	-	無	3.05	13.00	
II-37	32- 1・5・6	TP-45	A1	長楕円形/ 溝状	O-17・ 18	地A	312	86	263	25	90	N-20°W	-	無	3.63	10.52	

TP-01 (B1型) (図II-15 図版10-1・2、51-4)

位置：AF・AG-06 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：235×61cm 坑底面規模：245×32cm 深さ：78cm 長軸方向：N-22°W

確認・調査：VH-02床面でTP-01が切られて検出された。VH-02がIII群B1類の時期に属するため、これよりも古いことが明らかとなる。底面はやや凹凸を認めるがほぼ平坦で、長軸方向の壁がオーバーハングする。短軸方向では立ち上がりがほぼ垂直になり、上部がわずかに外へ開く。

出土遺物(図II-15-1)：1はIII群B1類に属する胴部の土器片で、複節縄文が施される。

TP-02 (B1型) (図Ⅱ-15 図版 10-3~5)

位置：AF-10・11 検出層位：Vb 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：283×149cm 坑底面規模：253×33cm 深さ：129cm 長軸方向：N-30° E

確認・調査：VP-03の東側、TP-17の西側に位置する。検出面は黒色土からなり、底面は凹凸が認められる。長軸方向の壁は凹凸をもち、短軸方向では底面から外へ開く。

出土遺物：IV群 A2 類土器が出土するが細片のため掲載しなかった。石器はたたき石 2 点、RF1 点が出土している。

TP-03 (A1型) (図Ⅱ-16 図版 11-1~3、51-5)

位置：AE・AF-07 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：295×90cm 坑底面規模：257×27cm 深さ：132cm 長軸方向：N-4° W

確認・調査：TP-06の東側に位置する。検出面は黒色土からなり、底面はほぼ平坦である。長・短軸方向の壁はともにほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物 (図Ⅱ-16-1)：1はⅢ群 B1 類土器で、結束第 1 種羽状縄文が施される。縄文原体の開端部が別の縄で結束される。

TP-04 (B1型) (図Ⅱ-16 図版 11-4~6、51-6・7)

位置：AE・AF-08 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：329×105cm 坑底面規模：269×38cm 深さ：130cm 長軸方向：N-4° E

確認・調査：TP-06とTP-15の間に位置する。この両遺構の検出面ではTa-d2ブロックが検出されるが本遺構では確認できなかった。底面はやや凹凸をもち、壁はやや外傾して立ち上がる。長軸方向の南壁の中端がオーバーハングする。

出土遺物 (図Ⅱ-16-2・3)：2・3はたたき石で、いずれにも窪み面がみられる。Ⅲ群 B1 類土器が 1 点出土しているが細片のため掲載しなかった。

TP-05 (B1型) (図Ⅱ-17 図版 12-1~3、51-8)

位置：AG-07 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：278×138cm 坑底面規模：113×27cm 深さ：112cm 長軸方向：N-7° E

確認・調査：VH-02とTP-01の西側、TP-19の東側に位置する。TP-19の検出面でTa-d2ブロックが検出されるが本遺構では確認できなかった。底面はやや凹凸をもち、長軸方向の壁は外へ開く。

出土遺物 (図Ⅱ-17-1)：1はⅢ群 B1 類の土器で、胴部に縄文が施される。

TP-06 (A1型) (図Ⅱ-17 図版 12-4~6)

位置：AE・AF-07 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：361×126cm 坑底面規模：286×28cm 深さ：132cm 長軸方向：N-5° E

確認・調査：TP-03とTP-04の間に位置する。検出面でTa-d2ブロックが検出される。底面南側がやや窪む。短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-07 (A1型) (図Ⅱ-18 図版 13-1~3)

位置：AE-11 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：252×117cm 坑底面規模：200×15cm 深さ：146cm 長軸方向：N-14° E

確認・調査：VP-03の南側、TP-33の北側に位置する。検出面は黒色土にTa-d2ブロックが混じっ

ている。底面北側が南側よりやや深く掘り込まれている。長・短軸方向の壁はともにほぼ垂直に立ち上がり、短軸方向では上部で外へ開く。

出土遺物：たたき石が出土するが細片のため掲載しなかった。

TP-08 (A2型) (図II-18 図版13-4・5)

位置：AD-12・13 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/溝状

規模：180×101cm 坑底面規模：147×18cm 深さ：122cm 長軸方向：N-79° E

確認・調査：TP-21の南側に位置する。検出面は黒色土にTa-d2ブロックが混じっている。長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、短軸方向では外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-09 (A1型) (図II-19 図版14-1・2)

位置：AF・AG-09 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：298×116cm 坑底面規模：223×26cm 深さ：142cm 長軸方向：N-29° E

確認・調査：TP-18の西側に位置する。検出面は倒木痕によりTa-d2ブロックが堆積していたかどうかは確認できなかった。西壁のほぼ中央も倒木により攪乱を受けている。底面はほぼ平坦になっており、壁はほぼ垂直に立ち上がり上部が外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-10 (A1型) (図II-19 図版14-3～5、51-9～11)

位置：AH・AI-07 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/溝状

規模：317×97cm 坑底面規模：237×16cm 深さ：134cm 長軸方向：N-35° W

確認・調査：VH-01の南西側で、南東に延びる尾根の鞍部に位置する。TP-05とは5mほど離れ独立して検出した。検出面でTa-d2ブロックを確認した。底面は南側に向かいやや傾斜する。長軸方向の壁は外傾して立ち上がり、中ほどでほぼ垂直になる。短軸方向では緩やかに外へ開く。

出土遺物 (図II-19-1～3)：1・2はIII群B1類に属する土器である。1は底部が外へ張り出し、胴部は外傾して立ち上がる。LR斜縄文が器面に施される。2は胴部上半から下半にかけて復元できたもので、器形は外傾し口縁近くでややくびれ、垂直に近い傾きになる。LR縄文が施される。3はポイント類A3類の石鏃で、器面に対し平坦剥離で調整される。茎部が舌状に作出される。

TP-11 (A2型) (図II-20 図版15-1～3)

位置：AE・AF-09 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/溝状

規模：280×96cm 坑底面規模：198×20cm 深さ：122cm 長軸方向：N-0° S

確認・調査：TP-12の東側、TP-15の西側に位置する。検出面でTa-d2ブロックを確認した。底面のほぼ中央はやや窪む。長軸方向の北壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。短軸方向ではほぼ垂直に立ち上がり、上部で外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-12 (A1型) (図II-20 図版15-4、16-1～3、52-1)

位置：AE・AF-09 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/溝状

規模：343×125cm 坑底面規模：268×22cm 深さ：122cm 長軸方向：N-4° E

確認・調査：TP-13の東側、TP-11の西側に位置する。検出面では黒色土にTa-d2ブロックが混じっている。底面の中央部にやや高まりをもつ。長軸方向の南壁はほぼ垂直に立ち上がり、北壁は凹凸

をもち外へ開く。

出土遺物(図Ⅱ-20-1):1はⅢ群B1類の土器で、LR斜縄文と半截竹管による沈線文が施される。
TP-13 (B1型)(図Ⅱ-21 図版15-4、16-1、17-1・2、52-2・3)

位置:AE・AF-09 検出層位:Ⅶ層 平面形:長楕円形/溝状

規模:241×124cm 坑底面規模:139×19cm 深さ:157cm 長軸方向:N-6° E

確認・調査:TP-12とTP-14の間のⅦ層で検出した。検出面では黒色土にTa-d2ブロックが混じっている。底面はほぼ平坦で、長・短軸方向の壁はともに、やや外傾して立ち上がる。

出土遺物(図Ⅱ-21-1・2):1は欠損するたたき石である。たたき痕は両面と両側縁に認められる。2は砥石をたたき石に転用したもので、たたき痕は表面と左側面に認められる。

TP-14 (A1型)(図Ⅱ-22 図版15-4、16-1、17-3・4、52-4・5)

位置:AE・AF-09・10 検出層位:Ⅶ層 平面形:長楕円形/溝状

規模:332×119cm 坑底面規模:282×31cm 深さ:128cm 長軸方向:N-17° E

確認・調査:TP-13とTP-17の間に位置する。検出面ではTa-d2ブロックが堆積する。底面は幾分起伏が認められる。短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。上部でVSB-16が検出されたため、それよりも古い時期のものと考えられる。

出土遺物(図Ⅱ-22-1・2):1は棒状の礫の先端部にたたき痕が認められる。2は2点が接合したもので側面にたたき痕が認められるたたき石である。

TP-15 (A1型)(図Ⅱ-23 図版17-5~7)

位置:AE・AF-08 検出層位:Ⅶ層 平面形:長楕円形/溝状

規模:(326)×92cm 坑底面規模:284×15cm 深さ:117cm 長軸方向:N-16° E

確認・調査:TP-11の東側、TP-04の西側に位置する。北西側は倒木により攪乱を受け検出面を確認できない箇所があるが、南側ではTa-d2ブロックを認めた。

出土遺物:Ⅲ群B1類土器が1点出土しているが細片のため掲載しなかった。

TP-16 (A1型)(図Ⅱ-23 図版18-1~3・52-6)

位置:AD-12 検出層位:Ⅵ層 平面形:長楕円形/溝状

規模:263×88cm 坑底面規模:217×14cm 深さ:119cm 長軸方向:N-36° E

確認・調査:TP-20の北西側に位置する。検出面では黒色土にTa-d2ブロックが混じっている。底面は平坦で、壁は凹凸をもち、やや外傾して立ち上がる。

出土遺物(図Ⅱ-23-1):1は大型の方形板状礫の台石である。両面を使用している。

TP-17 (A1型)(図Ⅱ-24 図版18-4・5)

位置:AE-10 検出層位:Ⅶ層 平面形:長楕円形/溝状

規模:318×99cm 坑底面規模:221×22cm 深さ:122cm 長軸方向:N-23° E

確認・調査:VSB-01の下部で検出される。これによりTP-17はVSB-01より古いものと判断することができる。南側が倒木により攪乱を受けているため検出面での状況は不明である。底面は平坦で、長軸方向の北壁は外傾して立ち上がる。南壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。短軸方向は南壁と同様である。

出土遺物:遺物は出土していない。

TP-18 (A1型) (図II-24 図版19-1~3)

位置：AF・AG-08・09 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/溝状

規模：292×95cm 坑底面規模：232×20cm 深さ：143cm 長軸方向：N-31° E

確認・調査：TP-09の東側に位置する。検出面ではTa-d2ブロックが堆積する。底面は平坦で、長・短軸方向の壁はともにほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-19 (B1型) (図II-25 図版19-4・5)

位置：AG-08 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：260×92cm 坑底面規模：211×28cm 深さ：128cm 長軸方向：N-5° E

確認・調査：VSB-09とVF-09の西側に位置する。検出面ではTa-d2ブロックが堆積する。底面は南側が低いほぼ平坦である。長軸方向の南壁はほぼ垂直に立ち上がった後に凹凸になり、北壁では外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-20 (A1型) (図II-25 図版20-1~3)

位置：AD・AE-11 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：271×93cm 坑底面規模：227×16cm 深さ：114cm 長軸方向：N-25° E

確認・調査：TP-16の南東側とVP-03の北西側に位置する。検出面は黒色土で覆われている。底面はやや南に傾く。長軸方向の南壁はわずかにオーバーハングし、北壁は外傾して立ち上がる。短軸方向では「V」の字状に外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-21 (A1型) (図II-26 図版20-4~6、52-7)

位置：AD-12・13 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：257×104cm 坑底面規模：210×21cm 深さ：125cm 長軸方向：N-59° E

確認・調査：TP-31の南西側に位置する。検出面ではTa-d2ブロックが堆積する。底面の長軸南側がわずかに低く掘り込まれており、斜めになる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部で外へ開く。

出土遺物 (図II-26-1)：1は両刃の磨製石斧で、右側縁に敲打痕を認める。刃部は弧状となる。

TP-22 (A1型) (図II-26 図版21-1・2、52-8)

位置：AC-12・13 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：323×109cm 坑底面規模：284×30cm 深さ：110cm 長軸方向：N-72° E

確認・調査：TP-31の北側に位置する。検出面にTa-d2ブロックが混じっている。底面は平坦である。長軸方向の北壁はオーバーハングし、南壁と短軸方向ではほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物 (図II-26-2)：2はポイント類A4類に属する石鏃である。平面形は五角形で、尖頭部が入念に調整されている。

TP-23 (A1型) (図II-27 図版21-3・4)

位置：Z・AA-15 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：294×75cm 坑底面規模：233×22cm 深さ：92cm 長軸方向：N-45° E

確認・調査：TP-24の北西側に位置する。検出面が黒色土に覆われている。長軸方向の南側の底面

が深くなる。壁は外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-24 (A1型) (図II-27 図版22-1~3)

位置：AA-15 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：260×82cm 坑底面規模：205×17cm 深さ：84cm 長軸方向：N-36° E

確認・調査：TP-23の北西側とTP-25の南東側に位置する。検出面ではTa-d2ブロックが確認できた。長軸方向の底面は南に向かって低くなる。長・短軸方向の壁はともにほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-25 (A1型) (図II-28 図版22-1・4)

位置：AA-14・15 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：278×106cm 坑底面規模：218×13cm 深さ：107cm 長軸方向：N-45° E

確認・調査：TP-24とTP-26の間に位置し、検出面は黒色土に覆われている。底面は平坦である。長軸方向の北壁は斜めに外傾して立ち上がり、南壁は幾分オーバーハングする。短軸方向ではほぼ垂直に立ち上がり、上部が大きく外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-26 (A1型) (図II-28 図版23-1~3)

位置：AA・AB-14 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：292×109cm 坑底面規模：215×23cm 深さ：120cm 長軸方向：N-48° E

確認・調査：VF-13の調査終了後TP-26が下層から確認されたため、本遺構が古い遺構と考えられる。検出面は黒色土に覆われる。底面は幾分凹凸が見られ、壁は外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-27 (A2型) (図II-29 図版23-4~6)

位置：AB-14 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：256×123cm 坑底面規模：155×14cm 深さ：108cm 長軸方向：N-29° E

確認・調査：TP-26の南東側に位置する。検出面でTa-d2ブロックが堆積する。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-28 (C1型) (図II-29 図版24-1、52-9)

位置：AA-11・12 検出層位：VI層 平面形：不整形円形/隅丸方形

規模：97×87cm 坑底面規模：69×45cm 深さ：126cm 長軸方向：N-28° E

確認・調査：東側の湧水面から上ったところに位置する。検出面での平面形は円形に近く、底面は隅丸方形となる。西壁はオーバーハングし、これ以外の壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物 (図II-29-1)：1は大型の石皿で覆土上部から出土する。表面の右側がすり面となる。部分的に欠損が認められる。

TP-29 (A2型) (図II-30 図版24-2・3)

位置：AB・AC-14 検出層位：VII層 平面形：長楕円形/溝状

規模：187×74cm 坑底面規模：137×13cm 深さ：110cm 長軸方向：N-63° E

確認・調査：TP-27の北側に位置する。検出面ではTa-d2ブロックが黒色土に混じっている。底面はほぼ平坦である。長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、短軸方向では「V」の字状に外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-30 (A2型) (図II-30 図版24-4~6)

位置：Z・AA-16 **検出層位：**VI層 **平面形：**長楕円形/溝状

規模：185×91cm **坑底面規模：**125×10cm **深さ：**96cm **長軸方向：**N-28° E

確認・調査：TP-23とTP-35間に位置する。検出面は黒色土にTa-d2ブロックが混じっている。底面はほぼ平坦である。長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、短軸方向では立ち上がり上部が外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-31 (A1型) (図II-30 図版25-1・2)

位置：AC・AD-12・13 **検出層位：**VI層 **平面形：**長楕円形/溝状

規模：267×100cm **坑底面規模：**226×18cm **深さ：**110cm **長軸方向：**N-56° E

確認・調査：TP-21の北東側、TP-22の南側に位置する。検出面にTa-d2ブロックが認められる。底面はほぼ平坦である。長軸方向の北壁はほぼ垂直に立ち上った後に外へ開き、南壁はややオーバーハングする。短軸方向では「V」の字状に外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-32 (B1型) (図II-31 図版25-3~5)

位置：AE・AF-11 **検出層位：**VI層 **平面形：**長楕円形/長楕円形

規模：171×95cm **坑底面規模：**119×16cm **深さ：**128cm **長軸方向：**N-15° W

確認・調査：TP-33の東に位置する。検出面ではTa-d2ブロックがやや混じる。底面はやや窪みを持ち、長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり、短軸方向では「V」の字状に外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-33 (B1型) (図II-31 図版26-1~3)

位置：AE・AF-11 **検出層位：**VI層 **平面形：**長楕円形/長楕円形

規模：160×75cm **坑底面規模：**117×17cm **深さ：**71cm **長軸方向：**N-5° E

確認・調査：TP-32の西側に位置する。検出面でTa-d1ブロックが認められる。底面は平坦で、壁は長・短軸方向ともに外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-34 (A1型) (図II-31 図版26-4~6)

位置：Z・AA-18 **検出層位：**VI層 **平面形：**長楕円形/溝状

規模：277×106cm **坑底面規模：**245×18cm **深さ：**120cm **長軸方向：**N-12° E

確認・調査：調査区の西際に位置する。検出面は黒色土に覆われている。底面は平坦で、壁は長軸方向の北側が外へ開き、南側はオーバーハングする。短軸方向ではほぼ垂直に立ち上がり、上部で外へ開く。

出土遺物：礫が1点出土する。

TP-35 (A1型) (図II-32 図版26-4、27-1・2)

位置：AA-17・18 **検出層位：**VI層 **平面形：**長楕円形/溝状

規模：247×115cm 坑底面規模：204×17cm 深さ：90cm 長軸方向：N-15° E

確認・調査：TP-34の東側に位置する。検出面では黒色土にわずかなTa-d2ブロックが混じる。底面は平坦で、長軸方向の壁はやや垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。短軸方向では「V」の字状に外へ開く。

出土遺物：礫が1点出土する。

TP-36 (B1型) (図II-32 図版27-3~5)

位置：Z-18 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：213×108cm 坑底面規模：152×26cm 深さ：90cm 長軸方向：N-14° E

確認・調査：TP-39の南西側に位置する。検出面は黒色土に覆われる。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-37 (A1型) (図II-33 図版27-3・6・7)

位置：Y-18 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：289×119cm 坑底面規模：247×21cm 深さ：117cm 長軸方向：N-74° E

確認・調査：TP-39の北西側に位置する。検出面ではTa-d2ブロックを確認した。底面の南側がわずかに窪むがほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部が外へ開く。

出土遺物：礫と剥片石器の破片各1点が出土する。

TP-38 (C2型) (図II-33 カラー3-2 図版28-1~5)

位置：S・T-18 検出層位：VI層 平面形：円形/楕円形

規模：208×167cm 坑底面規模：108×48cm 深さ：121cm 長軸方向：N-64° E

確認・調査：TP-38は調査区の西側等高線に並行しており、検出面では浅黄色の地すべり堆積層Bに覆われている。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。底面から杭穴と思われる小ピットが2カ所検出される。KP01は深さ34cm、KP02は深さ33cmである。杭穴の周囲はグライ化する。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-39 (B1型) (図II-34 図版29-1~3)

位置：Y-17・18、Z-18 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/長楕円形

規模：328×140cm 坑底面規模：279×35cm 深さ：118cm 長軸方向：N-23° E

確認・調査：TP-36の北東側、TP-40の西側に位置する。検出面の南半分及び周囲から掘り上げ土が確認される。底面は平坦で、長軸方向の南壁はオーバーハングし、北壁は外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-40 (A1型) (図II-35 図版29-4~6)

位置：Y・Z-17 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：293×103cm 坑底面規模：264×17cm 深さ：73cm 長軸方向：N-16° E

確認・調査：TP-39の東側に位置する。底面は平坦で、長軸方向の南壁はオーバーハングし、北壁はほぼ垂直に立ち上がり外傾する。短軸方向では外傾して立ち上がる。

出土遺物：礫1点が出土する。

TP-41 (C2型) (図II-35 図版30-1~5)

位置：V-18 検出層位：VI層 平面形：楕円形/長楕円形

規模：231×184cm 坑底面規模：139×52cm 深さ：108cm 長軸方向：N-56° E

確認・調査：TP-41 は調査区の西側等高線に並行しており、検出面では浅黄色の地すべり堆積層 B に覆われている。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。底面から杭穴と思われる小ピットが 4 ヲ所検出される。KP01 は深さ 18cm、KP02 は深さ 20cm、KP03 は深さ 20cm、KP04 は深さ 17cm である。杭穴の周囲はグライ化する。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-42 (A1 型) (図II-36 図版 31-1・2)

位置：S-16 検出層位：VI層 平面形：長楕円形/溝状

規模：320×151cm 坑底面規模：257×22cm 深さ：107cm 長軸方向：N-7° W

確認・調査：検出面で Ta-d2 ブロックを確認した。底面は平坦で、長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がり上部が外へ開く。短軸も同様に開口部が大きく開く。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-43 (C2 型) (図II-36 図版 31-3~7)

位置：Q-17・18 検出層位：VI層 平面形：楕円形/長楕円形

規模：219×170cm 坑底面規模：119×48cm 深さ：116cm 長軸方向：N-89° W

確認・調査：調査区の西側等高線に並行しており、検出面では浅黄色の地すべり堆積層 B に覆われている。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。底面から杭穴と思われる小ピットが 2 ヲ所検出される。KP01 は深さ 37cm、KP02 は深さ 35cm である。杭穴の周囲はグライ化する。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-44 (A1 型) (図II-37 カラー3-1 図版 32-1~4)

位置：O・P-17・18 検出層位：地すべり堆積層 A 平面形：長楕円形/溝状

規模：403×132cm 坑底面規模：338×26cm 深さ：106cm 長軸方向：N-16° W

確認・調査：重機でVI層検出作業中に黒色土と地すべり堆積層 B 最下部の浅黄色シルトに覆われて検出された。覆土には浅黄色の凝灰岩が混じる。これは地すべり堆積層 B 下の地すべり堆積層 A が崩落して堆積したものと考えられる。底面は平坦で、長軸方向の北壁は外傾して立ち上がり、南壁はほぼ垂直となる。

出土遺物：遺物は出土していない。

TP-45 (A1 型) (図II-37 カラー3-1 図版 32-1・5・6)

位置：O-17・18 検出層位：地すべり堆積層 A 平面形：長楕円形/溝状

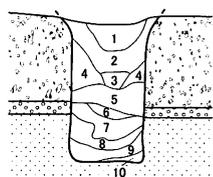
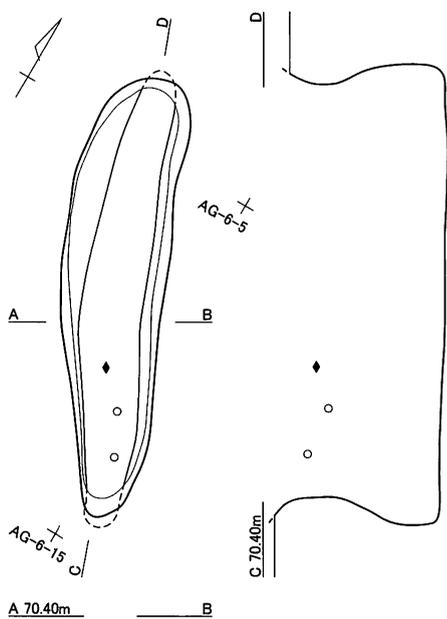
規模：312×86cm 坑底面規模：263×25cm 深さ：90cm 長軸方向：N-20° W

確認・調査：検出面では地すべり堆積層 B が検出面に見られず覆土中に崩落して堆積しており、恐らく地すべり堆積層 A・B を切って構築されていると思われる。地すべり堆積層 B を介して、TP-44 と新旧がうかがえる。底面は平坦で長・短軸方向の壁がほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

(長谷川)

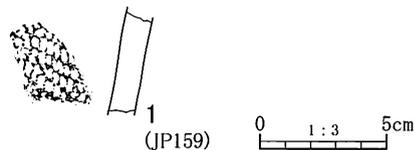
TP-01



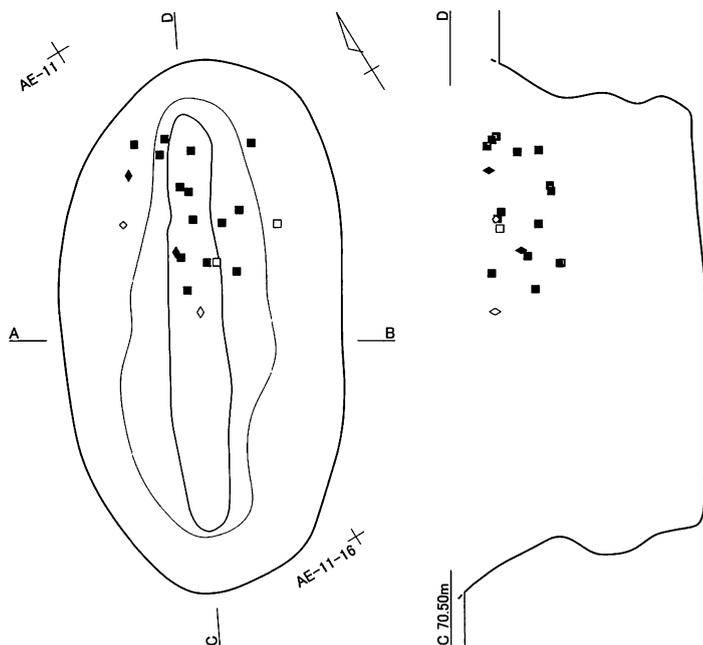
- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- ◇ 石斧石器群削片
- 礫

TP-01

- | | | | |
|----|----------|--------|----------------|
| 1 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Vb≡Ta-d2P(φ5↓) |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V≡Ta-d2L |
| 3 | 7.5YR4/3 | 褐色 | VI≡Ta-d2P+V |
| 4 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | VII≡Vb |
| 5 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | Ta-d2P(φ5↓均一) |
| 6 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d2P≡Vb |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-d1S |
| 8 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | Ta-d2P |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2P≡Ta-d1S |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-d2P=V |

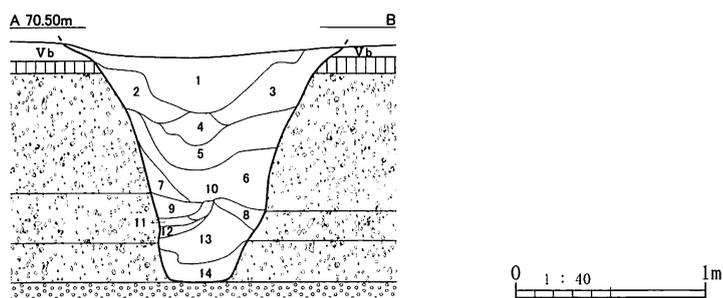


TP-02



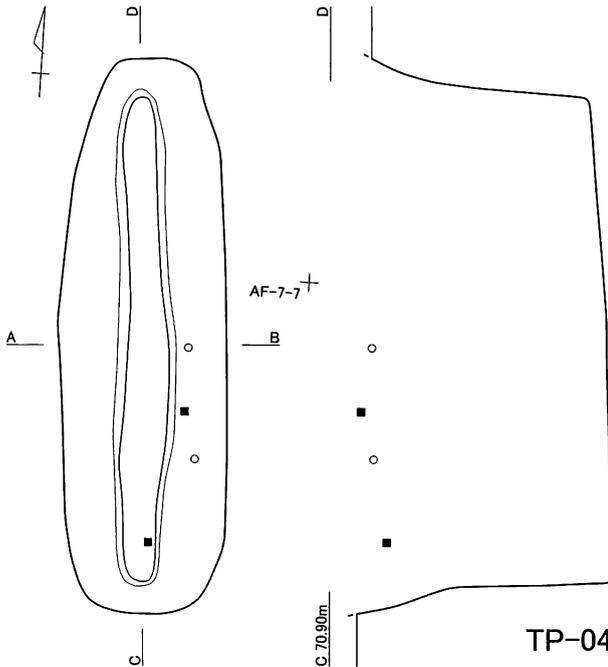
TP-02

- | | | | |
|----|----------|--------|---------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb≡Ta-d2L |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-d2L(φ10↓)=Vb |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VII-Vb |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb≡Ta-d2P |
| 5 | 7.5YR4/6 | 褐色 | IV=V(φ10↓) |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P≡Ta-d1L |
| 7 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-d2L=Ta-d2P |
| 8 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-d2L |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-d1S=Ta-d2P(φ10↓) |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色 | VII≡Ta-d1S |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | VII≡Ta-d1S |
| 12 | 10YR4/4 | 褐色 | VII≡Ta-d2P |
| 13 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V=Ta-d1S(縞状) |
| 14 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | VII≡Ta-d1S |



図Ⅱ-15 TP-01・02 平面及び断面図・出土土器

TP-03



TP-03

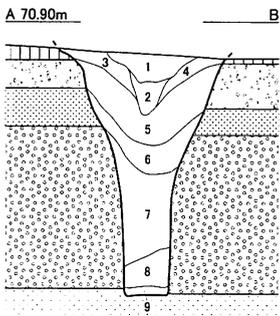
- | | | | |
|---|----------|--------|-------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb=Ta-d2P |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb-Ta-d2P |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb=Ta-d2P |
| 4 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Vb≡Ta-d2P |
| 5 | 10YR5/6 | 黄褐色 | VII=Ta-d2P(φ10↓) |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-d1S(φ3↓) |
| 7 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d2P |
| 8 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | VII=Ta-d2L+Ta-d1S |
| 9 | 10YR4/6 | 褐色 | V=Ta-d2L |



1 (JP158)

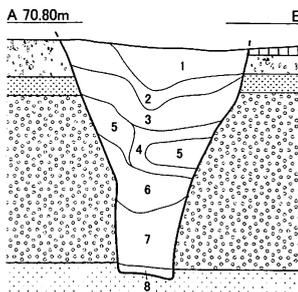
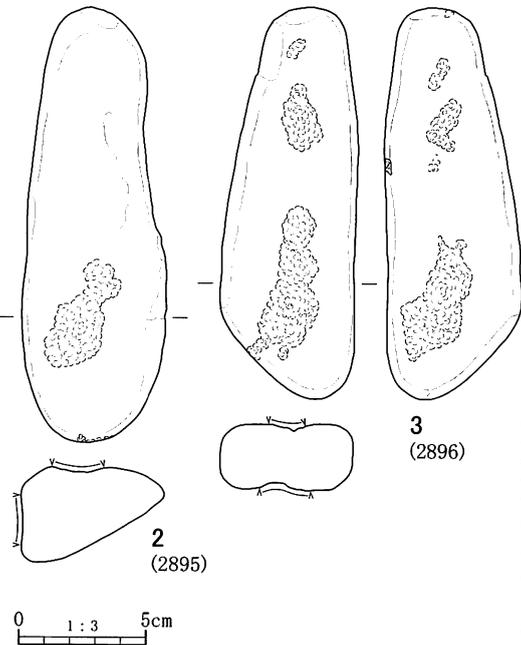
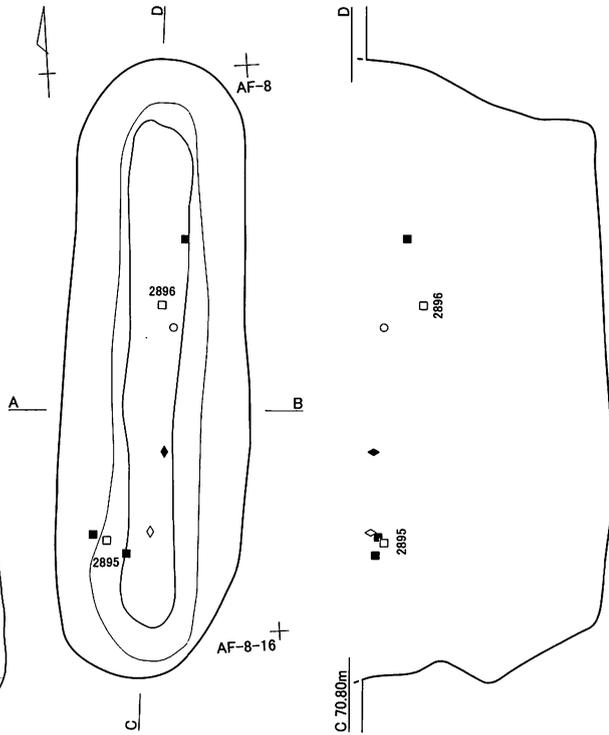
0 1:3 5cm

TP-04



- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫

0 1:40 1m

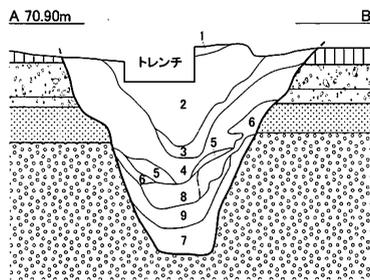
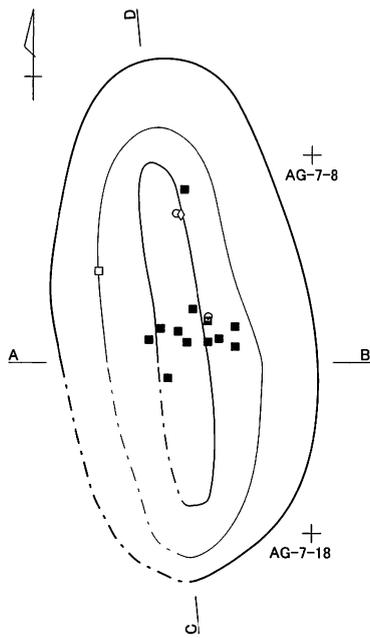


TP-04

- | | | | |
|---|----------|--------|---------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb≡Ta-d2L |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ta-d2P |
| 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | VI=Ta-d2P |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-d1S=Ta-d2P(φ30↓) |
| 5 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d2P≡Ta-d1S |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d1S |
| 7 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2P=Vb |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色 | V=Ta-d2L |

図II-16 TP-03・04 平面及び断面図・出土遺物

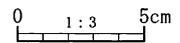
TP-05



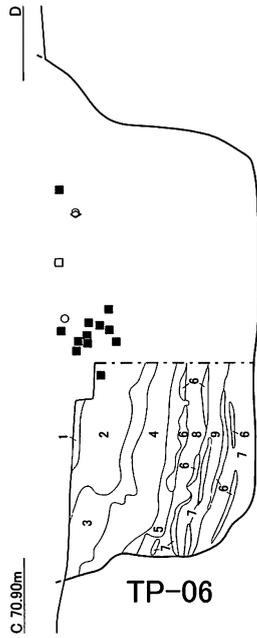
- 土器
- ◇ 剥片石器
- 礫石器
- 礫

TP-05

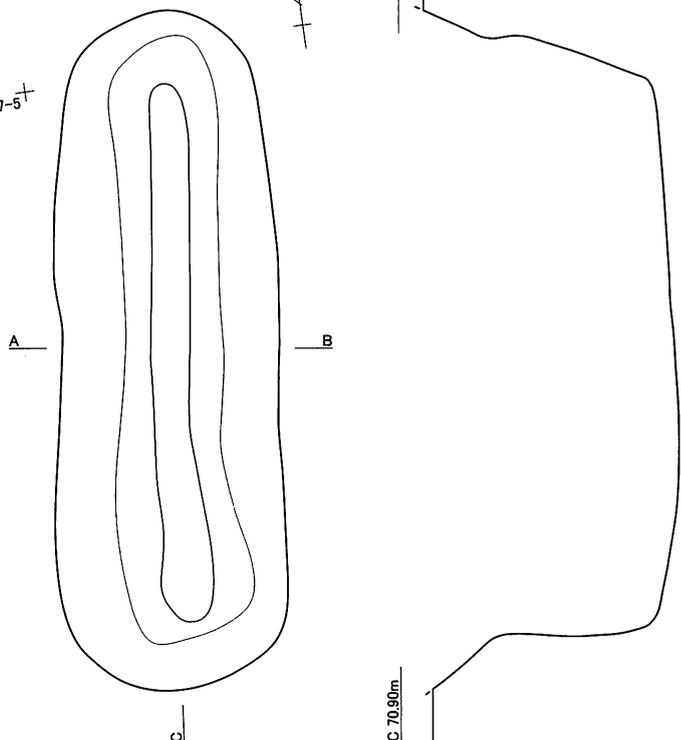
- | | | | |
|---|----------|--------|----------------------|
| 1 | 7.5YR2/1 | 黒色 | Vb=Ta-d2P |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V+Ta-d2P=Ta-d1S |
| 3 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d2P=V+Ta-d1S |
| 4 | 2.5YR4/6 | 赤褐色 | VII |
| 5 | 7.5YR4/6 | 褐色 | V-Ta-d1S |
| 6 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 7 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-d2P |
| 8 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d1S+Ta-d2P+Ta-d1L |
| 9 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P-Ta-d1S |



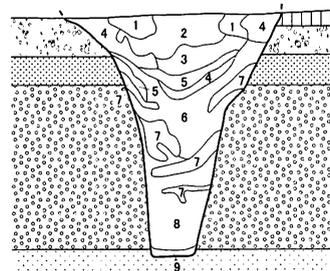
TP-06



AF-7-5+



A 70.90m B

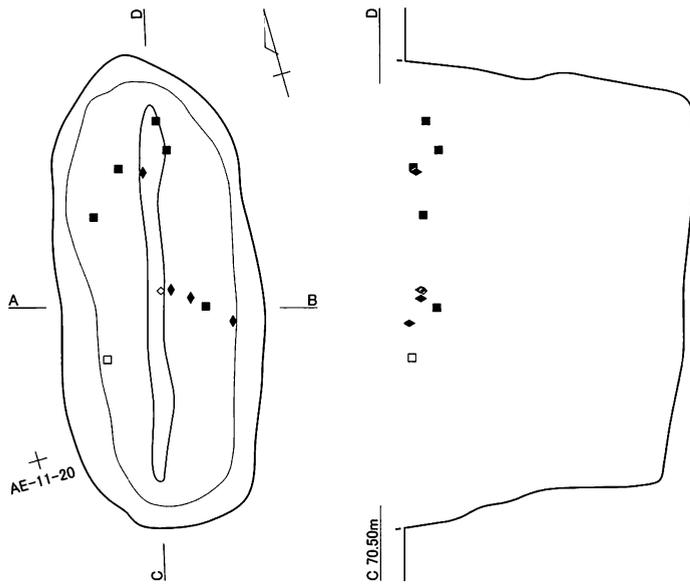


TP-06

- | | | | |
|---|----------|-------|-----------------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V=Ta-d1S+Ta-d2P |
| 2 | 2.5YR4/6 | 赤褐色 | Ta-d2P |
| 3 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Ta-d1S=Ta-d2P |
| 4 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d2P |
| 5 | 5YR2/4 | 極暗赤褐色 | Ta-d2P+V |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | VII-Ta-d1S |
| 7 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 8 | 2.5YR5/8 | 明赤褐色 | Ta-d2P=Ta-d1S |
| 9 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Vb+Ta-d2L |

図Ⅱ-17 TP-05・06 平面及び断面図・出土土器

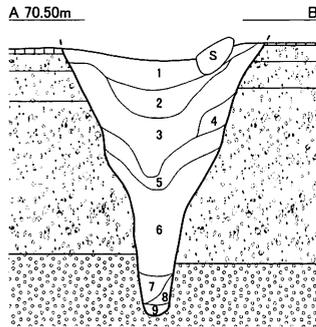
TP-07



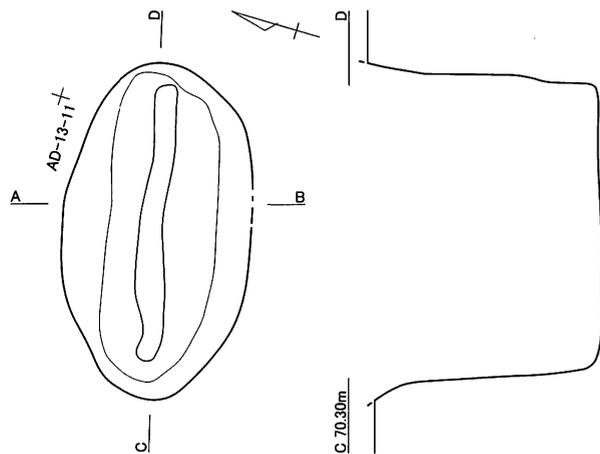
TP-07

- | | | | |
|---|----------|--------|--------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ta-d2L = V(φ 30 ↓) |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ta-d2L = V(φ 50 ↓) |
| 3 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d1L = V(φ 20 ↓) |
| 4 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VII = V |
| 5 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | VII = Ta-d1S |
| 6 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S = Ta-d1L |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-d1S |
| 8 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Ta-d1S = Ta-d2P |
| 9 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S |

- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- ◇ 石斧石器群削片
- 礫



TP-08



TP-08

- | | | | |
|----|----------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-d2P(φ 5 ↓) ≡ 地A |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb - Ta-d2P |
| 3 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | VII = Vb |
| 4 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | Ta-d1L - 地A = Ta-d2P(φ 30 ↓) |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 6 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | Ta-d1L = Ta-d2P |
| 7 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ta-d1S = Ta-d2P |
| 8 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d2L = Ta-d1S |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V = Ta-d2P = Ta-d2L |
| 10 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d2P = V |
| 11 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-d2P - V |
| 12 | 10YR6/4 | にぶい黄橙色 | Ta-d2P = V |
| 13 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S |
| 14 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ta-d1S = Ta-d2P |

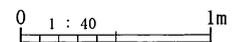
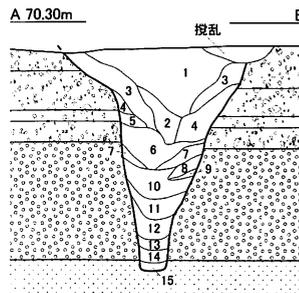
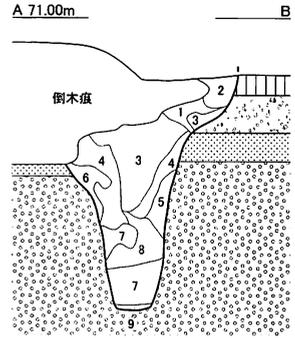
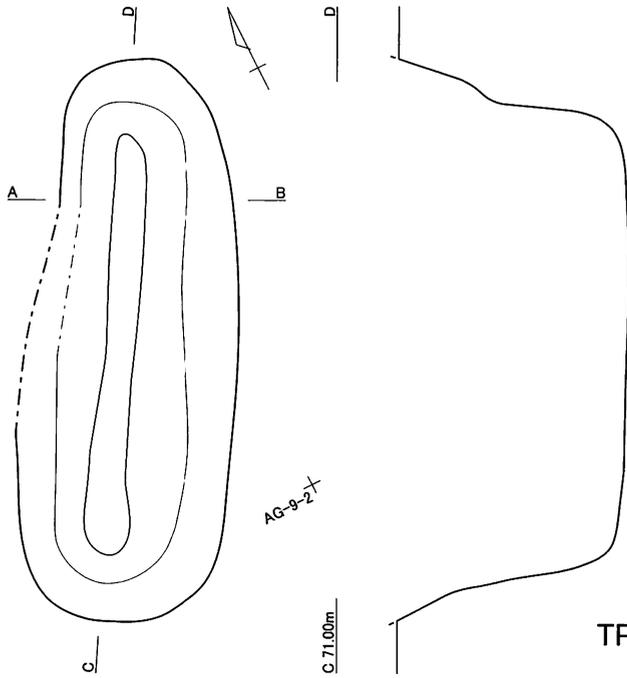


図 II-18 TP-07・08 平面及び断面図

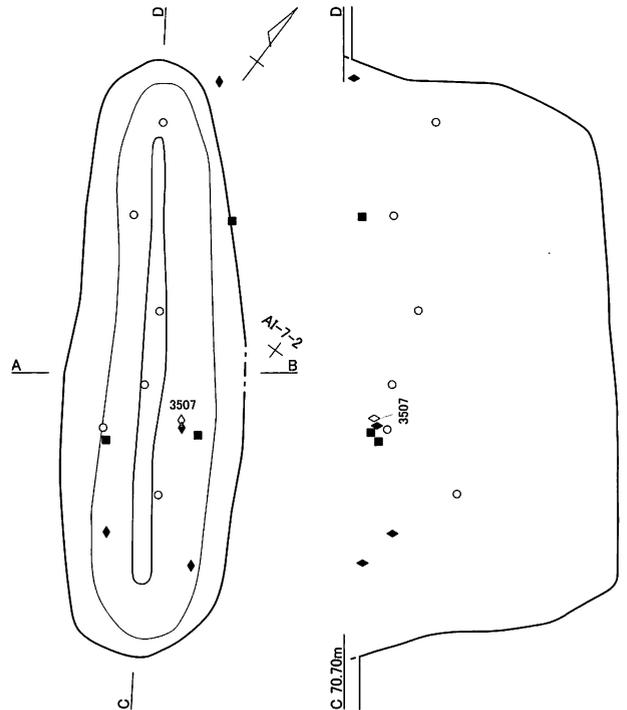
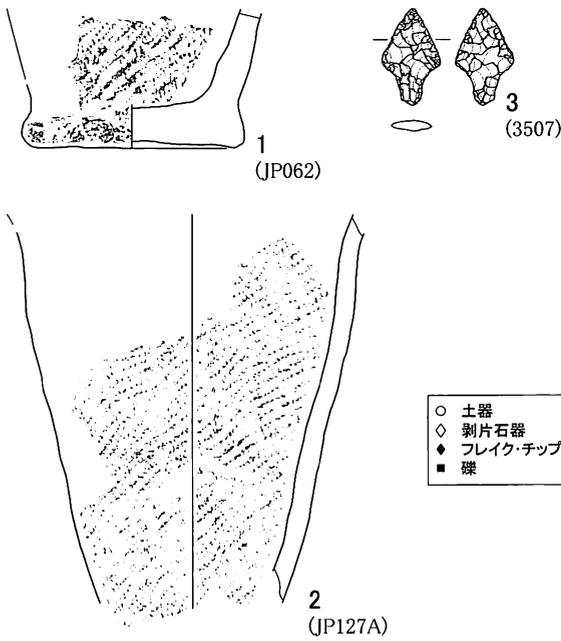
TP-09



TP-09

- | | | | |
|---|----------|--------|-------------------------|
| 1 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Vb = Ta-d2L |
| 2 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2L ≡ 炭化物 |
| 3 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P |
| 4 | 5YR5/1 | 褐灰色 | Ta-d1S - Ta-d2P(縞状) |
| 5 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-d2L ≡ Ta-d1S |
| 6 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-d2P(φ 10 ↓) |
| 7 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P(φ 20 ↓) |
| 8 | 5YR5/1 | 褐灰色 | Ta-d1S = Ta-d2P(φ 20 ↓) |
| 9 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d2L = Ta-d1S |

TP-10



- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫

TP-10

- | | | | |
|----|----------|--------|---------------------|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | V + VI ≡ Ta-d2P |
| 2 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-d1S + Ta-d2L |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | VI ≡ Ta-d2P |
| 4 | 7.5YR4/6 | 褐色 | VII |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | V ≡ VII |
| 7 | 10YR4/1 | 褐灰色 | V = Ta-d2P |
| 8 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 9 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-d2P |
| 10 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ta-d2L - V - Ta-d1S |
| 11 | 10YR2/3 | 黒褐色 | V = Ta-d2P |

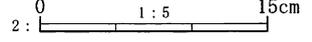
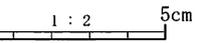
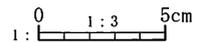
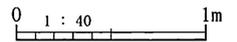
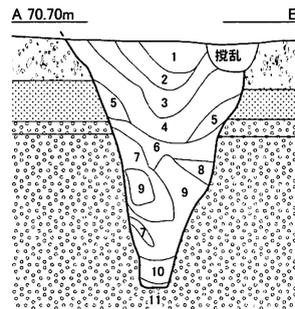
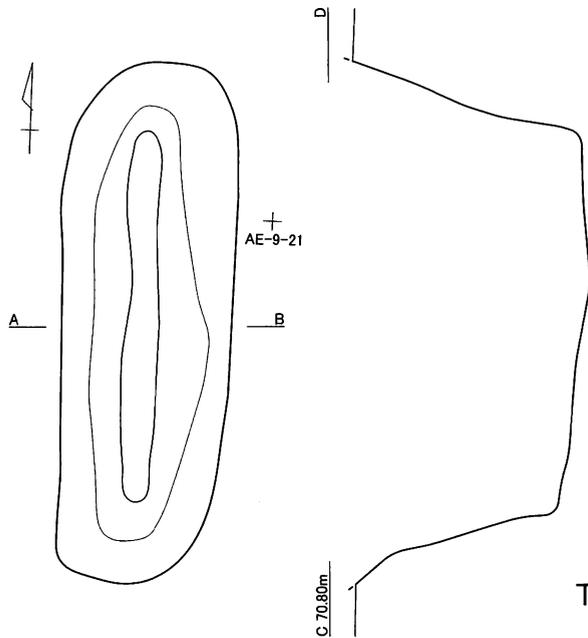


図 II-19 TP-09・10 平面及び断面図・出土遺物

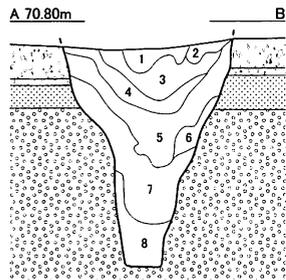
TP-11



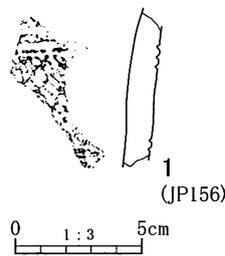
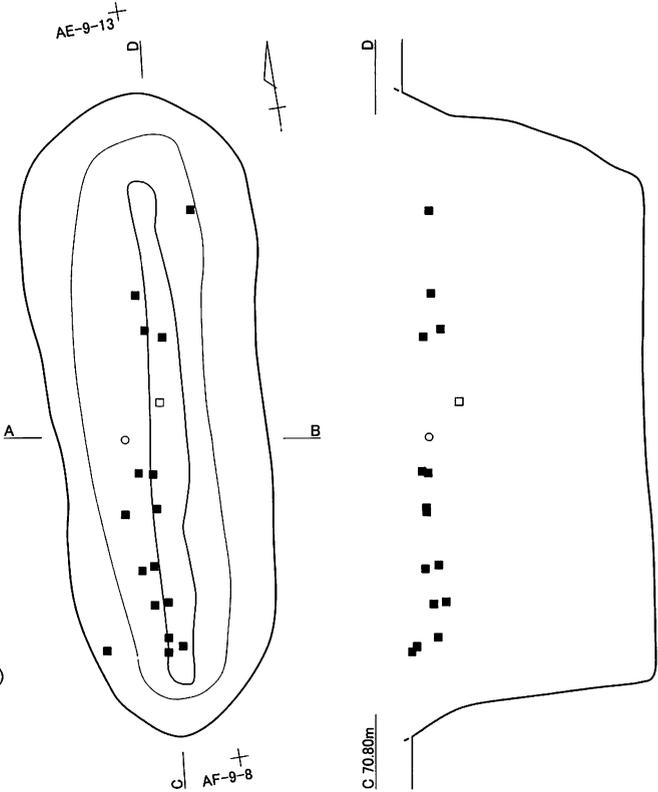
TP-11

- | | | | |
|---|----------|--------|-------------------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Vb-Ta-d2P+炭化物 |
| 2 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | VII=Vb |
| 3 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | VII=V |
| 4 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | VII=Ta-d1L+Ta-d1S |
| 5 | 5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 6 | 5YR5/1 | 褐灰色 | Ta-d1S=Ta-d2L(縞状) |
| 7 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P=Ta-d1S |
| 8 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-d2P≡Ta-d1S |

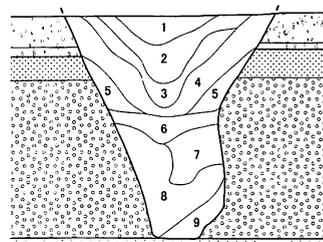
- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫



TP-12



A 70.80m B



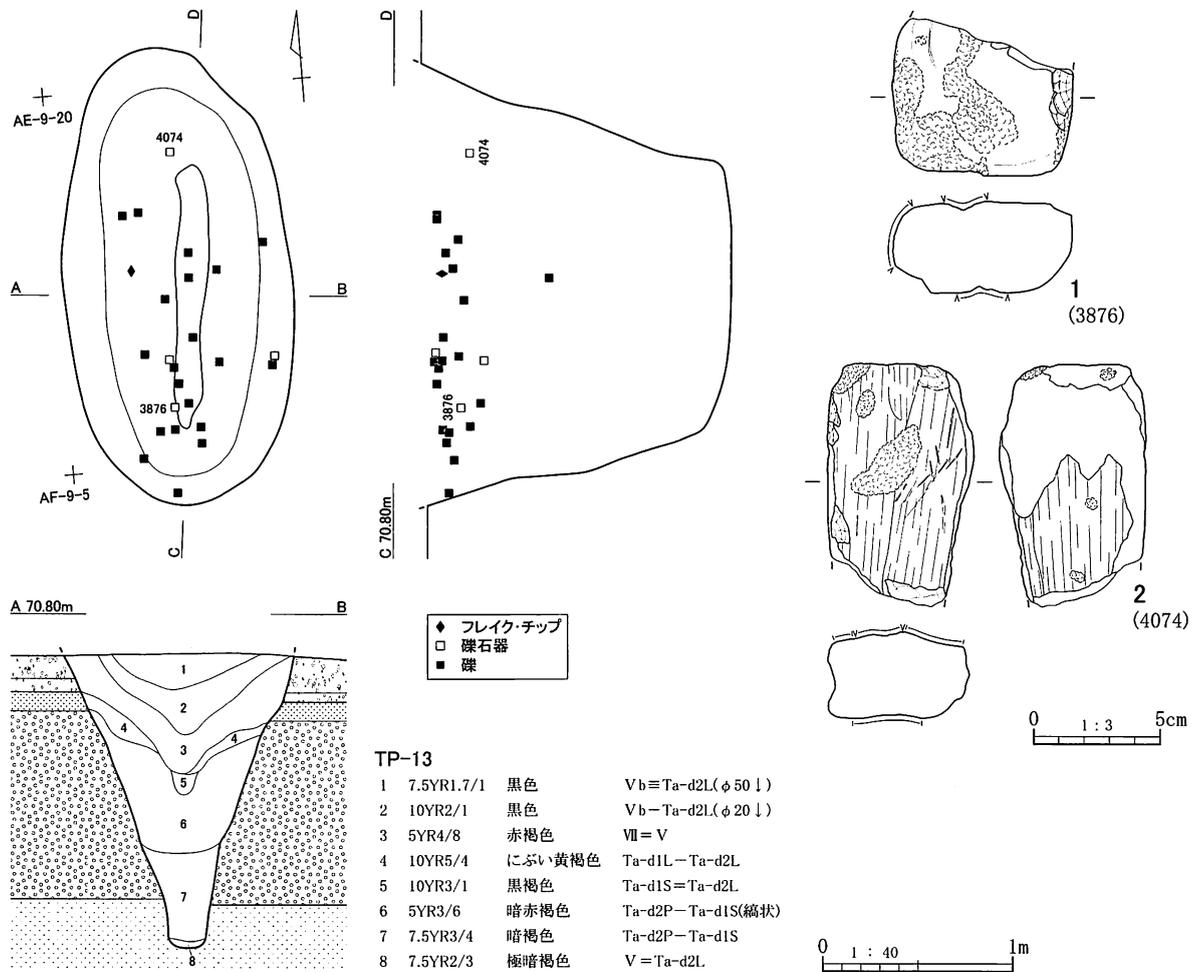
TP-12

- | | | | |
|---|----------|------|-------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb≡Ta-d2P |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb=Ta-d2L+VII |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2L+V(均一) |
| 4 | 7.5YR4/6 | 褐色 | VII≡V |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S≡Ta-d2L |
| 6 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-d1S≡Ta-d1S |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Ta-d1S=Ta-d2L |
| 8 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2L |
| 9 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | Ta-d2L=Ta-d1S(縞状) |



図II-20 TP-11・12 平面及び断面図・出土土器

TP-13

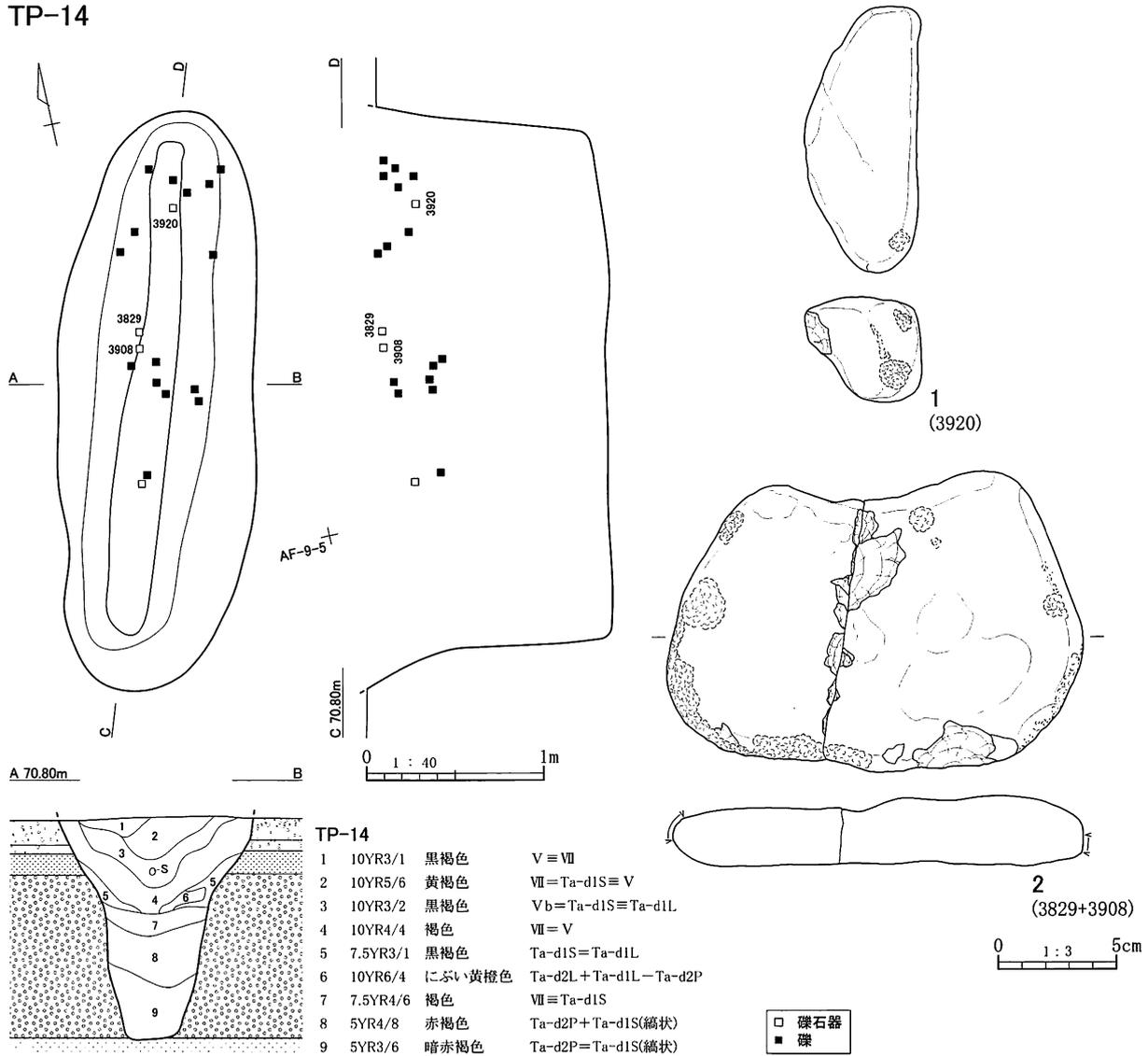


図Ⅱ-21 TP-13 平面及び断面図・出土石器

表Ⅱ-33 落とし穴逆茂木跡属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	平面形		規模(cm)			傾き(度)	備考	
				調査面/坑底面		上端	下端	深さ			
Ⅱ-33	28-4	TP-38	KP01	S・T-18	楕円/-	7	-	34	3		
	28-5				KP02	楕円/-	6	-	33	2	
Ⅱ-35	30-4	TP-41	KP01	V-18	楕円/-	7	-	18	4		
	30-5				KP02	円形/-	6	-	20	2	
	30-5				KP03	円形/-	7	-	20	0	
	-				KP04	円形/-	6	-	17	3	
Ⅱ-36	31-6	TP-43	KP01	Q-17・18	楕円/-	3	-	37	0		
	31-7				KP02	円形/-	4	-	35	0	

TP-14

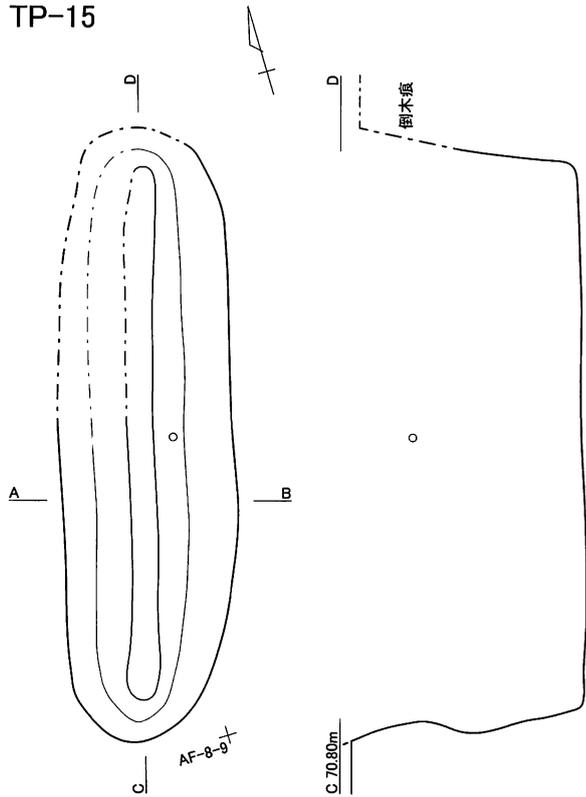


図II-22 TP-14 平面及び断面図・出土石器

表II-34 落とし穴出土土器属性表

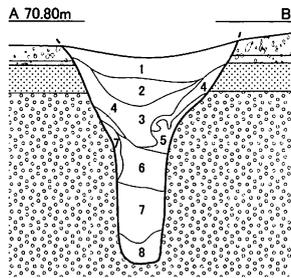
挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
II-15-1	51-4	JP159	III B1	TP-01	4	1	胴部	外傾	複節縄文/ ミガキ(縦位)	砂粒・ 繊維少量	内面に黒色 物質付着
II-16-1	51-5	JP158	III B1	TP-03	1	1	胴部	外傾	結束第1種羽状縄文- ミガキ	砂粒少量	
II-17-1	51-8	JP162	III B1	TP-05	1	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
II-19-1	51-9	JP062	III B1	TP-10	2	1	底部	平底 外端張り出す	LR斜縄文	砂粒少量	
				AI-08	Vb	4					
II-19-2	51-10	JP127A	III B1	AH-07	Vb	1	胴部	外傾	LR斜縄文- ミガキ縦位	砂粒少量	
				AI-07		1					
				AI-08		2					
				AJ-05		2					
TP-10	2	1									
II-20-1	52-1	JP156	III B1	TP-12	1	1	胴部	外傾	沈線文・LR斜縄文	砂粒少量	

TP-15



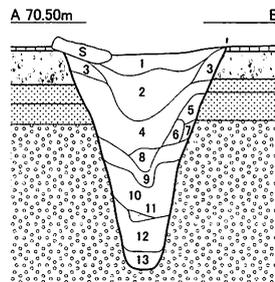
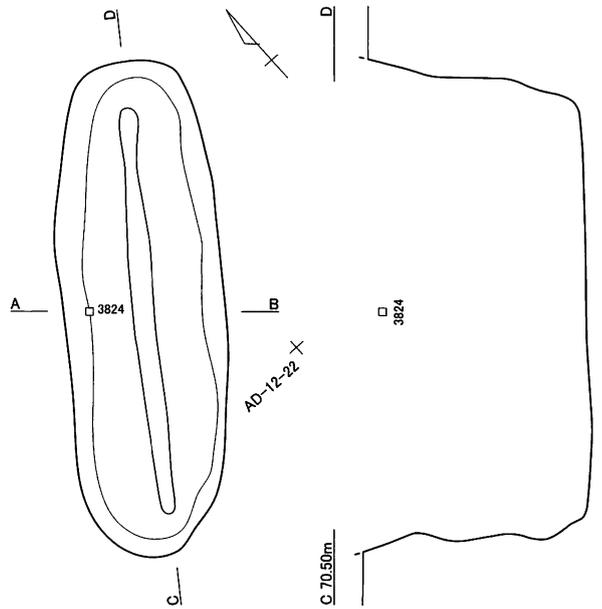
TP-15

- | | | | |
|---|----------|--------|-------------------|
| 1 | 7.5YR4/3 | 褐色 | VII = Vb |
| 2 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Vb = VII |
| 3 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | VII = VI ≡ Ta-d1S |
| 4 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 5 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ta-d1S + Ta-d2P |
| 6 | 5YR4/2 | 灰褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S |
| 7 | 2.5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d2L ≡ Ta-d1S |
| 8 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d2P ≡ Ta-d1S |



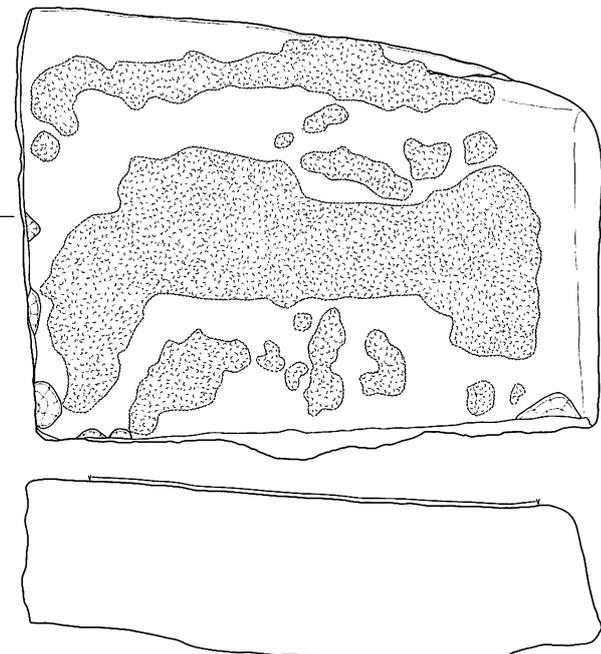
○ 土器
□ 礫石器

TP-16



TP-16

- | | | | |
|----|----------|--------|----------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | V - Ta-d2L |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-d1S + Ta-d2L |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-d2L ≡ Ta-d1L (φ 2 ↓) |
| 4 | 10YR4/6 | 褐色 | Vb |
| 5 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-d2L = Ta-d2P |
| 6 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d2L ≡ Ta-d1L (φ 10 ↓) |
| 7 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-d2P + Ta-d1L |
| 9 | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | Ta-d1L (φ 5 ↓) |
| 10 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d2P = Ta-d2Pブロック(φ 5 ↓) |
| 11 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d2P - Ta-d1P |
| 12 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d2L ≡ Ta-d1P |
| 13 | 7.5YR4/4 | 褐色 | V - Ta-d1S |

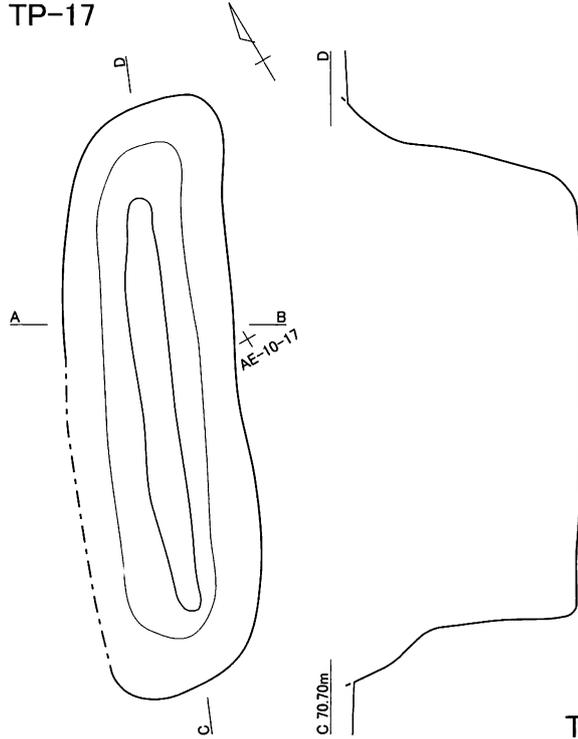


1 (3824)

0 1 : 40 1m

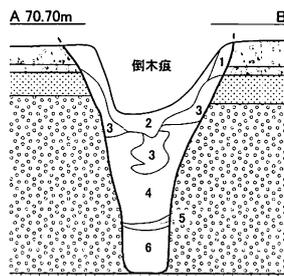
図 II-23 TP-15・16 平面及び断面図・出土石器

TP-17

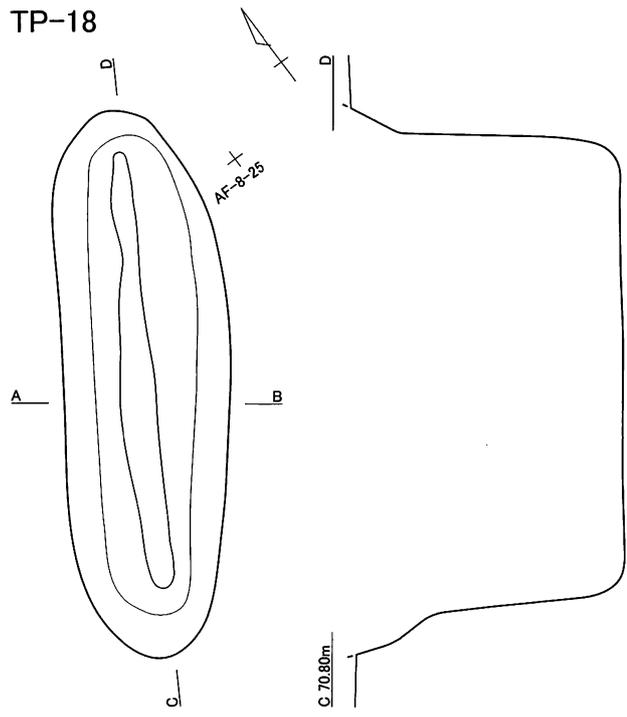


TP-17

- | | | | |
|---|----------|--------|---------------------|
| 1 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | VII ≡ V |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | VII ≡ V + Ta-d1L |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S ≡ Ta-d2P |
| 4 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S(縞状) |
| 5 | 5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S ≡ Ta-d2P |
| 6 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S |

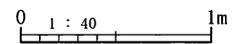
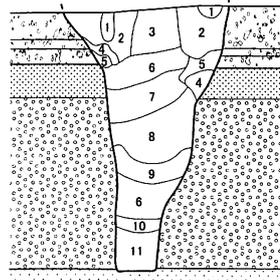


TP-18



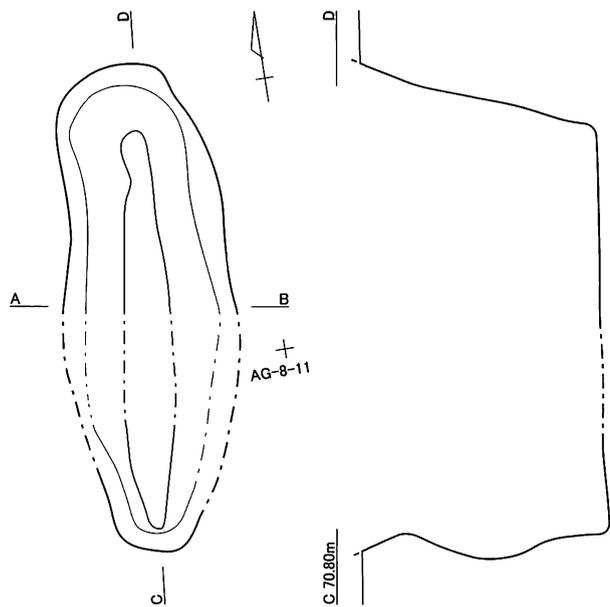
TP-18

- | | | | |
|----|----------|--------|---------------------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V ≡ Ta-d1S |
| 2 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | VII = Ta-d1S |
| 3 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ta-d2P ≡ Ta-d1L |
| 4 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P = Ta-d1S |
| 5 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1L |
| 6 | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ta-d1S - Ta-d2L |
| 7 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | Ta-d2P - Ta-d1S |
| 8 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d2L = V + Ta-d1S |
| 9 | 5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S - Ta-d2L |
| 10 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 11 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-d2P ≡ Ta-d1S |

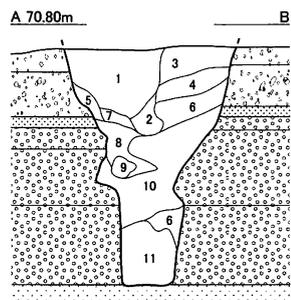


図II-24 TP-17・18 平面及び断面図

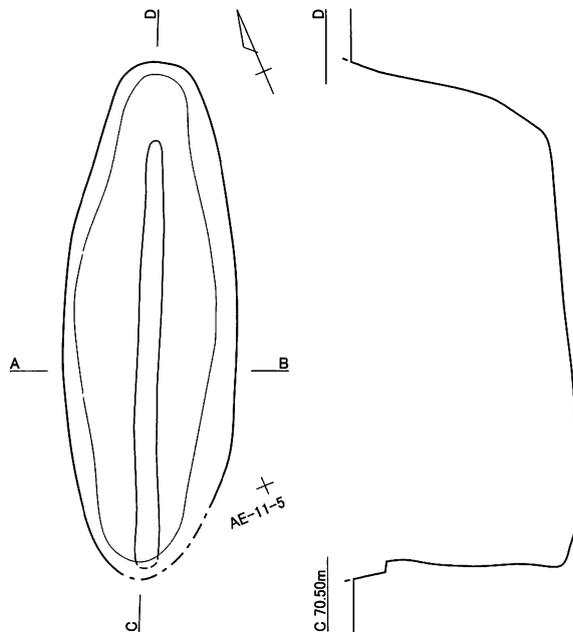
TP-19



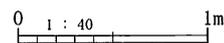
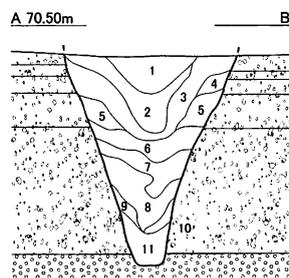
TP-19			
1	5YR4/4	にぶい赤褐色	Vb+Ta-d2P=Ta-d1S
2	5YR3/6	暗赤褐色	Ta-d2P+VII
3	5YR4/3	にぶい赤褐色	Vb+Ta-d1S+Ta-d2L
4	7.5YR4/1	褐灰色	VII
5	5YR4/3	にぶい赤褐色	Ta-d2P=Ta-d1S
6	7.5YR4/3	褐色	Ta-d2P
7	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-d1L+Ta-d1S
8	5YR3/6	暗赤褐色	Ta-d1L+VII
9	7.5YR3/2	黒褐色	V=Ta-d1S
10	7.5YR4/1	褐灰色	Ta-d2P=Ta-d1S(縞状)
11	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-d1S+Ta-d2P



TP-20

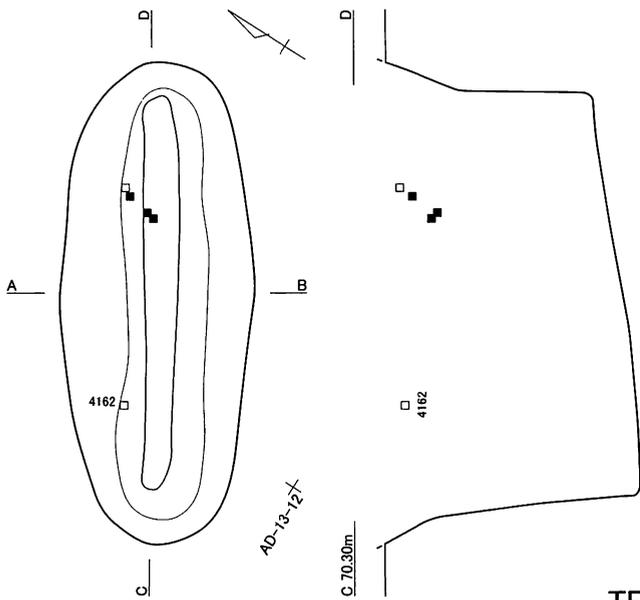


TP-20			
1	10YR2/1	黒色	Vb=Ta-d2P
2	10YR3/2	黒褐色	Vb=VII
3	7.5YR4/6	褐色	VII=Vb(φ10↓)
4	5YR4/8	赤褐色	VII=V
5	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d1L=Ta-d2L(斑状)
6	5YR4/4	にぶい赤褐色	VII=V(φ10↓)
7	7.5YR6/4	にぶい橙色	Ta-d21L=Ta-d2L
8	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1S+Ta-d2L
9	10YR5/8	黄褐色	Ta-d1S-Ta-d2L
10	5YR3/2	暗赤褐色	Ta-d1S=Ta-d2L
11	7.5YR4/1	褐灰色	Ta-d1S=Ta-d2L



図Ⅱ-25 TP-19・20 平面及び断面図

TP-21

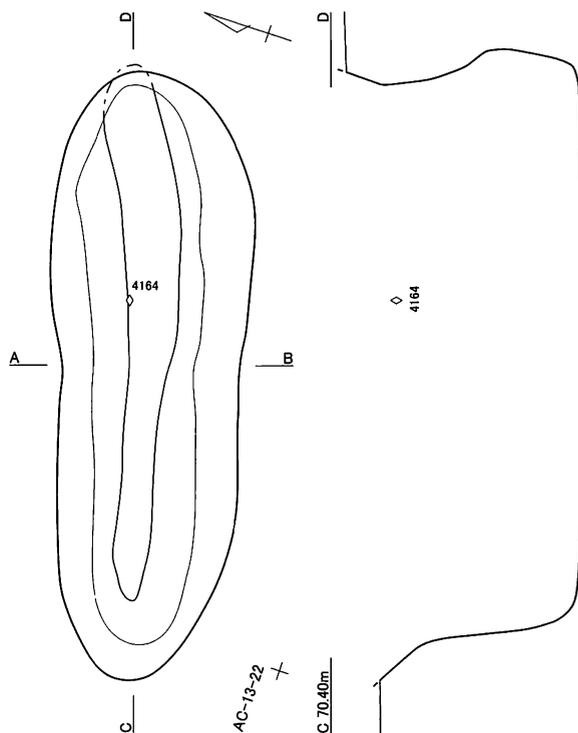
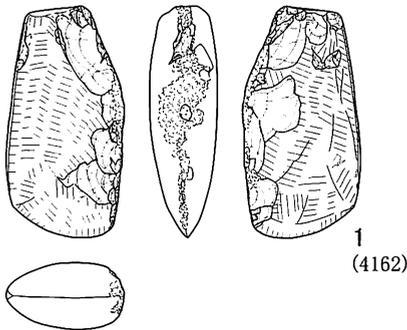
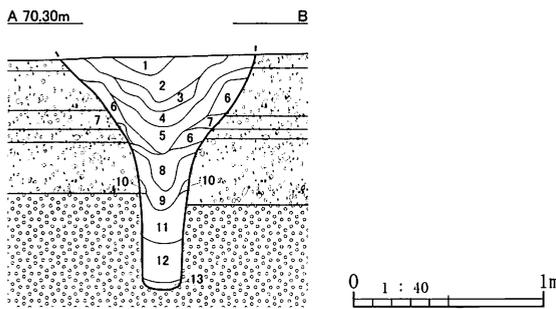


TP-21

1	7.5YR5/6	明褐色	VII ≡ Vb
2	10YR2/2	黒褐色	Vb ≡ Ta-d2L
3	10YR3/4	暗褐色	Vb - Ta-d2L
4	7.5YR3/4	暗褐色	VI + Vb (φ 20 ↓)
5	5YR3/6	暗赤褐色	VII ≡ Ta-d2L
6	10YR6/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L ≡ Ta-d2L + V
7	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1S
8	5YR4/6	赤褐色	Ta-d2L = V ≡ Ta-d1L
9	10YR6/4	にぶい黄褐色	Ta-d2L ≡ Ta-d1S
10	10YR6/6	明黄褐色	Ta-d1L ≡ Ta-d1S
11	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L = Ta-d2L (φ 10 ↓)
12	7.5YR3/4	暗褐色	Ta-d1S = Ta-d1L + V
13	10YR4/6	褐色	Ta-d2L + Ta-d1S

◇ 剥片石器
□ 礫石器
■ 礫

TP-22



TP-22

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-d2L
2	10YR4/4	褐色	VII = Vb (φ 20 ↓)
3	10YR6/6	明黄褐色	Ta-d1L ≡ Ta-d1S
4	2.5YR4/6	赤褐色	Ta-d2P ≡ Vb
5	10YR6/4	にぶい黄褐色	Ta-d1L = Ta-d2L ≡ V
6	7.5YR5/8	明褐色	Ta-d1S
7	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1S = Ta-d2P
8	5YR3/6	暗赤褐色	Ta-d2P ≡ Ta-d1L
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-d2P = Ta-d1S
10	10YR3/2	黒褐色	Ta-d1S = Ta-d1L (縞状)
11	10YR5/8	黄褐色	Ta-d1L = Ta-d2L (φ 10 ↓)

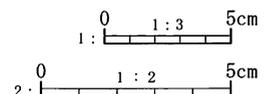
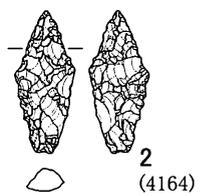
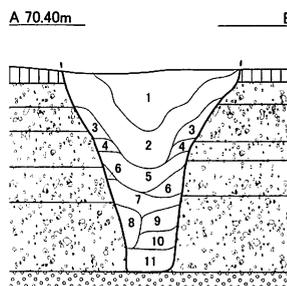
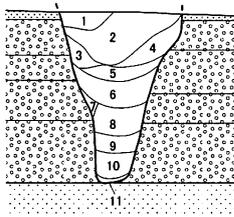
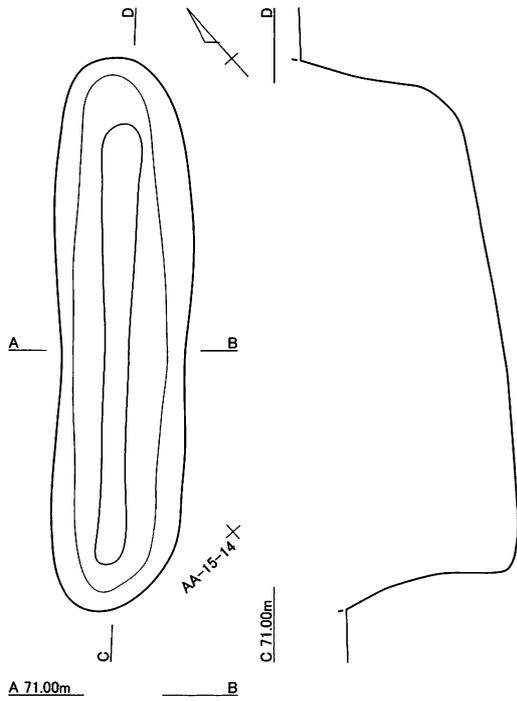


図 II-26 TP-21・22 平面及び断面図・出土石器

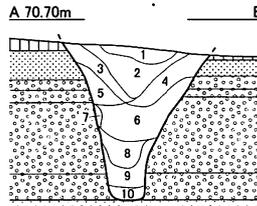
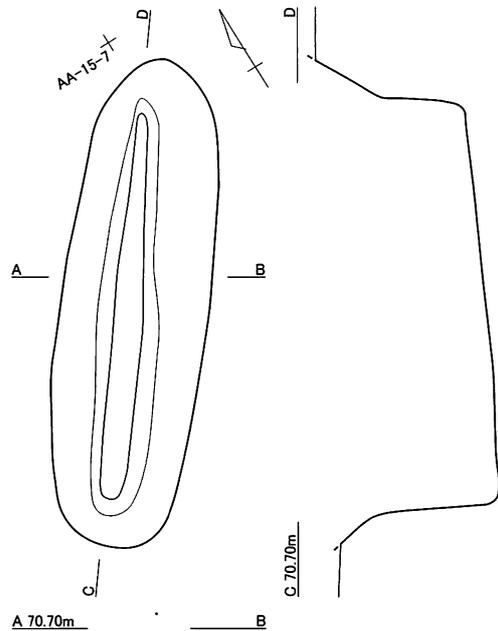
TP-23



TP-23

1	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d1L-V
2	7.5YR2/1	黒色	Vb≡Ta-d2(φ5 ↓ 均一)+Ta-d1S
3	5YR4/8	赤褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S
4	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2L≡Vb+Ta-d1S
5	10YR3/1	黒褐色	Ta-d1S=Ta-d2L(φ5 ↓)
6	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2L=Ta-d1S
7	10YR5/8	黄褐色	Ta-d1L=Ta-d1S
8	5YR3/2	暗赤褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S
9	10YR5/6	黄褐色	Ta-d1L=Ta-d1S
10	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d1S=Ta-d2L
11	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2P-Ta-d1S

TP-24



TP-24

1	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2L
2	10YR1.7/1	黒色	Vb≡Ta-d2P
3	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-d2P-Vb
4	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ta-d2P≡Vb
5	7.5YR5/6	明褐色	Ta-d2L+Ta-d1S
6	7.5YR4/3	褐色	Ta-d2L-Ta-d1S
7	10YR6/6	明黄褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S
8	7.5YR3/4	暗褐色	Ta-d2L≡V
9	10YR5/6	黄褐色	Ta-d1L≡V
10	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L-Ta-d2L

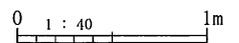
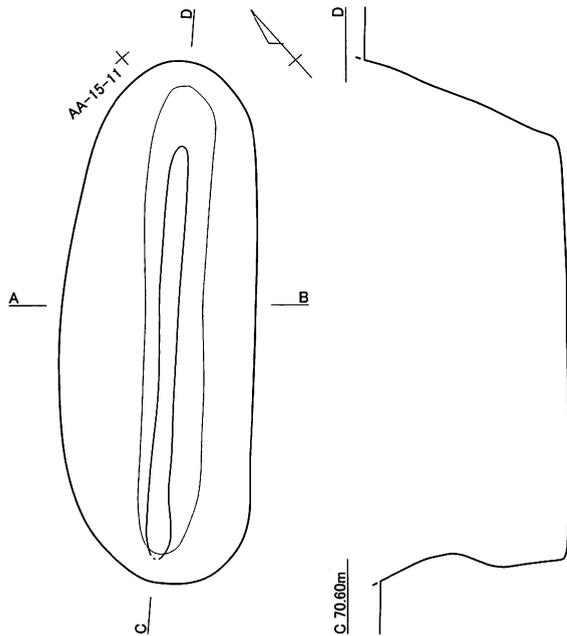


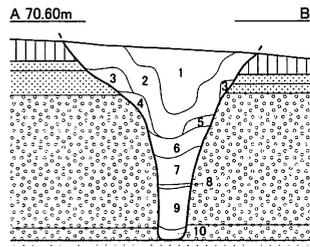
図 II-27 TP-23・24 平面及び断面図

TP-25

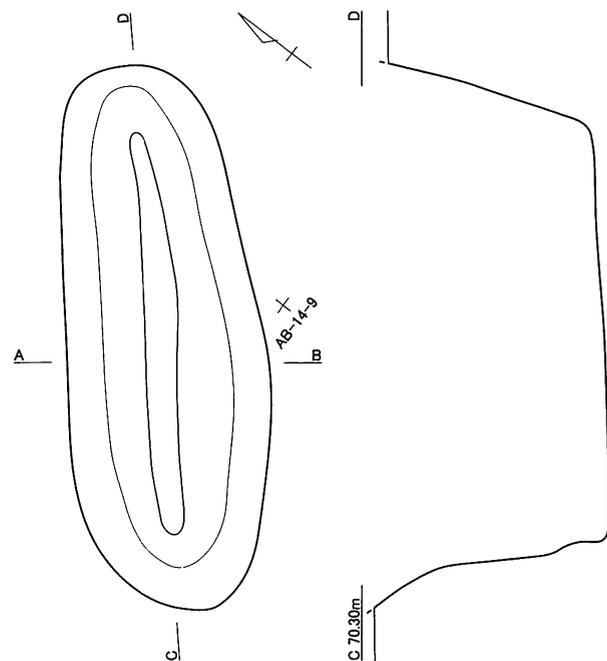


TP-25

1	10YR2/1	黒色	Vb≡Ta-d2L
2	7.5YR4/6	褐色	VII=Vb(φ20↓)
3	7.5YR4/1	褐灰色	Ta-d1S=VII
4	5YR3/4	暗赤褐色	VII=Ta-d1S
5	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S
7	7.5YR4/3	褐色	Ta-d1S
8	10YR3/1	黒褐色	Ta-d1S
9	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2L≡Ta-d1L+Ta-d1S
10	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S

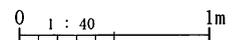
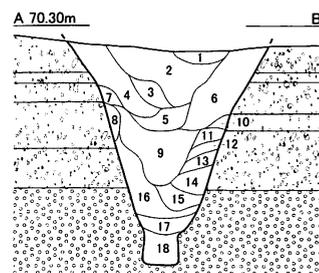


TP-26



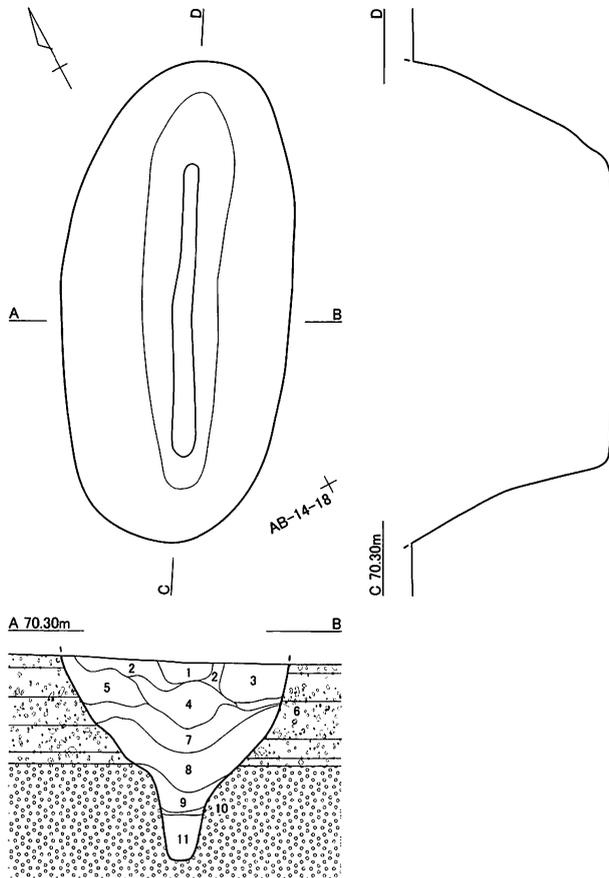
TP-26

1	7.5YR4/6	褐色	VII≡Ta-d2P
2	10YR2/1	黒色	Vb≡Ta-d2P
3	10YR3/2	黒褐色	Vb-Ta-d1S
4	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2≡V
5	7.5YR4/4	褐色	VII=Vb
6	7.5YR3/4	暗褐色	VII=Ta-d2L(φ10↓)
7	7.5YR3/1	黒褐色	VII-Vb
8	7.5YR5/3	にぶい褐色	Ta-d1L≡Ta-d1S
9	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d1S=Ta-d2L
10	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d1L=VII
11	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2L=V
12	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L-VII
13	7.5YR4/6	褐色	VII+Ta-d1L=Ta-d1S
14	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1=VII
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d1L=Ta-d1S
16	7.5YR4/1	褐灰色	Ta-d2P
17	7.5YR3/1	黒褐色	Ta-d2L+Ta-d1S
18	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S



図II-28 TP-25・26 平面及び断面図

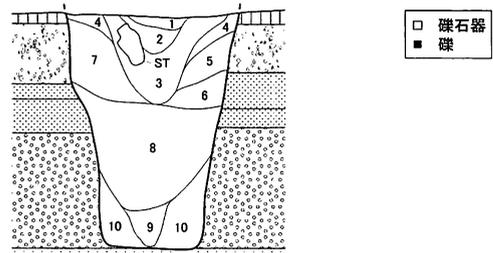
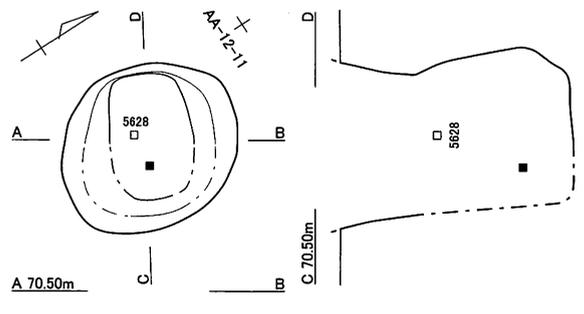
TP-27



TP-27

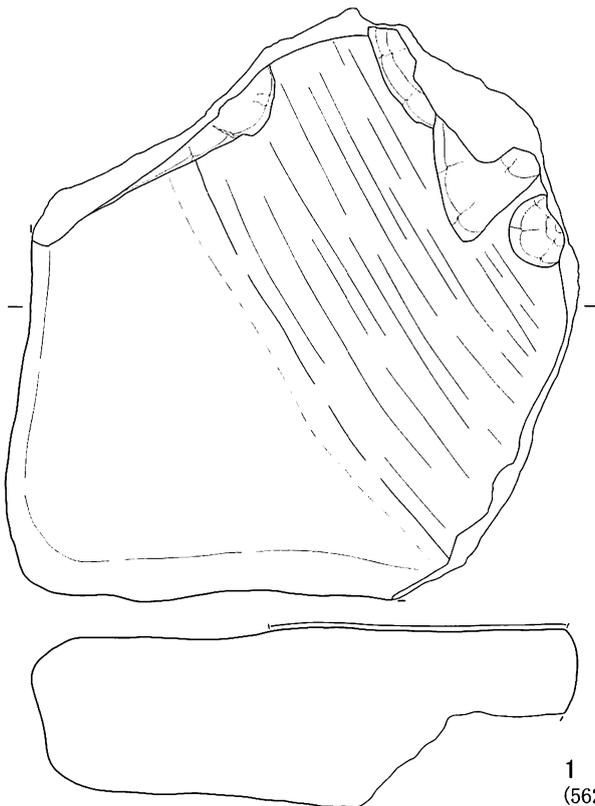
1	10YR4/6	褐色	VII+Ta-d1S
2	10YR3/2	黒褐色	Vb+VII
3	7.5YR4/6	褐色	VII≡Ta-d1S
4	10YR2/1	黒色	Vb≡VII
5	7.5YR4/6	褐色	VII=V≡Ta-d1L
6	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1S=Ta-d2L
7	10YR4/6	褐色	Ta-d2L=V≡Ta-d1S
8	10YR5/4	にぶい黄褐色	VII=Ta-d2L(φ10↓)≡Ta-d1S
9	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d1L-Ta-d2L
10	10YR2/2	黒褐色	Ta-d1S=Ta-d2L
11	7.5YR3/4	暗褐色	Ta-d1S≡Ta-d2L+Ta-d2L

TP-28



TP-28

1	10YR2/1	黒色	Vb=VII≡Ta-d1S
2	10YR5/1	褐灰色	Ta-d1S≡Vb
3	10YR2/1	黒色	V=Ta-d2L
4	10YR4/4	褐色	IV=Vb≡VII
5	10YR5/6	黄褐色	Ta-d2L≡V(φ20↓)
6	10YR3/3	暗褐色	V=Ta-d2L
7	10YR4/6	褐色	Ta-d2L≡V(φ30↓斑状)
8	7.5YR4/6	褐色	Ta-d1S
9	10YR7/6	明黄褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S
10	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2L≡Ta-d1S



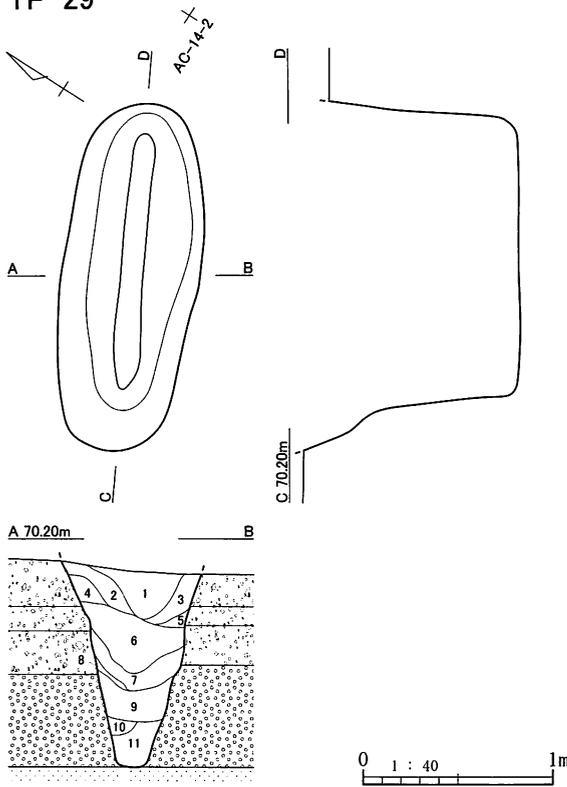
1
(5628)

0 1:3 5cm

0 1:40 1m

図II-29 TP-27・28 平面及び断面図・出土石器

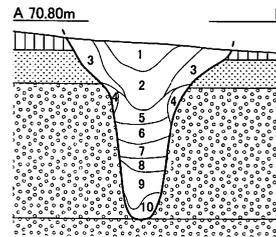
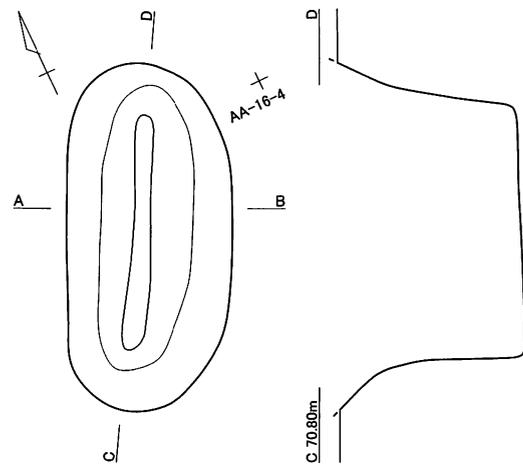
TP-29



TP-29

1	7.5YR3/2	黒褐色	V-VII
2	7.5YR4/3	褐色	VII-Vc
3	10YR3/4	暗褐色	Vb+VII
4	5YR4/4	にぶい赤褐色	VII≡V
5	7.5YR4/3	褐色	VII≡Ta-d1L
6	5YR4/3	にぶい赤褐色	VII=V≡Ta-d1L
7	7.5YR3/3	暗褐色	Ta-d1L=V
8	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1S=Ta-d2P
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L
10	10YR3/2	黒褐色	Ta-d2P-Ta-d1S
11	7.5YR3/4	暗褐色	Ta-d2P=Ta-d1S

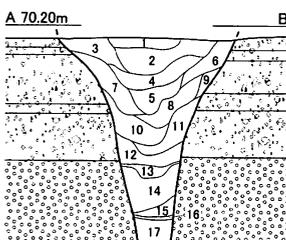
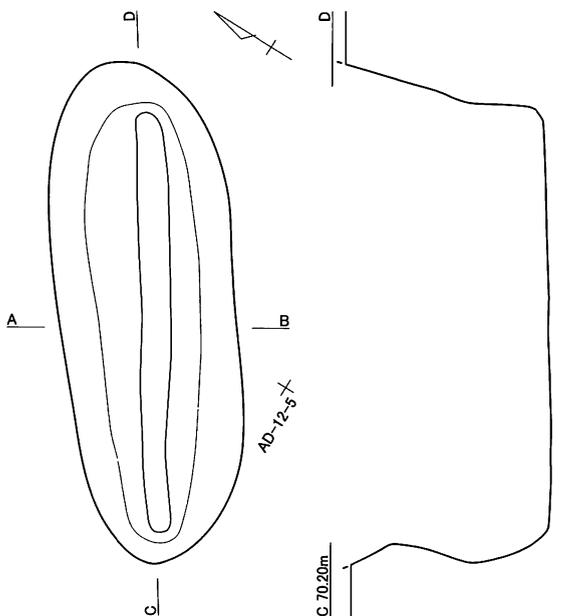
TP-30



TP-30

1	10YR1.7/1	黒色	Vc≡Ta-d2L
2	10YR3/2	黒褐色	Vc=Ta-d2L
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	Vc+Ta-d2L
4	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2L=Vc
5	10YR6/4	にぶい黄褐色	Ta-d2L=Ta-d1L
6	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1L≡Ta-d2L
7	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2L=Ta-d1S
8	7.5YR4/1	褐灰色	Ta-d1S=Ta-d1L
9	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2L=Ta-d1S
10	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L=Ta-d2L≡Ta-d1S

TP-31

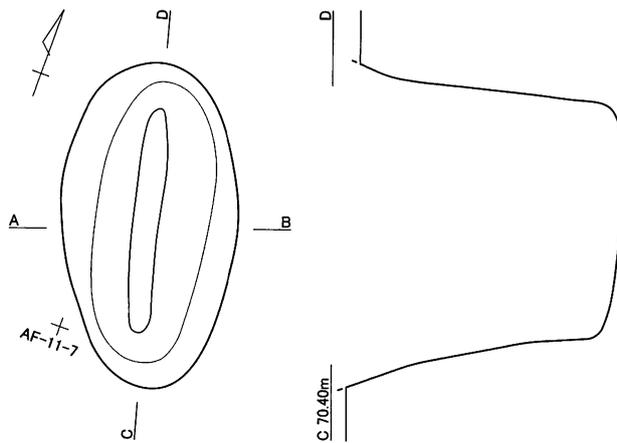


TP-31

1	10YR7/4	にぶい黄褐色	Ta-d1L≡Vc	10	10YR6/3	にぶい黄褐色	Ta-d1L=Ta-d2≡Ta-d1S
2	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-d1L+Ta-d2L=IV	11	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-d1S=Ta-d2L-Ta-d1L
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2L=Vc≡Ta-d1S	12	10YR6/8	明黄褐色	Ta-d1L≡Ta-d2
4	10YR3/2	黒褐色	V-Ta-d1S	13	10YR2/1	黒色	V=Ta-d2L
5	10YR3/3	暗褐色	V-Ta-d2L(φ30↓)≡VII	14	10YR4/4	褐色	Ta-d1L
6	10YR6/6	明黄褐色	Ta-d2L+VI	15	10YR6/8	明黄褐色	Ta-d1L-Ta-d2L
7	10YR5/4	にぶい黄褐色	VII≡Ta-d1L+V	16	10YR3/3	暗褐色	Ta-d1L-V+Ta-d2L
8	10YR7/2	にぶい黄褐色	Ta-d1L≡V	17	10YR4/4	褐色	Ta-d2L-Ta-d1L
9	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2L=V≡Ta-d1L				

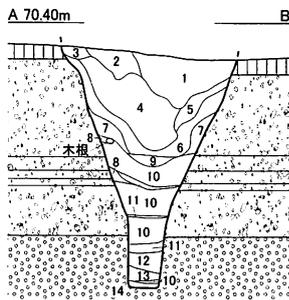
図 II-30 TP-29 ~ 31 平面及び断面図

TP-32

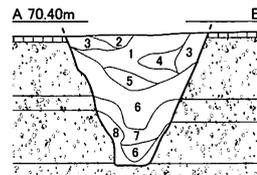
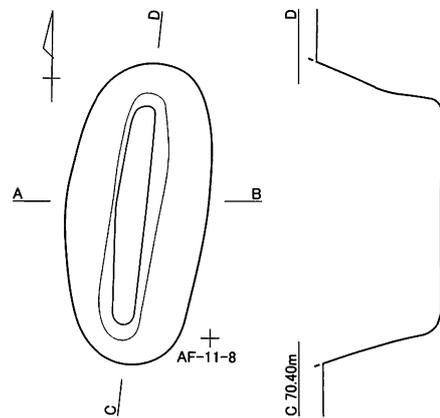


TP-32

- | | | | |
|----|----------|--------|------------------------------|
| 1 | 5YR2/1 | 黒褐色 | V = Ta-d2L + 炭化物 |
| 2 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | V + Ta-d2L |
| 3 | 5YR3/1 | 黒褐色 | V = Ta-d2L |
| 4 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | V = Ta-d2L + Ta-d1S + Ta-d1L |
| 5 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ta-d1L = V |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d1L - Ta-d2L |
| 7 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d1L |
| 8 | 5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 9 | 5YR2/4 | 極暗赤褐色 | V + Ta-d1S + Ta-d2P |
| 10 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ta-d1L + Ta-d2P |
| 11 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-d1L + Ta-d1S |
| 12 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Ta-d1S = Ta-d1L |
| 13 | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | Ta-d1S = Ta-d2L |
| 14 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-d1S + Ta-d2L |



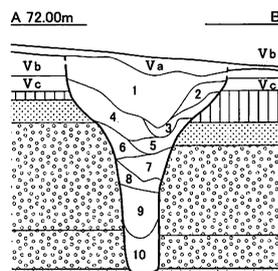
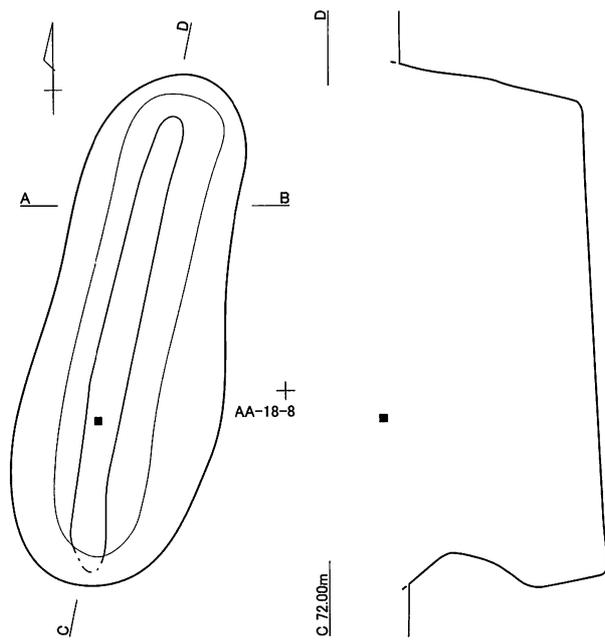
TP-33



TP-33

- | | | | |
|---|----------|--------|-----------------|
| 1 | 5YR6/4 | にぶい橙色 | Ta-d1L |
| 2 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | VII + Ta-d1S |
| 3 | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ta-d1S - Ta-d1L |
| 4 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | VII |
| 5 | 5YR3/1 | 黒褐色 | Vb = VII |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d1S |
| 7 | 5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S |
| 8 | 7.5YR5/1 | 褐灰色 | Ta-d1L |

TP-34



TP-34

- | | | | |
|----|----------|--------|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-d2P ≡ Ta-d1S |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | VI = Ta-d1S |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2P(φ 5 ↓) |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | VI - Ta-d2P ≡ Ta-d1S |
| 5 | 7.5YR4/3 | 褐色 | V + Ta-d2L(φ 30 ↓) |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d1S - V = Ta-d2P(φ 20 ↓) |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d2L = V ≡ Ta-d1S |
| 8 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d1S - Ta-d2P |
| 9 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d1S = Ta-d2P(φ 20 ↓) |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d2P = V |

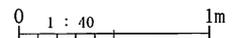
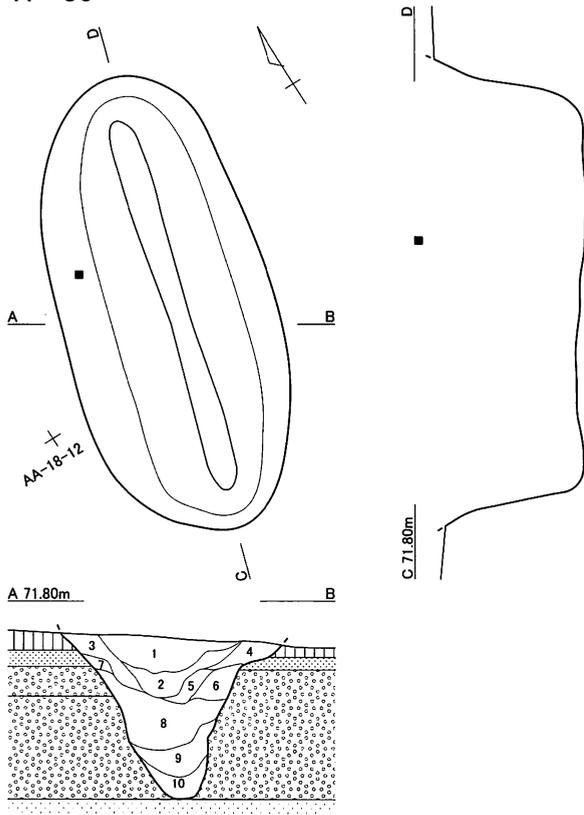


図 II-31 TP-32 ~ 34 平面及び断面図

TP-35

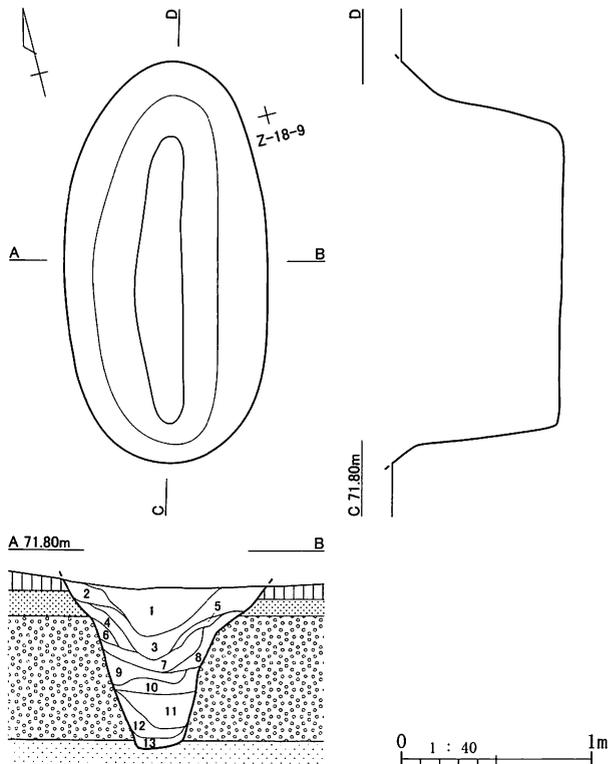


TP-35

- | | | | |
|----|----------|--------|------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb=Ta-d2P≡Ta-d1S |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb=Ta-d2P |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | V≡Ta-d1S |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | VI+V+Ta-d2P |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | V-Ta-d2P |
| 6 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | V=Ta-d2P(φ 30 ↓) |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d1S |
| 8 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P=V≡Ta-d1S |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ta-d1S=Ta-d2P |
| 10 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P=Ta-d1S |

■ 礎

TP-36

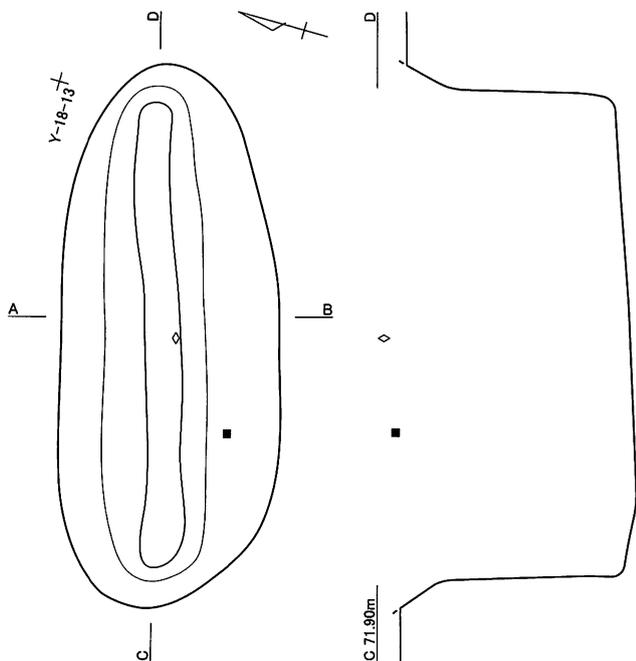


TP-36

- | | | | |
|----|----------|-----|-------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ta-d2P |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色 | Ta-d1S-Vb |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb≡Ta-d1S |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d1S=V≡Ta-d2L |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d1S-V |
| 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2P-V |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V=Ta-d2P |
| 8 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-d2L-V |
| 9 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ta-d2L-V(φ 20 ↓) |
| 10 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d1S+Ta-d2P(φ 10 ↓斑状) |
| 11 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2L=Ta-d1S |
| 12 | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-d2L-Ta-d1S |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ta-d2P≡Ta-d1S |

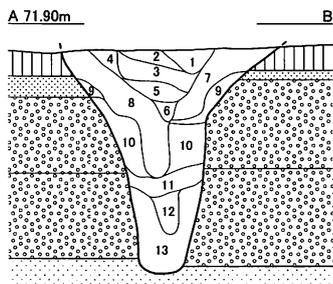
図II-32 TP-35・36 平面及び断面図

TP-37

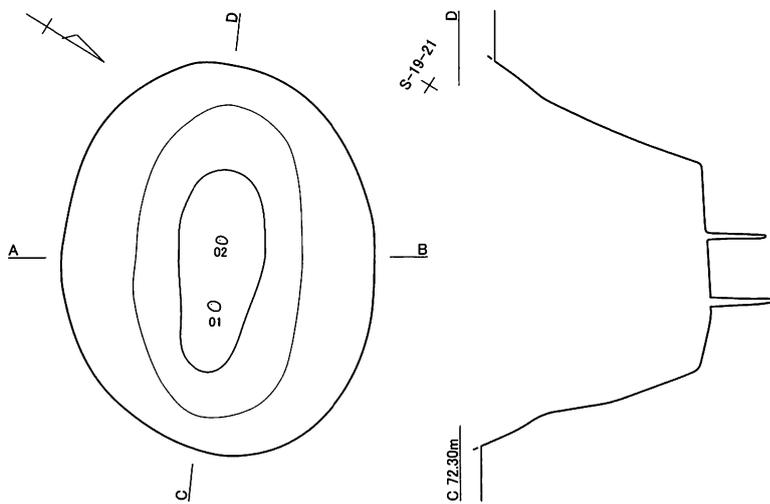


TP-37

1	10YR3/2	黒褐色	Vb≡Ta-d2P
2	7.5YR5/8	明褐色	Ta-d2P≡VI
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d2P+VI
4	10YR3/2	黒褐色	VI≡Ta-d2P
5	10YR3/1	黒褐色	Vb≡Ta-d2P
6	10YR2/1	黒色	VI≡Ta-d1S
7	10YR3/3	暗褐色	V≡Ta-d1S≡Ta-d2P
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	V=VI(φ30↓)≡Ta-d1S
9	10YR3/1	黒褐色	Ta-d1S
10	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2P≡Ta-d1S
11	7.5YR4/3	褐色	Ta-d2L(φ50↓斑状)≡Ta-d1S
12	10YR4/1	褐灰色	Vb≡Ta-d2P(φ10↓)
13	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2P-Ta-d1S



TP-38



TP-38

1	7.5YR6/8	橙色	地B2
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	地B3
3	10YR3/1	黒褐色	Vb-Ta-d2P(均一)
4	10YR2/1	黒色	Vb=Ta-d2P≡VI
5	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-d1S
6	10YR3/3	暗褐色	VI-Ta-d1S≡Ta-d2P
7	7.5YR4/3	褐色	VI-Ta-d1S=Ta-d2P(φ20↓)
8	10YR3/2	黒褐色	VI+Ta-d1S+Ta-d2P
9	5YR5/6	明赤褐色	Ta-d2P-Ta-d1S≡V
10	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2P-V≡VII
11	5YR4/6	赤褐色	Ta-d2P-VI(φ20↓)
12	10YR6/4	にぶい黄橙色	VIII-Ta-d1S
13	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d2P
14	5YR3/4	暗赤褐色	Ta-d2P-Ta-d1S
15	10YR2/2	黒褐色	V=Ta-d1S=Ta-d2P

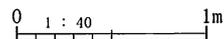
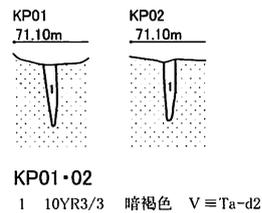
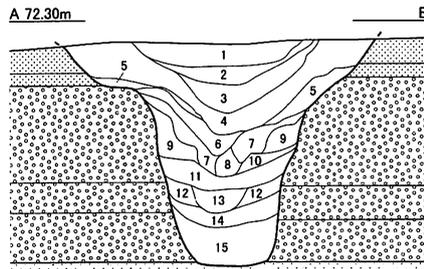
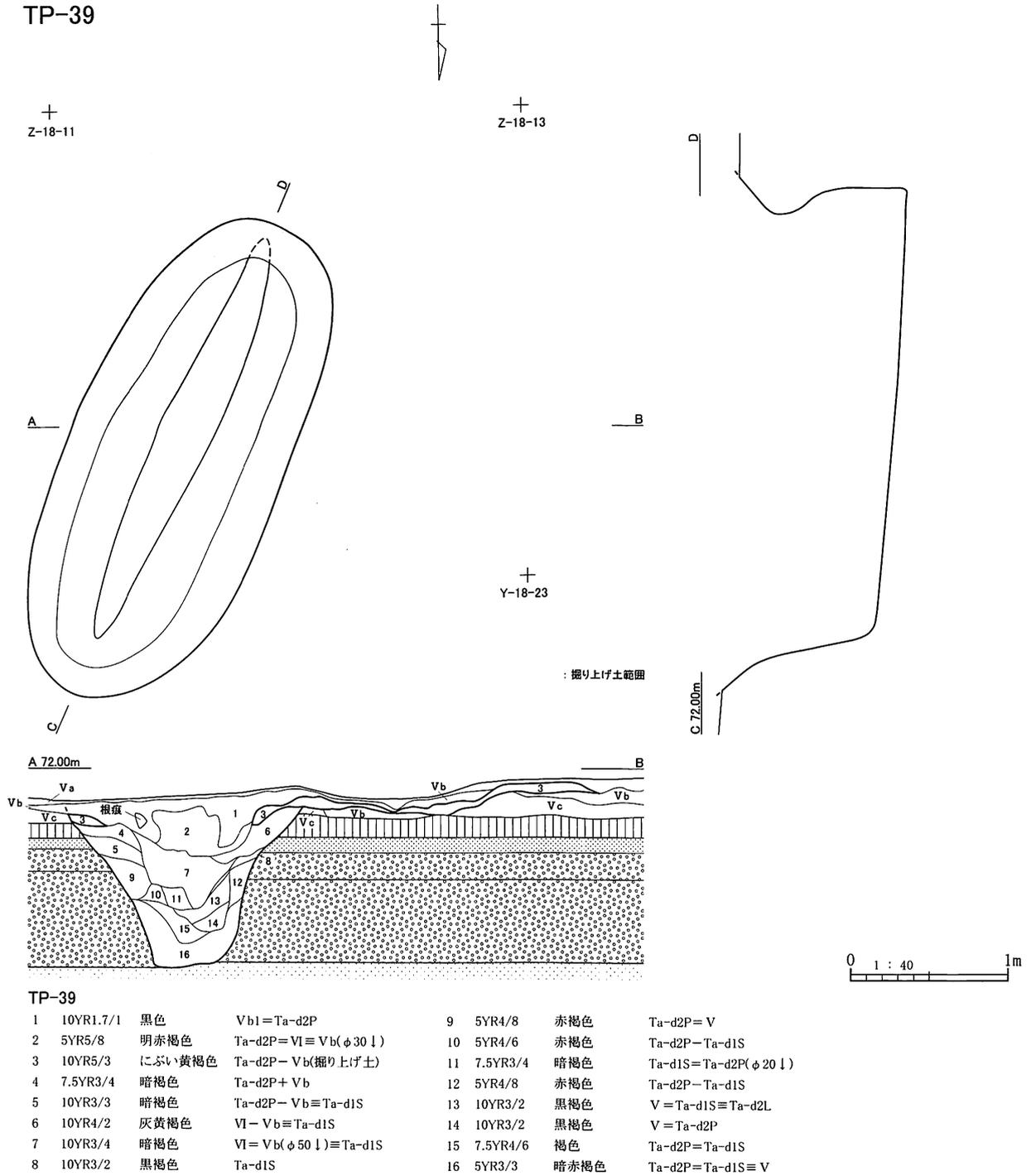


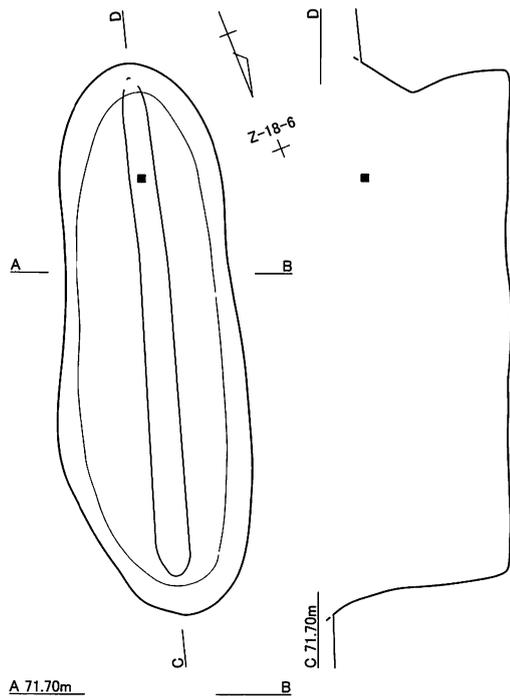
図 II-33 TP-37・38 平面及び断面図

TP-39



図II-34 TP-39 平面及び断面図

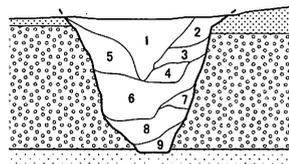
TP-40



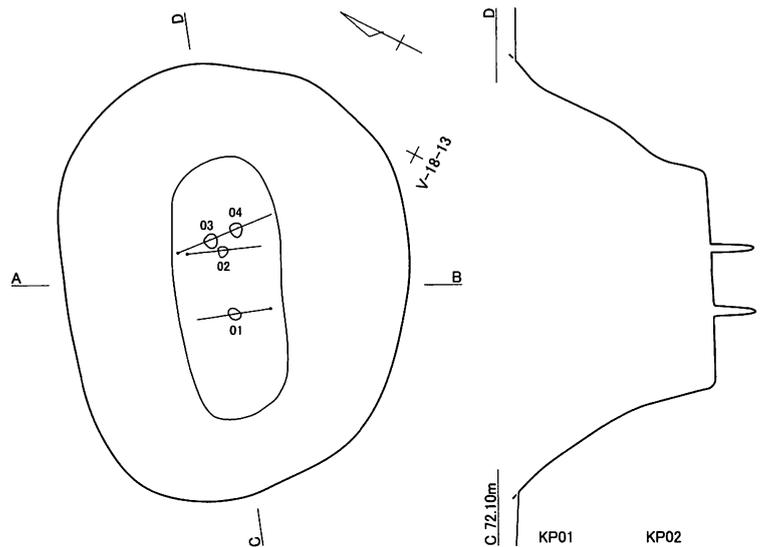
TP-40

1	10YR2/1	黒色	Vb-Ta-d2L(均一)-Ta-d2P(均一)
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2L≡V
3	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2P(φ 50 ↓)=Ta-d1P
4	10YR4/4	褐色	Ta-d1S=Ta-d2P=V
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d2P=Ta-d1S=V
6	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2P=Ta-d1S
7	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d2P-Ta-d1S
8	10YR3/4	暗褐色	V-Ta-d2P
9	10YR2/2	黒褐色	V≡Ta-d2P

■ 礎

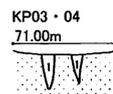
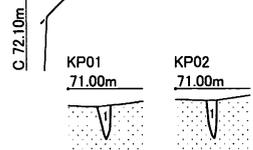
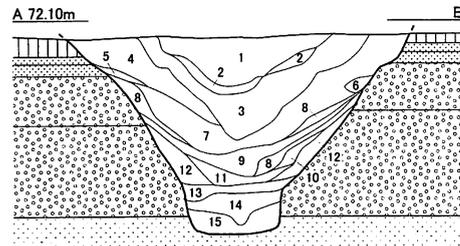


TP-41



TP-41

1	10YR5/8	黄褐色	地B2
2	10YR6/6	明黄褐色	地B3
3	10YR3/3	暗褐色	Vb-Ta-d2(φ 20 ↓)
4	10YR3/2	黒褐色	Vb-Ta-d2P
5	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d1S
6	7.5YR4/4	褐色	Ta-d2P
7	10YR3/3	暗褐色	VI=Ta-d1S≡Ta-d2P
8	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2P-Vb
9	10YR3/2	黒褐色	Vb-Ta-d2P(φ 5 ↓)
10	10YR3/1	黒褐色	VI=Ta-d2P
11	10YR3/2	黒褐色	V+Ta-d1S
12	10YR5/8	黄褐色	Ta-d2P-Ta-d1S
13	7.5YR3/1	黒褐色	V=Ta-d1S=Ta-d2L
14	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2P≡Ta-d1S
15	7.5YR2/2	黒褐色	Ta-d2P(φ 10 ↓)=Ta-d1S



KP01~04
1 2.5Y4/1 黄灰色 Ta-d2=V

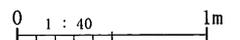
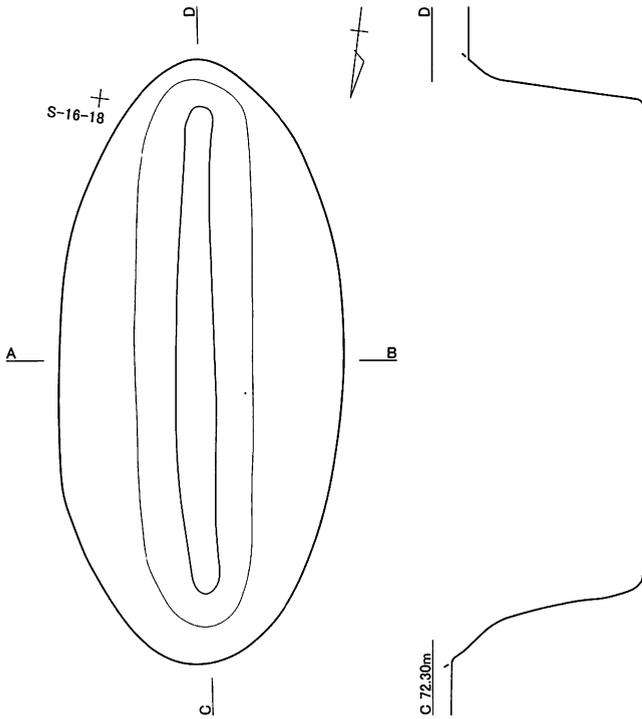


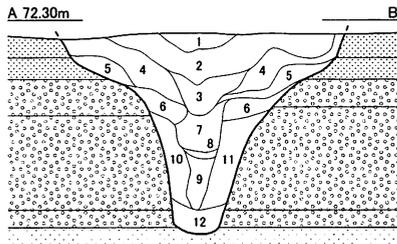
図 II-35 TP-40・41 平面及び断面図

TP-42

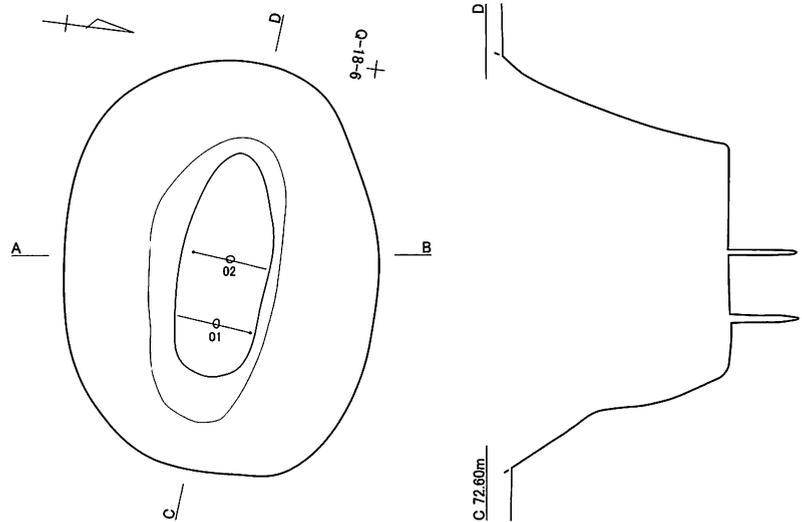


TP-42

1	5YR5/8	明赤褐色	Ta-d2P-VII
2	10YR2/1	黒色	Vb≡Ta-d2P
3	10YR3/3	暗褐色	V-Ta-d2P≡Ta-d1S
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	VI-Ta-d2P=Ta-d1S
5	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-d1S≡Ta-d2P≡V
6	5YR5/8	明赤褐色	Ta-d2L≡V
7	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d1S=V≡Ta-d2P(φ30↓)
8	5YR4/8	赤褐色	Ta-d2P=Ta-d1S
9	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d1S=Ta-d2P(φ30↓)
10	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ta-d2P=Ta-d1S
11	5YR4/3	にぶい赤褐色	Ta-d2P-Ta-d1S
12	10YR3/2	黒褐色	Ta-d2P(φ10↓)=VII

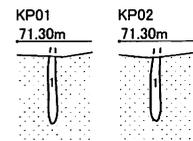
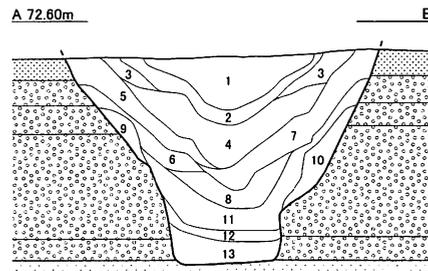


TP-43



TP-43

1	7.5YR5/8	明褐色	地B2
2	10YR6/3	にぶい黄褐色	地B3
3	10YR4/4	褐色	VI-Ta-d2P=Vb
4	10YR3/2	黒褐色	Vb-Ta-d2P(均一)
5	10YR2/1	黒色	Vb≡Ta-d2P
6	10YR3/1	黒褐色	Vb=Ta-d2P=VI
7	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-d1S-Ta-d2P
8	10YR4/4	褐色	V=Ta-d2P(均一)
9	10YR5/6	黄褐色	Ta-d2P-V(φ20↓)
10	10YR5/8	黄褐色	Ta-d2P=V≡Ta-d1S
11	10YR3/2	黒褐色	V=Ta-d2P(φ30↓)
12	10YR2/1	黒色	V≡Ta-d2P
13	10YR3/4	暗褐色	V=Ta-d2P



KP01・02

1	10YR7/1	黒色	V=VII≡Ta-d2
---	---------	----	-------------

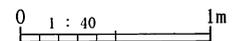
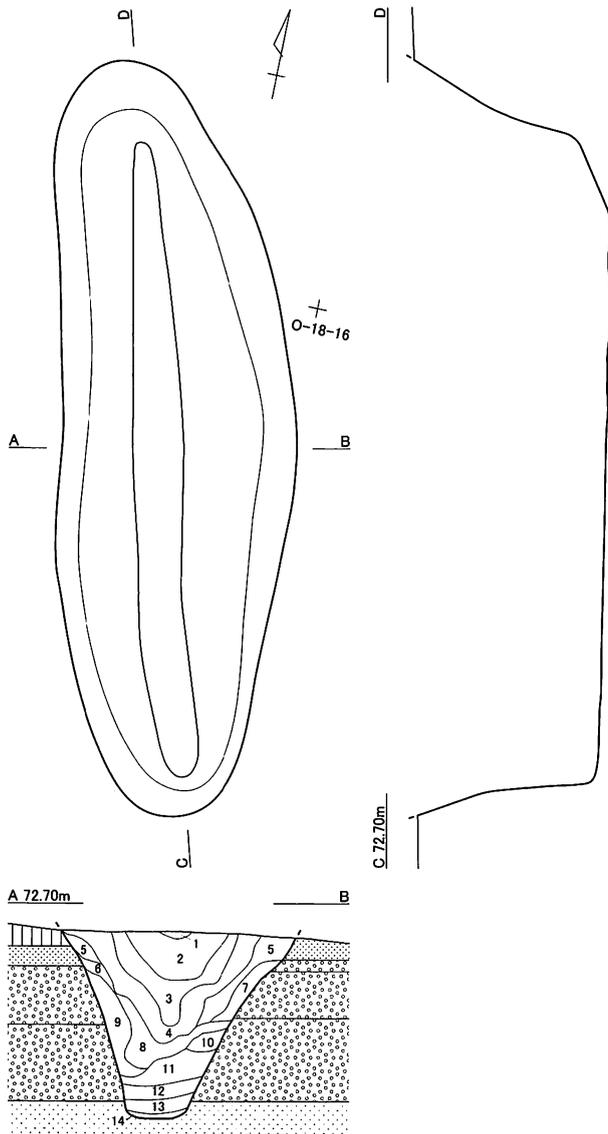


図 II-36 TP-42・43 平面及び断面図

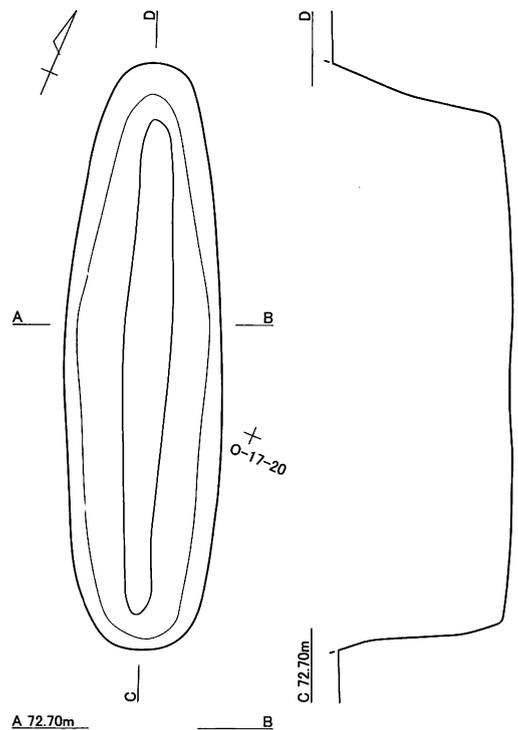
TP-44



TP-44

1	10YR8/4	浅黄橙色	地B3
2	10YR3/1	黒褐色	Vb+灰黄褐色礫=Ta-d2P
3	10YR3/3	暗褐色	VI-灰黄褐色礫(φ20↓)-Ta-d2P
4	10YR6/4	にぶい黄橙色	VI≒Ta-d2P
5	10YR5/2	灰黄褐色	VI=Ta-d2P
6	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-d1S≒Ta-d2P
7	7.5YR4/6	褐色	Ta-d2P-Ta-d1S
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	VI=Ta-d1S=Ta-d2P
9	5YR4/6	赤褐色	Ta-d2L≒Ta-d1S
10	5YR3/6	暗赤褐色	Ta-d2P=Ta-d1S
11	10YR4/1	褐灰色	VI=Ta-d2L(φ20↓)
12	7.5YR4/2	灰褐色	VI-Ta-d2P
13	5YR4/6	赤褐色	Ta-d2P-VI
14	7.5YR3/2	黒褐色	Ta-d2P

TP-45



TP-45

1	10YR3/1	黒褐色	V+灰黄褐色礫=Ta-d2P+Ta-d1S
2	10YR6/4	にぶい黄橙色	地A=灰黄褐色礫
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	地A≒Ta-d1P+Ta-d2L
4	10YR4/2	灰黄褐色	地A+Ta-d1S
5	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1S
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d1S≒Ta-d2P
7	7.5YR5/8	明褐色	Ta-d2P≒Ta-d1S

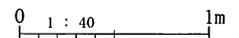
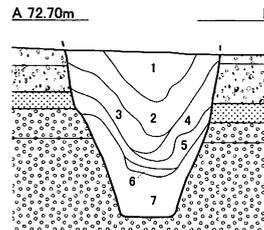


図 II-37 TP-44・45 平面及び断面図

表II-35 落とし穴出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-16-2	51-6	-	2895	たたき石	I B3	TP-04	1	172.0	55.0	44.8	430.0	Sa.	完形
II-16-3	51-7	-	2896	たたき石	I B1	TP-04	1	154.5	53.0	28.9	345.0	Sa.	完形
II-19-3	51-11	-	3507	ポイント類	A3	TP-10	1	25.4	15.5	3.3	0.9	Obs.	完形、被熱
II-21-1	52-2	-	3876	たたき石	II A3	TP-13	1	(69.9)	57.3	37.2	(220.0)	Sa.	欠損
II-21-2	52-3	-	4074	たたき石	I B1	TP-13	2	92.1	56.7	42.1	240.0	Sa.	完形、 砥石転用品
II-22-1	52-4	-	3920	たたき石	I B2	TP-14	3	114.6	48.1	41.0	300.0	Sa.	完形
II-22-2	52-5	VST010	3829	たたき石	II A2	TP-14	1	170.3	110.9	37.2	908.2	Sa.	完形、被熱 接(3908)
II-23-1	52-6	-	3824	台石	-	TP-16	1	(305.7)	(231.4)	74.5	(10,200.0)	Sa.	欠損
II-26-1	52-7	-	4162	石斧	A1	TP-21	1	91.4	45.5	27.4	174.8	Gr-Mud.	完形
II-26-2	52-8	-	4164	ポイント類	A4	TP-22	1	37.9	15.8	7.4	3.3	Obs.	完形
II-29-1	52-9	-	5628	石皿	-	TP-28	1	(250.3)	(235.3)	60.2	(4,650.0)	Sa.	欠損

第3節 土坑

平成25年の調査により7基、平成26年の調査により7基の計14基を検出した。重複関係に当たるものはVP-01・02の2基である。分布は調査区南側にVP-01～03・08の4基、中央にVP-04・05・07の3基、北側にVP-06・10～15の7基がある。平面形は楕円形(不整楕円形含む)を基調としたものが9基と多く、ほかは円形を基調としている。断面形は底面が平坦で、壁が緩やかに外傾して立ち上がる皿状を呈するものが多い。覆土はV層の流れ込みや壁の崩落土を主体としている。遺物が確認されたのはVP-01・03・05～08の6基で、礫が主体を占めている。そのうちVP-01からⅢ群B1類土器が出土しており、縄文時代中期後葉の天神山式期以前、VP-02は土器を伴出していないが後期初頭以降の構築と思われる。ほかの土坑の構築時期は不明である。なお、VP-09は精査の結果、自然営力による痕跡と判明したため欠番とした。

調査方法は検出状況を確認・撮影後に半截あるいは四分割し、掘り広げて土層断面を確認・撮影・実測した。その後残り半分を掘り上げ、平面を確認・撮影・実測して終了とした。

VP-01 (図II-38 図版33-1・2、53-1・2)

位置：AG-06 検出層位：VI層 平面形：楕円形

規模：109×88cm 坑底面規模：79×57cm 深さ：19cm 長軸方向：N-25° E

確認・調査：VH-01の北側のVI層を精査中、南壁がVH-01に切られた状態で検出した。覆土は黒色土を主体とし、平面形は楕円形である。底面は平坦で、壁が緩やかに外傾して立ち上がる。

出土遺物(図II-38-1・2)：遺物は土坑北側の覆土上・中位に多く、Ⅲ群B1類の胴部土器片3点、ポイント類1点、ナイフ・スクレイパー類2点、FC3点、礫7点が出土している。1はつまみ付きナイフでA1類に属する。縦長素材の周縁のみ加工しているもので、つまみ部の一部に転礫面を残している。2はエンド・スクレイパーでB2類に属する。表面に岩砕面を残す縦長剥片を素材としたもので、下縁に調整加工の刃部を作り出している。石材はともに黒曜石である。

VP-02 (図II-38 図版33-3・4)

位置：AD・AE-07 検出層位：VI層 平面形：不整楕円形

規模：102×73cm 坑底面規模：77×44cm 深さ：23cm 長軸方向：N-37° W

確認・調査：VH-05の北側を精査中、VI層でVH-05の壁を切る黒褐色土を主体とする楕円形の土坑を確認した。底面は平坦で、壁が外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-03 (図Ⅱ-38 図版 33-5・6)

位置：AD・AE-12 検出層位：VI層 平面形：円形

規模：227×226cm 坑底面規模：190×182cm 深さ：31cm 長軸方向：N-9° E

確認・調査：TP-02・07 の北側を精査中、東西セクションベルトにかかり、黒褐色土を主体とする落ち込みとしてVI層で検出した。底面は西側がほぼ平坦で、東側が緩やかに窪んでいる。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

出土遺物：南側の覆土上位から砂岩の破砕礫2点が出土している。

VP-04 (図Ⅱ-38 図版 33-7・8)

位置：Y-15 検出層位：Vc層 平面形：長楕円形

規模：114×66cm 坑底面規模：104×45cm 深さ：5cm 長軸方向：N-72° W

確認・調査：Vc層を精査中、黒色土からなる長楕円形の落ち込みとして検出した。断面は皿状を呈する。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-05 (図Ⅱ-39 図版 34-1・2)

位置：Y-15・16 検出層位：Vc層 平面形：楕円形

規模：77×53cm 坑底面規模：35×23cm 深さ：16cm 長軸方向：N-85° E

確認・調査：VP-04 の完掘撮影のため西側周辺を清掃中、礫を露出した落ち込みとしてVc層で検出した。断面は底が丸く、壁が外傾する。

出土遺物：西側の覆土から砂岩の大型扁平礫4点が出土している。

VP-06 (図Ⅱ-39 図版 34-3・4)

位置：I-10 検出層位：Vc層 平面形：不整楕円形

規模：92×80cm 坑底面規模：63×55cm 深さ：17cm 長軸方向：N-51° E

確認・調査：VH-06 の北西側でVc層を精査中、礫を露出した黒色土の落ち込みとして検出した。底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

出土遺物：礫が1点出土している。

VP-07 (図Ⅱ-39 図版 34-5)

位置：W・X-14 検出層位：VII層 平面形：円形

規模：119×118cm 坑底面規模：84×67cm 深さ：26cm 長軸方向：N-60° W

確認・調査：VH-04 の北側周辺でVII層を精査中、人頭大を超える礫の一部が露出したため礫の周囲をさらに精査したところ、黒色土を主体とする落ち込みとして検出した。断面は深皿状を呈する。

出土遺物：西壁に接し、坑底から検出面にかけて砂岩の礫1点、礫の北側で覆土中位からUF1点が出土している。

VP-08 (図Ⅱ-39 図版 34-6・7)

位置：AB-07 検出層位：VII層 平面形：楕円形

規模：(270)×(191)cm 坑底面規模：(257)×(170)cm 深さ：7cm 長軸方向：N-32° E

確認・調査：VH-03 の北側周辺を精査中、VII層上位で検出した。検出撮影後、東西南北に土層観察用十字ベルトを設定し調査を行った。平面形は東側が道路で削平されているが、楕円形を呈すると

考えられる。底面は東側が地山なりに緩やかに傾いており、西側は概ね平坦である。壁は丸みをもって立ち上がる。

出土遺物：覆土下位からは砂岩の破砕礫4点、南壁で黒曜石のRF1点が出土している。

VP-10 (図II-40 図版34-8、35-1)

位置：M-10 検出層位：VII層 平面形：楕円形

規模：52×43cm 坑底面規模：29×20cm 深さ：6cm 長軸方向：N-25° E

確認・調査：VII層を精査中、Ta-c テフラに黒色土が微量に混じる楕円形の落ち込みを検出した。さらに下層で黒色土を確認した。断面は皿状を呈する。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-11 (図II-40 図版35-2・3)

位置：N-10 検出層位：VII層 平面形：楕円形

規模：50×32cm 坑底面規模：23×10cm 深さ：14cm 長軸方向：N-65° E

確認・調査：VII層を精査中、Ta-c テフラに黒色土が多量に混じる楕円形の落ち込みを検出した。さらに下層で黒色土を確認した。断面は底が丸く、壁が外傾する。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-12 (図II-40 図版35-4・5)

位置：P-09 検出層位：VII層 平面形：円形

規模：56×55cm 坑底面規模：25×15cm 深さ：20cm 長軸方向：N-3° W

確認・調査：VII層を精査中、暗褐色土からなる円形の落ち込みとして検出した。断面は丸底で壁が外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-13 (図II-40 図版35-6・7)

位置：N・O-11 検出層位：VII層 平面形：楕円形

規模：56×36cm 坑底面規模：20×15cm 深さ：8cm 長軸方向：N-55° W

確認・調査：調査区北側の南に延びる舌状部西斜面の緩い小谷地形でVII層を精査中、炭化物を含む黒色土からなる楕円形の落ち込みとして検出した。断面は皿状を呈する。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-14 (図II-40 図版35-8、36-1)

位置：J-10 検出層位：VII層 平面形：楕円形

規模：99×85cm 坑底面規模：89×59cm 深さ：7cm 長軸方向：N-56° W

確認・調査：VH-06の西側でVII層を精査中、黒褐色土からなる楕円形の落ち込みとして検出した。底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

VP-15 (図II-40 図版36-2・3)

位置：J-10 検出層位：VII層 平面形：円形

規模：120×113cm 坑底面規模：96×82cm 深さ：22cm 長軸方向：N-12° W

確認・調査：VH-06の北西側でVII層を精査中、にぶい褐色土及び黒褐色土からなる円形の落ち込みとして検出した。底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

出土遺物：遺物は出土していない。

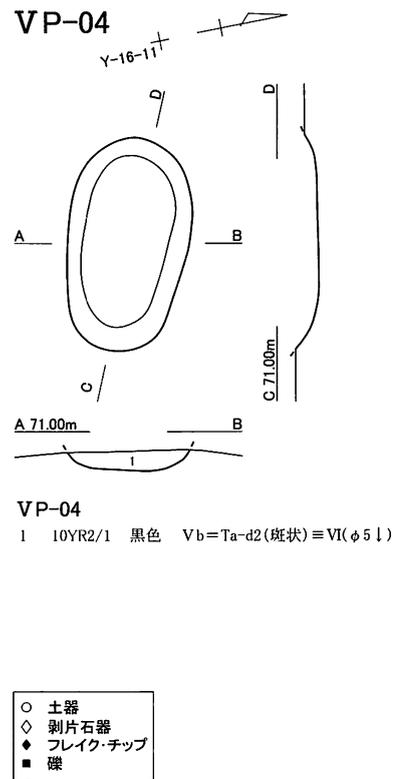
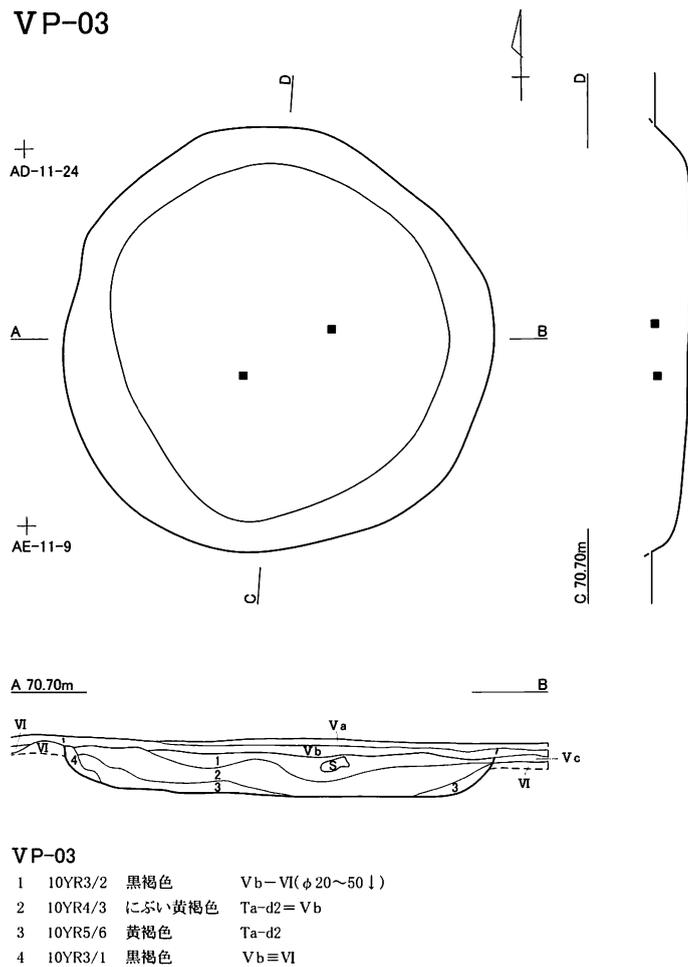
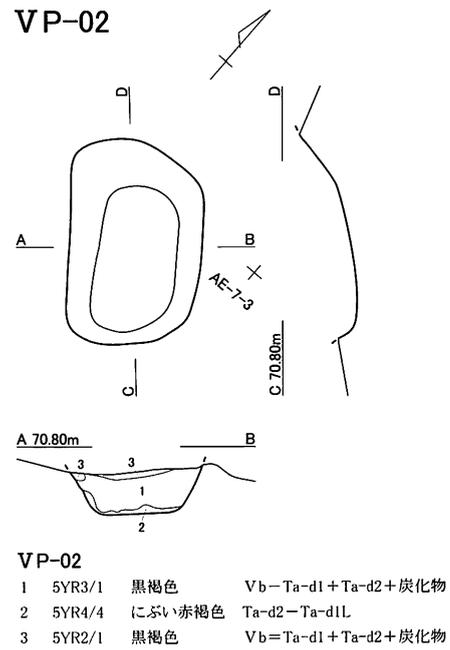
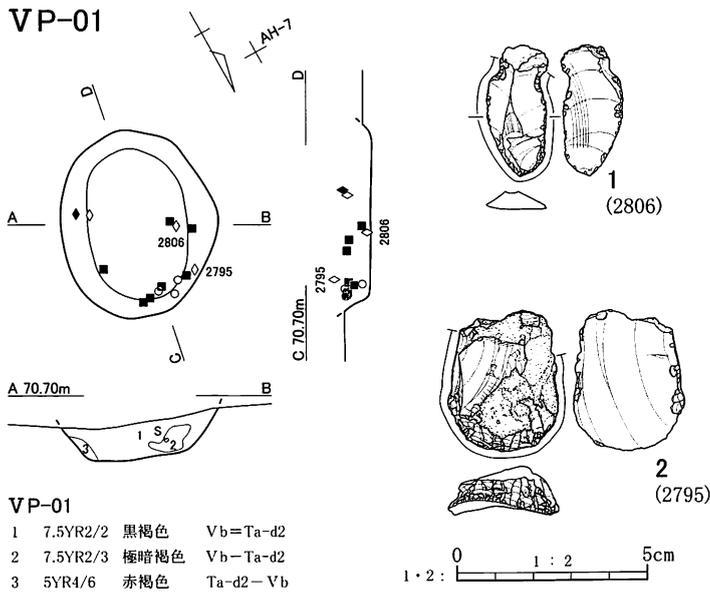
(工藤)

表Ⅱ-36 VP属性表

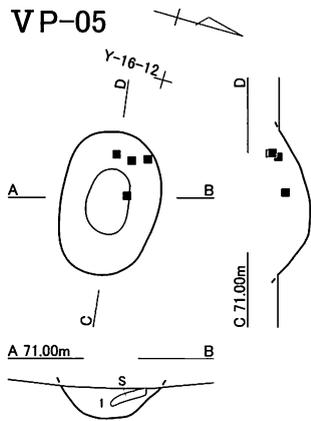
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	長調 短査 比面	長坑 短底 比面	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅱ-38	33-1・2	VP-01	AG-06	VI	楕円形/楕円形	109	88	79	57	19	N-25°E	1.24	1.39	土器3点、石器3点 FC3点、礫7点
	33-3・4	VP-02	AD・AE-07	VI	不整楕円形/ 不整楕円形	102	73	77	44	23	N-37°W	1.40	1.75	
	33-5・6	VP-03	AD・AE-12	VI	円形/円形	227	226	190	182	31	N-9°E	1.00	1.04	礫2点
	33-7・8	VP-04	Y-15	Vc	長楕円形/ 長楕円形	114	66	104	45	5	N-72°W	1.73	2.31	
Ⅱ-39	34-1・2	VP-05	Y-15・16	Vc	楕円形/楕円形	77	53	35	23	16	N-85°E	1.45	1.52	礫4点
	34-3・4	VP-06	I-10	Vc	不整楕円形/ 不整楕円形	92	80	63	55	17	N-51°E	1.15	1.15	礫1点
	34-5	VP-07	W・X-14	VII	円形/楕円形	119	118	84	67	26	N-60°W	1.01	1.25	石器1点、礫1点
	34-6・7	VP-08	AB-07	VII	楕円形/楕円形	(270)	(191)	(257)	(170)	7	N-32°E	1.41	1.51	石器1点、礫4点
Ⅱ-40	34-8 35-1	VP-10	M-10	VII	楕円形/楕円形	52	43	29	20	6	N-25°E	1.21	1.45	
	35-2・3	VP-11	N-10	VII	楕円形/楕円形	50	32	23	10	14	N-65°E	1.56	2.30	
	35-4・5	VP-12	P-09	VII	円形/楕円形	56	55	25	15	20	N-3°W	1.02	1.67	
	35-6・7	VP-13	N・O-11	VII	楕円形/楕円形	56	36	20	15	8	N-55°W	1.56	1.33	
	35-8 36-1	VP-14	J-10	VII	楕円形/楕円形	99	85	89	59	7	N-56°W	1.16	1.51	
	36-2・3	VP-15	J-10	VII	円形/楕円形	120	113	96	82	22	N-12°W	1.06	1.17	

表Ⅱ-37 VP出土石器属性表

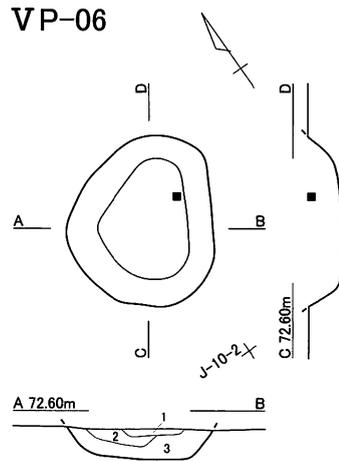
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-38-1	53-1	-	2806	ナイフ・スクレイパー類	A1	VP-01	2	34.6	15.6	6.0	2.6	Obs.	完形
Ⅱ-38-2	53-2	-	2795	ナイフ・スクレイパー類	B2	VP-01	1	37.7	28.5	11.4	11.9	Obs.	完形



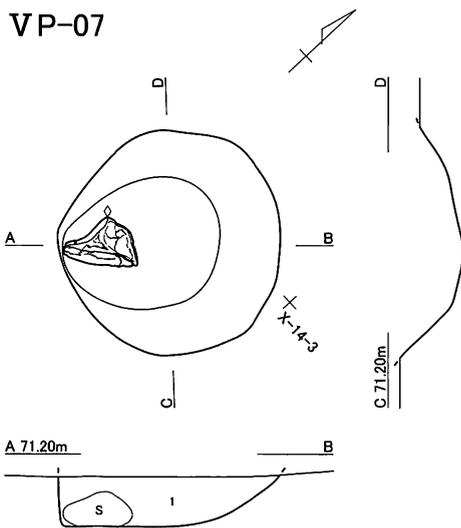
図II-38 VP-01～04 平面及び断面図・出土石器



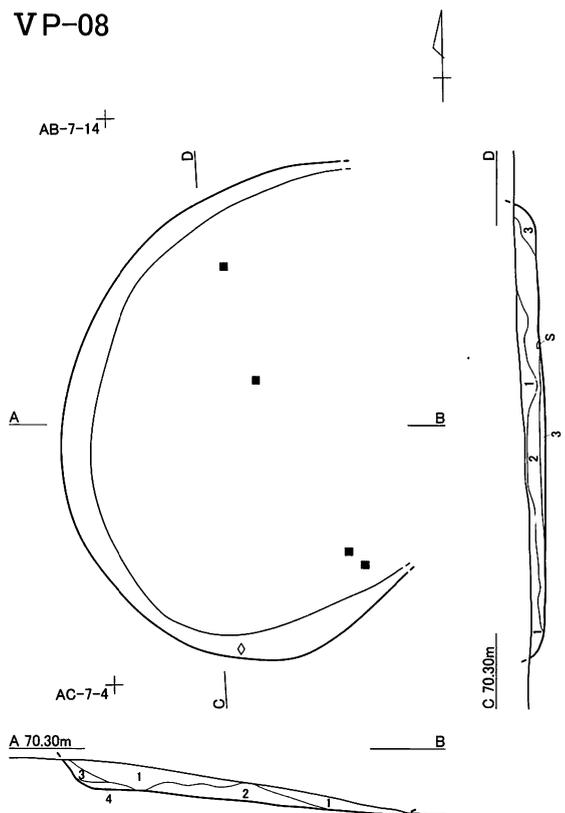
VP-05
I 10YR2/1 黒色 Vb=Ta-d2



VP-06
1 10YR3/2 黒褐色 Vb≡Ta-d2
2 10YR5/3 にぶい黄褐色 Va-Vb
3 10YR5/6 黄褐色 Va≡Vb



VP-07
I 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ta-d2(φ50 ↓)



VP-08
1 10YR3/3 暗褐色 Vb-Ta-d1L
2 7.5YR4/3 褐色 VI=V(φ10 ↓)≡Ta-d2L
3 10YR5/6 黄褐色 Ta-d2L=V
4 5YR5/6 明赤褐色 Ta-d2=V+炭化物

◇ 剥片石器
■ 礫

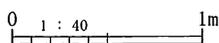
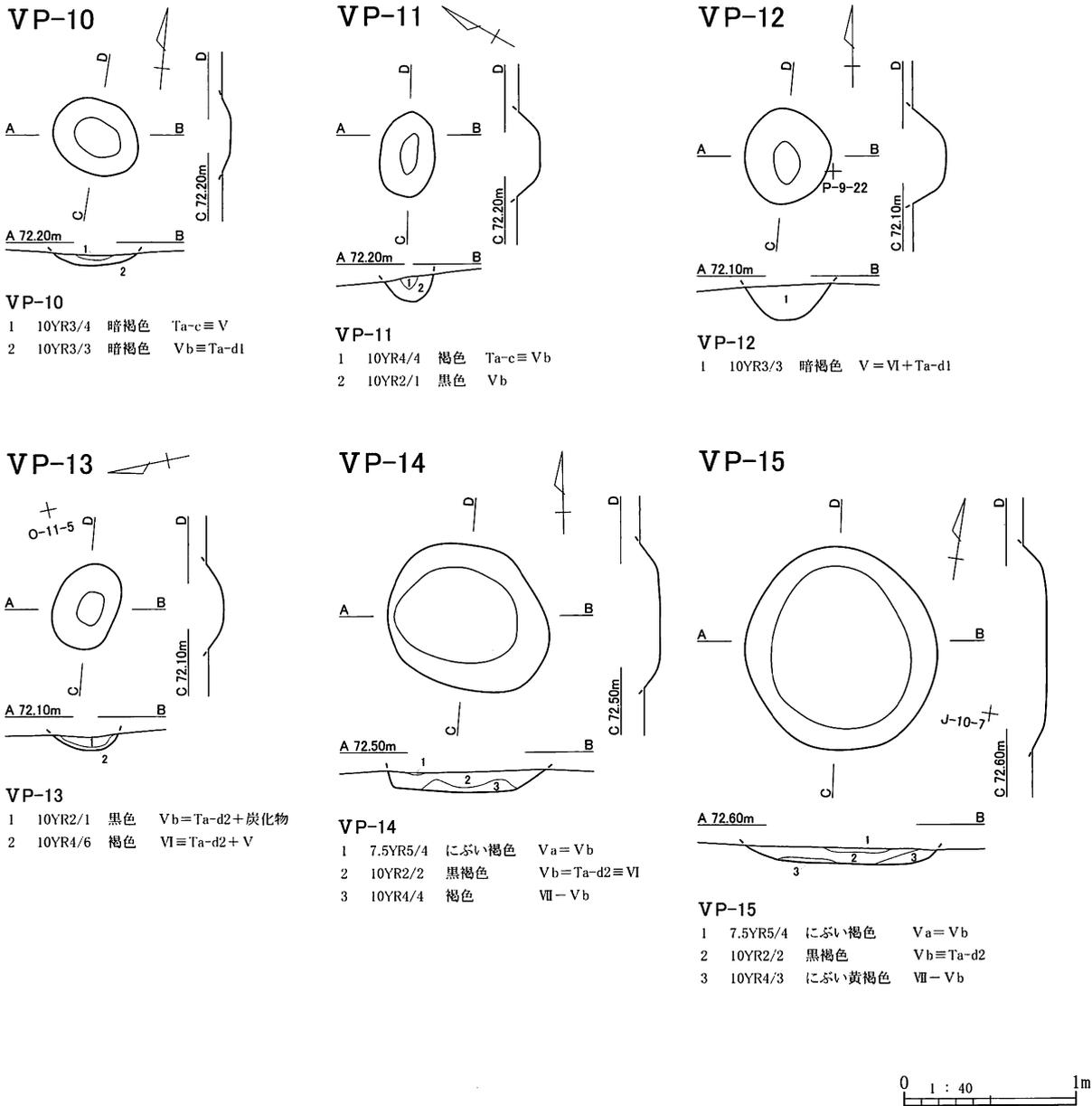


図 II-39 VP-05 ~ 08 平面及び断面図



図II-40 VP-10～15平面及び断面図

第4節 焼土

平成25年の調査により15基、平成26年の調査により6基の計21基を検出した。分布は調査区南端から北西側にVF-01～07・09～12・14・15の13基、中央から西端にVF-08・13・16の3基、調査区北側にVF-17～21の5基がある。重複関係に当たるものはVF-13・18の2基である。確認層位別ではV層が8基、VI層が3基、VII層が10基である。VII層が多い要因としては調査区南側が細い尾根状地形のためVI層が流出し、形成されるべき縄文時代のV層が薄かったと考えられる。VF-03・04・21の3基は掘り込み炉で、屋外に設けた炉である。VF-21からは被熱した破碎礫が多量に出土しているこ

とから集石炉としての機能を有していたと考えられる。焼土は伴出土器から判断し、VF-01・03・04・09・10・14の6基が縄文時代中期後葉のⅢ群B1類土器期に、VF-19が後期前葉のⅣ群B1類土器期に相当する。

すべての焼土は土壌を採取してフローテーション処理を行い、クルミ等の炭化種子を検出している。詳細は種子を分析鑑定された椿坂氏の報文第Ⅲ章第2節を参照していただきたい。

調査方法は検出状況を確認・撮影後に半截し、掘り広げて土層断面を確認・撮影・実測した。その後残り半分を掘り上げ、平面を確認・撮影・実測して終了とした。

VF-01・02 (図Ⅱ-41 図版 36-4~7、53-3)

〔VF-01〕位置：AJ-06 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整楕円形 規模：74×62cm 厚さ：7cm

出土点数：土器2点

〔VF-02〕位置：AJ-06 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整楕円形 規模：54×50cm 厚さ：7cm

出土点数：なし

確認・調査： VSB-07の北側を精査中、南北にVF-01・02が約30cm離れ、暗赤褐色土の広がりとしてⅦ層で検出した。2基同時に検出撮影し、両基の中央にかかるように半截して調査した。断面は2基ともに浅い丸底状を呈する。

出土遺物 (図Ⅱ-41-1)：1はVF-01から出土したⅢ群B1類に属する胴部の土器片である。LR斜縄文を施し、胎土に砂粒を少量含む。

VF-03 (図Ⅱ-41 図版 36-8、53-4)

位置：AJ-05 検出層位：Ⅶ層 平面形：楕円形 規模：102×85cm 厚さ：33cm

出土点数：土器1点、FC1点、礫1点

確認・調査： VSB-07の北側周辺を精査中、焼土・炭化物を含む黒褐色、赤褐色土の落ち込みとしてⅦ層で検出した。窪地状地形の底を利用し、さらにⅦ層を大きく掘り込み構築している。平面は楕円形を呈する。断面は南側が1段深く掘り込み、北側で緩斜面を呈して壁に至り外傾して立ち上がる。

出土遺物 (図Ⅱ-41-2)：2はⅢ群B1類に属する土器の突起部で、VF-03・04周辺グリッドから出土したものと接合して復元した。器形は筒を角ばらせた形で、俯瞰は四辺がふくらんだ長方形を呈する。胴部下半から底部を欠く。口縁部は丸みをもつ「P」の字状肥厚帯がめぐる。小突起4個配置するが、2個現存している。口唇部には半截竹管による押し引文をめぐらす。突起下には「V」の字状沈線文が施されている箇所とされていない箇所がある。地文はLR斜縄文である。胎土は繊維と砂粒を少量含む。

VF-04 (図Ⅱ-42 図版 37-1、53-5・6)

位置：AJ-05 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整楕円形 規模：115×70cm 厚さ：15cm

出土点数：土器18点、FC14点、礫1点

確認・調査： VF-03の完掘撮影のための清掃中、焼土・炭化物を含む暗赤褐色、暗褐色土の落ち込みとしてⅦ層で検出した。南端側で土器が多く出土したことから、土層断面は土器にかかるように半截し、北側から掘り広げた。平面形は東側が道路で削平されているが、不整な楕円形と思われる。底部は平坦で、壁が外傾して立ち上がる掘り込み炉である。

出土遺物 (図Ⅱ-42-1・2)：1は一部が木根にかかり、南端の検出面を主体に出土したⅢ群B1類に属する土器である。口縁部に4個の山形突起を配し、口唇部には丸みをもつ「P」の字状肥厚帯をめぐらす。

ぐらせている。胴部上半は外傾し、口縁部で外反する深鉢形である。胴部下半から底部を欠いている。突起には貼付文、口唇部には貼付文と半截竹管による押引文を施している。口縁部の一部には横位 LR 縄文、胴部には LR 斜縄文を地文として施している。口縁部から胴部には半截竹管による「Y」の字状と横位の組み合わせ貼付文を突起直下と突起間に施している。内面の口縁部は横ミガキ、胴部は縦ミガキが施されている。胎土は繊維と砂粒を少量含む。2 はⅢ群に属する土器で、LR 斜縄文に磨滅がみられ、胎土に砂粒を少量含む。ほかには VF-03 出土土器と接合したⅢ群 B1 類の胴部土器片(図Ⅱ-41-2)がある。

VF-05・06 (図Ⅱ-42 図版 37-2~5)

〔VF-05〕位置：AG-06 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整楕円形 規模：60×50cm 厚さ：8cm

出土点数：なし

〔VF-06〕位置：AG-06 検出層位：Ⅶ層 平面形：楕円形 規模：46×34cm 厚さ：3cm

出土点数：FC1 点

確認・調査：VH-01 と隣接する VP-01 の北側を精査中、北東方向を軸に南に VF-05、北に VF-06 が 10cm ほどの間をおき暗赤褐色の広がりとしてⅦ層で検出した。2 基同時に検出撮影し、両基の中央にかかるように半截して調査した。断面は 2 基ともに皿状を呈する。

出土遺物：VF-06 から黒曜石の FC1 点が出土している。

VF-07 (図Ⅱ-42 図版 37-6・7)

位置：AE-09 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整隅丸方形 規模：62×60cm 厚さ：12cm

出土点数：SFC1 点、FC1 点

確認・調査：TP-12~14 の北側で、Ⅶ層を精査中に検出した。赤褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は浅い丸底状を呈する。

出土遺物：緑色泥岩の SFC と被熱痕の認められる黒曜石の FC が、各 1 点出土している。

VF-08 (図Ⅱ-43 図版 37-8、38-1)

位置：AC-12 検出層位：Ⅵ層 平面形：不整楕円形 規模：68×58cm 厚さ：3cm

出土点数：礫 14 点

確認・調査：TP-31 の東側周辺を精査中、Ⅵ層で検出した。暗赤褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

出土遺物：検出面を主体に被熱の認められる砂岩の破碎礫 14 点が出土している。

VF-09 (図Ⅱ-43 図版 38-2・3、53-7)

位置：AG-07 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整楕円形 規模：47×43cm 厚さ：6cm

出土点数：土器 1 点

確認・調査：TP-05、VSB-09 の南側を精査中、Ⅶ層で検出した。にぶい赤褐色土の周りに炭化物を含むリング状暗褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

出土遺物 (図Ⅱ-43-1)：1 は LR 斜縄文を施す胴部片で、Ⅲ群 B1 類に属する土器である。胎土には砂粒を少量含む。

VF-10 (図Ⅱ-43 図版 38-4・5、53-8)

位置：AC-08 検出層位：Ⅶ層 平面形：不整隅丸方形 規模：68×54cm 厚さ：7cm

出土点数：土器 4 点

確認・調査：VH-03 の西側周辺を精査中、VII層で検出した。断面は総じて凹凸のある皿状を呈する。

出土遺物（図II-43-2）：Ⅲ群 B1 類に属する土器の胴部 4 点が出土している。そのうち 1 点を掲載した。2 は無文で、胎土には砂粒を少量含む。

VF-11（図II-43 図版 38-6・7）

位置：AG-07 検出層位：VI層 平面形：楕円形 規模：45×37cm 厚さ：5cm

出土点数：なし

確認・調査：TP-05 の東側を精査中、VI層で検出した。赤褐色土の周りに炭化物を含むリング状褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

VF-12（図II-43 図版 38-8、39-1）

位置：AB-09 検出層位：VI層 平面形：不整楕円形 規模：63×55cm 厚さ：8cm

出土点数：なし

確認・調査：VSB-19 の東側を精査中、VI層で検出した。褐色土の周りに炭化物を含むリング状明褐色土の広がりがある。断面は底の東側が若干深くなり、西側が浅い皿状を呈する。

VF-13（図II-43 図版 39-2・3）

位置：AB-14 検出層位：Vc層 平面形：楕円形 規模：54×46cm 厚さ：12cm

出土点数：なし

確認・調査：TP-26 を精査中、中央に一部が重複した状態で、Vc層で検出した。暗褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

VF-14・15（図II-43 図版 39-4～7）

〔VF-14〕位置：AB-08 検出層位：Vc層 平面形：不整楕円形 規模：35×27cm 厚さ：4cm

出土点数：土器 2 点

〔VF-15〕位置：AB-08 検出層位：Vc層 平面形：不整楕円形 規模：40×27cm 厚さ：3cm

出土点数：なし

確認・調査：VP-08 の西側周辺を精査中、北東軸に 50 cm ほどの間をおいて南に VF-14、北に VF-15 を Vc 層で検出した。2 基同時に検出撮影し、両基の中央にかかるように半截して調査した。断面は皿状を呈する。

出土遺物：細片のため掲載しなかったが、VF-14 からⅢ群 B1 類に属する土器が出土している。

VF-16（図II-43 図版 39-8、40-1）

位置：X-18 検出層位：VbL層 平面形：楕円形 規模：48×42cm 厚さ：6cm

出土点数：なし

確認・調査：TP-37 の北側を精査中、VbL層で検出した。褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は底が若干凹凸のある皿状を呈する。

VF-17（図II-44 図版 40-2・3）

位置：I-14 検出層位：VbL層 平面形：楕円形 規模：52×39cm 厚さ：9cm

出土点数：なし

確認・調査：調査区北側を精査中、VbL層で確認した。にぶい赤褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

VF-18 (図Ⅱ-44 図版 40-4・5)

位置：J-09 検出層位：VbM層 平面形：不整楕円形 規模：112×81cm 厚さ：8cm

出土点数：FC4点

確認・調査：VH-06の北部を精査中、VbM層で検出した。褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

出土遺物：黒曜石のFC4点が出土している。

VF-19 (図Ⅱ-44 図版 40-6・7、53-9)

位置：I-13 検出層位：VbL層 平面形：楕円形 規模：42×27cm 厚さ：5cm

出土点数：土器1点

確認・調査：調査区北側でVbL層を精査中、炭化物を含む褐色の焼土を検出した。断面は皿状を呈する。

出土遺物(図Ⅱ-44-1)：1は北側の検出面から出土したミニチュア土器の口縁部で、IV群B1類に属する。LR斜縄文を施し、胎土には砂粒を少量含んでいる。

VF-20 (図Ⅱ-44 図版 40-8、41-1)

位置：L-11 検出層位：VbL層 平面形：不整楕円形 規模：65×51cm 厚さ：8cm

出土点数：FC3点

確認・調査：調査区北側を精査中、VbL層で検出した。明褐色土の周りに炭化物を含むリング状黒褐色土の広がりがある。断面は皿状を呈する。

出土遺物：黒曜石のFC3点が出土している。

VF-21 (図Ⅱ-44 図版 41-2～4、66-2)

位置：I-08・09 検出層位：VII層 平面形：不整楕円形 規模：110×108cm 厚さ：26cm

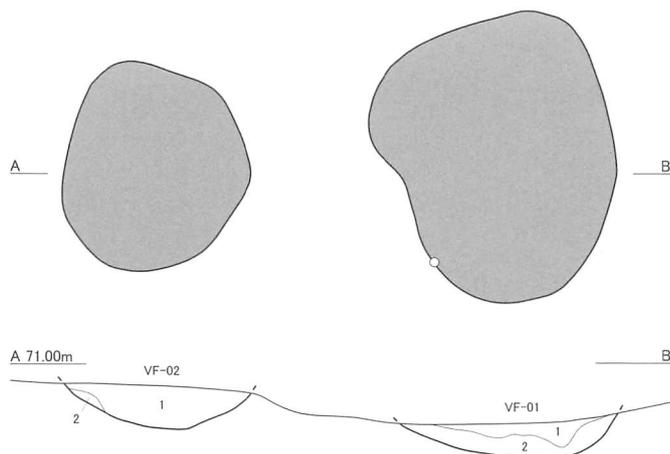
出土点数：FC21点、礫51点

確認・調査：VH-06の北側周辺を精査中、にぶい黄褐色土と周囲にリング状の黒褐色土を主体とする落ち込みをVII層で検出した。調査途中で、焼土東側の覆土上位で礫の集中を確認した。礫集中土坑を想定して遺物を検出した。礫群を検出し、記録・撮影して取り上げた後、さらに土坑の東側が楕円形に落ち込んでいることがわかった。半截して断面を観察して、実測・撮影を行った。その結果、焼土を主体とする掘り込み炉であることが判明した。平面形は不整な楕円形を呈する。底面は西側が浅く平坦で、東側が楕円形を呈して1段深くなり、底は丸みをもって立ち上がる。

出土遺物：FCは黒曜石で、21点中14点に被熱痕が認められた。礫は51点あり砂岩で、すべて破砕している。そのうち9割ほどに被熱痕が認められた。接合の結果、礫は大型の扁平礫5個体以上からなり、総重量は24.5kgである。

(工藤)

VF-01・02

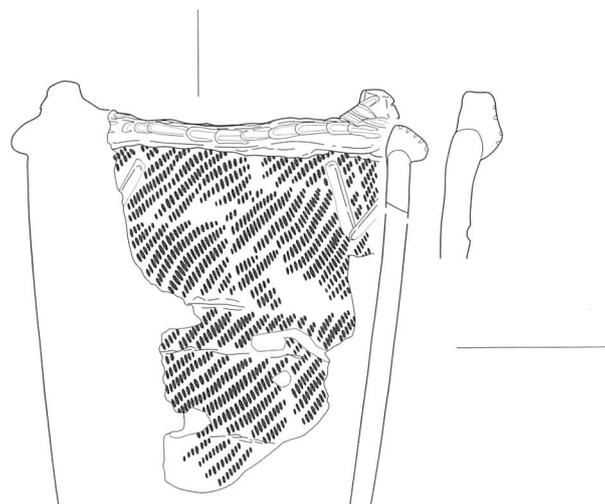
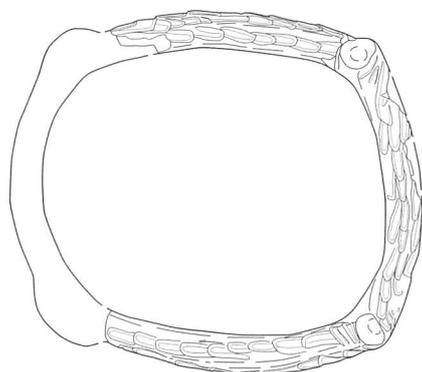
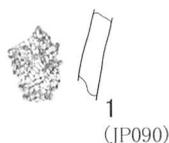


VF-01

- 1 5YR3/6 暗赤褐色 焼土=V+炭化物
- 2 2.5YR4/6 赤褐色 焼土-Ta-d2

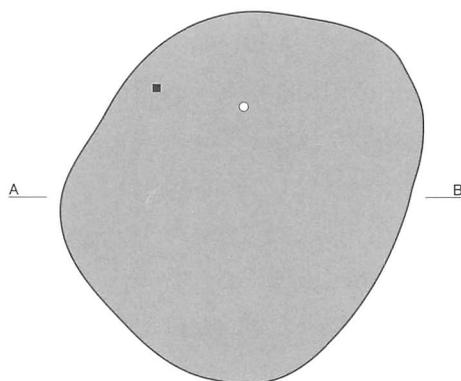
VF-02

- 1 5YR3/4 暗赤褐色 焼土-V+炭化物
- 2 5YR3/6 暗赤褐色 焼土=V+炭化物

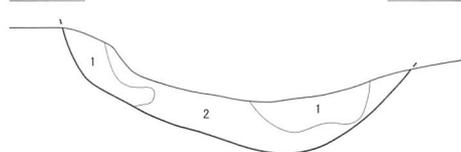


VF-03

AJ-5-15+



VF-03



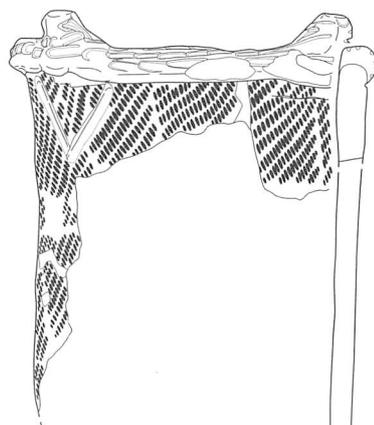
VF-03

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 Vb-焼土-炭化物
- 2 5YR4/6 赤褐色 焼土-Ta-d2+炭化物

0 1 : 20 50cm



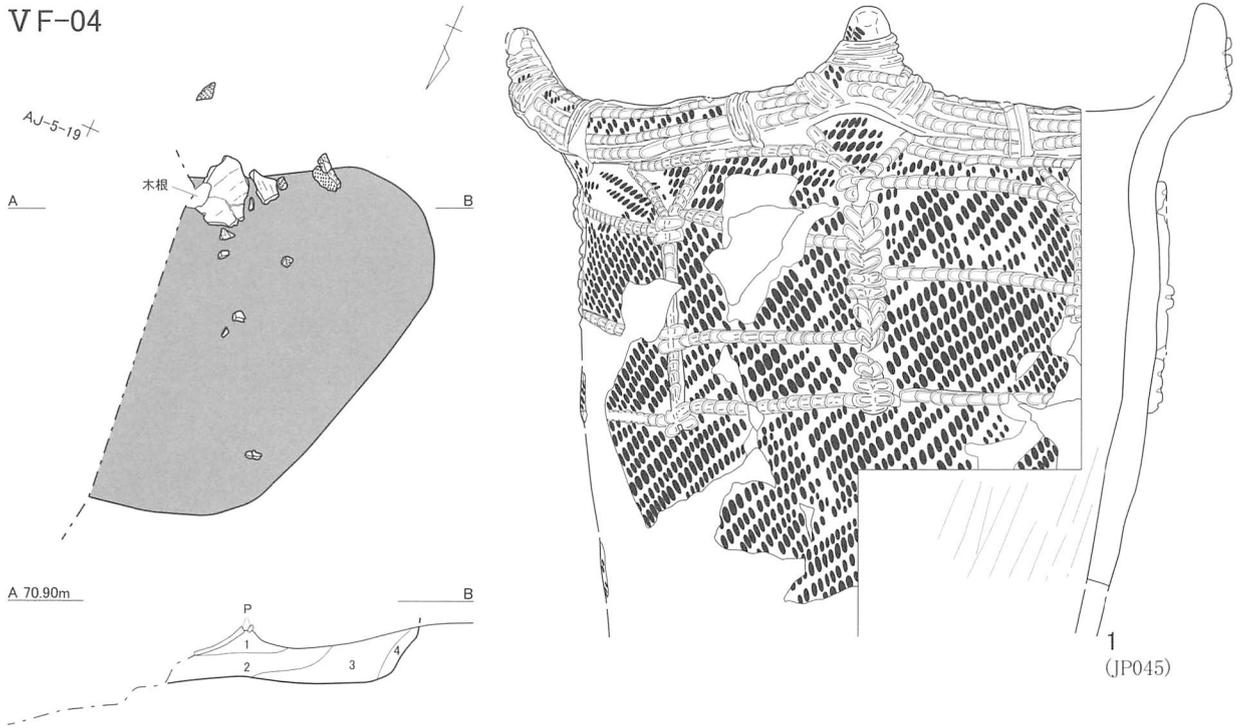
0 1 : 3 5cm
1 : 2 :



2
(JP033AB)

図Ⅱ-41 VF-01～03 平面及び断面図・出土土器

VF-04

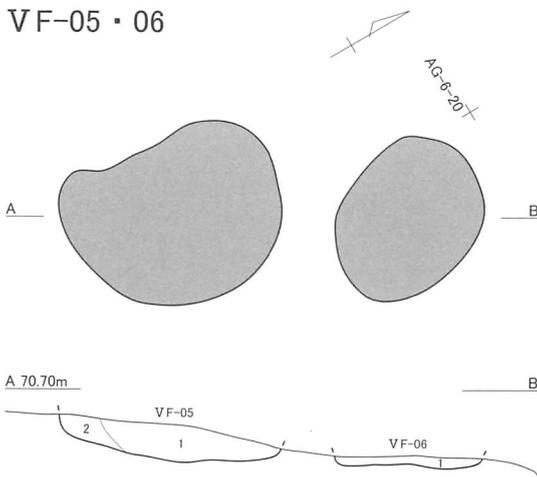


VF-04

- | | | | |
|---|----------|-----|--------------------|
| 1 | 5YR4/6 | 赤褐色 | 焼土=Ta-d2+炭化物 |
| 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ta-d1+炭化物+焼土 |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | 焼土=Ta-d1+Ta-d2+炭化物 |
| 4 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ta-d2 |



VF-05・06



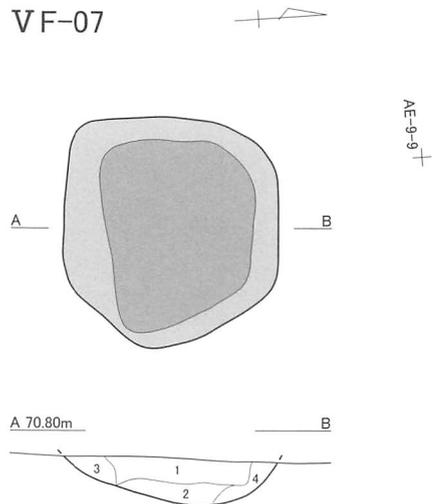
VF-05

- | | | | |
|---|--------|------|--------------|
| 1 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | 焼土=Ta-d2≒炭化物 |
| 2 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | 焼土≒炭化物 |

VF-06

- | | | | |
|---|--------|------|--------|
| 1 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | 焼土≒炭化物 |
|---|--------|------|--------|

VF-07



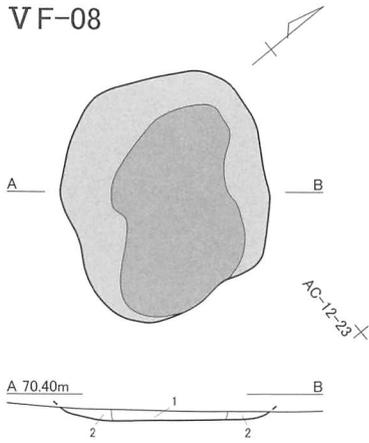
VF-07

- | | | | |
|---|---------|-----|------------|
| 1 | 5YR4/8 | 赤褐色 | 焼土=V≒炭化物 |
| 2 | 5YR4/8 | 赤褐色 | 焼土≒炭化物 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb-焼土 |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb=焼土(φ5↓) |



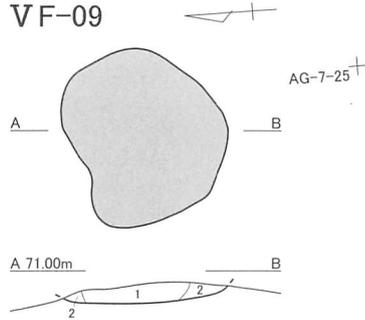
図II-42 VF-04～07 平面及び断面図・出土土器

VF-08

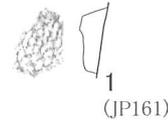


- VF-08
 1 5YR3/6 暗赤褐色 焼土=V
 2 10YR3/2 黒褐色 V=焼土

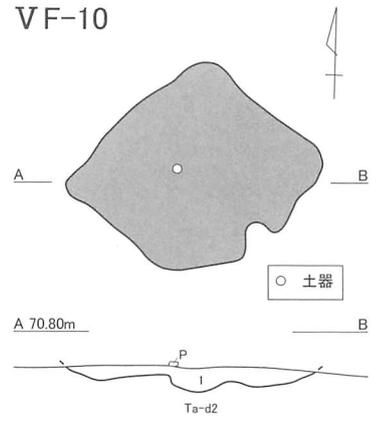
VF-09



- VF-09
 1 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土=V
 2 7.5YR3/3 暗褐色 V=焼土

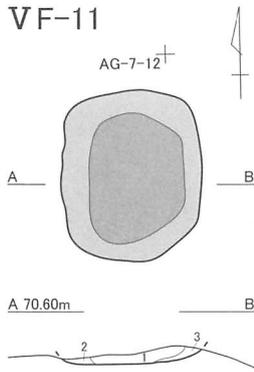


VF-10



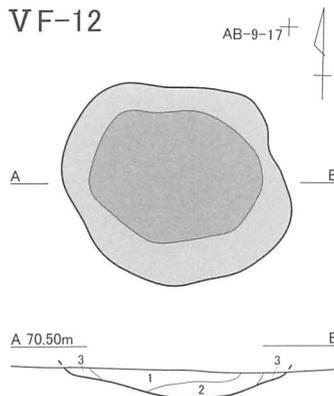
- VF-10
 1 2.5YR4/6 赤褐色 焼土
 2 (JP091)

VF-11



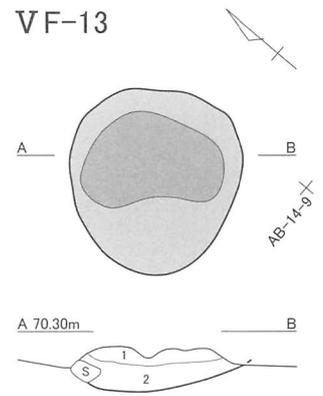
- VF-11
 1 2.5YR4/6 赤褐色 焼土≒V+炭化物
 2 7.5YR4/3 褐色 V=焼土
 3 7.5YR3/3 暗褐色 V=焼土≒炭化物

VF-12



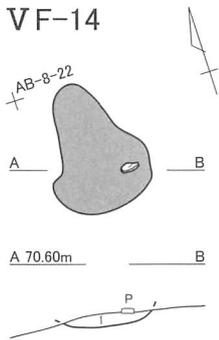
- VF-12
 1 7.5YR4/3 褐色 焼土≒炭化物
 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土=Vb
 3 10YR3/3 暗褐色 V=焼土

VF-13

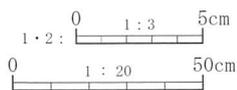


- VF-13
 1 5YR3/4 暗赤褐色 焼土=Vb≒炭化物
 2 7.5YR2/1 黒色 V=焼土(φ10↓)≒炭化物

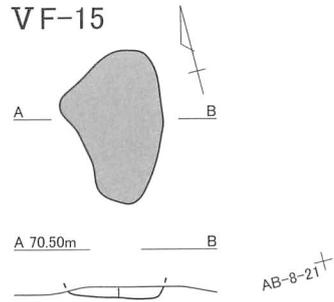
VF-14



- VF-14
 1 5YR4/6 赤褐色 焼土=Vb

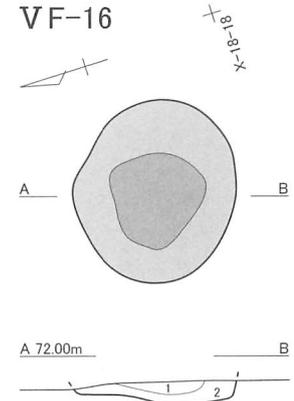


VF-15



- VF-15
 1 5YR4/6 赤褐色 焼土≒炭化物

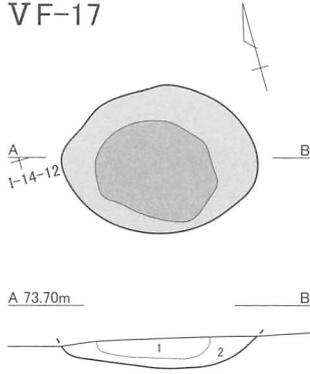
VF-16



- VF-16
 1 7.5YR4/6 褐色 焼土-Vb≒炭化物
 2 7.5YR3/1 黒褐色 Vb=焼土≒炭化物

図Ⅱ-43 VF-08～16 平面及び断面図・出土土器

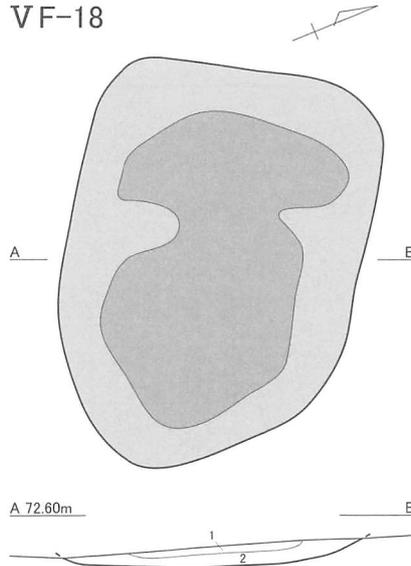
VF-17



VF-17

- 1 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土
- 2 10YR3/1 黒褐色 Vb≡焼土+炭化物

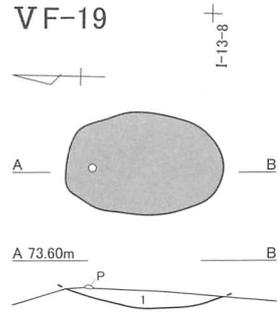
VF-18



VF-18

- 1 7.5YR4/4 褐色 焼土-Vb+灰≡炭化物
- 2 10YR3/1 黒褐色 V≡焼土+灰≡炭化物

VF-19

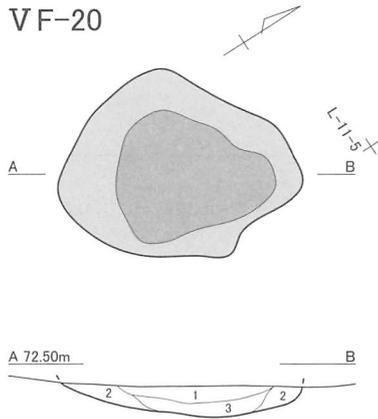


VF-19

- 1 7.5YR4/4 褐色 焼土-V≡炭化物



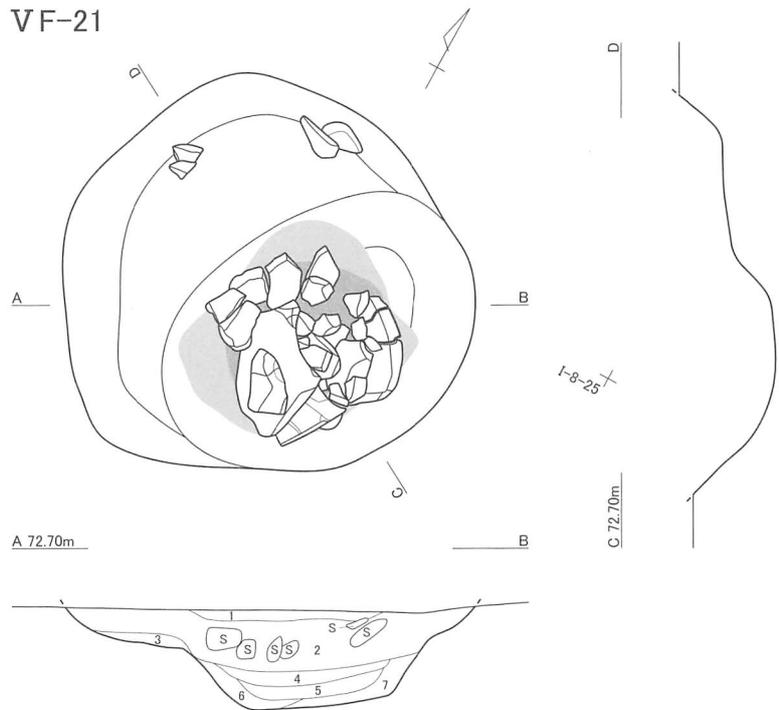
VF-20



VF-20

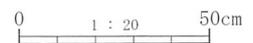
- 1 5YR8/4 淡橙褐色 焼土=V≡Ta-d2
- 2 10YR3/1 黒褐色 Vb=焼土≡Ta-d2
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 Vb≡Ta-d2

VF-21



VF-21

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色 Va-Vb
- 2 10YR3/2 黒褐色 Vb=VI(φ5↓)≡Ta-d1
- 3 10YR3/3 暗褐色 Vb-Ta-d1
- 4 10YR2/1 黒色 Vb+炭化物≡焼土
- 5 5YR4/8 赤褐色 焼土-Ta-d1=Vb+炭化物
- 6 10YR2/2 黒褐色 Vb=Ta-d1≡焼土+炭化物
- 7 10YR4/4 褐色 VI≡Ta-d1+焼土+Vb



図II-44 VF-17～21 平面及び断面図・出土土器

表Ⅱ-38 VF属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-41	36-4・5	VF-01	AJ-06	Ⅶ	不整楕円形	74	62	7	無	土器2点
	36-6・7	VF-02	AJ-06	Ⅶ	不整楕円形	54	50	7	無	
	36-8	VF-03	AJ-05	Ⅶ	楕円形	102	85	33	無	掘り込み炉、土器1点、FC1点、礫1点
Ⅱ-42	37-1	VF-04	AJ-05	Ⅶ	不整楕円形	115	70	15	無	掘り込み炉、道路により一部削平 土器18点、FC14点、礫1点
	37-2・3	VF-05	AG-06	Ⅶ	不整楕円形	60	50	8	無	
	37-4・5	VF-06	AG-06	Ⅶ	楕円形	46	34	3	無	FC1点
	37-6・7	VF-07	AE-09	Ⅶ	不整隅丸方形	62	60	12	無	SFC1点、FC1点
Ⅱ-43	37-8、38-1	VF-08	AC-12	Ⅵ	不整楕円形	68	58	3	無	礫14点
	38-2・3	VF-09	AG-07	Ⅶ	不整楕円形	47	43	6	無	土器1点
	38-4・5	VF-10	AC-08	Ⅶ	不整隅丸方形	68	54	7	無	土器4点
	38-6・7	VF-11	AG-07	Ⅵ	楕円形	45	37	5	無	
	38-8、39-1	VF-12	AB-09	Ⅵ	不整楕円形	63	55	8	無	
	39-2・3	VF-13	AB-14	Vc	楕円形	54	46	12	無	
	39-4・5	VF-14	AB-08	Vc	不整楕円形	35	27	4	無	土器2点
	39-6・7	VF-15	AB-08	Vc	不整楕円形	40	27	3	無	
Ⅱ-44	39-8、40-1	VF-16	X-18	VbL	楕円形	48	42	6	無	
	40-2・3	VF-17	I-14	VbL	楕円形	52	39	9	無	
	40-4・5	VF-18	J-09	VbM	不整楕円形	112	81	8	無	FC4点
	40-6・7	VF-19	I-13	VbL	楕円形	42	27	5	無	土器1点
	40-8、41-1	VF-20	L-11	VbL	不整楕円形	65	51	8	無	FC3点
	41-2~4	VF-21	I-08・09	Ⅶ	不整楕円形	110	108	26	無	掘り込み炉、FC21点、礫51点

※属性表内、フローテーション処理で抽出したFC点数を加えてある。

表Ⅱ-39 VF出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-41-1	53-3	JP090	ⅢB1	VF-01	1	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-41-2	53-4	JP033A	ⅢB1	AG-08	Vb	2	口縁部 ~胴部	突起- 断面P字状 肥厚帯・ 直立	半截竹管による 押引文・ 沈線文・ LR斜縄文/ LR斜縄文	砂粒少量	
		AH-08		2							
		VF-03		2	1						
		VF-04		1	1						
		AG-08		Vb	1						
Ⅱ-42-1	53-5	JP045	ⅢB1	AJ-05	Vb	1	口縁部 ~胴部	山形突起- 外反- 断面P字状 肥厚帯/ 外傾	貼付帯・ 半截竹管文・ ミガキ- 貼付文・ 半截竹管文・ LR斜縄文- ミガキ	砂粒・ 繊維少量	
				VF-04		1					3
				AD-09		Vb					1
				AF-09	Vb	1					
				AI-06	Vb	1					
				AI-07	Vb	1					
				AI-07	Vc	2					
				AJ-05	Vb	3					
				AJ-05	Vc	1					
AJ-06	V	1									
AJ-06	Vb	2									
AJ-07	Vb	6									
AJ-07	Vc	1									
Ⅱ-42-2	53-6	JP092	Ⅲ	VF-04	1	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-43-1	53-7	JP161	ⅢB1	VF-09	1	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-43-2	53-8	JP091	ⅢB1	VF-10	1	1	胴部	外傾	無文	砂粒少量	
Ⅱ-44-1	53-9	JP146	ⅣB1	VF-19	1	1	口縁部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	ミニチュア

第5節 土器集中

平成25年・26年の調査により計12カ所を検出した。このうちVPB-01・02は互いに近接し出土するが接合関係は確認できなかった。VPB-03・04は、VSB-04・05・07の周辺にあり検出層位が近いがそれぞれ個別の遺構として取り扱った。VPB-05はTP-14より上位で確認されており、これよりも新しいことが判明した。同様の関係はVPB-07とTP-26でも確認できた。VPB-06・08～11は単独で検出されているため、ほかの遺構との関係をうかがうことはできない。VPB-12はVF-14の検出面に極めて近接して出土しており、この両遺構は同時性が考えられる。時期別ではⅢ群A類はVPB-10の1カ所、Ⅲ群B2類はVPB-03・04・08・12の4カ所、Ⅳ群A2類はVPB-01・02・05・07・09・11の6カ所、Ⅳ群B1類はVPB-06の1カ所である。

調査方法は検出状況を確認し、撮影した後に平断面図を作成し、遺物を取り上げた。

VPB-01 (図Ⅱ-45 図版41-5、54-1～3)

位置：AG-12 層位：Va層 規模：64×51cm

出土点数：土器83点

確認・調査：調査区の南斜面に位置し、V層上部で検出した。

出土遺物(図Ⅱ-45-1～3)：1・2は口唇部が角状となる口縁部である。口縁部が肥厚しているように見えるが、工具により器面を削り取り、肥厚帯を意識したように口縁部が区画される。口唇部にはLR縄文が施され、工具により削り取られ無文地になった部分には小型の円形刺突文が施される。胴部はLR縄文原体で斜位・横位の縄文が施される。3は胴部で幅広の貼付帯が認められる。胴部と貼付帯ともにLR縄文が施される。1～3はいずれもⅣ群A2類に属する土器である。

VPB-02 (図Ⅱ-45 図版41-6、54-4・5)

位置：AG-12 層位：VbU層 規模：82×44cm

出土点数：土器102点、礫1点

確認・調査：VPB-01と同様、斜面にかかりVbU層で検出した。VPB-01・02は1mほどの距離をおいて検出した。

出土遺物(図Ⅱ-45-4・5)：4・5はいずれもⅣ群A2類に属する胴部の土器片で、地文と幅広の貼付帯にLR縄文が施される。

VPB-03 (図Ⅱ-45 図版41-7、54-6)

位置：AH-07・08 層位：VbM層 規模：24×18cm

出土点数：土器22点

確認・調査：調査区南端の斜面に位置し、Vb層で検出した。遺構確認時点でVF-01・02との関係を考慮して周辺を精査したがこれらの遺構に接合する遺物がなく、時期差の判断はできなかった。

出土遺物(図Ⅱ-45-6)：6はⅢ群B1類に属する底部の土器片である。器面にはLR縄文が施され、底面には植物の茎と思われる痕跡が認められる。

VPB-04 (図Ⅱ-46 図版41-8、54-7・8)

位置：AI・AJ-06 層位：Vb層 規模：125×104cm

出土点数：土器52点、礫3点

確認・調査：V層上部の調査中、土器片が出土しており、これを土器集中と捉え遺構の付番をし、調査を行った。

出土遺物（図Ⅱ-46-1・2）：1は口縁部が肥厚し、これに半截竹管により押圧文が施される。肥厚帯下部の口縁部にはRLR複節縄文が施される。2は1と異なる個体の土器で胴部にLR縄文が施される。いずれもⅢ群B1類に属する土器である。

VPB-05（図Ⅱ-46・47 図版42-1、54-9～15）

位置：AE-09・10 層位：Va～VbM層 規模：156×133cm

出土点数：土器129点、石器3点、礫19点

確認・調査：VSB-01・16、VF-07周辺の遺構とともにほぼ同じレベルで検出した。

出土遺物（図Ⅱ-47-1～7）：1～4はⅣ群A2類に属する土器である。1は口唇部が角状となり、LR縄文が施される。2は口縁部が肥厚し、この下位は階段状の肥厚帯になる。地文に縄文が施されたのち、縄端圧痕による下から突き上げる刺突文がつけられる。3・4にはLR縄文が胴部、貼付帯に施される。5はポイント類A4類で不明瞭な基部を有する石鏃であり、柄の部分が欠損している。6・7はたたき石でいずれも欠損している。このうち6は平坦部と上部側縁に、7には両面平坦部と側縁部にたたき痕が認められる。

VPB-06（図Ⅱ-48 図版42-2、54-16・17）

位置：AB-13 層位：Va層 規模：148×108cm

出土点数：土器216点、石器3点、FC1点、礫6点

確認・調査：倒木痕の窪みで検出した。

出土遺物（図Ⅱ-48-1・2）：1はⅣ群B1類に属し、小型の山形突起を4ヵ所にもつ土器と思われる。口縁部はほぼ直立し胴部下半よりややすぼまる器形を呈する。器面が一部剥落するがLR縄文が施される。2はナイフ・スクレイパー類でつまみ部分を欠損する。器面上部には火ハネが認められる。

VPB-07（図Ⅱ-48 図版42-3、55-1～3）

位置：AB-14 層位：VbU層 規模：39×26cm

出土点数：土器25点

確認・調査：TP-26の上部で検出した。

出土遺物（図Ⅱ-48-3～5）：3～5はⅣ群A2類に属する土器である。3は口縁部片で、下から突き上げる縄端圧痕が施されている。4・5は胴部片でLR縄文施文後に表面をナデ成形している。

VPB-08（図Ⅱ-49 図版42-4、55-4・5）

位置：W-12・13 層位：Va～VbU層 規模：137×110cm

出土点数：土器117点、石器1点、礫37点

確認・調査：北向きの平坦部から斜面にかかる位置で出土する。

出土遺物（図Ⅱ-49-1・2）：1・2はⅢ群B1類に属する同一個体の土器である。胴部と底部は接合できなかった。胴部には垂下する貼付文に半截竹管の刻みを施し、同工具で横位の沈線を描く。縄文は直前段多条LRで、縄文は底面まで施される。内面は比較的良好にミガキが施されている。

VPB-09（図Ⅱ-49 図版42-5、55-6）

位置：Z-16 層位：Va層 規模：157×127cm

出土点数：土器98点、石器1点、礫4点

確認・調査：V層上面精査中に検出された。検出の範囲はほかの土器集中に比較して規模の大きなものである。

出土遺物 (図II-49-3) : 3 はIV群 A2 類に属する土器である。胴部に羽状縄文を施し、2 条の貼付帯にはLR 縄文が施される。

VPB-10 (図II-50 図版 42-6、55-7)

位置 : P-10 層位 : VbM 層 規模 : 69×43cm

出土点数 : 土器 30 点、礫 3 点

確認・調査 : V層上面を精査中に検出された。検出層位はVbM層である。

出土遺物 (図II-50-1) : 1 はIII群 A 類の土器である。胴部の最下部と底部が復元される。結束第2種羽状縄文が施される。底部はやや上げ底で、内・外面ともにナデ調整される。

VPB-11 (図II-50 図版 42-7、55-8)

位置 : AC-11 層位 : VbL 層 規模 : 18×16cm

出土点数 : 土器 10 点

確認・調査 : 調査終了写真撮影のため、一部残っていたV層最下部を精査中に検出した。

出土遺物 (図II-50-2) : 2 はIV群 A2 類に属する土器で、口唇部は断面角状となり LR 縄文が施される。口縁部は幅広く肥厚し、この中ほどに竹管状工具で横位沈線状の窪み線が認められる。肥厚帯下位の器面には LR 縄文が施された後に縄端による刺突文が施される。

VPB-12 (図II-50 図版 39-4、55-9~11)

位置 : AB-08 層位 : VbL 層 規模 : 26×13cm

出土点数 : 土器 14 点、FC1 点

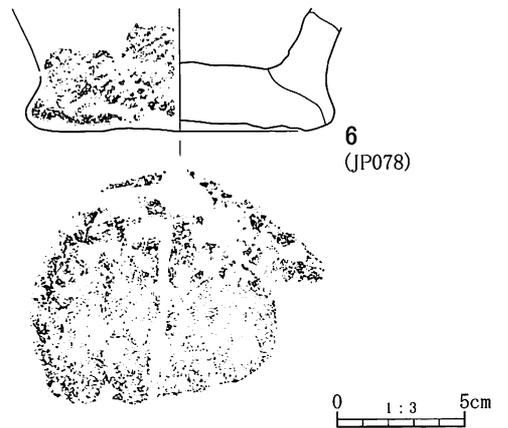
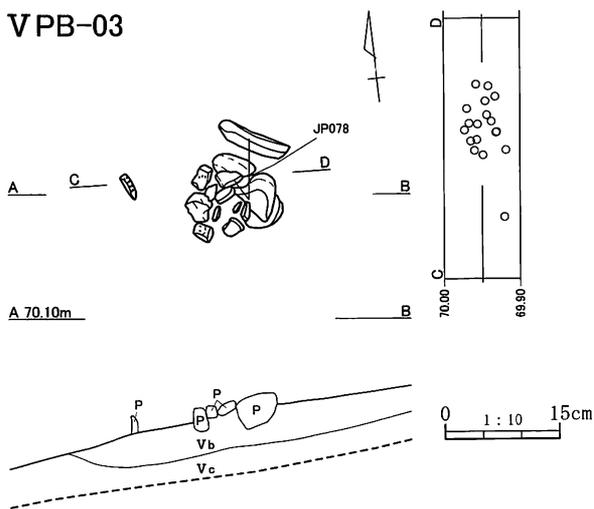
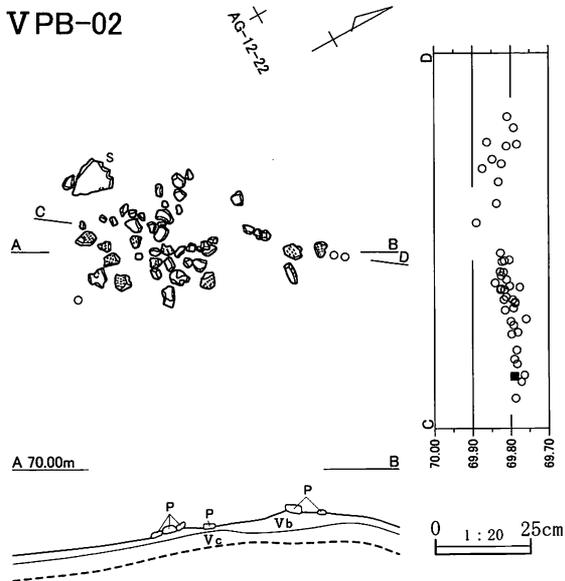
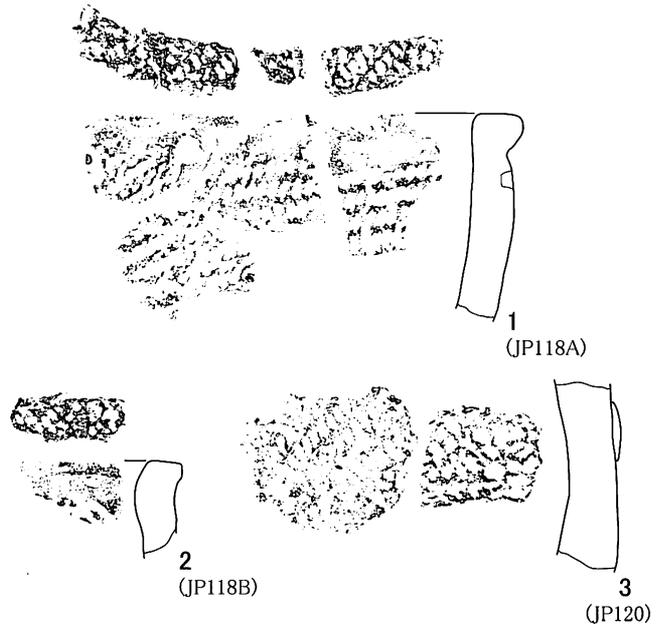
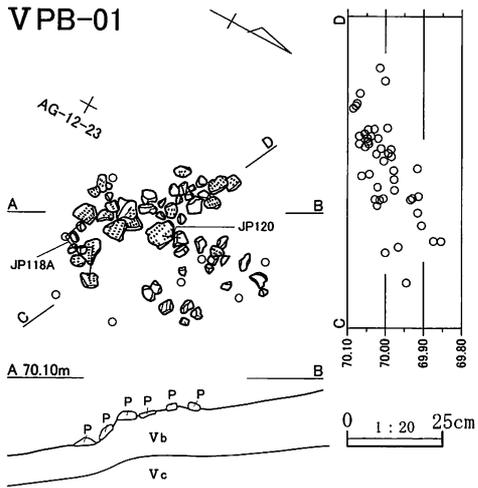
確認・調査 : VF-14 の調査中に同一レベルよりまとまって土器が出土した。当初VF-14 の遺物として取り上げたが、これを新たに土器集中とした。

出土遺物 (図II-50-3~5) : 3~5 はIII群 B1 類に属する同一個体の土器で、LR 縄文が施される。内面はナデ調整される。

(長谷川)

表II-40 VPB属性表

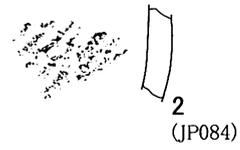
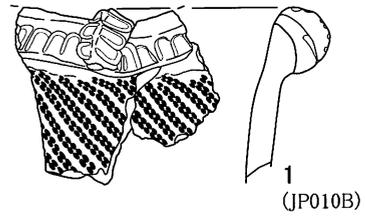
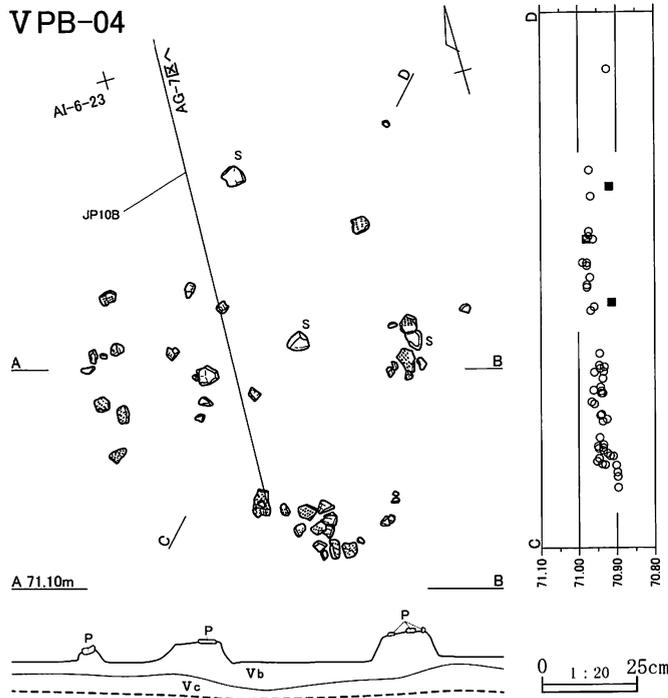
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
II-45	41-5	VPB-01	AG-12	Va	-	64	51	-	土器83点
	41-6	VPB-02	AG-12	VbU	-	82	44	-	土器102点、礫1点
	41-7	VPB-03	AH-07・08	VbM	-	24	18	-	土器22点
II-46	41-8	VPB-04	AI・AJ-06	Vb	-	125	104	-	土器52点、礫3点
	42-1	VPB-05	AE-09・10	Va~VbM	-	156	133	-	土器129点、石器3点、礫19点
II-48	42-2	VPB-06	AB-13	Va	-	148	108	-	土器216点、石器3点、FC1点、礫6点
	42-3	VPB-07	AB-14	VbU	-	39	26	-	土器25点
II-49	42-4	VPB-08	W-12・13	Va~VbU	-	137	110	-	土器117点、石器1点、礫37点
	42-5	VPB-09	Z-16	Va	-	157	127	-	土器98点、石器1点、礫4点
II-50	42-6	VPB-10	P-10	VbM	-	69	43	-	土器30点、礫3点
	42-7	VPB-11	AC-11	VbL	-	18	16	-	土器10点
	39-4	VPB-12	AB-08	VbL	-	26	13	-	土器14点、FC1点



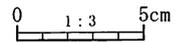
○ 土器
■ 礫

図Ⅱ-45 VPB-01～03 平面・断面・垂直分布図・出土土器

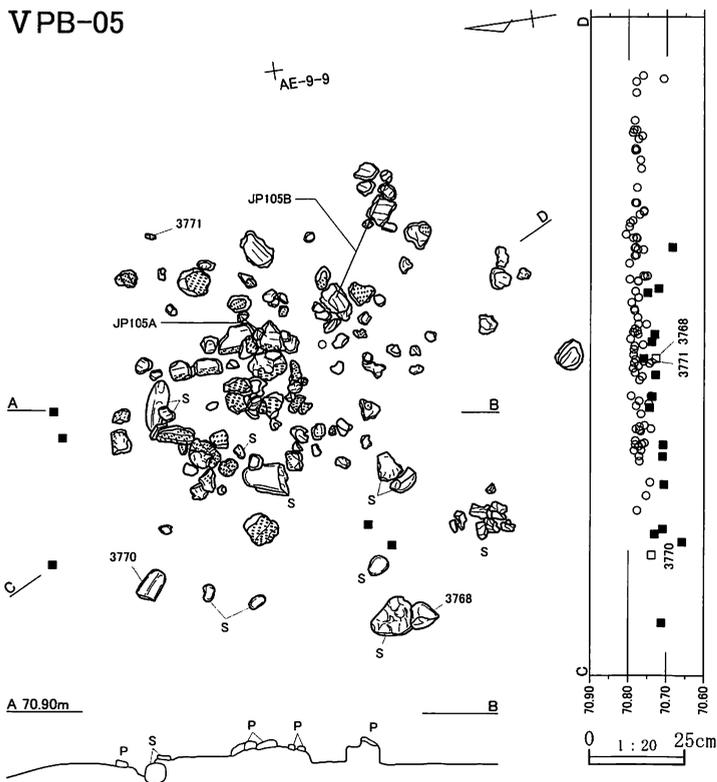
VPB-04



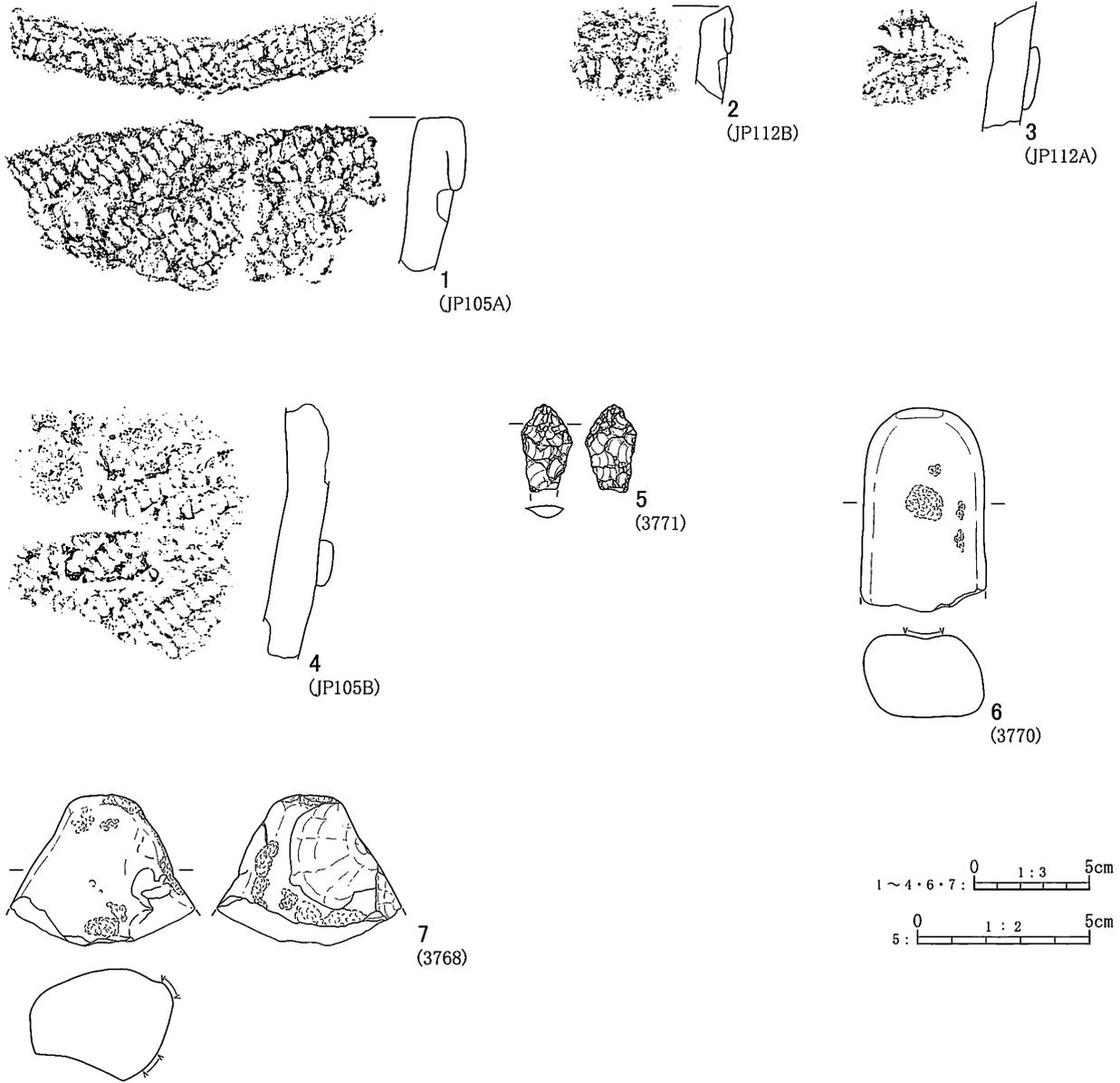
- 土器
- ◇ 剥片石器
- 礫石器
- 礫



VPB-05

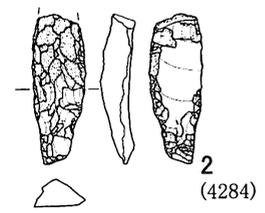
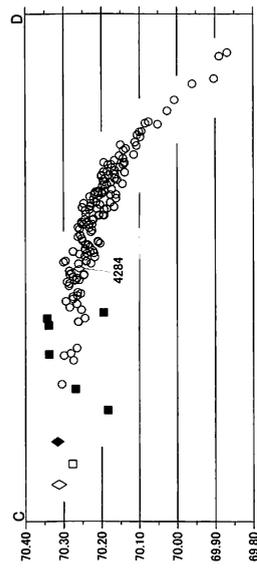
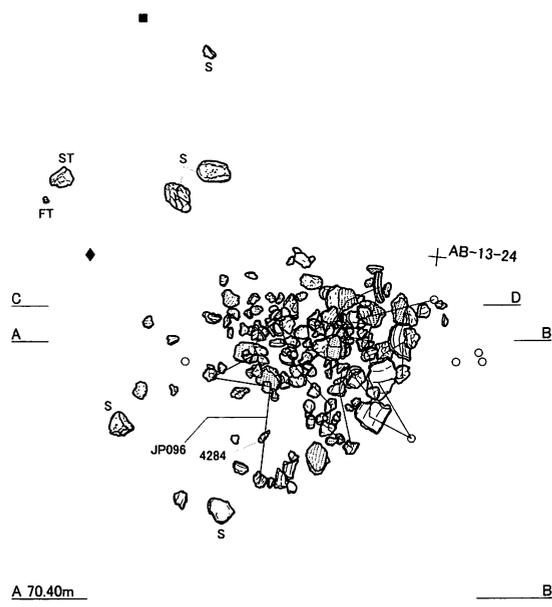


図II-46 VPB-04・05 平面・断面・垂直分布図・出土土器

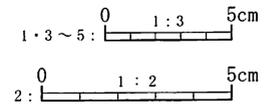


図Ⅱ-47 VPB-05 出土遺物

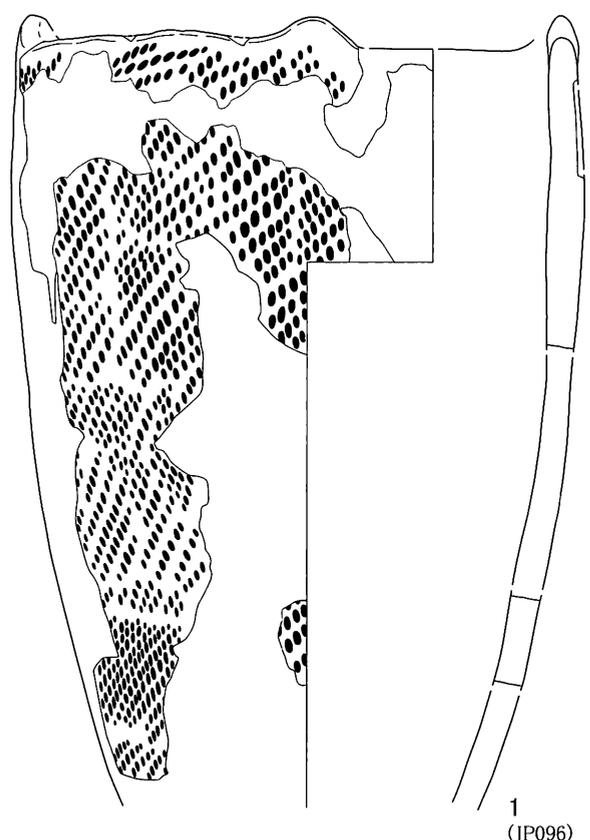
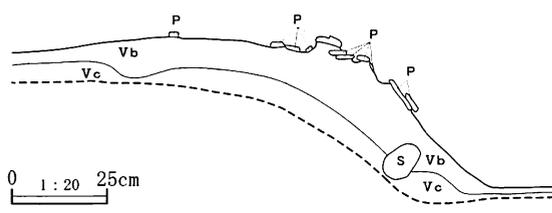
VPB-06



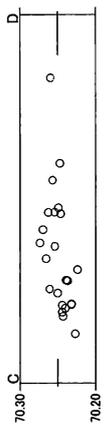
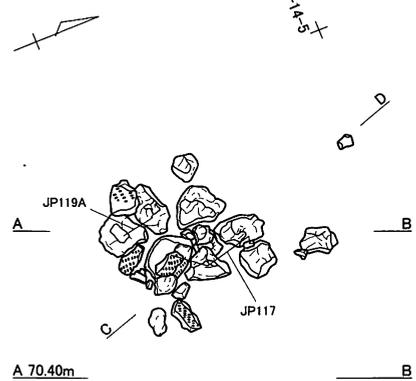
- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫



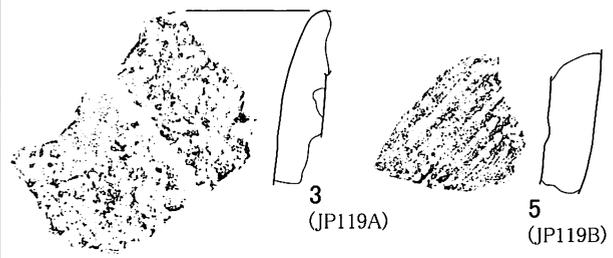
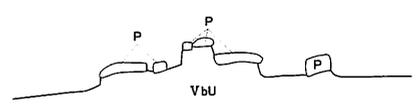
A 70.40m



VPB-07

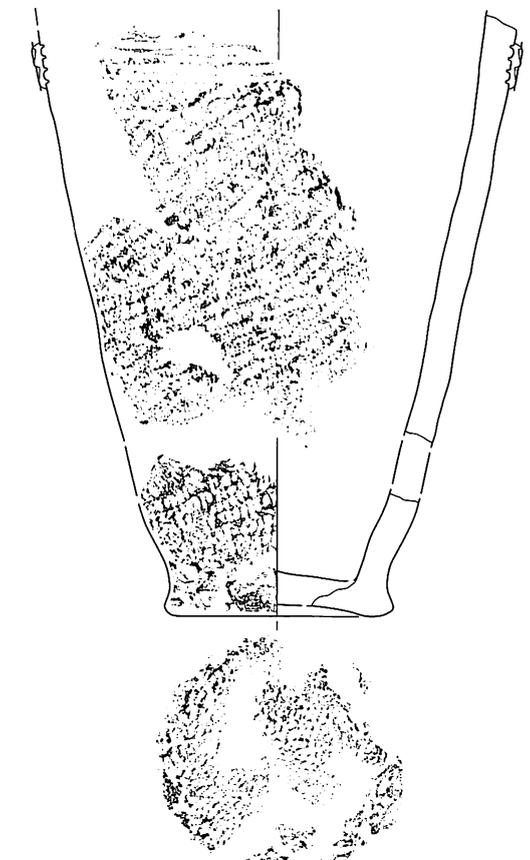
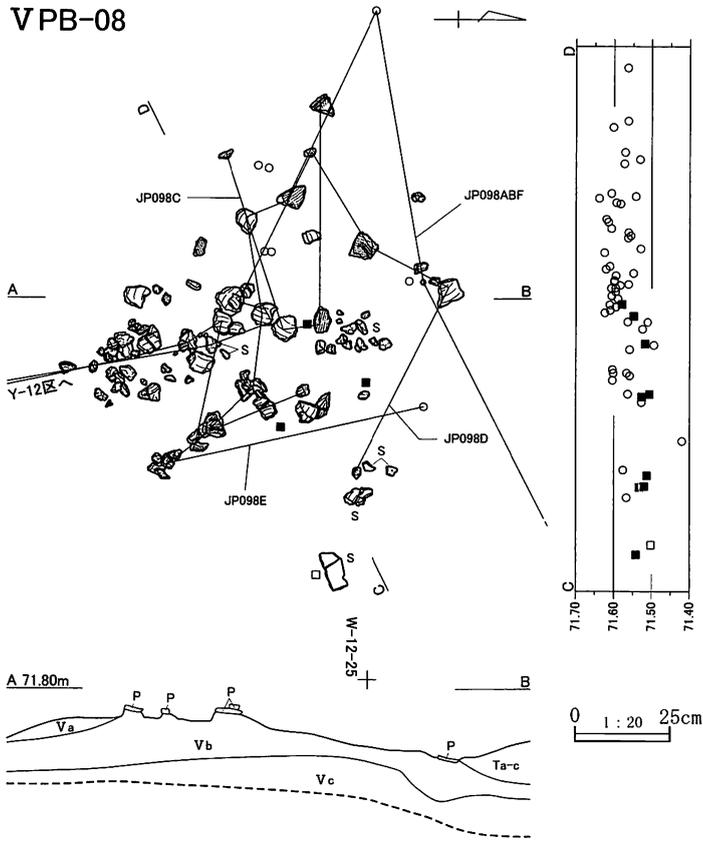


A 70.40m

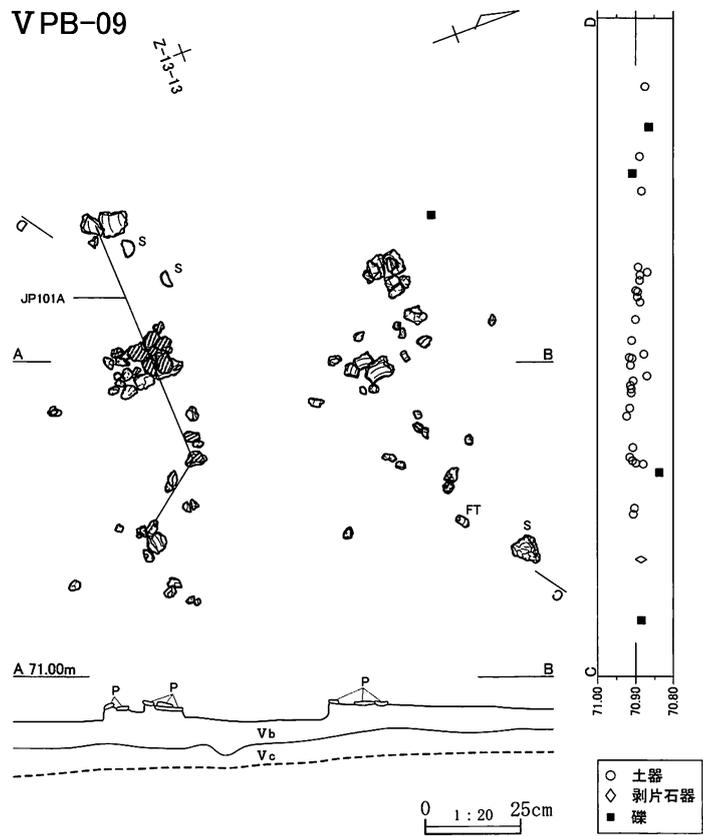


図Ⅱ-48 VPB-06・07 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

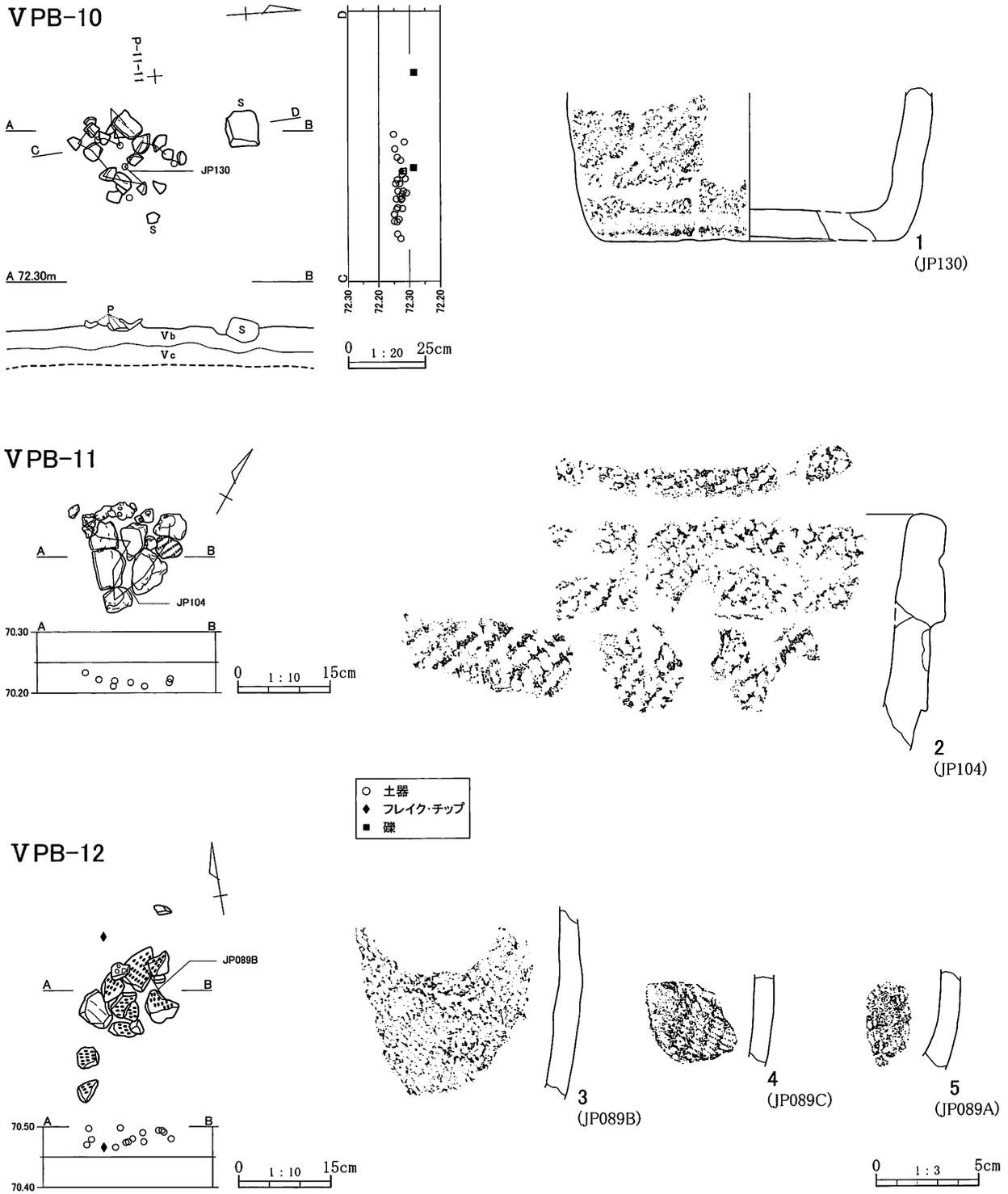
VPB-08



VPB-09



図II-49 VPB-08・09 平面・断面・垂直分布図・出土土器



図II-50 VPB-10～12 平面・断面・垂直分布図・出土土器

表Ⅱ-41 VPB出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/ 底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-45-1	54-1	JP118A	IVA2	VPB-01	Vb	8	口縁部	平縁-肥厚帯/直立	LR縄文- 円形刺突文・ ケズリ・LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-45-2	54-2	JP118B	IVA2	VPB-01	Vb	1	口縁部	平縁-隅丸角状/直立	LR縄文-ケズリ・LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-45-3	54-3	JP120	IVA2	VPB-01	Vb	2	胴部	直立	低い貼付帯・LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-45-4	54-4	JP116A	IVA2	VPB-02	Vb	1	胴部	外傾	貼付帯・LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-45-5	54-5	JP116B	IVA2	VPB-02	Vb	1	胴部	外傾	貼付帯・LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-45-6	54-6	JP078	ⅢB1	VPB-03	V	3	底部	上げ底・外反・外端 丸みをもって張り出す	LR斜縄文- 植物茎と思われる痕跡	砂粒・ 繊維少量	
Ⅱ-46-1	54-7	JP010B	ⅢB1	VPB-04 AG-07	V Vb	1 2	口縁部	小突起・ 断面三角形・直立	ミガキ・半截竹管文- ミガキ/RLR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-46-2	54-8	JP084	ⅢB1	VPB-04	V	1	胴部	直立	LR斜縄文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-47-1	54-9	JP105A	IVA2	VPB-05	Vb	2	口縁部	平縁・断面隅丸角状・ 折返口縁/直立	LR斜縄文・縄端圧痕・ LR斜縄文	砂粒多量	
Ⅱ-47-2	54-10	JP112B	IVA2	VPB-05	Vb	1	口縁部	平縁・内傾・直立	LR縄文-貼付帯・ LR縄文・縄端圧痕	砂粒多量	
Ⅱ-47-3	54-11	JP112A	IVA2	VPB-05	Vb	1	胴部	外傾	貼付帯・LR縄文	砂粒多量	
Ⅱ-47-4	54-12	JP105B	IVA2	VPB-05	Vb	3	胴部	直立	貼付帯・LR斜縄文	砂粒多量	
Ⅱ-48-1	54-16	JP096	IVB1	VPB-06	Vb	53	口縁部 ~胴部	小型の山形突起・ 断面丸味/円筒状	LR縄文-LR斜縄文- ミガキ/RLR斜縄文-ミガキ	砂粒多量	
Ⅱ-48-3	55-1	JP119A	IVA2	VPB-07	Vb	2	口縁部	外傾	貼付帯・LR斜縄文・ 縄端圧痕	砂粒中量	
Ⅱ-48-4	55-2	JP117	IVA2	VPB-07	Vb	4	胴部	直立	LR斜縄文・ナデ	砂粒中量	
Ⅱ-48-5	55-3	JP119B	IVA2	VPB-07	Vb	1	胴部	直立	LR斜縄文・ナデ	砂粒中量	
Ⅱ-49-1	55-4	JP098A	ⅢB1	VPB-08	Va	1	胴部~ 底部	外傾/ 底部外端張り出す・ 上げ底	貼付文・ 半截竹管による 沈線文・ LR斜縄文- ミガキ	砂粒少量	
					Vb	1					
					Y-12	Vb					
		Z-11			Vc	1					
		VPB-08				5					
JP098B	W-12	Va	1								
JP098F	VPB-08		14								
Ⅱ-49-2	55-5	JP098C	ⅢB1	VPB-08	Va	4	胴部	外傾	貼付文・半截竹管に よる沈線文・ LR斜縄文-ミガキ	砂粒少量	1と 同一 個体
Ⅱ-49-3	55-6	JP101A	IVA2	VPB-09	Vb	1	胴部	直立	貼付帯・羽状縄文-ミガキ	砂粒多量	
Ⅱ-50-1	55-7	JP130	ⅢA	VPB-10	VbU	18	底部	外傾・平底	結束第2種羽状縄文- ナデ-ナデ	砂粒中量 繊維少量	
				P-10	VbM	2					
Ⅱ-50-2	55-8	JP104	IVA2	VPB-11	Vb	10	口縁部	平縁-隅丸角状	LR縄文-貼付帯・指頭に よる沈線文・LR斜縄文・ 縄端圧痕-ナデ	砂粒多量	
Ⅱ-50-3	55-9	JP089B	ⅢB1	VPB-12	VbL	1	胴部	外傾	LR縄文	砂粒少量	
Ⅱ-50-4	55-10	JP089C	ⅢB1	VPB-12	VbL	1	胴部	外傾	LR縄文	砂粒少量	
Ⅱ-50-5	55-11	JP089A	ⅢB1	VPB-12	VbL	1	胴部	外傾	LR縄文	砂粒少量	

表Ⅱ-42 VPB出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-47-5	54-13	-	3771	ポイント類	A4	VPB-05	Vb	(25.5)	14.8	5.2	(1.7)	Obs.	欠損、未成品
Ⅱ-47-6	54-14	-	3770	たたき石	I B1	VPB-05	Vb	(86.7)	52.6	37.7	(270.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-47-7	54-15	-	3768	たたき石	II B2	VPB-05	Vb	(54.3)	66.1	46.7	(260.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-48-2	54-17	-	4284	ナイフ・スクレイパー類	C1	VPB-06	Vb	(39.6)	14.3	7.6	(4.3)	Sh.	欠損、被熱

第6節 礫集中

平成25年の調査により23カ所、平成26年の調査により8カ所の計31カ所を検出した。それぞれの遺構については、表II-43を参照していただきたい。また、伴出する遺物は属性表にまとめ、図化できるものは掲載した。なおVSB-05は人為的でないものと判断したため欠番とした。また礫群の被熱痕等の詳細については、表II-46を参照していただきたい。

表II-43 VSB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
II-51	42-8	VSB-01	AE-10	Va	-	366	314	土器12点、石器10点、FC9点、礫32点
II-52・53	43-1	VSB-02	AH-07	VbM~L	-	(306)	(154)	土器33点、石器11点、FC21点、礫174点
II-54	43-2	VSB-03	AH-07・08	VbU	-	208	109	土器20点、FC20点、礫28点
	43-3	VSB-04	AJ・AK-06	VbM	-	67	48	土器8点、礫16点
II-55	43-4	VSB-06	AI-07	VbM	-	125	118	土器1点、石器2点、礫32点
	43-5	VSB-07	AI-05・06	Va~VbM	-	229	134	土器6点、石器6点、SFC1点、FC4点、礫25点
II-56	43-6	VSB-08	AG-08	Va	-	131	75	石器1点、礫8点
	43-7	VSB-09	AG-07	VbM~L	-	143	103	FC2点、礫12点
	43-8	VSB-10	AF・AG-07	VbM	-	93	80	土器4点、石器1点、FC2点、礫21点
II-57	44-1	VSB-11	AG-12	VbU~M	-	219	192	石器6点、SFC1点、FC5点、礫83点
II-58	44-2	VSB-12	AF-12・13	VbU	-	185	137	石器4点、SFC1点、FC5点、礫24点
	44-3	VSB-13	AF・AG-13	Va	-	142	121	土器4点、石器3点、FC2点、礫72点
II-59	44-4	VSB-14	AE・AF-07・08	VbU	-	173	103	礫63点
	44-5	VSB-15	AF-10・11	VbU~M	-	116	107	石器9点、FC2点、礫33点
II-60	44-6	VSB-16	AE-09	VbL~Vc	-	158	144	土器2点、石器2点、礫65点
II-60・61	44-7	VSB-17	AC-13・14	VbL~Vc	-	202	102	石器27点、SFC2点、FC4点、礫53点
II-62	44-8	VSB-18	AC-10	VbM	-	137	81	土器1点、石器2点、FC5点、礫25点
II-63	45-1	VSB-19	AB-09・10	VbU~L	-	239	174	土器2点、石器6点、FC2点、礫12点
II-64	45-2	VSB-20	AB・AC-15	VbM~L	-	349	257	石器4点、FC4点、礫163点
II-65・66	45-3	VSB-21	AA-12・13	VbM~L	-	347	327	石器8点、SFC3点、FC7点、礫118点
II-67・68	45-4	VSB-22	X-13	VbM	-	375	292	土器5点、石器10点、FC3点、礫248点
II-69	45-5	VSB-23	X-10・11、Y-11	VbL	-	336	238	土器2点、石器4点、礫106点
II-70~72	45-6	VSB-24	Z・AA-10・11	VbL~c	-	434	222	土器94点、石器31点、SFC1点、FC3点、礫166点
II-73	45-7	VSB-25	AB-17	Va	-	209	119	土器1点、礫7点
	45-8	VSB-26	O-08	Va	-	113	69	石器1点、礫16点
II-74	46-1	VSB-27	X-18・19	VbM~L	-	203	128	土器2点、礫40点
	46-2	VSB-28	Q-17	VbM	-	99	77	礫5点
	46-3	VSB-29	J-08・09	VbM~L	-	117	97	石器6点、礫26点
II-75・76	46-4	VSB-30	I・J-10・11	VbM~L	-	478	399	石器36点、FC1点、礫372点
II-77	46-5	VSB-31	L・M-10・11	VbM~L	-	494	336	土器1点、石器2点、SFC1点、FC1点、礫87点
II-78	46-6	VSB-32	J-12	VbM	-	350	(226)	石器33点、SFC5点、FC2点、礫370点

VSB-01 (図II-51 図版42-8、56-1~5、67-1)

位置：AE-10 層位：Va層 規模：366×314cm

出土点数：土器12点、石器10点、FC9点、礫32点

確認・調査：V層上面を精査中に検出した。礫の集中域でIV群A2類土器が伴出するため縄文時代後期初頭の遺構と判断した。

出土遺物(図II-51-1~5)：1はIV群A2類に属する土器で、地文にRL縄文が施され、貼付帯上にも同様に縄文が施されている。VSB-16出土土器と接合した。2はたたき石で、両側縁及び下縁部と平坦面にたたき痕が認められる。3はたたき石で、長軸下端と右側縁にかけてたたき痕が認められる。4は台石で3点が接合した。5は石斧のF類に属する小型のもので刃部を欠損する。

VSb-02 (図Ⅱ-52・53 図版 43-1、56-6~14、67-2)

位置：AH-07 層位：VbM~L層 規模：(306)×(154)cm

出土点数：土器 33 点、石器 11 点、FC21 点、礫 174 点

確認・調査：V層を調査中に検出した。北側が試掘坑で切られ、全形は確認できなかった。礫集中は伴出土器から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-52-1~3、53-4~9)：1~3 はⅢ群 B1 類に属する土器である。1 は礫集中の西側で比較的まとまって出土した。口縁部が外へ張り出し LR 縄文が施される。口縁部に 3 個の山形突起を認める。縄文は口縁から胴部にかけて施される。VSb-06 出土土器と接合した。2 は口縁部付近の土器片で、垂下する貼付文と口縁部に半截竹管による刺突文が施される。地文は LR 縄文である。3 は胴部の土器片である。地文に LR 縄文が施され貼付文と半截竹管による沈線文が施される。4 はナイフに属するもので、つまみ部分があまriegり込まないものである。5~7 はたたき石で、側縁や平坦部にたたき痕が認められる。8・9 は台石で、縁辺部と平坦部にたたき痕が認められる。

VSb-03 (図Ⅱ-54 図版 43-2、57-1・2、67-3)

位置：AH-07・08 層位：VbU層 規模：208×109cm

出土点数：土器 20 点、FC20 点、礫 28 点

確認・調査：V層上部を調査中に検出した。人頭大や拳大の礫で構成される礫が集中する。伴出した土器により縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-54-1・2)：1・2 はⅢ群 B1 類に属する土器である。1 は山形突起をもち、口唇に半截竹管の刺突文が認められる。2 は口縁部が肥厚する。半截竹管文が施される。口縁部から胴部にかけて RLR 複節縄文が施される。

VSb-04 (図Ⅱ-54 図版 43-3、57-3、68-1)

位置：AJ・AK-06 層位：VbM層 規模：67×48cm

出土点数：土器 8 点、礫 16 点

確認・調査：Va層を除去後に拳大の礫が集中して検出される。礫集中は伴出土器により縄文時代中期後葉に属する遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-54-3)：3 はⅢ群 B1 類に属する胴部の土器片である。LR 縄文、半截竹管の押引文が施される。

VSb-06 (図Ⅱ-55 図版 43-4、57-4・5、68-2)

位置：AI-07 層位：VbM層 規模：125×118cm

出土点数：土器 1 点、石器 2 点、礫 32 点

確認・調査：Vb層を調査中に検出した。検出面で縄文時代早期後葉の土器が出土しているが検出層位から見て縄文時代中期に属する遺構と考えられる。

出土遺物 (図Ⅱ-55-1・2)：1 はⅠ群 B2 類に属するもので、羽状縄文と隆起線文が認められる。2 はたたき石で上下が欠損し、側面にたたき痕が認められる。

VSb-07 (図Ⅱ-55 図版 43-5、57-6、68-3)

位置：AI-05・06 層位：Va~VbM層 規模：229×134cm

出土点数：土器 6 点、石器 6 点、SFC1 点、FC4 点 礫 25 点

確認・調査：V層を調査中に検出した。座布団のような板状礫と人頭大や拳大の礫が集中する。伴

出土器により縄文時代後期初頭の遺構と判断した。

出土遺物（図Ⅱ-55-3）：3はⅣ群A1類に属する土器で、LR縄文が施される。

VSB-08（図Ⅱ-56 図版43-6、69-1）

位置：AG-08 層位：Va層 規模：131×75cm

出土点数：石器1点、礫8点

確認・調査：Va層を調査中に検出した。板状礫と人頭大の大型礫がまとまって出土する。出土層位から縄文時代後期に帰属する遺構と判断した。

出土遺物：石器1点と礫が8点出土している。

VSB-09（図Ⅱ-56 図版43-7、69-2）

位置：AG-07 層位：VbM～L層 規模：143×103cm

出土点数：FC2点、礫12点

確認・調査：Vb層を調査中に検出した。人頭大や拳大の礫からなる。遺構の検出層位から縄文時代中期後葉に相当するものと判断した。

出土遺物：遺物は礫のほかにFC2点が出土している。

VSB-10（図Ⅱ-56 図版43-8、57-7、69-3）

位置：AF・AG-07 層位：VbM層 規模：93×80cm

出土点数：土器4点、石器1点、FC2点、礫21点

確認・調査：V層を調査中に検出した。この礫群は一個体の石皿が破碎したものである。

出土遺物（図Ⅱ-56-1）：1は大小の破片が接合した石皿である。中央部付近には、すり面と思われる窪みが認められる。なお、細片のため掲載しなかったが、Ⅲ群B1類土器が出土している。

VSB-11（図Ⅱ-57 図版44-1、57-8～10、70-1）

位置：AG-12 層位：VbU～M層 規模：219×192cm

出土点数：石器6点、SFC1点、FC5点、礫83点

確認・調査：VbUからVbM層を調査中に検出した。大部分は拳大の礫からなる。土器が伴出しておらず時期的に不明であるが、検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物（図Ⅱ-57-1～3）：1は拳大の礫を用いている線条痕のある礫である。2は2点が接合した、たたき石である。3は北海道式石冠の未成品と思われる。上端面に敲打痕、体部に帯状の敲打痕が認められる。

VSB-12（図Ⅱ-58 図版44-2、57-11・12、70-2）

位置：AF-12・13 層位：VbU層 規模：185×137cm

出土点数：石器4点、SFC1点、FC5点、礫24点

確認・調査：Vb層を調査中に検出した。大型板状礫及び鶏卵大の礫が出土している。土器が伴出しておらず、検出層がVbU層であるため縄文時代後期に帰属する遺構と判断した。

出土遺物（図Ⅱ-58-1・2）：1はつまみ付きナイフで、下半を欠損する。調整剥離は縁のみ施される。石材は硅化岩である。2は主に両端と縁部にたたき痕が認められる、たたき石である。

VSB-13（図Ⅱ-58 図版44-3、57-13・14、70-3）

位置：AF・AG-13 層位：Va層 規模：142×121cm

出土点数：土器4点、石器3点、FC2点、礫72点

確認・調査：Va層を調査中に検出した。伴出土器により縄文時代後期初頭に帰属する遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-58-3・4)：3はポイント類A4類に属する石鏃である。表面は平坦剥離により石器中央部に達する剥離を施したのち、縁辺に微細な剥離が施される。4はたたき石で表面平坦面を使用する。たたき痕は長軸方向に連続した窪みとなる。

VSB-14 (図Ⅱ-59 図版44-4、71-1)

位置：AE・AF-07・08 層位：VbU層 規模：173×103cm

出土点数：礫63点

確認・調査：VbU層を調査中に検出した。土器は伴っていないが、検出層位から縄文時代後期に帰属する遺構と判断した。

出土遺物：礫以外の遺物は出土していない。

VSB-15 (図Ⅱ-59 図版44-5、58-1・2、71-2)

位置：AF-10・11 層位：VbU～M層 規模：116×107cm

出土点数：石器9点、FC2点、礫33点

確認・調査：VbU～M層を調査中に検出した。検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-59-1・2)：1はポイント類B1b類に属する石槍である。2はたたき石で、縁辺部にたたき痕が認められる。

VSB-16 (図Ⅱ-60 図版44-6、58-3・4、71-3)

位置：AE-09 層位：VbL～Vc層 規模：158×144cm

出土点数：土器2点、石器2点、礫65点

確認・調査：VbL～Vc層を調査中に検出した。人頭大から鶏卵大の礫が出土する。出土遺物のうち土器は、VSB-01の土器と接合しており同時期の遺構の可能性が高い。本遺構調査後にTP-14が検出されたため、TP-14より新しいものと判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-60-1・2)：1はⅢ群B1類の土器である。台形突起の部分で半截竹管文が施される。2はたたき石で、たたき痕は平坦面と上部と側面に認められる。

VSB-17 (図Ⅱ-60・61 図版44-7、58-5～19・72-1)

位置：AC-13・14 層位：VbL～Vc層 規模：202×102cm

出土点数：石器27点、SFC2点、FC4点、礫53点

確認・調査：VbL～Vc層を調査中に検出した。検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-61-1～15)：石器類は南側の80×40cmの範囲に集中して出土している。石器27点のうち、ポイント類16点、ナイフ・スクレイパー類3点、RF1点、UF3点出土している。1～9はポイント類B1・B2類に属し、ほぼ同じ大きさの石槍・石銛である。10～12はつまみ付ナイフである。10は3点が接合したつまみ付ナイフで、A2類に属する。11・12は横型でA4類に属する。13・14はサイド・スクレイパーでいずれもC1a類である。15はたたき石で、側面と先端部と平坦部・側縁にたたき痕を認める。

VSB-18 (図Ⅱ-62 図版44-8、59-1・2、72-2)

位置：AC-10 層位：VbM層 規模：137×81cm

出土点数：土器 1 点、石器 2 点、FC5 点、礫 25 点

確認・調査：Vb 層調査中に検出した。拳大よりやや大きい礫の集中である。遺物が出土した層により縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-62-1・2)：1 は平坦部・側縁にたたき痕が認められる台石である。2 は被熱し欠損しているたたき石である。

VSB-19 (図Ⅱ-63 図版 45-1、59-3~5、72-3)

位置：AB-09・10 層位：VbU~L 層 規模：239×174cm

出土点数：土器 2 点、石器 6 点、FC2 点、礫 12 点

確認・調査：Vb 層を調査中に検出した。Ⅲ群 B1 類土器が伴出しているため同時期の遺構と考える。

出土遺物 (図Ⅱ-63-1~3)：1 はⅢ群 B1 類に属する胴部の土器片で、LR 縄文が施される。2 はたたき石で平坦面、側面にたたき痕が認められる。3 は台石で、直方体礫の側面などにたたき痕が認められる。

VSB-20 (図Ⅱ-64 図版 45-2、59-6・7、73-1)

位置：AB・AC-15 層位：VbM~L 層 規模：349×257cm

出土点数：石器 4 点、FC4 点、礫 163 点

確認・調査：Vb 層を調査中に検出した。ほかの礫集中と比較して分布範囲が広く、拳大や鶏卵大の礫が多い。検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-64-1・2)：1 はたたき石で、両端が欠損する。平坦面と側面にたたき痕が認められる。2 は砥石で、表面が砥面となる。

VSB-21 (図Ⅱ-65・66 図版 45-3、59-8~12、60-1・2、73-2)

位置：AA-12・13 層位：VbM~L 層 規模：347×327cm

出土点数：石器 8 点、SFC3 点、FC7 点、礫 118 点

確認・調査：Vb 層を調査中に検出した。北側に人頭大の礫が、南側には拳大や鶏卵大の礫が多い。礫の分布域からは土器が出土しておらず时期的な詳細は不明だが、検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-66-1~7)：1 はポイント類 A1 類で、薄手の菱形を呈する石鏃である。2 は小型の石斧で、片岩製である。3 は刃部と思われる部分が尖らずに丸く研磨されたものである。4 はすり石 D 類の北海道式石冠である。すり面が斜めになっている。5 は砥石で、砥面が浅く窪んでいる。6・7 は石皿で、このうち 6 にはたたき痕が認められる。

VSB-22 (図Ⅱ-67・68 図版 45-4、60-3~8、74-1)

位置：X-13 層位：VbM 層 規模：375×292cm

出土点数：土器 5 点、石器 10 点、FC3 点、礫 248 点

確認・調査：IV群 B1 類土器が 1 点出土する。縄文時代後期初頭の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-68-1~6)：1 はIV群 B1 類に属する胴部の土器片で、LR 縄文が施される。2 はつまみ付ナイフの A1 類である。刃部片側縁が剥離調整される。3 は石斧で基部を欠損する。4・5 はたたき石で、このうち 4 は平坦面にたたき痕が認められる。5 は棒状のたたき石で長軸端部にたたき痕が認められる。6 は E 類のすり石である。打ち欠き及び敲打により器体が「D」の字状に成形される。

VSB-23 (図Ⅱ-69 図版 45-5、61-1・2、74-2)

位置：X-10・11、Y-11 層位：VbL層 規模：336×238cm

出土点数：土器2点、石器4点、礫106点

確認・調査：Vb層を調査中に検出した。VSB-20～22と同様、比較的広い分布域を持つ。拳大や鶏卵大の礫が多く、礫の接合率が高いのも特徴的である。

出土遺物 (図Ⅱ-69-1・2)：1はLR縄文を施したIV群A2類の土器である。2はナイフ・スクレイパー類のA1類で、裏面右に刃潰し加工が施されるもので、つまみ部分の調整は顕著でない。

VSB-24 (図Ⅱ-70～72 図版 45-6、61-3～11、62-1・2、74-3、75-1)

位置：Z・AA-10・11 層位：VbL～Vc層 規模：434×222cm

出土点数：土器94点、石器31点、SFC1点、FC3点、礫166点

確認・調査：Vb層を調査中に検出した。大型板状礫と小型の礫が出土し、さらに精査すると土器・石器が伴出することが判明した。出土層位はVbL～Vc層である。伴出土器により縄文時代前期前葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-70-1・2、71-3～8、72-9～11)：1・2は同一個体のⅡ群A2類土器であるが接合できなかった。1は小波状を呈するやや内湾する口縁部である。2は口縁部から胴部にかけて復元され、底部は欠損しているが、尖底か丸底を呈するものと思われる。胴部下半は磨滅しており文様を欠いている。3はA1類のつまみ付きナイフで下端が角張っている。4は上部が尖るラウンド・スクレイパーで、下縁の刃部は急角度に調整される。5・6はたたき石で側面や表面にたたき痕が認められる。7は北海道式石冠の未成品で、製作途中に割れたものと思われる。8はすり面とたたき痕が認められ、たたき石と考えられる。9は石皿で深い窪み面を有し、たたき痕も認められる。10は台石で表面にたたき痕が認められる。11は自然有孔礫である。

VSB-25 (図Ⅱ-73 図版 45-7、62-3、75-2)

位置：AB-17 層位：Va層 規模：209×119cm

出土点数：土器1点、礫7点

確認・調査：V層上部を調査中に検出した。AB-17グリッドの斜面に位置し、人頭大の礫からなる。伴出した土器により縄文時代後期初頭の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-73-1)：1はIV群B1類の土器である。器面・内面・口唇部にLR縄文が施される。

VSB-26 (図Ⅱ-73 図版 45-8、62-4、75-3)

位置：O-08 層位：Va層 規模：113×69cm

出土点数：石器1点、礫16点

確認・調査：Va層を調査中に検出した。伴出する土器がなく検出層から縄文時代後期初頭と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-73-2)：2は厚みのある大型の石皿で、すり面が窪んでいる。

VSB-27 (図Ⅱ-74 図版 46-1、62-5・6、76-1)

位置：X-18・19 層位：VbM～L層 規模：203×128cm

出土点数：土器2点、礫40点

確認・調査：Vb層を調査中に検出した。大型の厚みのある直方体状礫と、人頭大から鶏卵大までの大きさの礫が集中する。伴出土器と検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-74-1・2) : 1・2 は同一個体のⅢ群 B1 類の土器で、LR 縄文が施される。

VSb-28 (図Ⅱ-74 図版 46-2、76-2)

位置 : Q-17 層位 : VbM 層 規模 : 99×77cm

出土点数 : 礫 5 点

確認・調査 : Vb 層を調査中に検出した。大型板状の礫と人頭大の礫からなる小規模な礫集中である。礫を検出した層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 : 土器・石器は伴出しなかった。

VSb-29 (図Ⅱ-74 図版 46-3、62-7~9、76-3)

位置 : J-08・09 層位 : VbM~L 層 規模 : 117×97cm

出土点数 : 石器 6 点、礫 26 点

確認・調査 : Vb 層を調査中に検出した。人頭大から鶏卵大の礫集中である。礫の検出層位から縄文時代中期後葉の遺構と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-74-3~5) : 3 はポイント類 B2 類で基部が平坦な木葉形の石槍である。4 は刃部を欠く石斧である。5 はほぼ全面にたたき痕が認められる、たたき石である。

VSb-30 (図Ⅱ-75・76 図版 46-4、63-1~4、77-1)

位置 : I・J-10・11 層位 : VbM~L 層 規模 : 478×399cm

出土点数 : 石器 36 点、FC1 点、礫 372 点

確認・調査 : 地すべり堆積層 A 下部で検出された礫集中である。拳大から鶏卵大の礫が主体となる。時期は検出面により縄文時代中期と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-76-1~4) : 1 はたたき石で平坦面・側面にたたき痕が認められる。2 はすり石で、打撃による剥離調整後に握部や体部に敲打痕が認められる。形態上、北海道式石冠に類似し、石冠に比べ厚みがない特徴を有する。3 は厚みのある砥石で平坦面を砥面とする。4 は台石で両面及び側面に、たたき痕が認められる。

VSb-31 (図Ⅱ-77 図版 46-5、63-5~7、77-2)

位置 : L・M-10・11 層位 : VbM~L 層 規模 : 494×336cm

出土点数 : 土器 1 点、石器 2 点、SFC1 点、FC1 点、礫 87 点

確認・調査 : 地すべり堆積層 B 下部で検出された礫集中である。礫の分布域は広いが、検出量は比較的少ない。Ⅳ群 B1 類土器が出土しているため縄文時代後期初頭の時期と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-77-1~3) : 1 はⅣ群 B1 類の土器で、羽状縄文を施し器面はナデられる。2・3 はポイント類 A2 類の石鏃である。裏面に主要剥離面が認められる。

VSb-32 (図Ⅱ-78 図版 46-6、63-8~10、78-1)

位置 : J-12 層位 : VbM 層 規模 : 350×(226)cm

出土点数 : 石器 33 点、SFC5 点、FC2 点、礫 370 点

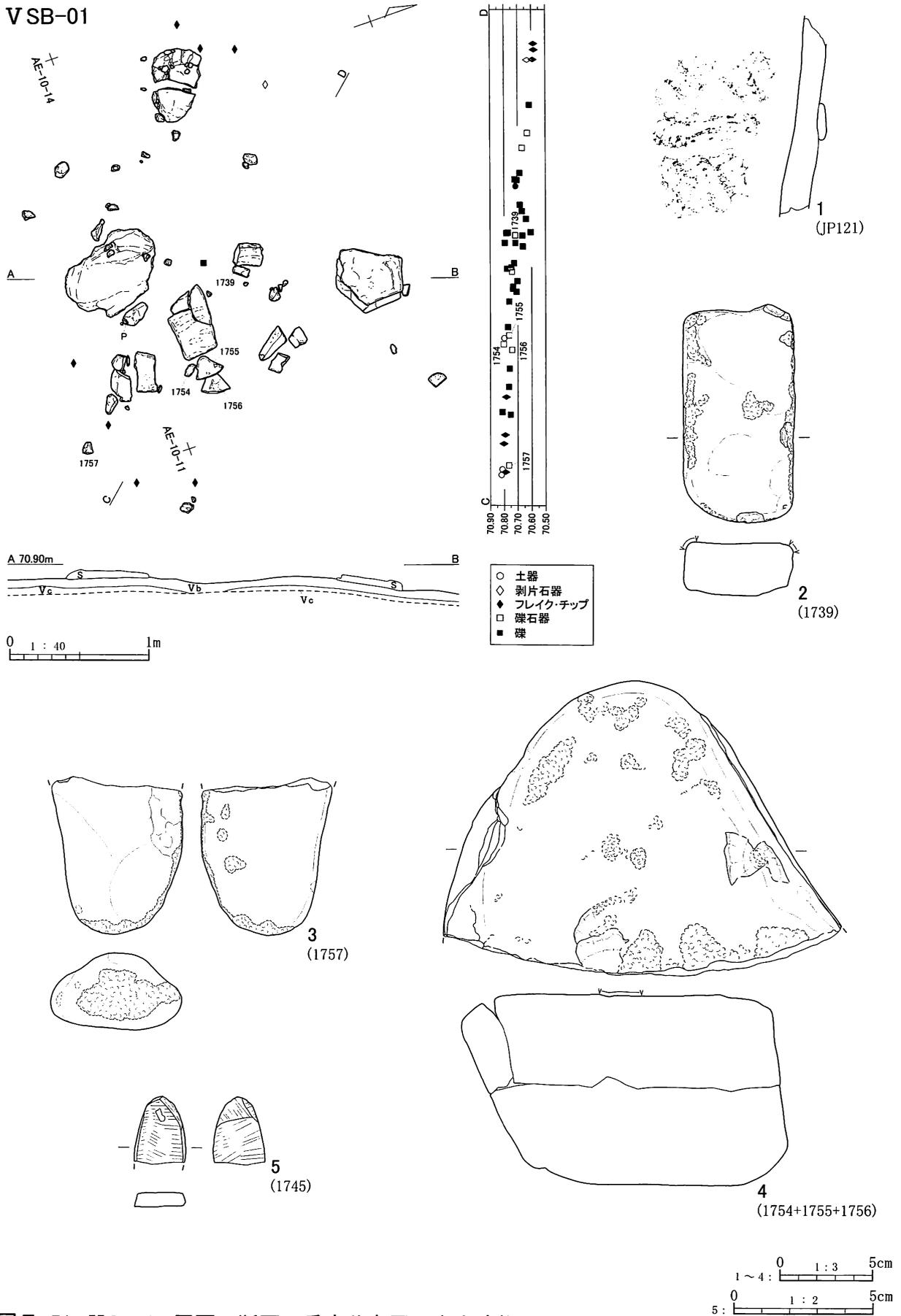
確認・調査 : 地すべり堆積層 B 下部で検出された礫集中である。東側を土層観察用のトレンチで掘削しているため、全体の範囲を捉えることができなかった。拳大から鶏卵大の大きさをもつ礫が主体となる。多くの礫が接合した。検出層位から縄文時代中期と判断した。

出土遺物 (図Ⅱ-78-1~3) : 1・2 はたたき石で、平坦面や側面にたたき痕が認められる。3 は 3 点が接合したすり石である。平面形は三角形で、握部や体部に敲打痕が認められる。(長谷川)

表Ⅱ-44 VSB出土土器属性表

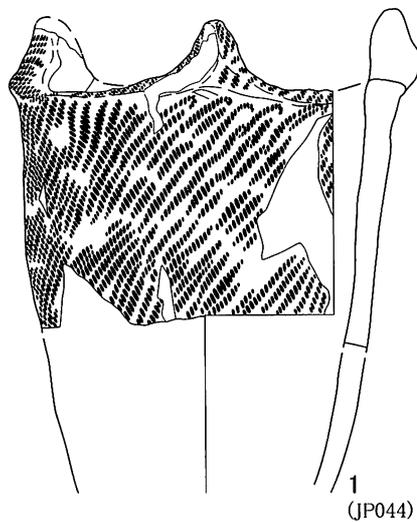
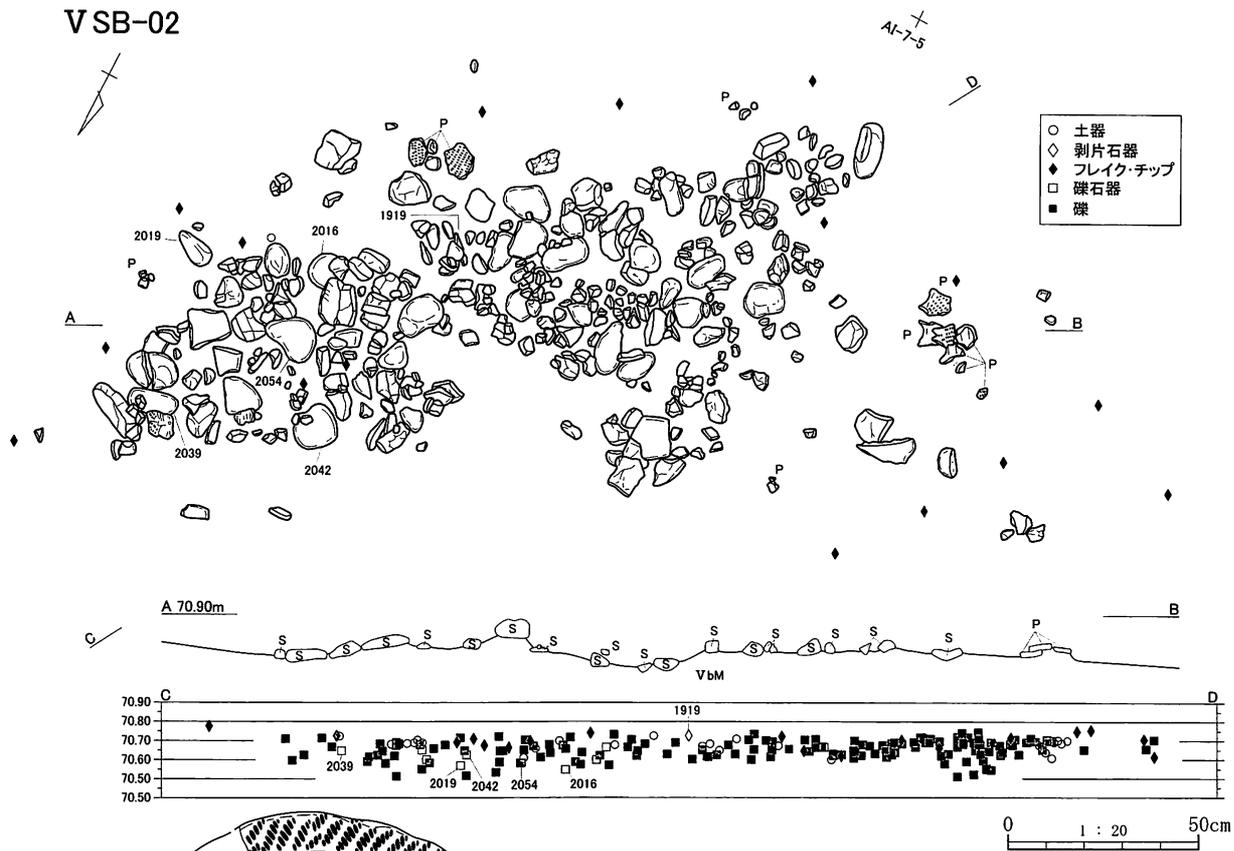
挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-51-1	56-1	JP121	ⅣA2	VSB-01	Va	1	胴部	外傾	貼付帯・RL斜縄文	砂粒多量	
				VSB-16	Vc	1					
Ⅱ-52-1	56-6	JP044	ⅢB1	VSB-02	Vb	5	口縁部 ~胴部	山形突起・外傾- 隅丸角状/直立	縄文- LR斜縄文- ミガキ/ LR斜縄文- ミガキ	砂粒少量	
				VSB-06	V	1					
				AH-07	Vb	1					
					Vc	4					
				AH-08	Vb	2					
				AI-07	Vc	1					
Ⅱ-52-2	56-7	JP085	ⅢB1	VSB-02	Vb	1	口縁部	突起欠損・ 断面「P」の字状 肥厚帯/外傾	貼付帯・刺突文・ 半截竹管による刺突文・ RL斜縄文	砂粒・ 砂礫中量	
Ⅱ-52-3	56-8	JP072	ⅢB1	VSB-02	Vb	1	胴部	外傾	沈線文・LR斜縄文	砂粒・ 砂礫中量	
				AH-07	Vc	2					
				AH-08	Vb	1					
Ⅱ-54-1	57-1	JP082	ⅢB1	VSB-03	V	1	突起	山形突起・直立	刺突文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-54-2	57-2	JP018	ⅢB1	VSB-03	V	4	口縁部	突起欠損・外傾	刺突文-RLR複節縄文- ミガキ/RLR複節縄文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-54-3	57-3	JP083	ⅢB1	VSB-04	V	1	胴部	外反	半截竹管文・LR縄文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-55-1	57-4	JP001B	ⅠB2	VSB-06	Vb	1	胴部	外傾	羽状縄文・隆起線文	砂粒少量	
Ⅱ-55-3	57-6	JP079	ⅣA1	VSB-07	V	2	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-60-1	58-3	JP081	ⅢB1	VSB-16	V	1	突起	台形突起	半截竹管文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-63-1	59-3	JP080	ⅢB1	VSB-19	Vb	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-68-1	60-3	JP155	ⅣB1	VSB-22	Vb	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-69-1	61-1	JP157	ⅣA2	VSB-23	Vb	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-70-1	61-3	JP009C	ⅡA2	VSB-24	Vc	3	口縁部	波状口縁・外傾	ミガキ-ミガキ	砂粒中量・ 繊維多量	
Ⅱ-70-2	61-4	JP009 A・B	ⅡA2	VSB-24	VbL	15	胴部	内湾	LR斜縄文	砂粒・ 砂礫少量・ 繊維多量	もろく 内面は 剥落 している
Ⅱ-73-1	62-3	JP147	ⅣB1	VSB-25	Va	1	口縁部	平縁-角状	縄文-LR斜縄文/LR斜縄文 ミガキ-ミガキ	砂粒中量	
Ⅱ-74-1	62-5	JP148B	ⅢB1	VSB-27	VbM	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-74-2	62-6	JP148A	ⅢB1	VSB-27	VbM	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒・ 繊維中量	
Ⅱ-77-1	63-5	JP149	ⅣB1	VSB-31	VbM	1	胴部	外傾	羽状縄文-ナデ	砂粒中量	

VSB-01

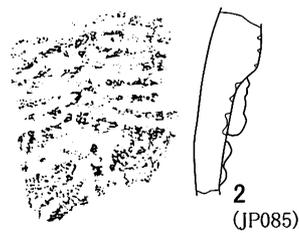


図II-51 VSB-01 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

VSB-02



(JP044)



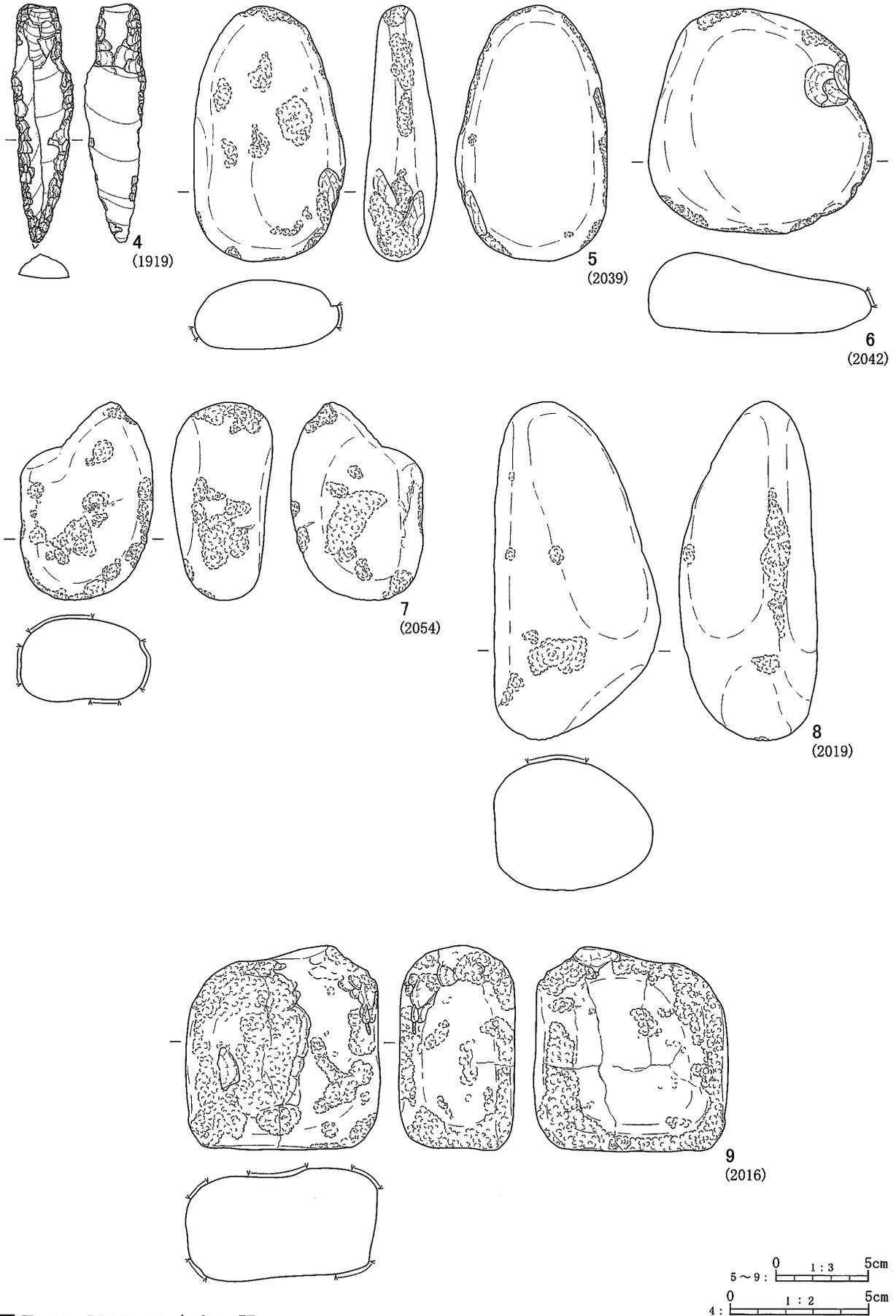
2 (JP085)



3 (JP072)

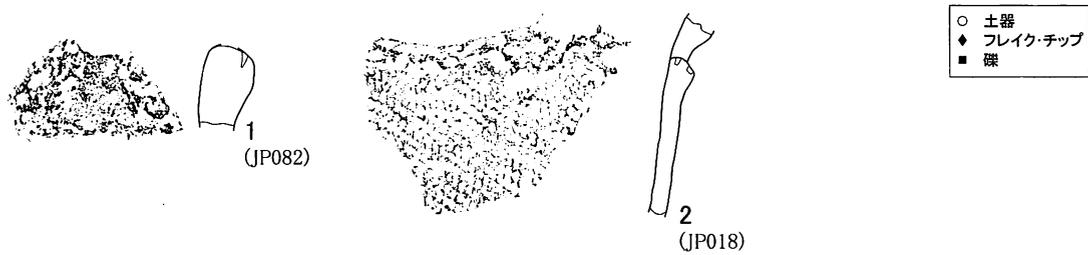
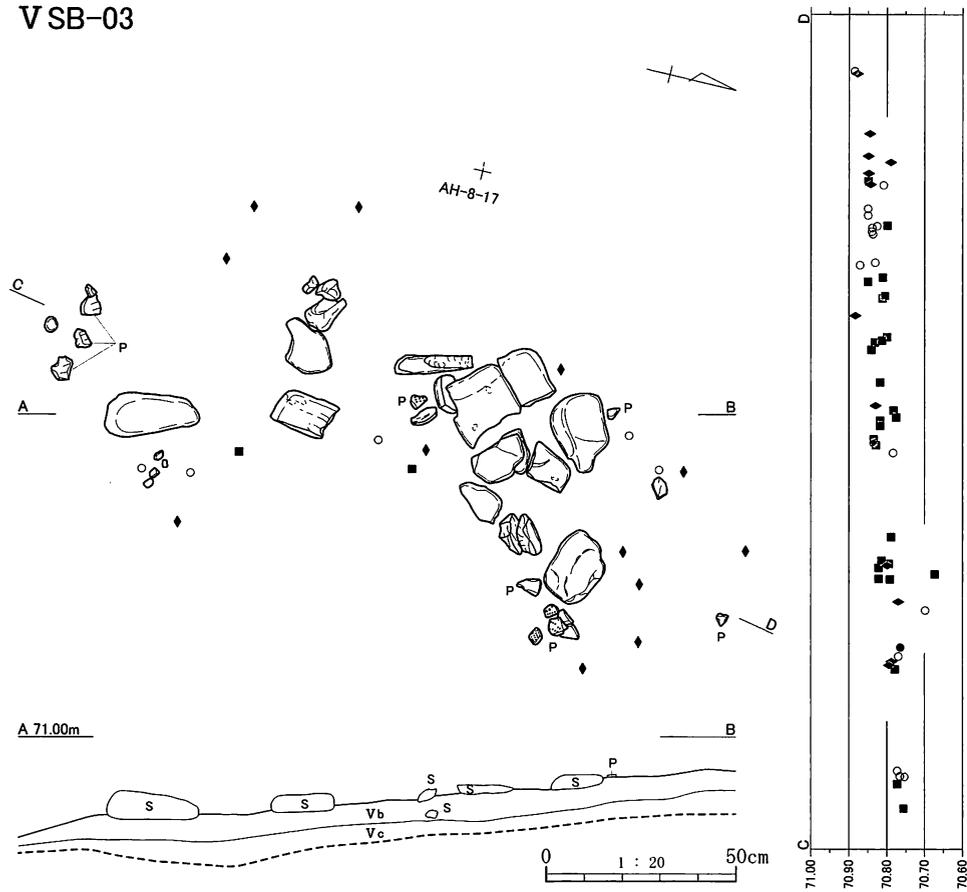
0 1:3 5cm

図II-52 VSB-02 平面・断面・垂直分布図・出土土器

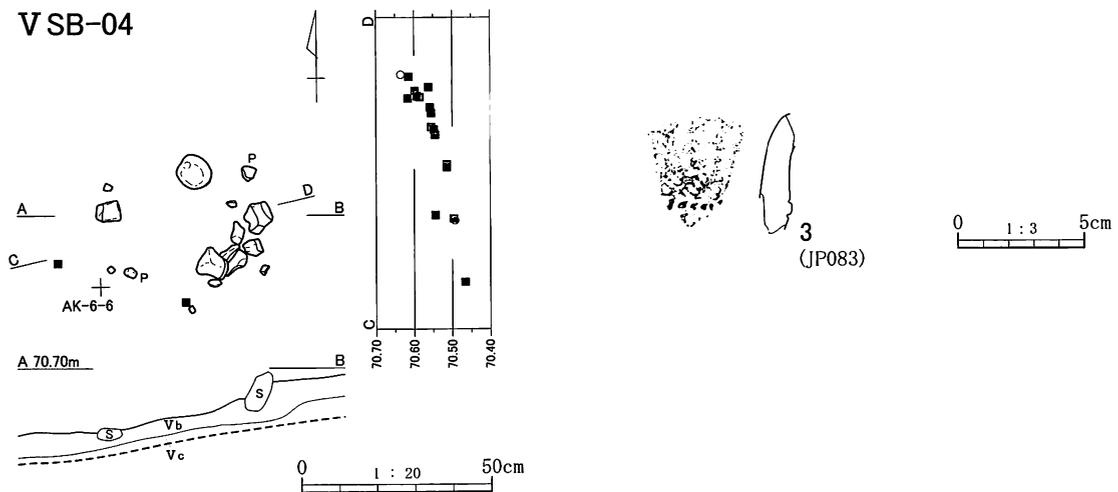


図II-53 VSB-02 出土石器

V SB-03



V SB-04

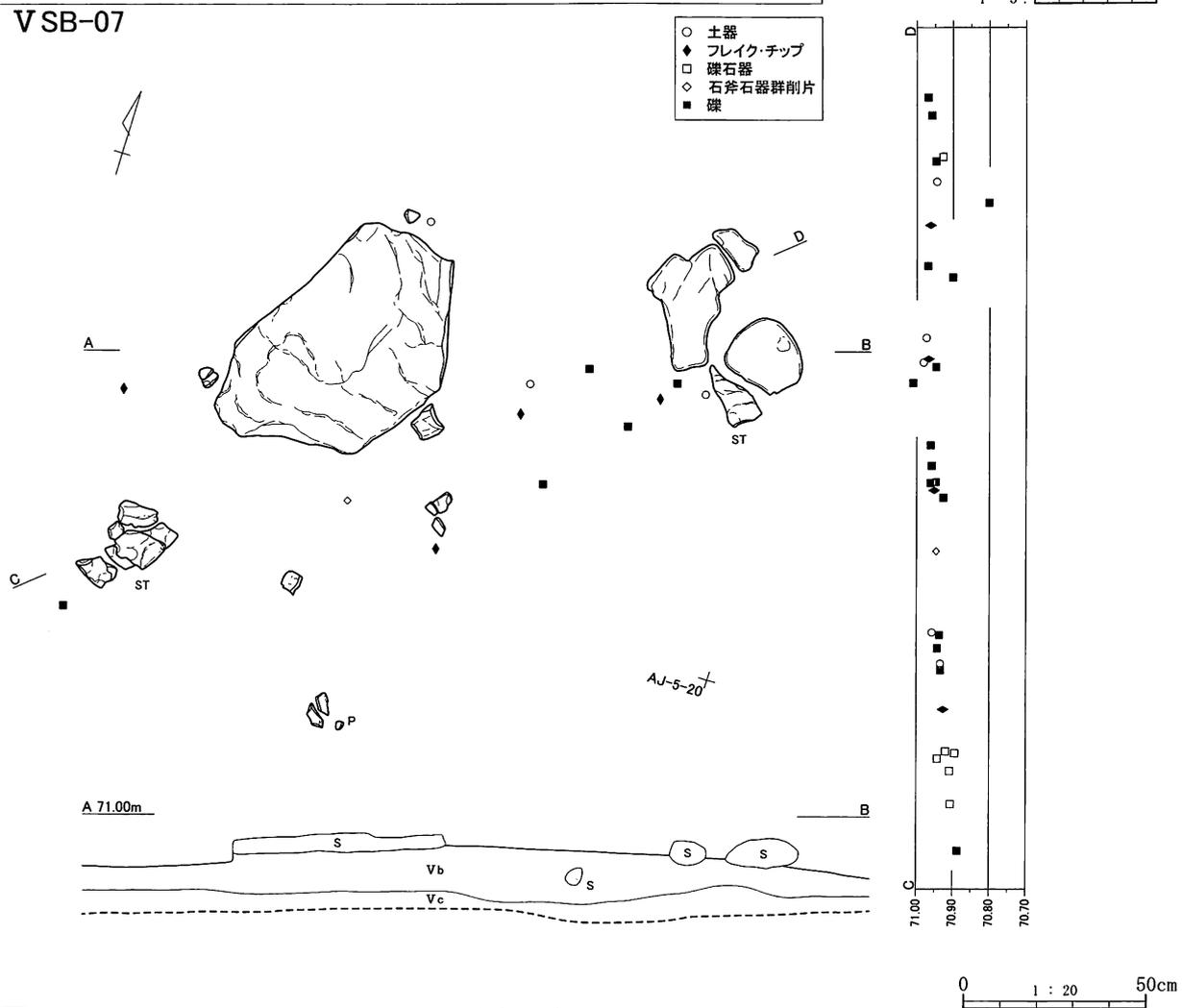


図Ⅱ-54 V SB-03・04 平面・断面・垂直分布図・出土土器

V SB-06

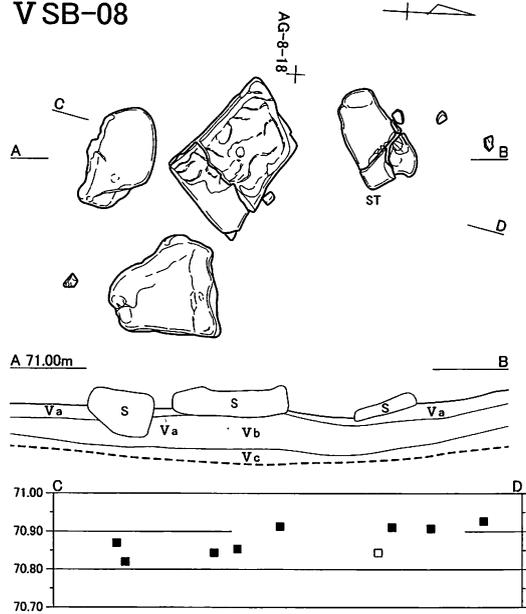


V SB-07

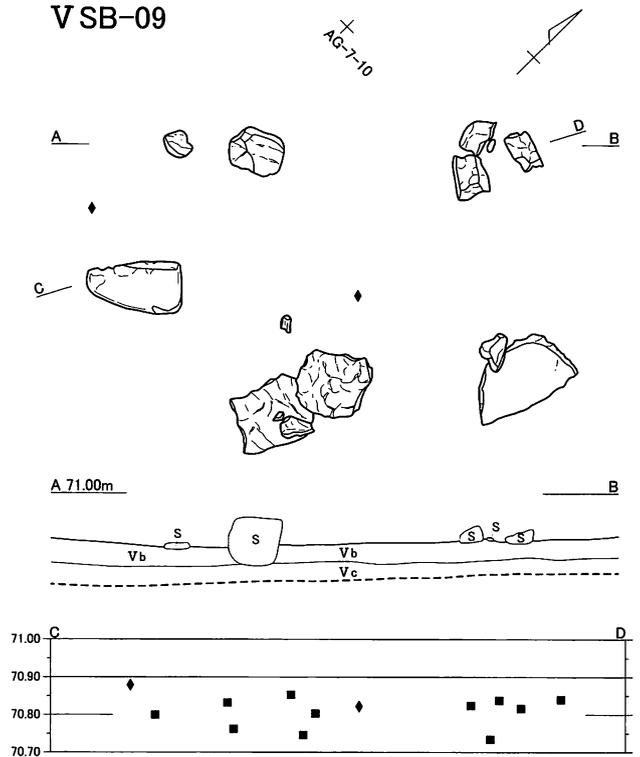


図II-55 VSB-06・07 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

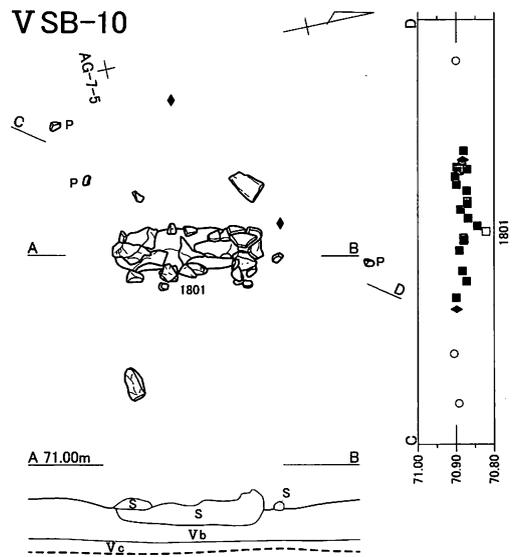
V SB-08



V SB-09

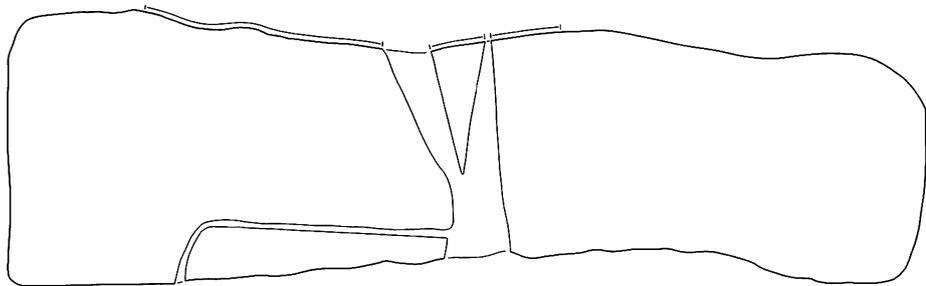
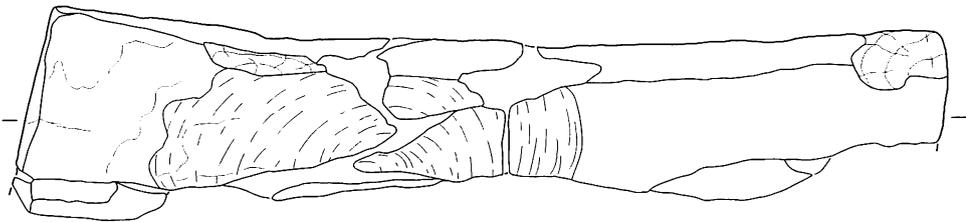


V SB-10



- 土器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫

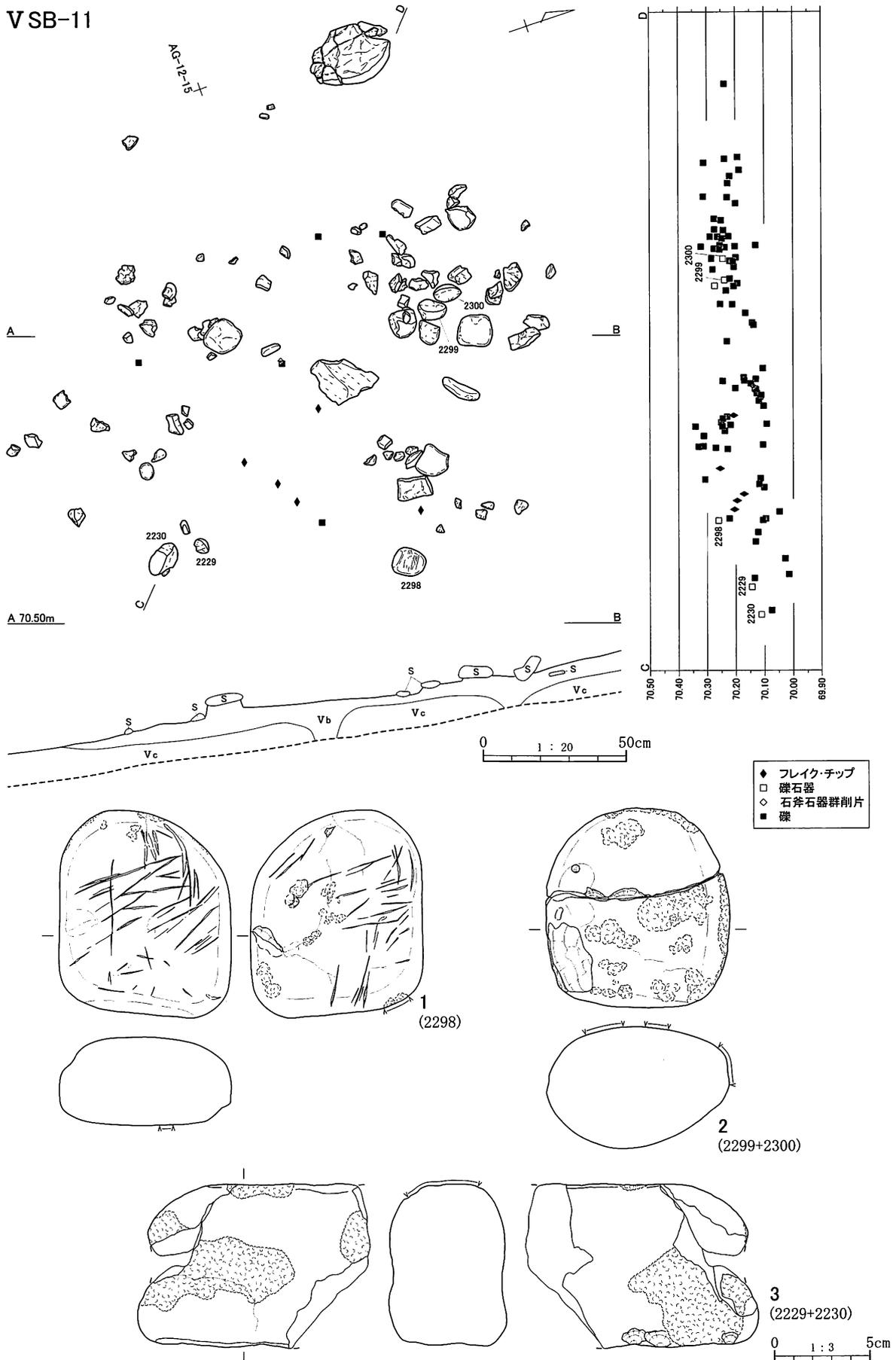
0 1 : 20 50cm



0 1 : 3 5cm

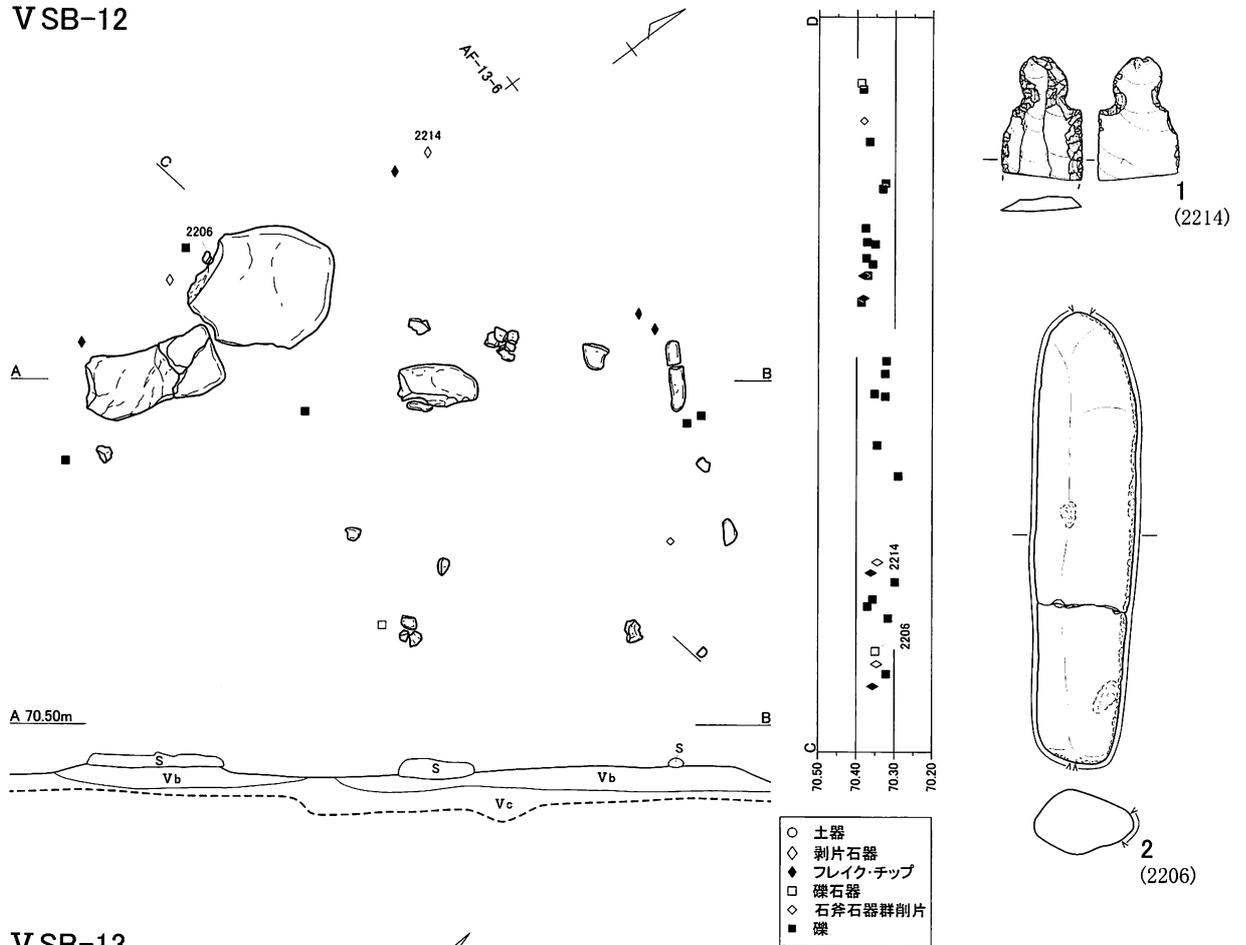
図Ⅱ-56 VSB-08～10 平面・断面・垂直分布図・出土石器

VSB-11

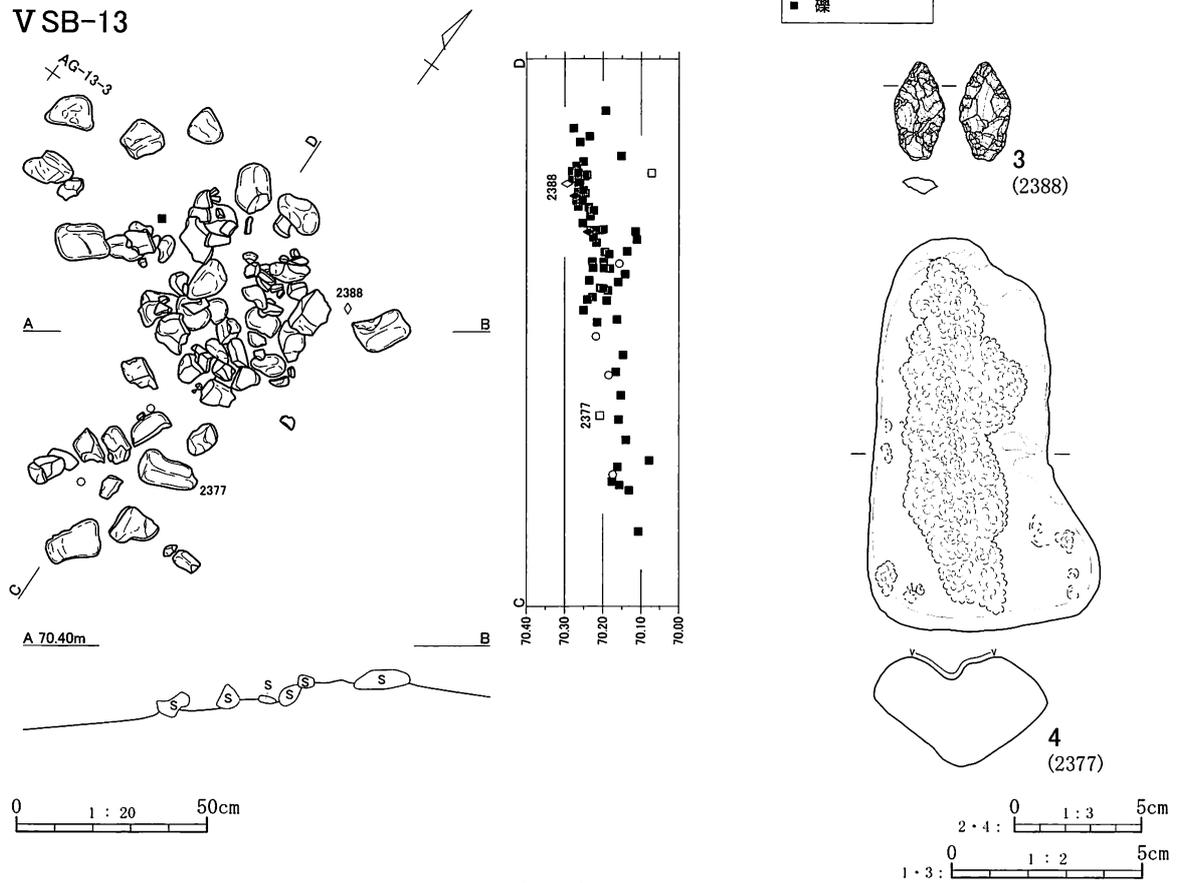


図II-57 VSB-11 平面・断面・垂直分布図・出土石器

VSB-12

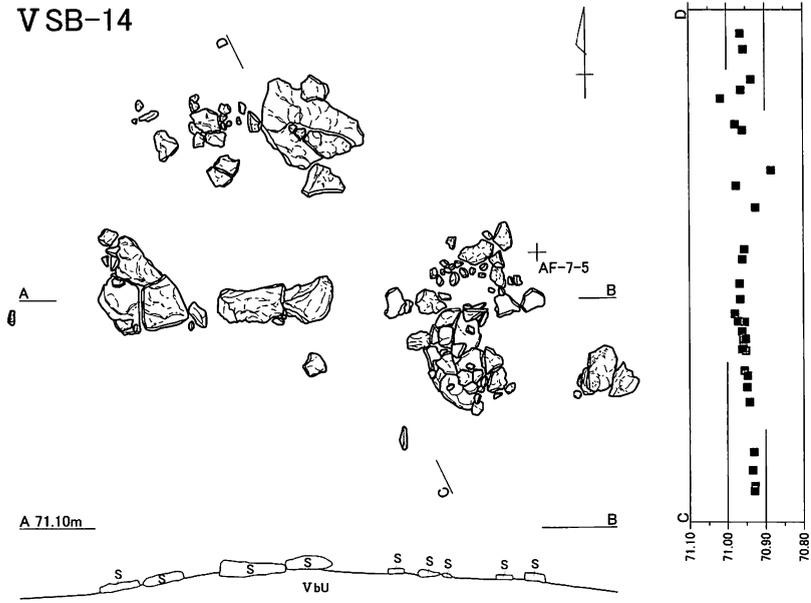


VSB-13



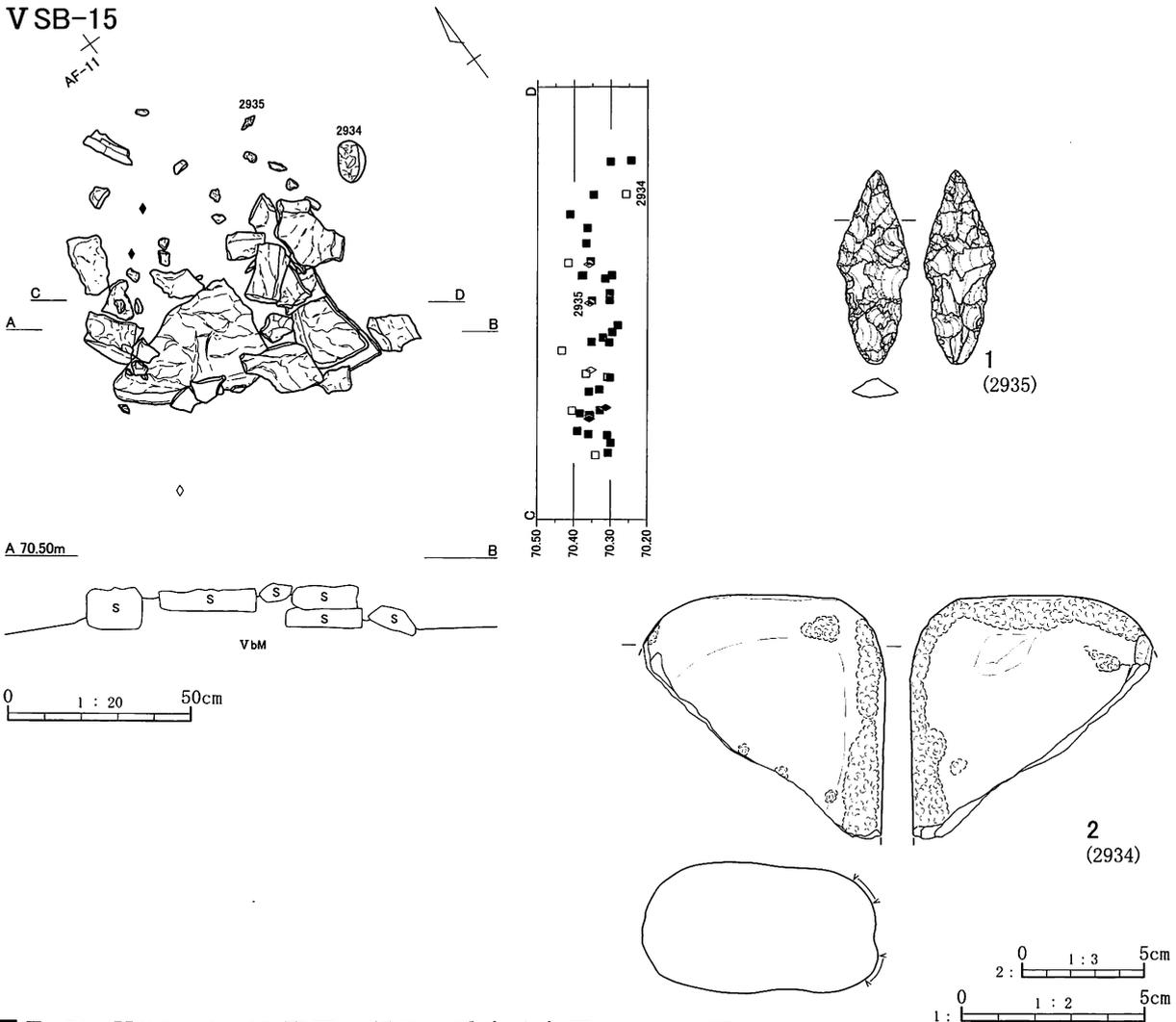
図Ⅱ-58 VSB-12・13 平面・断面・垂直分布図・出土石器

VSB-14

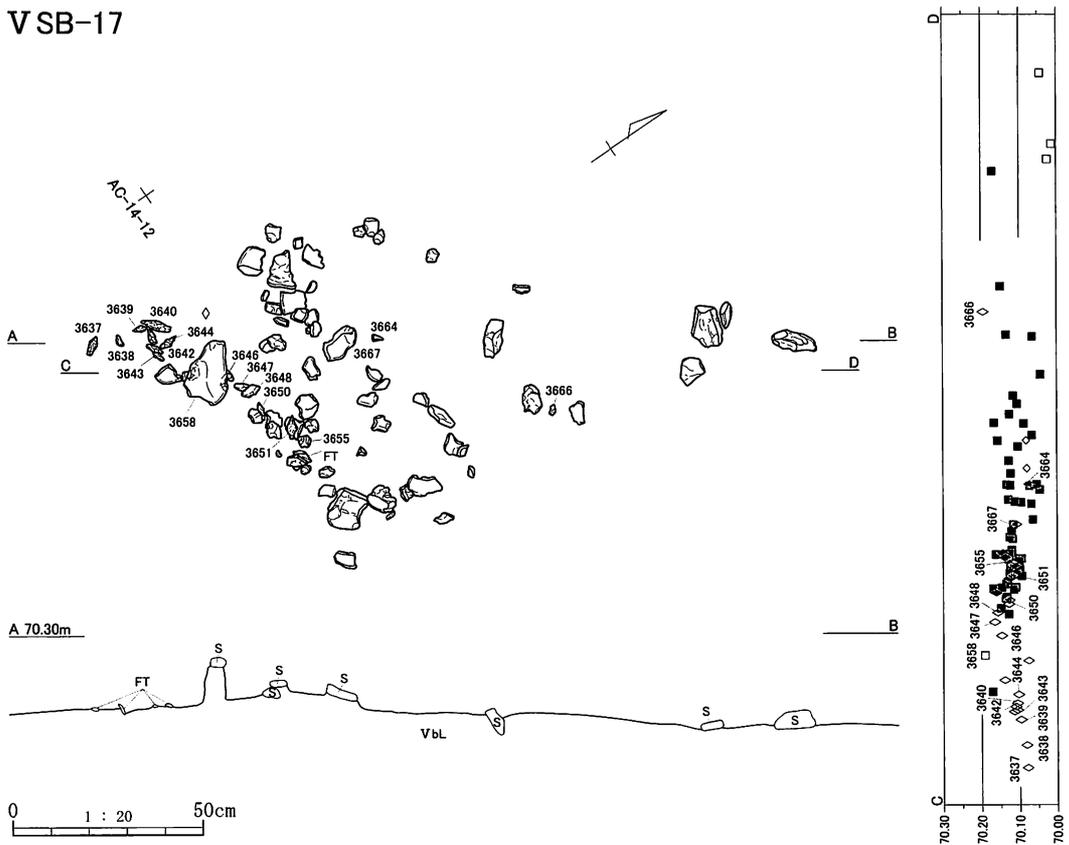
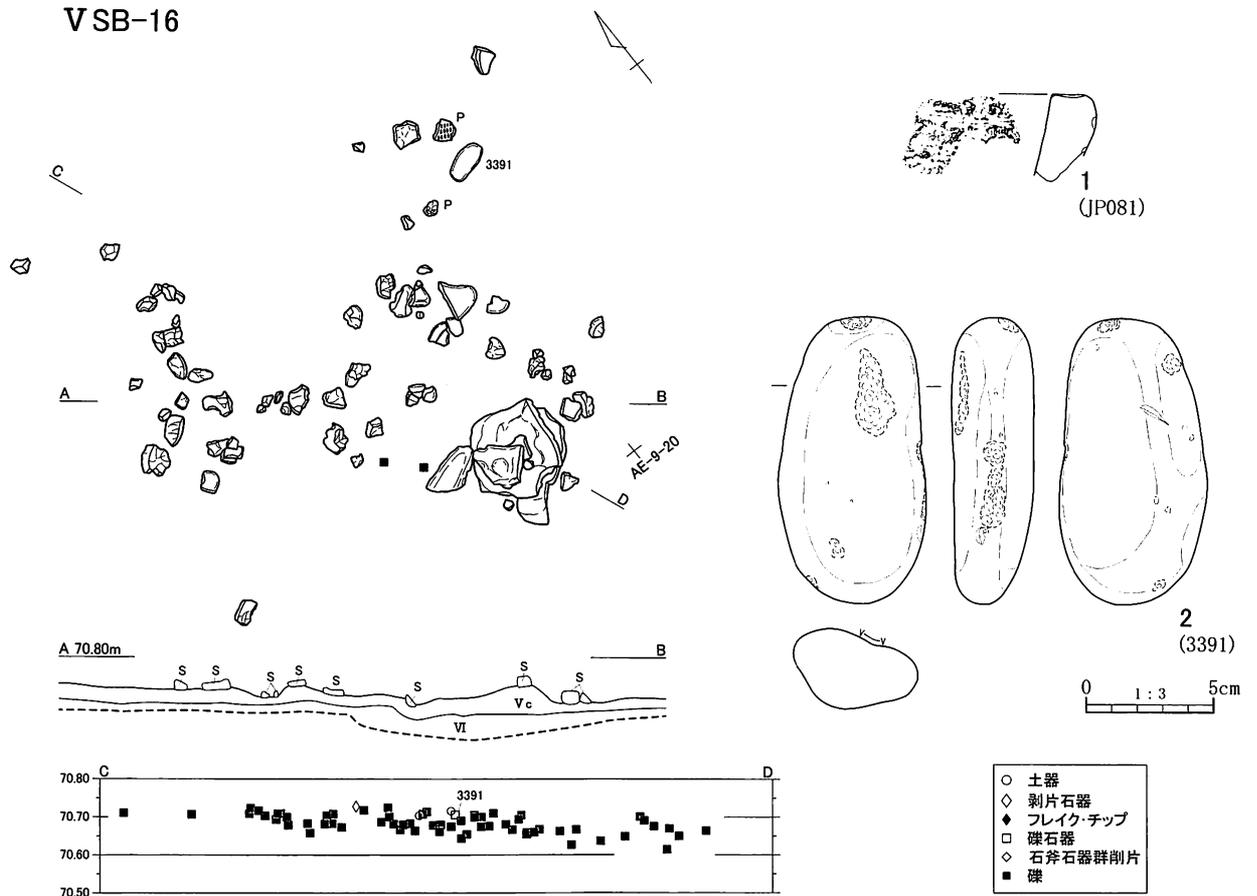


- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 磁

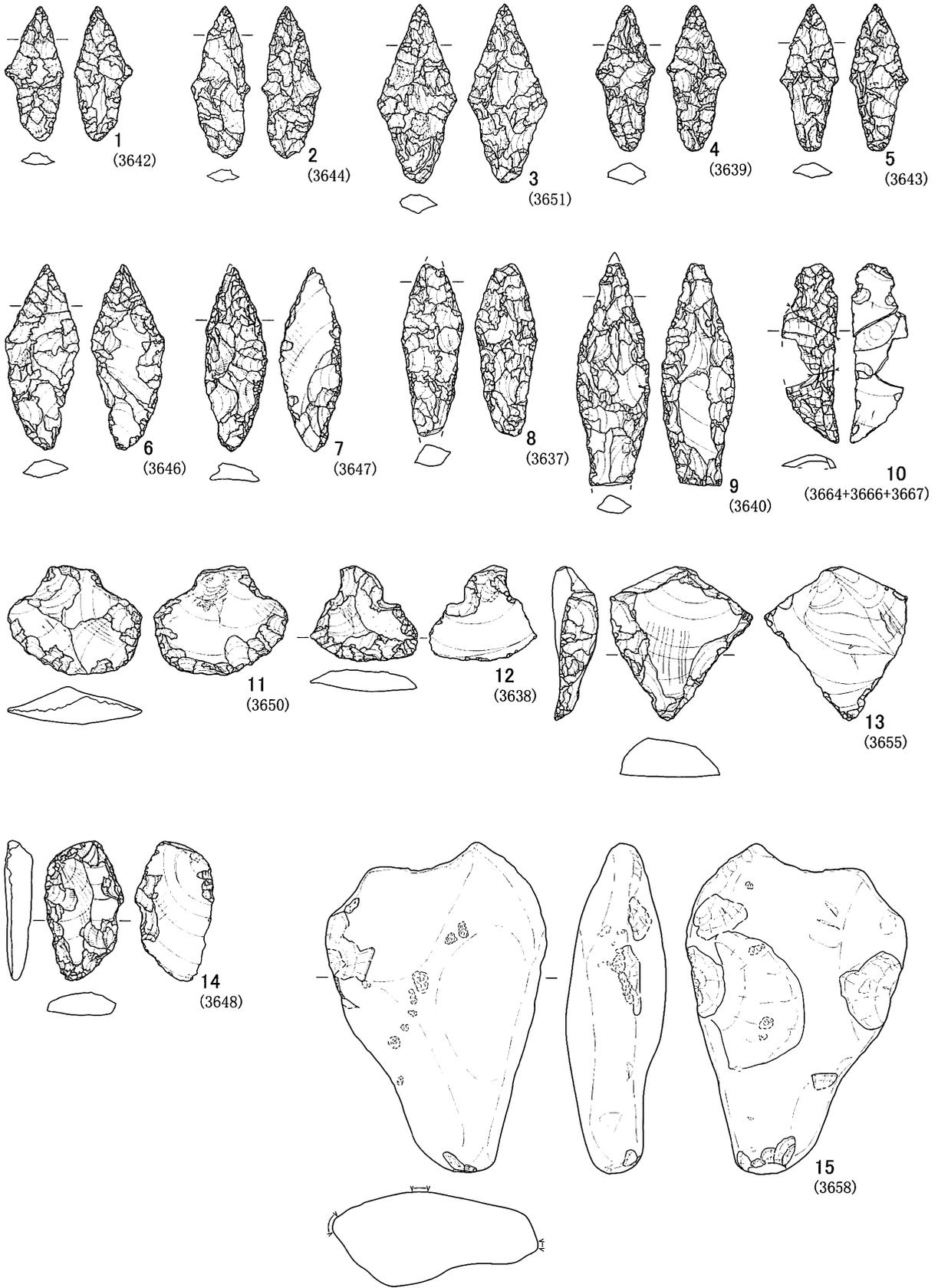
VSB-15



図II-59 VSB-14・15 平面・断面・垂直分布図・出土石器

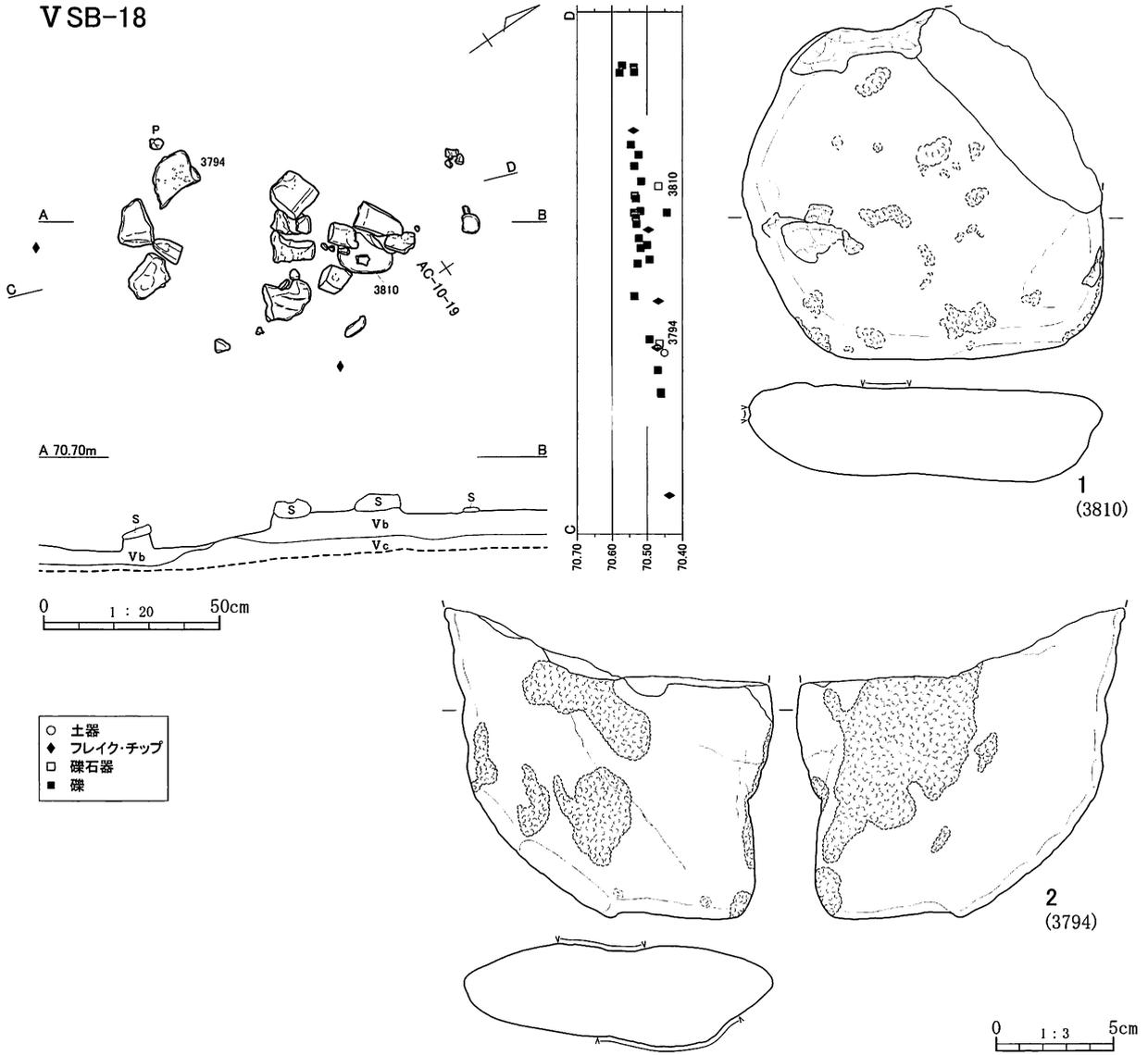


図Ⅱ-60 VSB-16・17 平面・断面・垂直分布図・出土遺物



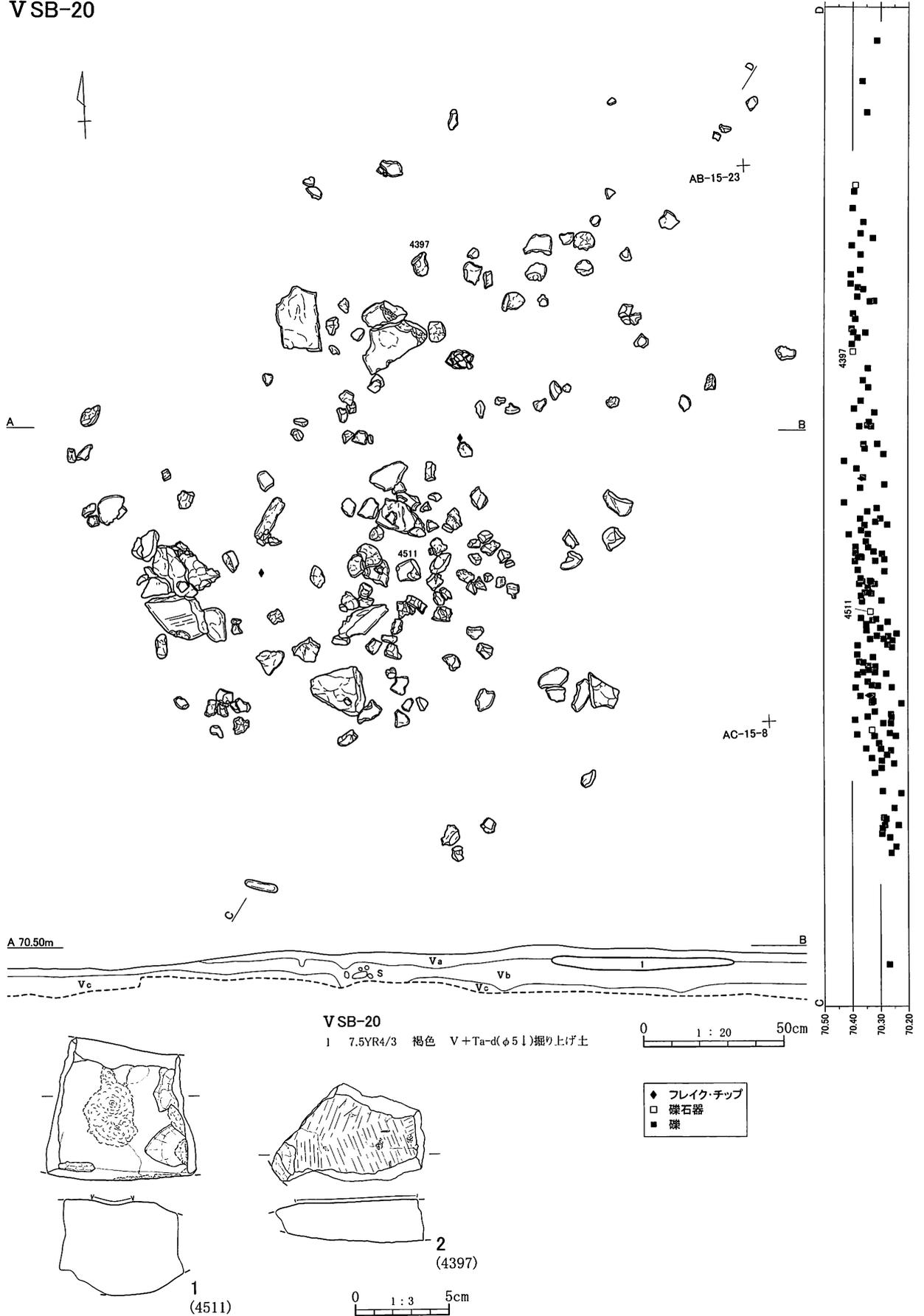
図II-61 VSB-17 出土石器

VSB-18



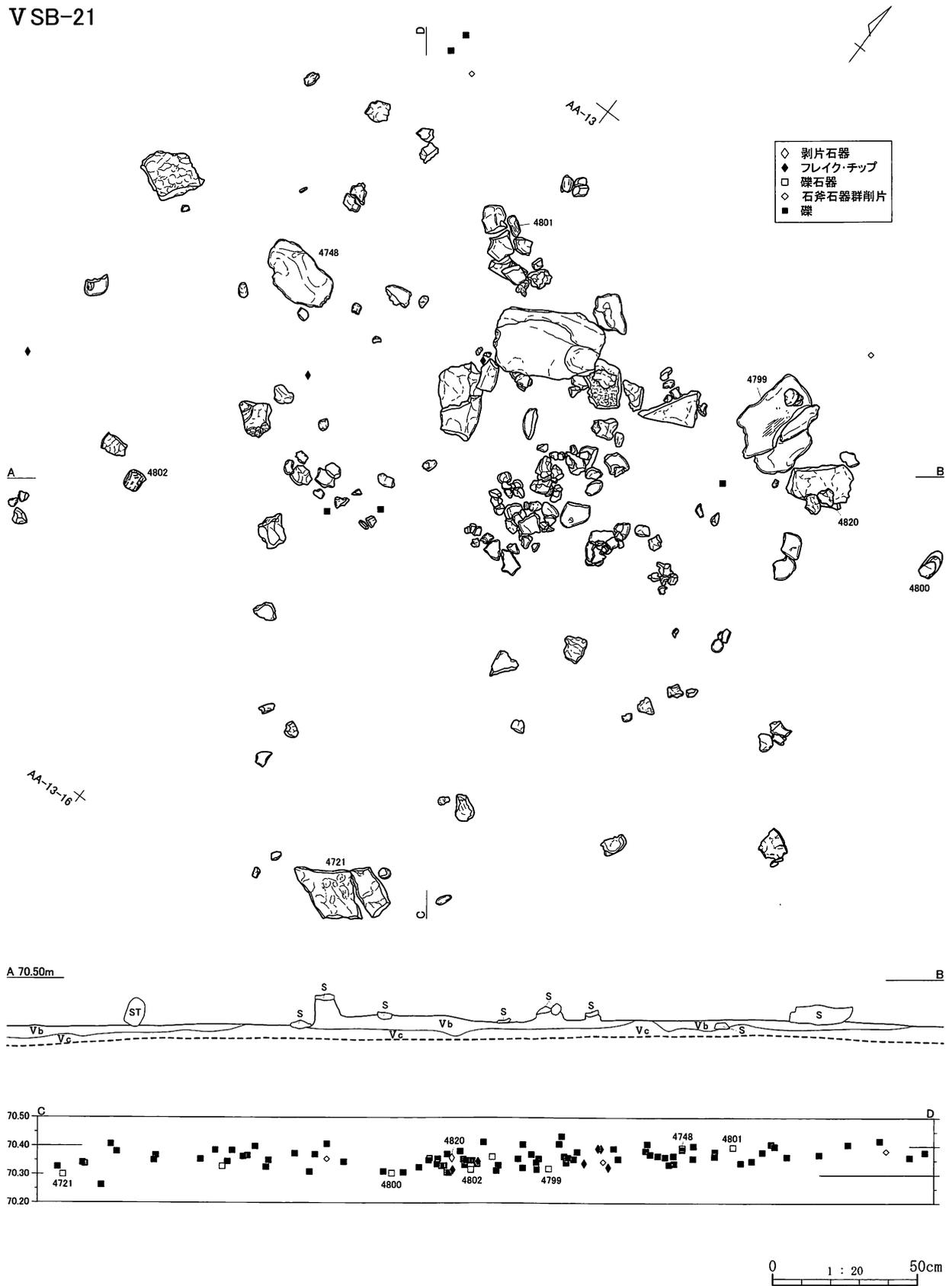
図II-62 VSB-18 平面・断面・垂直分布図・出土石器

V SB-20

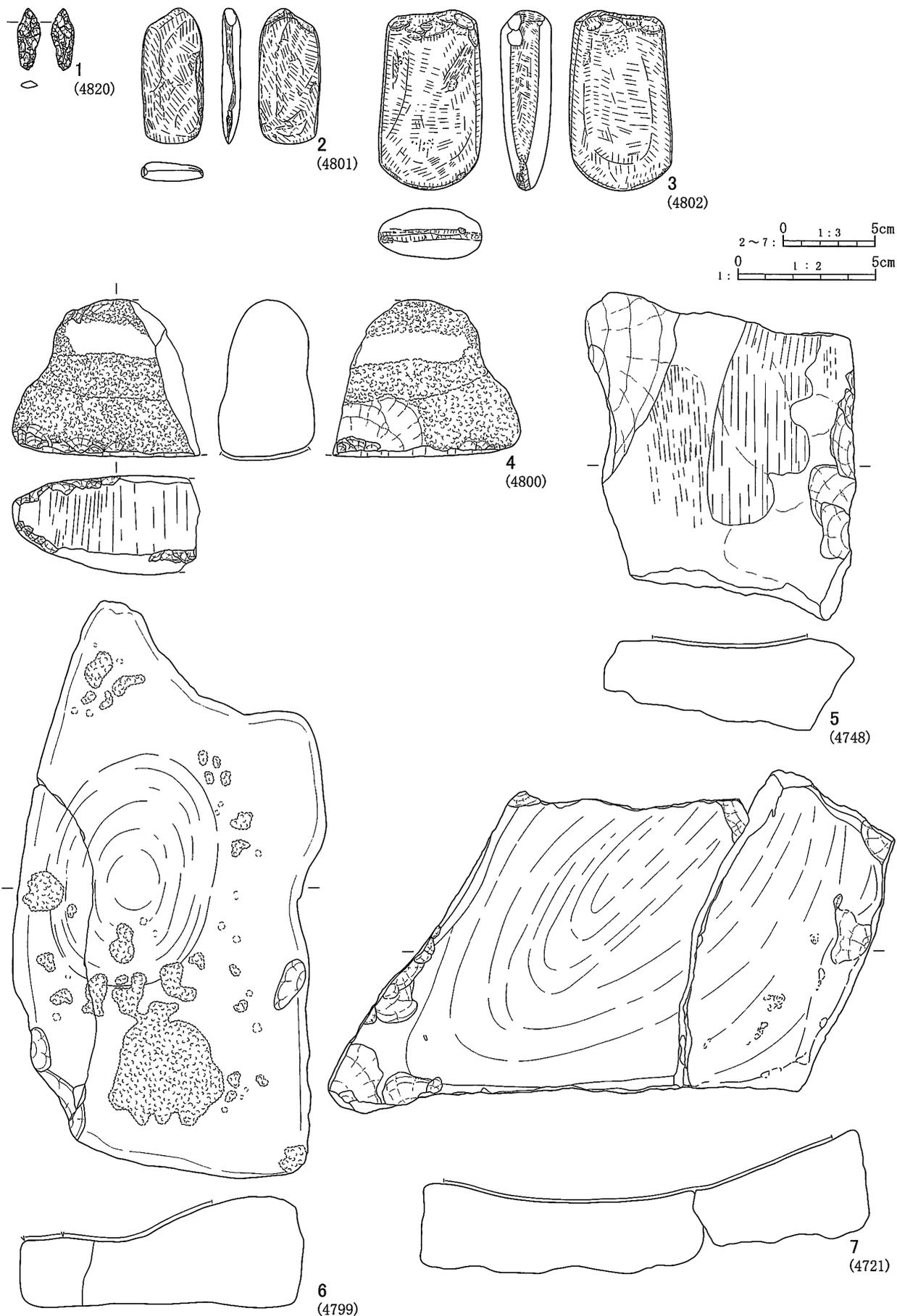


図Ⅱ-64 V SB-20 平面・断面・垂直分布図・出土石器

VSB-21

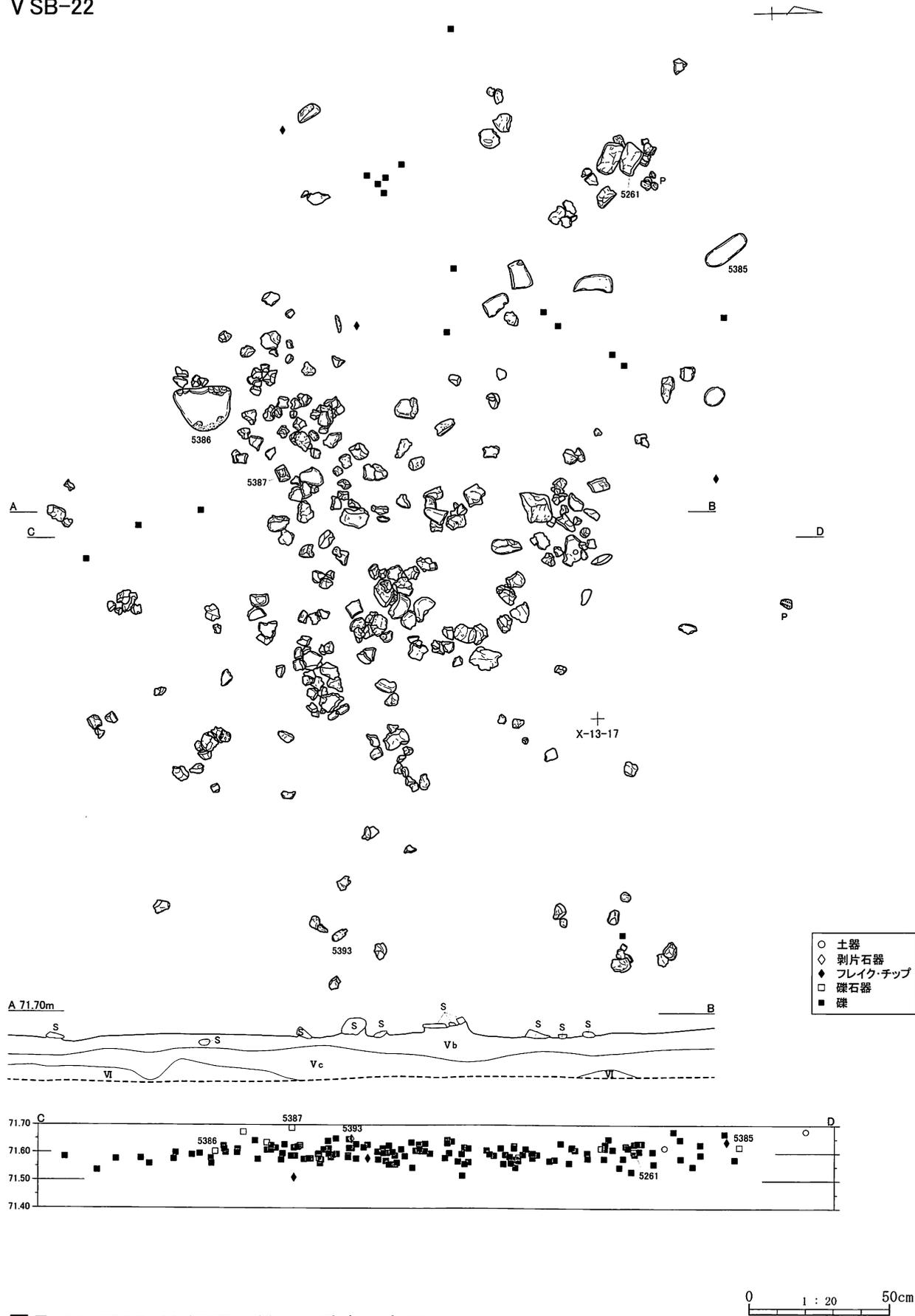


図II-65 VSB-21 平面・断面・垂直分布図

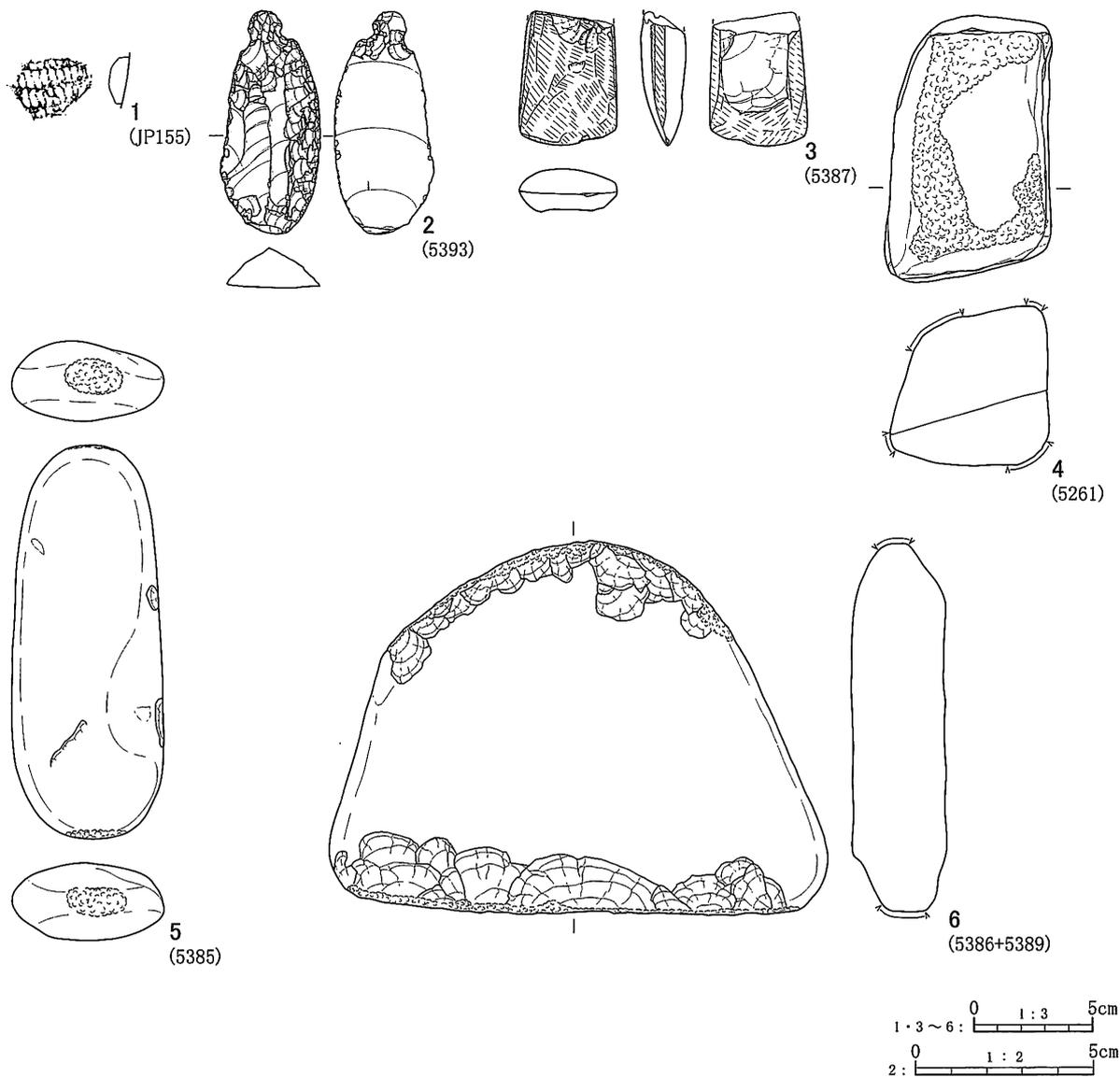


図Ⅱ-66 VSB-21 出土石器

V SB-22

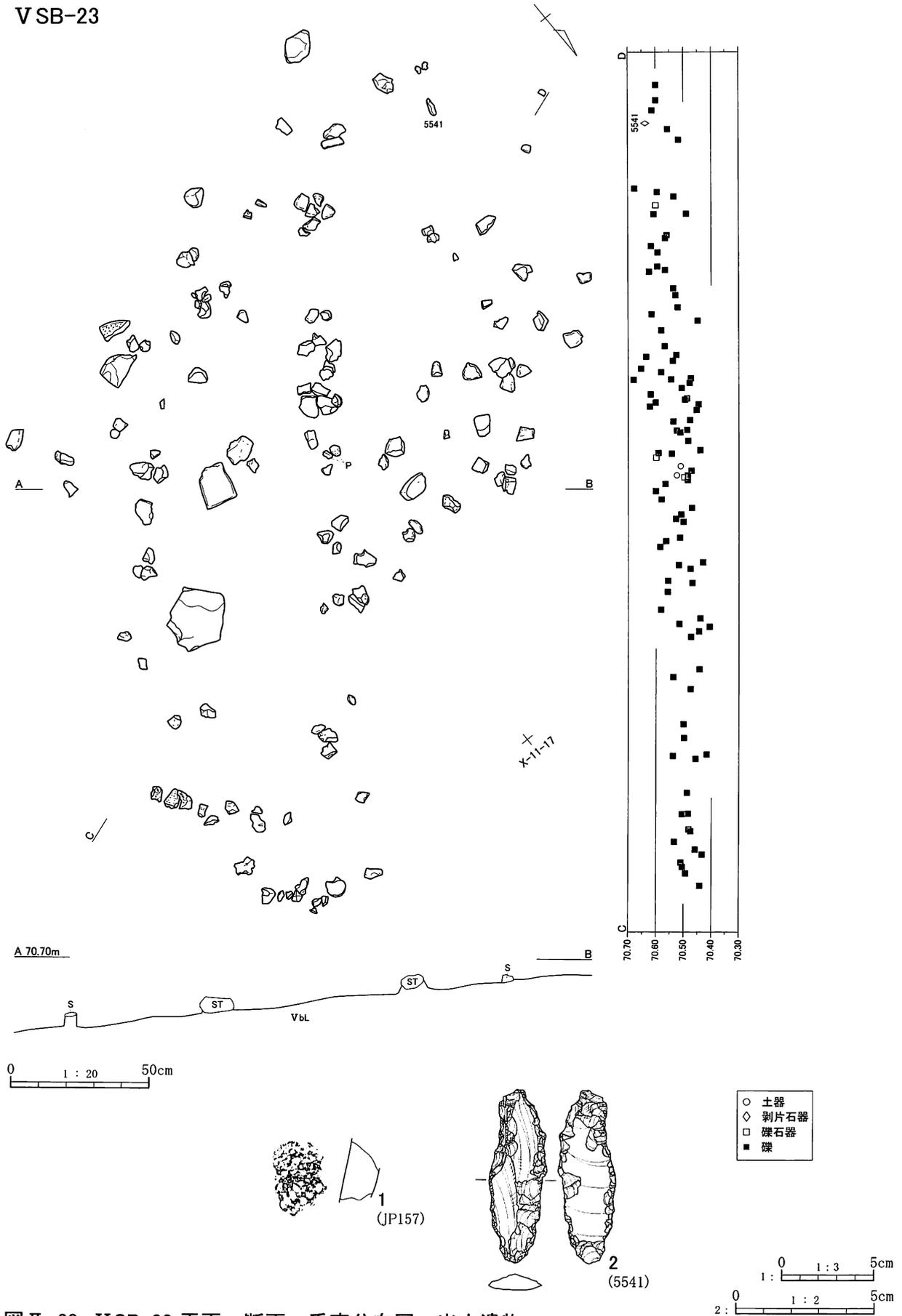


図II-67 VSB-22 平面・断面・垂直分布図



図Ⅱ-68 VSB-22 出土遺物

VSB-23



図II-69 VSB-23 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

VSB-24

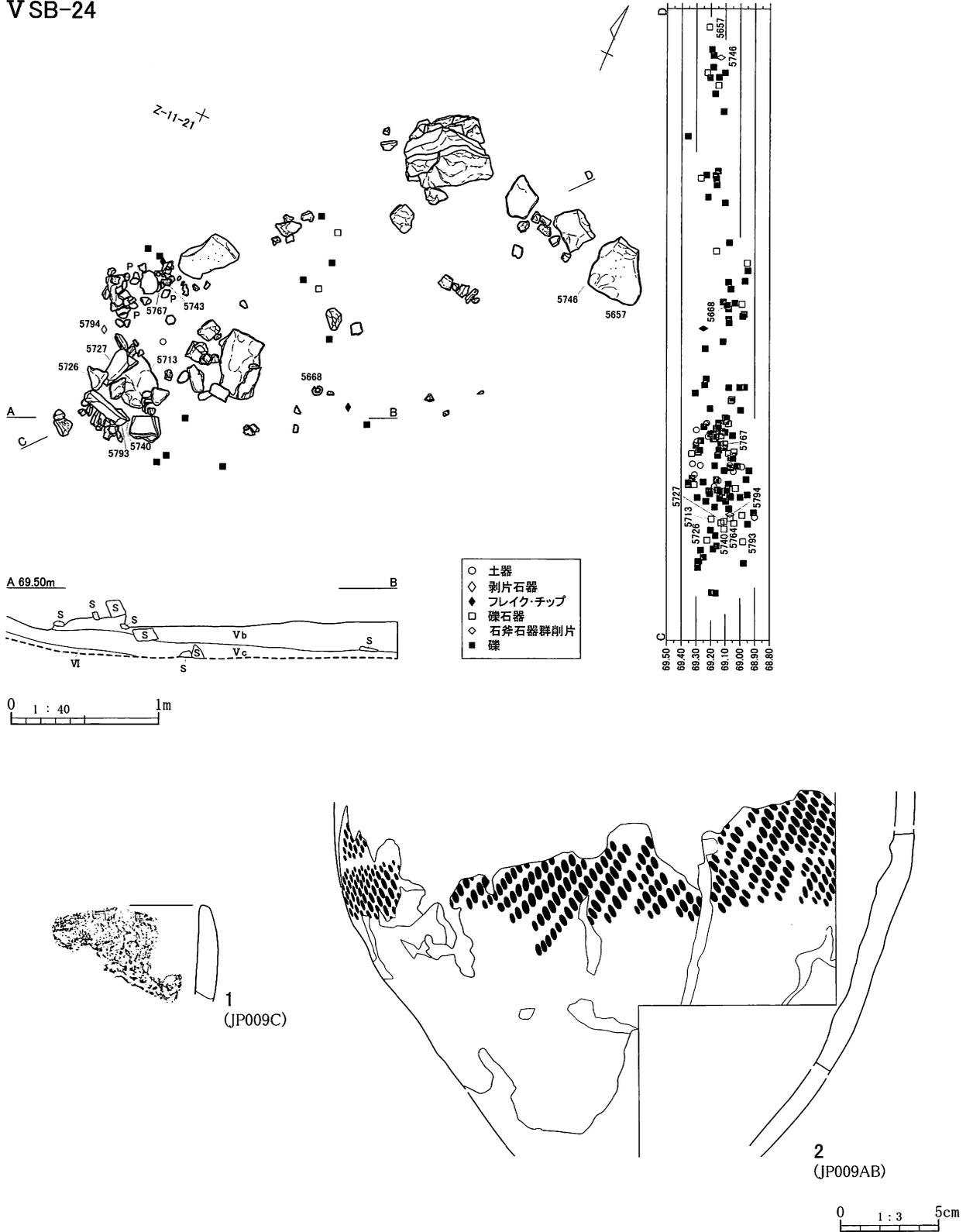
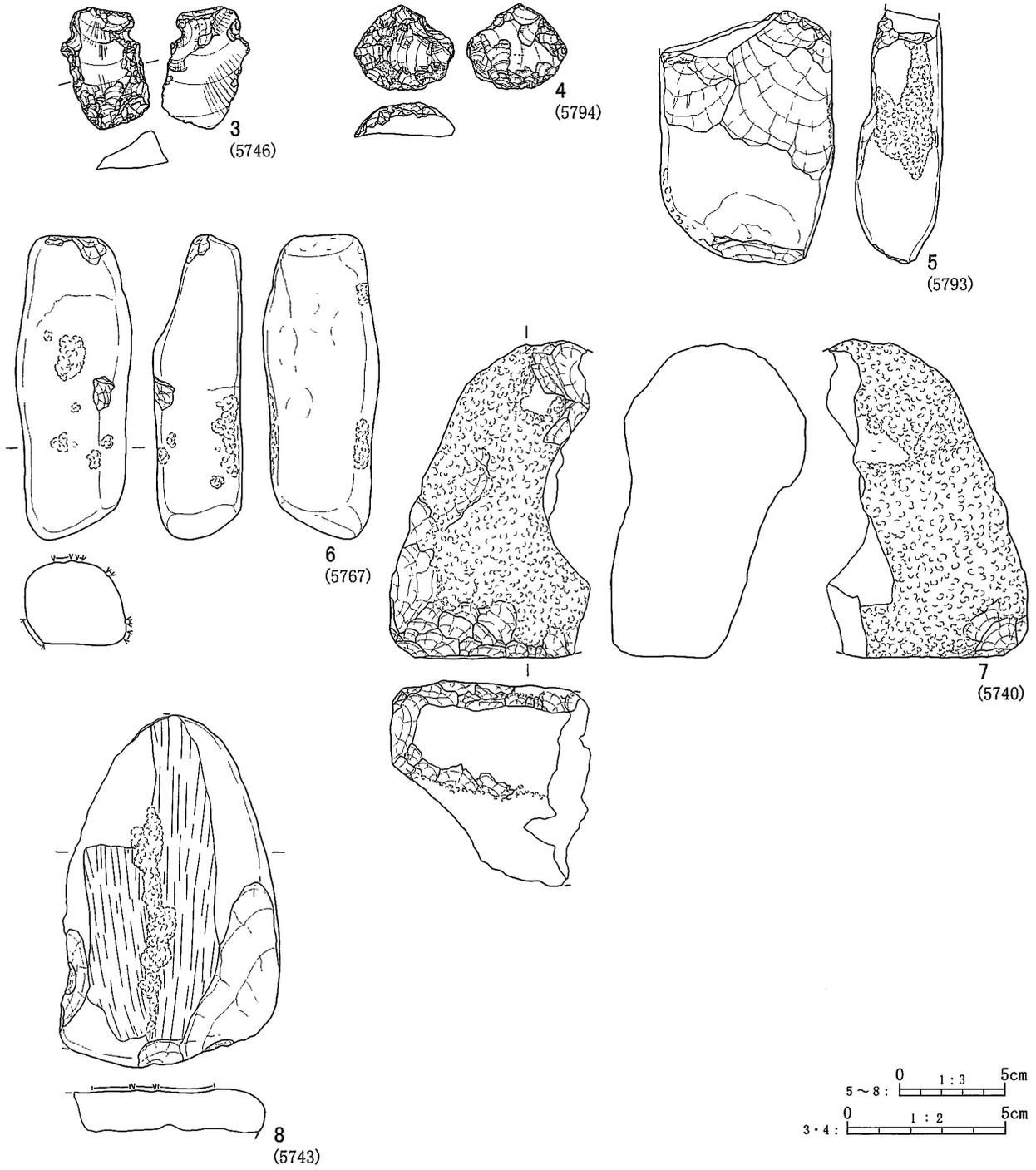
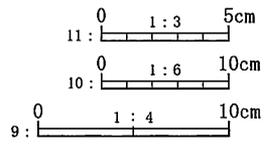
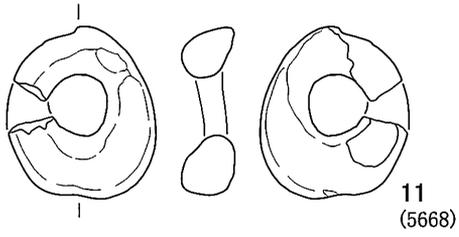
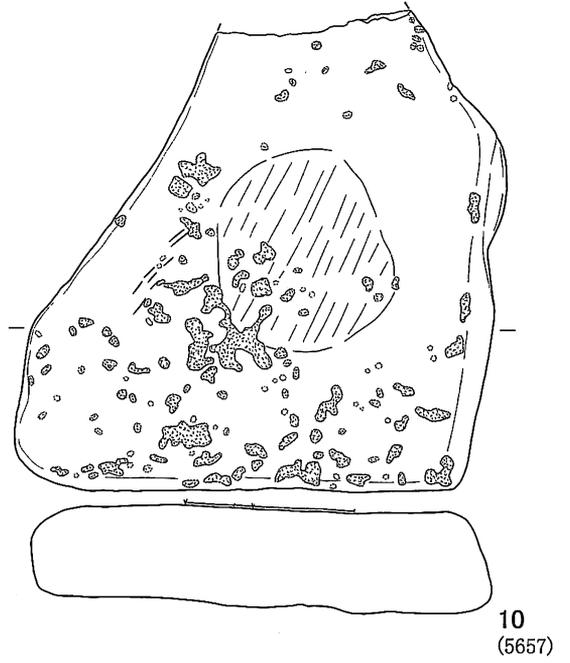


図 II-70 VSB-24 平面・断面・垂直分布図・出土土器

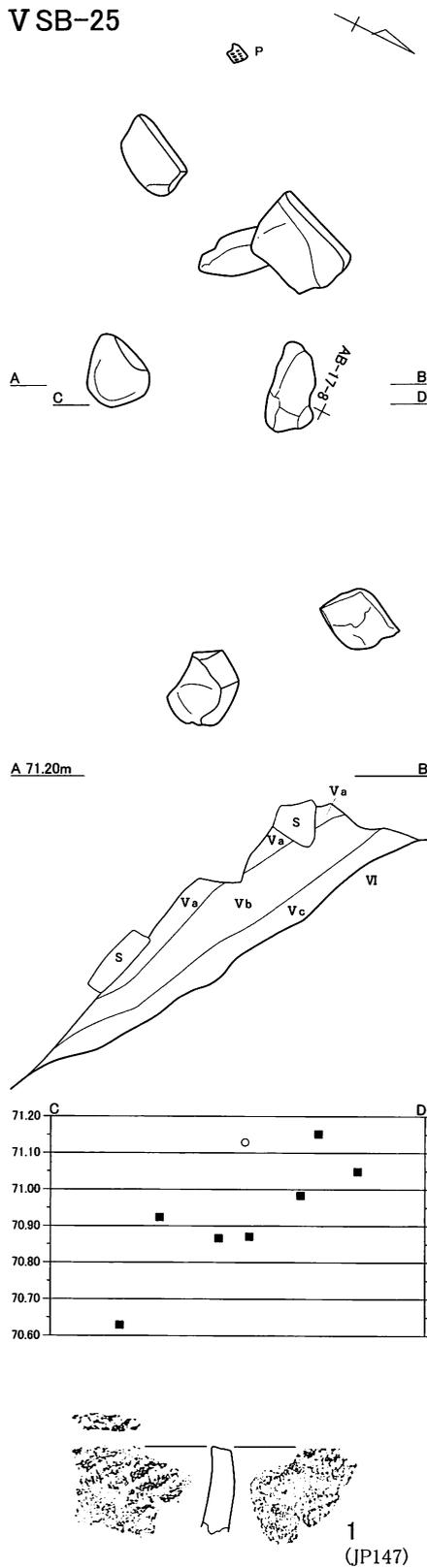


図II-71 VSB-24 出土石器(1)

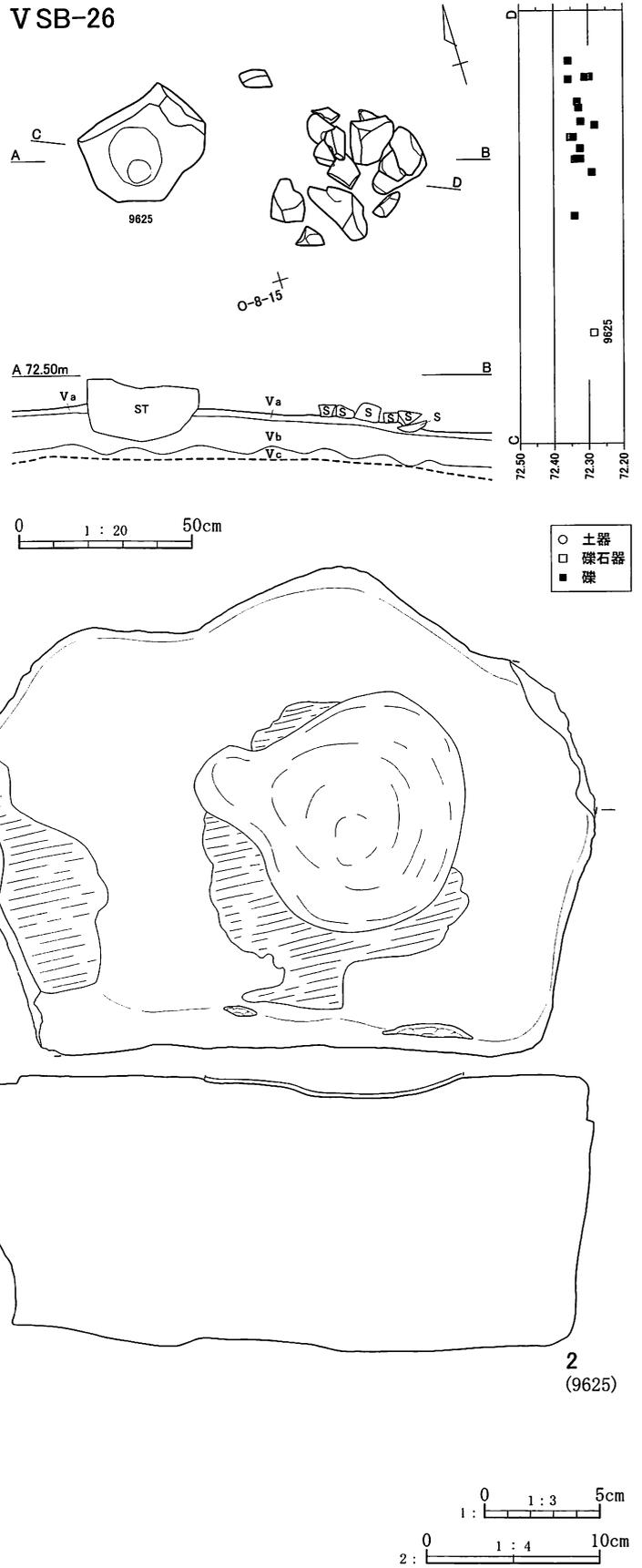


図Ⅱ-72 VSB-24 出土石器(2)その他

V SB-25

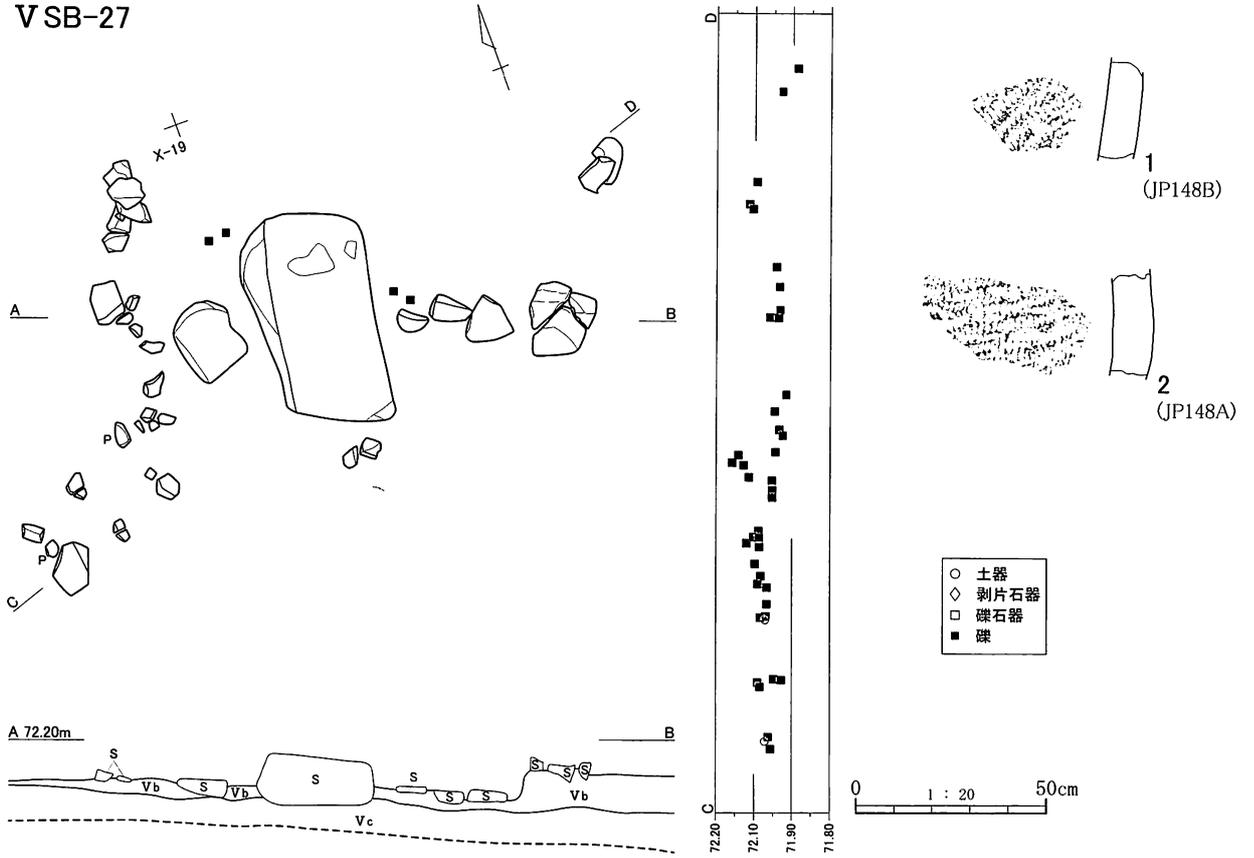


V SB-26

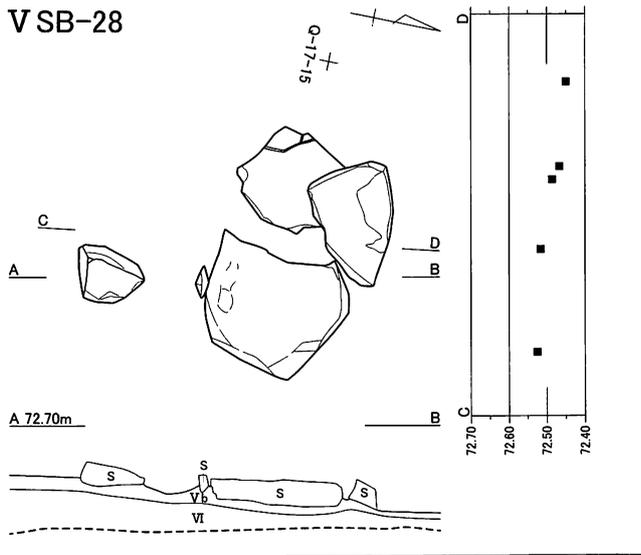


図II-73 V SB-25・26 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

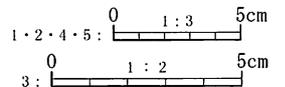
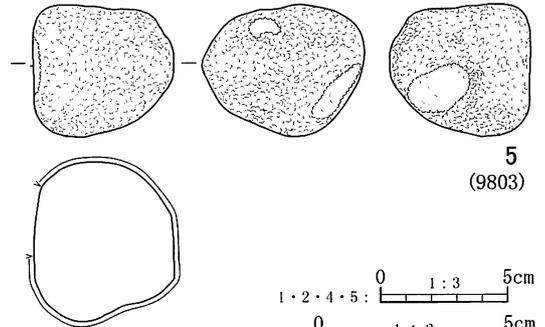
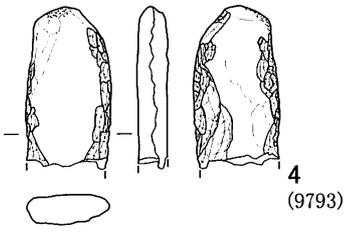
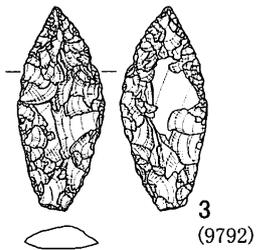
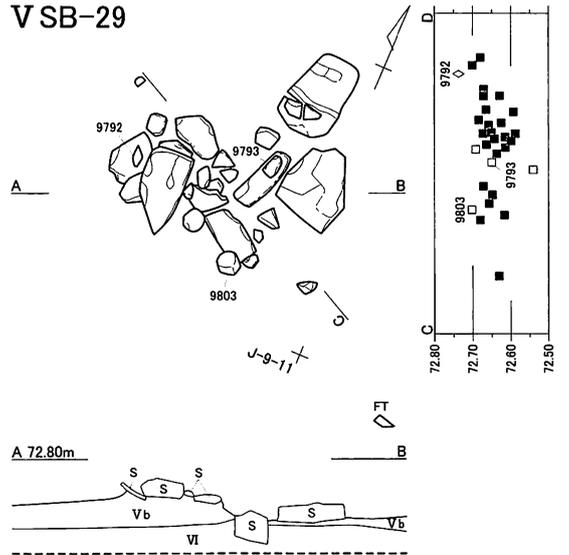
V SB-27



V SB-28

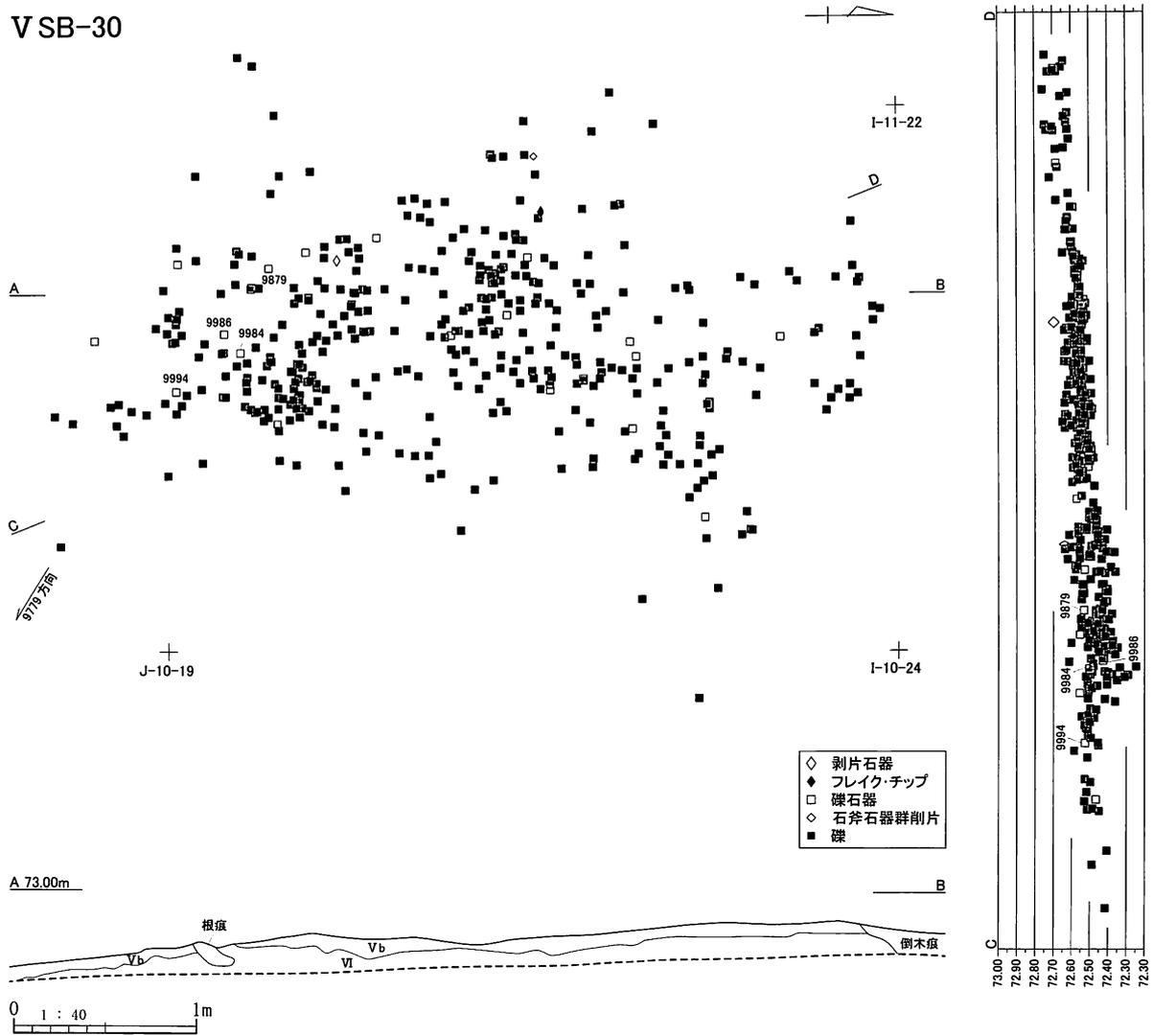


V SB-29

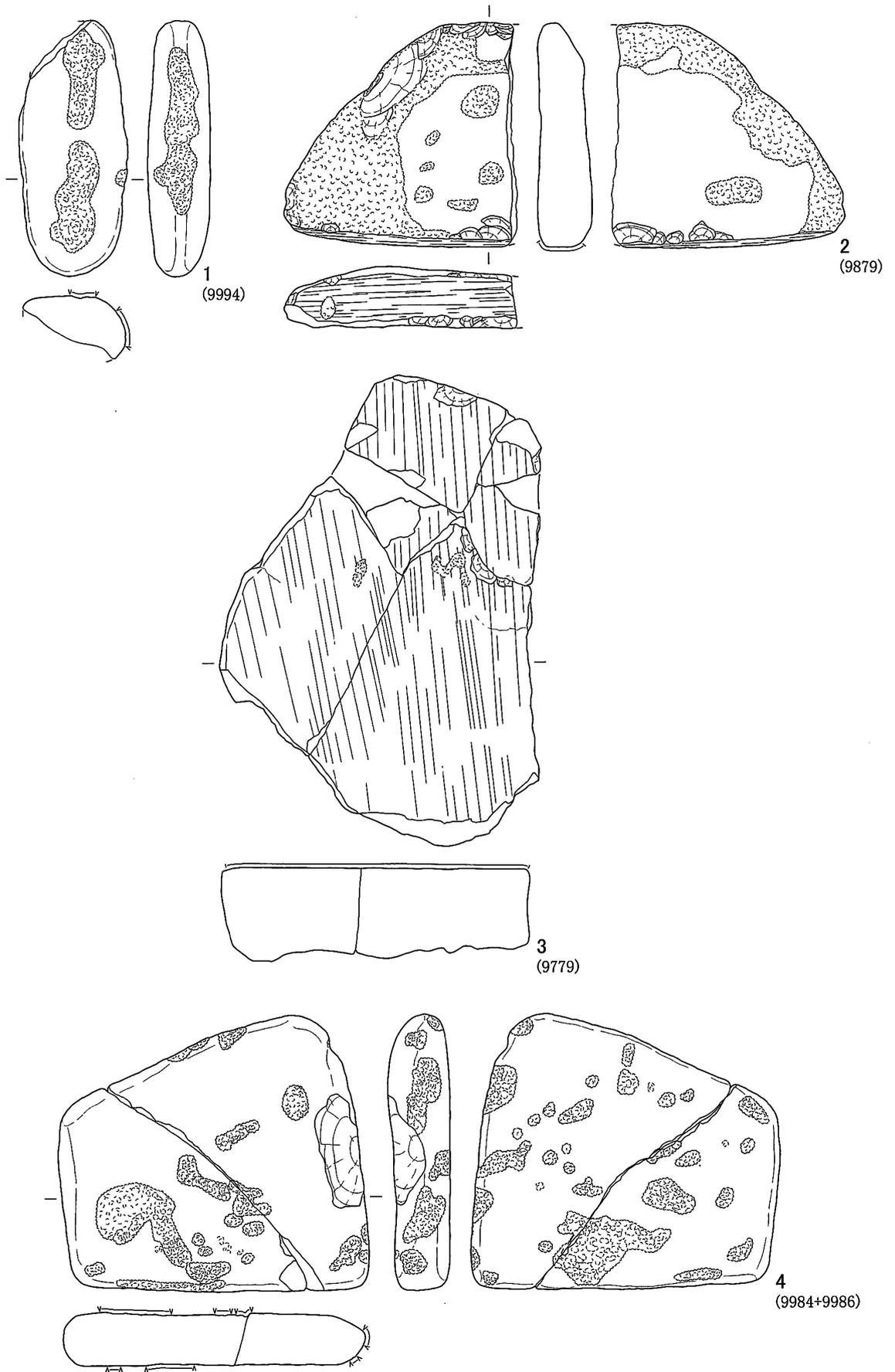


図II-74 VSB-27 ~ 29 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

V SB-30

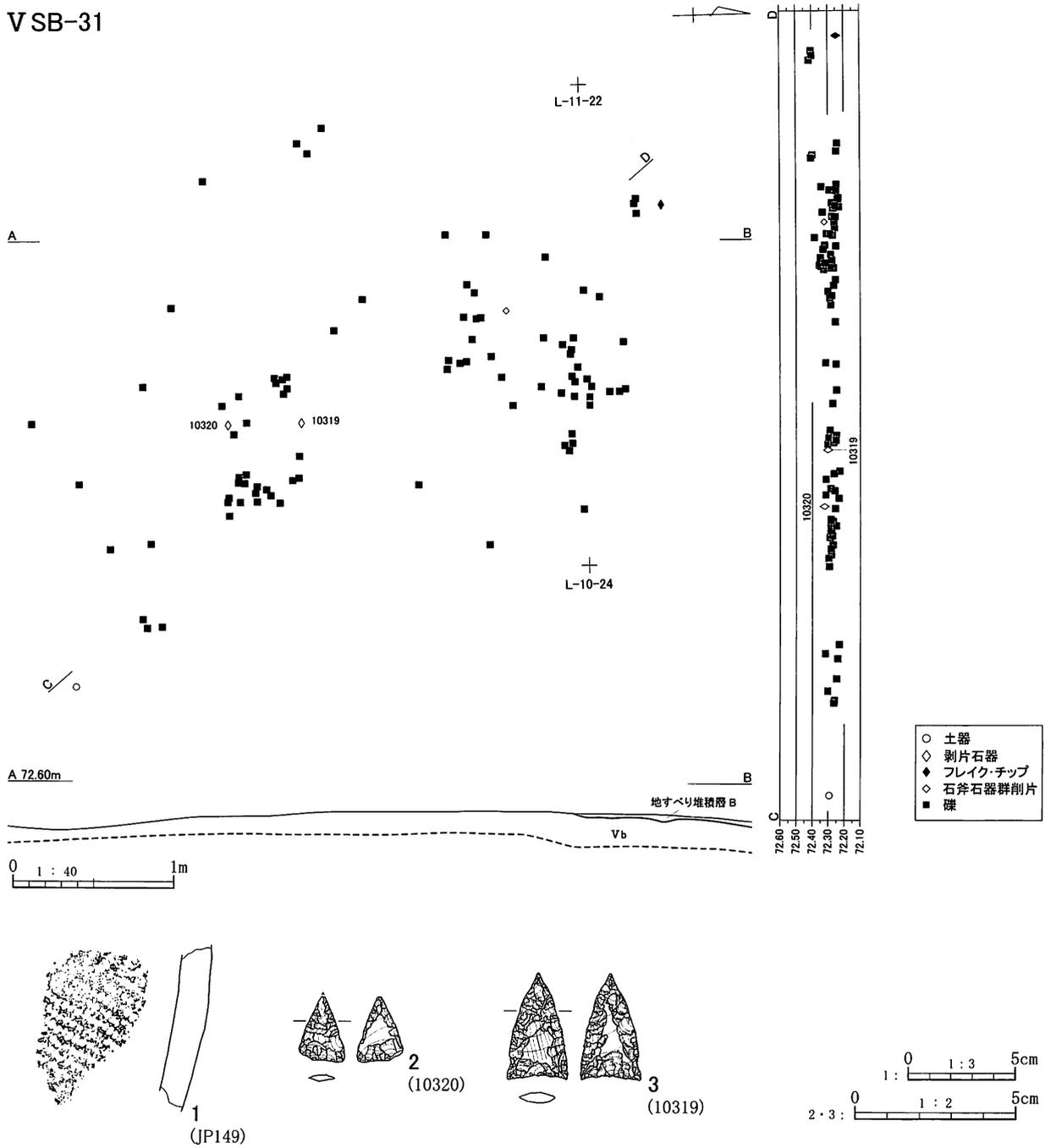


図II-75 V SB-30 平面・断面・垂直分布図



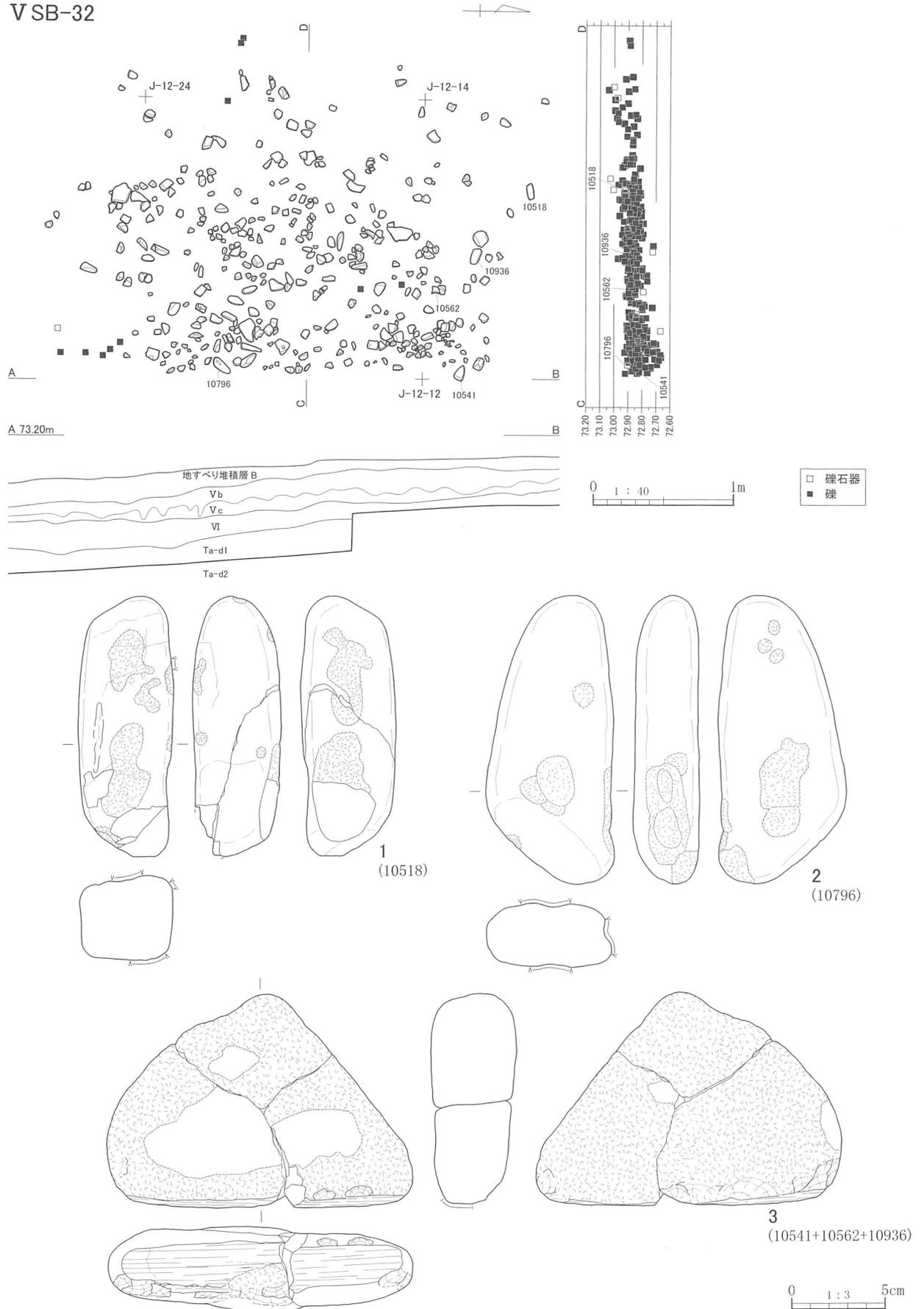
図Ⅱ-76 VSB-30 出土石器

VSB-31



図II-77 VSB-31 平面・断面・垂直分布図・出土遺物

V SB-32



図Ⅱ-78 VSB-32 平面・断面・垂直分布図・出土石器

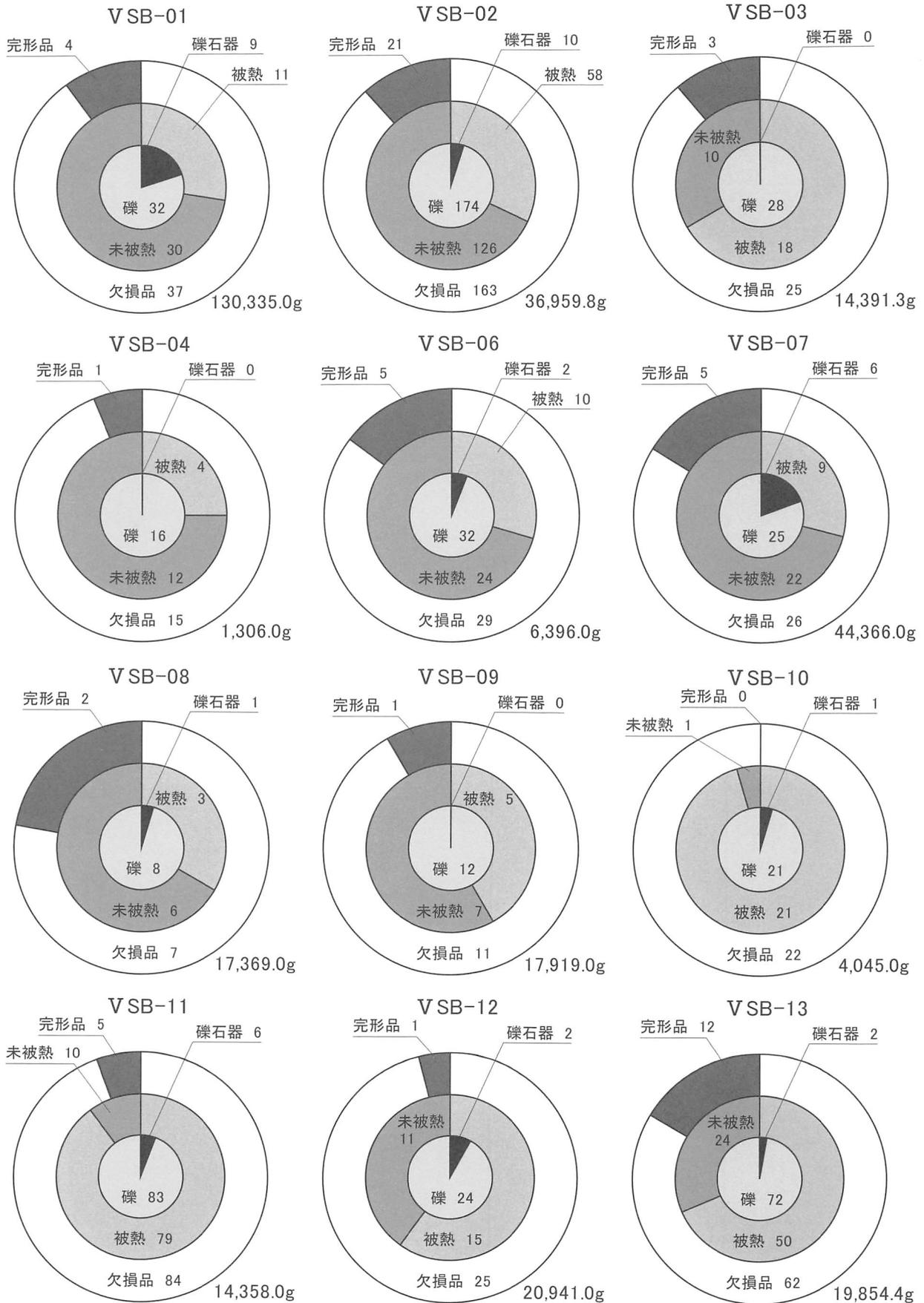
表II-45 VSB出土石器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-51-2	56-2	-	1739	たたき石	I A2	VSb-01	V a	116.9	58.6	32.0	300.0	Sa.	完形
II-51-3	56-3	-	1757	たたき石	IV	VSb-01	V a	(83.3)	69.7	41.9	(305.0)	Sa.	欠損
II-51-4	56-4	VST006	1754	台石	-	VSb-01	V a	(202.8)	(158.3)	99.0	(4,372.1)	Sa.	欠損 接(1755・1756)
II-51-5	56-5	-	1745	石斧	F	VSb-01	V a	(24.2)	17.6	5.1	(3.0)	Sa.	刃部欠
II-53-4	56-9	-	1919	ナイフ・ スクレイパー類	A1	VSb-02	V b	86.6	22.1	8.6	16.1	Si II.	完形
II-53-5	56-10	-	2039	たたき石	I A2	VSb-02	V b	135.5	81.3	39.0	530.0	Sa.	完形
II-53-6	56-11	-	2042	たたき石	II A2	VSb-02	V b	118.9	118.8	47.3	800.0	Sa.	完形
II-53-7	56-12	-	2054	たたき石	II A3	VSb-02	V b	107.1	71.5	53.2	480.0	Sa.	完形
II-53-8	56-13	-	2019	台石	-	VSb-02	V b	179.8	91.1	73.0	1350.0	Sa.	完形
II-53-9	56-14	-	2016	台石	-	VSb-02	V b	108.2	98.9	61.7	1,110.0	Sa.	完形
II-55-2	57-5	-	1037	たたき石	II B2	VSb-06	V	(54.3)	66.1	46.7	(260.0)	Sa.	欠損
II-56-1	57-7	-	1801	石皿	-	VSb-10	V b	376.0	(124.0)	(92.0)	(3,150.0)	Sa.	欠損
II-57-1	57-8	-	2298	線条痕のある礫	-	VSb-11	V b	106.6	90.7	46.6	655.0	Sa.	完形
II-57-2	57-9	VST007	2299	たたき石	III B	VSb-11	V b	105.9	95.9	64.3	850.0	Sa.	完形、接(2300)
II-57-3	57-10	VST046	2229	すり石	D	VSb-11	V b	(118.6)	86.4	60.5	(798.0)	Sa.	未成品、接(2230)
II-58-1	57-11	-	2214	ナイフ・ スクレイパー類	A1	VSb-12	V b	(31.5)	20.9	5.4	(3.8)	Si II.	基部片
II-58-2	57-12	-	2206	たたき石	I B2	VSb-12	V b	177.3	39.2	24.0	205.0	Sa.	完形
II-58-3	57-13	-	2388	ポイント類	A4	VSb-13	V a	26.1	13.2	5.5	1.6	Obs.	完形
II-58-4	57-14	-	2377	たたき石	I B1	VSb-13	V a	153.8	64.5	69.3	635.0	Sa.	完形
II-59-1	58-1	-	2935	ポイント類	B1	VSb-15	V b	52.6	19.5	5.7	5.2	Sch.	完形
II-59-2	58-2	-	2934	たたき石	II A2	VSb-15	V b	(102.1)	98.3	57.4	(690.0)	Sa.	欠損
II-60-2	58-4	-	3391	たたき石	I B3	VSb-16	V c	112.4	58.4	32.1	270.0	Sa.	完形
II-61-1	58-5	-	3642	ポイント類	B1	VSb-17	V c	46.9	19.9	6.7	4.4	Obs.	完形
II-61-2	58-6	-	3644	ポイント類	B1	VSb-17	V c	52.8	20.3	10.4	7.0	Obs.	完形
II-61-3	58-7	-	3651	ポイント類	B1	VSb-17	V b	61.6	26.6	10.5	10.8	Obs.	完形
II-61-4	58-8	-	3639	ポイント類	B1	VSb-17	V c	50.6	20.1	9.3	6.3	Obs.	完形
II-61-5	58-9	-	3643	ポイント類	B1	VSb-17	V c	50.8	19.9	9.8	6.0	Obs.	完形
II-61-6	58-10	-	3646	ポイント類	B2	VSb-17	V b	64.2	25.3	6.7	9.2	Obs.	完形
II-61-7	58-11	-	3647	ポイント類	B2	VSb-17	V b	63.7	21.6	7.4	8.6	Obs.	完形
II-61-8	58-12	-	3637	ポイント類	B2	VSb-17	V c	(59.8)	21.1	11.3	(12.3)	Obs.	両端部欠
II-61-9	58-13	-	3640	ポイント類	B2	VSb-17	V c	(77.0)	24.8	9.6	(18.3)	Obs.	基部欠
II-61-10	58-14	-	3664	ナイフ・ スクレイパー類	A2	VSb-17	V b	62.3	18.9	6.0	5.6	Obs.	略完形、被熱 接(3666・3667)
II-61-11	58-15	-	3650	ナイフ・ スクレイパー類	A4	VSb-17	V b	45.4	37.6	12.4	16.4	Obs.	完形
II-61-12	58-16	-	3638	ナイフ・ スクレイパー類	A4	VSb-17	V c	36.6	33.8	9.5	9.1	Obs.	完形、横型
II-61-13	58-17	-	3655	ナイフ・ スクレイパー類	C1a	VSb-17	V b	46.5	43.1	13.2	26.7	Obs.	完形
II-61-14	58-18	-	3648	ナイフ・ スクレイパー類	C1a	VSb-17	V b	49.1	27.8	8.6	11.1	Obs.	完形
II-61-15	58-19	-	3658	たたき石	II A3	VSb-17	V b	168.1	112.9	50.2	805.0	Sa.	完形
II-62-1	59-1	-	3810	台石	-	VSb-18	V b	(149.2)	151.0	39.0	(1,245.0)	Sa.	欠損
II-62-2	59-2	-	3794	たたき石	II A1	VSb-18	V b	(104.4)	(131.3)	41.0	(825.0)	Sa.	欠損、被熱
II-63-2	59-4	-	3899	たたき石	II A3	VSb-19	V b	197.8	85.3	(36.6)	(575.0)	Sa.	欠損
II-63-3	59-5	-	3903	台石	-	VSb-19	V b	129.5	93.7	50.9	1,105.0	Sa.	完形
II-64-1	59-6	-	4511	たたき石	II B1	VSb-20	V b	(78.1)	76.2	48.7	(390.0)	Sa.	欠損
II-64-2	59-7	-	4397	砥石	-	VSb-20	V b	(81.5)	(50.9)	(23.3)	(108.0)	Sa.	欠損、被熱
II-66-1	59-8	-	4820	ポイント類	A1	VSb-21	V b	22.6	8.3	3.9	0.6	Obs.	完形
II-66-2	59-9	-	4801	石斧	A1	VSb-21	V b	74.3	33.9	10.2	43.2	Sch.	完形
II-66-3	59-10	-	4802	石斧	G	VSb-21	V b	97.5	56.7	27.1	285.0	Gr-Mud.	完形
II-66-4	59-11	-	4800	すり石	D	VSb-21	V b	89.0	(101.1)	48.7	(560.0)	Sa.	欠損
II-66-5	59-12	-	4748	砥石	-	VSb-21	V b	(164.6)	(157.3)	50.1	(1,640.0)	Sa.	欠損

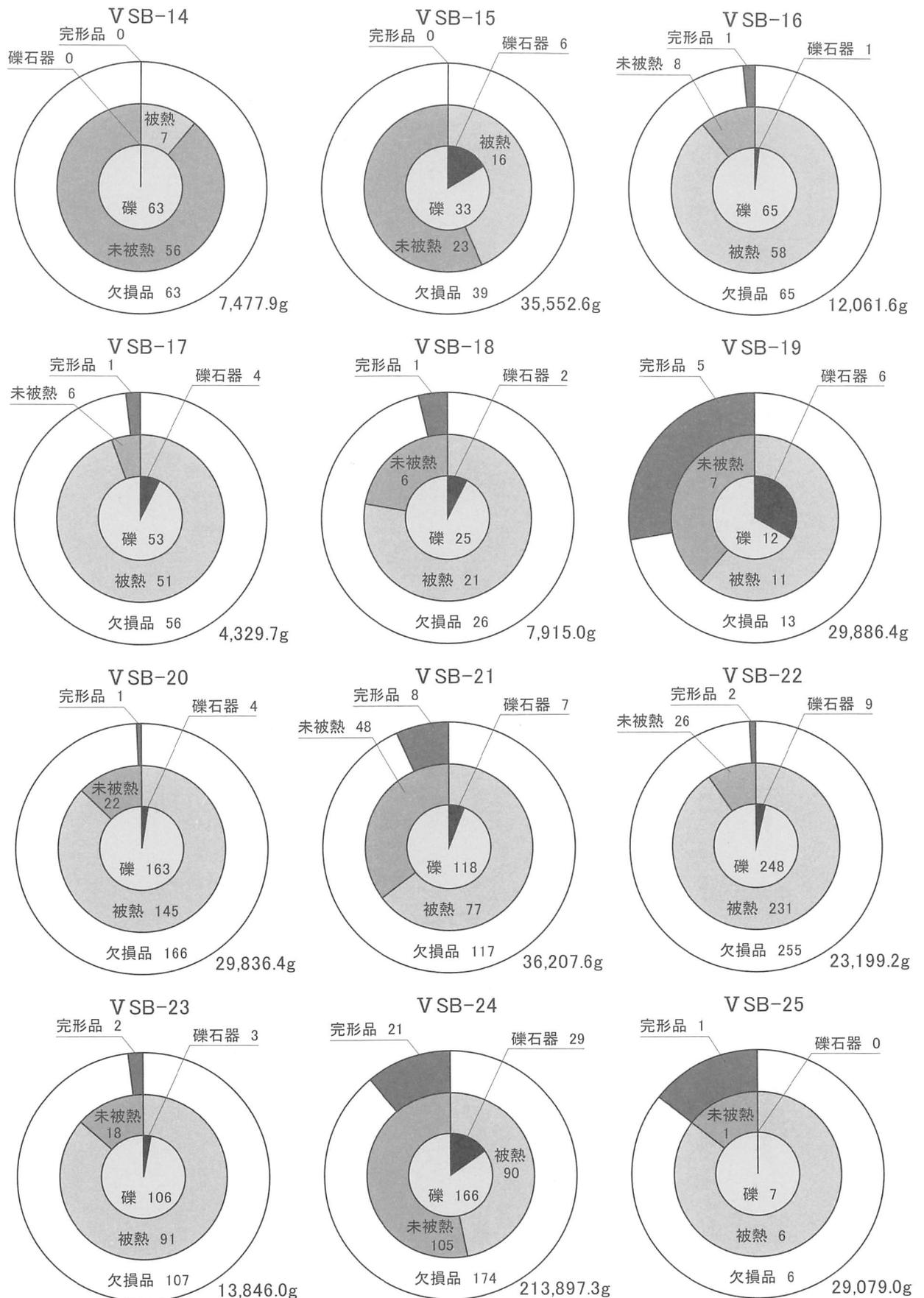
表Ⅱ-45 VSB出土石器属性表(2)その他

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物番号	遺物名	分類	遺構名	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-66-6	60-1	-	4799	石皿	-	VSb-21	Vb	317.1	163.0	66.5	4,550.0	Sa.	完形
Ⅱ-66-7	60-2	-	4721	石皿	-	VSb-21	Vb	261.4	183.6	53.6	3,150.0	Sa.	完形
Ⅱ-68-2	60-4	-	5393	ナイフ・ スクレイパー類	A1	VSb-22	Vb	63.3	27.6	11.3	18.7	Sh.	完形
Ⅱ-68-3	60-5	-	5387	石斧	A1	VSb-22	Vb	(57.7)	41.4	19.5	(68.0)	Gr-Mud.	欠損、被熱
Ⅱ-68-4	60-6	-	5261	たたき石	ⅡB1	VSb-22	Vb	115.1	69.8	68.8	810.0	Sa.	完形
Ⅱ-68-5	60-7	-	5385	たたき石	I A2	VSb-22	Vb	166.1	64.6	31.5	610.0	Gni.	完形
Ⅱ-68-6	60-8	VST043	5386	すり石	E	VSb-22	Vb	157.2	209.7	39.2	1870.0	Sa.	完形、未使用品 接(5389)
Ⅱ-69-2	61-2	-	5541	ナイフ・ スクレイパー類	A1	VSb-23	Vb	63.9	20.7	7.2	8.3	Obs.	完形
Ⅱ-71-3	61-5	-	5746	ナイフ・ スクレイパー類	A1	VSb-24	VbL	39.0	24.4	11.2	9.3	Obs.	完形
Ⅱ-71-4	61-6	-	5794	ナイフ・ スクレイパー類	B1	VSb-24	Vc	31.9	27.3	8.4	7.7	Obs.	完形
Ⅱ-71-5	61-7	-	5793	たたき石	ⅡA3	VSb-24	Vc	(118.5)	81.7	40.1	(520.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-71-6	61-8	-	5767	たたき石	I B2	VSb-24	VbL	144.0	54.1	39.7	415.0	Sa.	完形
Ⅱ-71-7	61-9	-	5740	すり石	D	VSb-24	VbL	155.8	(91.4)	62.2	(1,145.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-71-8	61-10	-	5743	たたき石	-	VSb-24	VbL	167.4	(106.3)	19.5	(425.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-72-9	61-11	VST008	5713	石皿	-	VSb-24	VbL	(278.5)	(271.2)	108.0	(8,700.0)	Sa.	欠損 接(5726・5727)
Ⅱ-72-10	62-1	-	5657	台石	-	VSb-24	VbL	(376.0)	352.1	89.0	(18,100.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-72-11	62-2	-	5668	自然有孔礫	-	VSb-24	VbL	65.1	(58.4)	17.7	(60.0)	Mud.	欠損
Ⅱ-73-2	62-4	-	9625	石皿	-	VSb-26	Va	(355.0)	307.3	162.4	(24,500.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-74-3	62-7	-	9792	ポイント類	B2	VSb-29	VbU	53.9	22.8	6.6	7.7	Obs.	完形
Ⅱ-74-4	62-8	-	9793	石斧	D	VSb-29	VbU	(62.6)	33.5	11.3	(48.4)	Gr-Mud.	欠損
Ⅱ-74-5	62-9	-	9803	たたき石	ⅢB	VSb-29	VbU	61.4	55.1	53.9	308.2	Sa.	完形
Ⅱ-76-1	63-1	-	9994	たたき石	I B3	VSb-30	VbM	128.3	49.5	27.0	216.7	Sa.	完形
Ⅱ-76-2	63-2	-	9879	すり石	E	VSb-30	VbM	(116.9)	114.1	3.0	(481.1)	Sa.	欠損
Ⅱ-76-3	63-3	-	9779	砥石	-	VSb-30	VbM	(235.0)	(163.0)	(60.0)	(2,217.9)	Sa.	欠損、被熱
Ⅱ-76-4	63-4	VST047	9984	台石	-	VSb-30	VbM	149.9	138.8	29.5	956.0	Sa.	完形、接(9986)
Ⅱ-77-2	63-6	-	10320	ポイント類	A2	VSb-31	VbM	19.8	(14.3)	2.8	0.6	Obs.	基部一部欠
Ⅱ-77-3	63-7	-	10319	ポイント類	A2	VSb-31	VbM	32.2	18.7	3.0	1.5	Obs.	完形
Ⅱ-78-1	63-8	-	10518	たたき石	I B3	VSb-32	VbM	(137.9)	54.9	46.7	(470.3)	Sa.	完形、被熱
Ⅱ-78-2	63-9	-	10796	たたき石	I B3	VSb-32	VbM	153.5	62.7	38.9	492.3	Sa.	完形
Ⅱ-78-3	63-10	VST015	10541	すり石	E	VSb-32	VbL・ VbM	160.4	115.0	47.3	971.4	Sa.	完形、接(10562・ 10936)

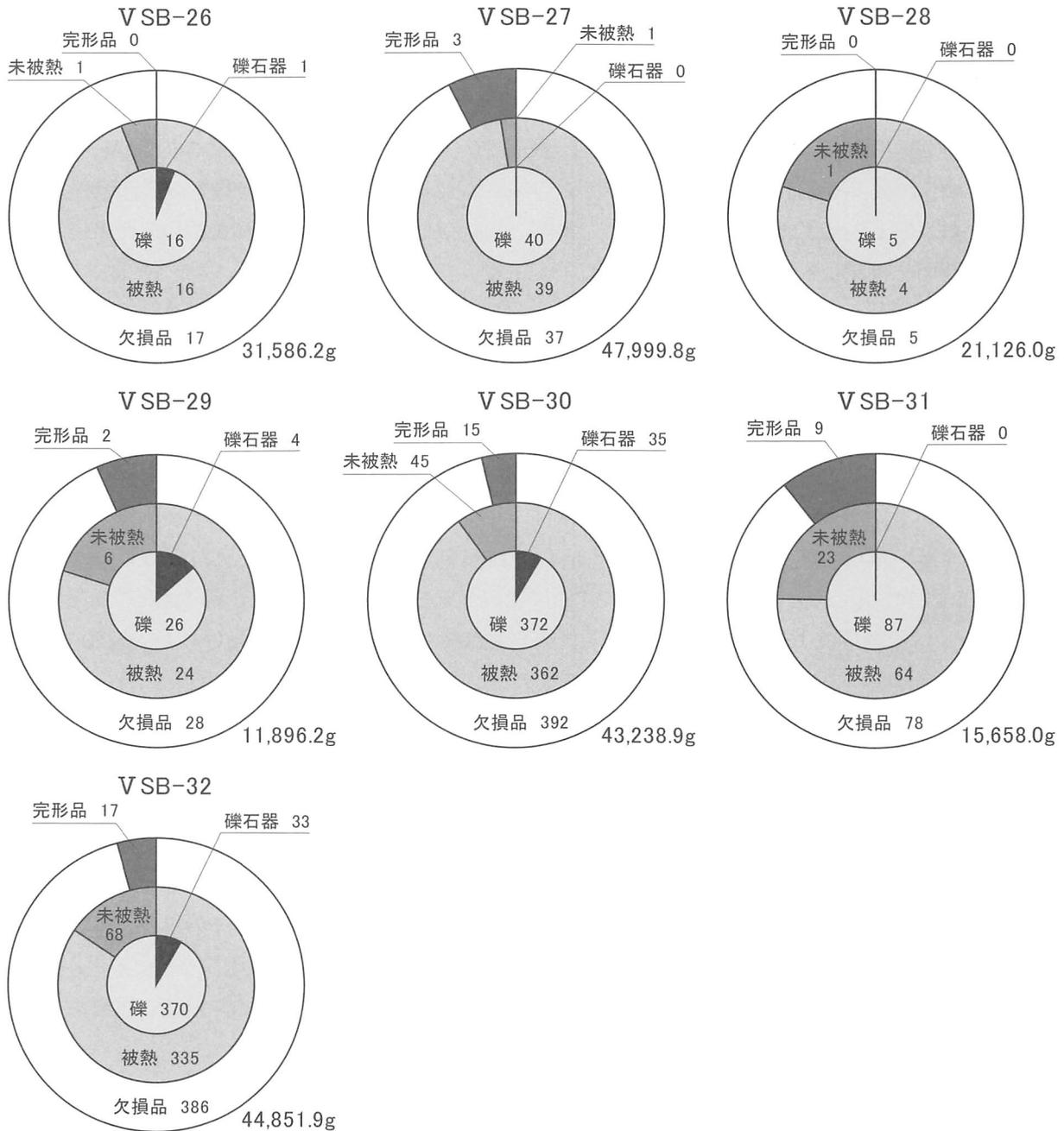
表Ⅱ-46 VSB 出土礫石器・礫比率円グラフ(1)



表Ⅱ-46 VSB出土礫石器・礫比率円グラフ(2)



表II-46 VSB出土礫石器・礫比率円グラフ(3)



第7節 石斧石器群削片集中

平成25年の調査において調査区中央平坦部で1ヵ所検出した。時期は伴出土器から判断し、縄文時代後期初頭に属すると思われる。

表II-47 VSFCB-01属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
					長軸	短軸	
II-79・80	46-7	Z・AA-13	Vb	不整形	215	182	土器55点、石器8点、SFC118点(内36点接合と21点接合のもの2個体含む)・礫81点

VSFCEB-01 (図Ⅱ-79、80 図版 46-7、64-1~8、78-2)

位置：Z・AA-13 検出層位：Vb層 平面形：不整形 規模：215×182cm

出土点数：土器 55 点、石器 8 点、SFC118 点、礫 81 点

確認・調査：VSB-21 の北西周辺を精査中、Vb層で 10 数点の SFC が出土した。検出当初、広がり は 1m 四方程度と想定していたが、調査の結果、長軸 215cm、短軸 182cm の範囲にまで広がった。特に 東側の東西 120cm、南北 100cm の範囲に集中していることが分かった。調査は最も SFC が集中してい た中央から、厚さ 1cm ずつ土層を剥ぎ取り、徐々に周囲へ広げていった。全体を検出したところで撮 影し、平断面を実測して、遺物を取り上げた。

出土遺物 (図Ⅱ-79-1~4、80-5~8)：土器は同一個体と思われる細片が多く、残存状態の良いもの を掲載した。1 は 7 点が接合したもので、IV群 A2 類に属する。口唇部が隅丸角状を呈し、口唇部と口 縁部には RL 縄文を施している。器形は筒形を呈すると思われる。胎土は砂粒を多く含みろく、縦に 剥落する特徴がみられる。

石器の内訳はナイフ・スクレイパー類 1 点、RF1 点、UF1 点、たたき石 3 点、砥石 2 点である。2 は つまみ付きナイフで A2 類に属する。縦長剥片素材の片面全体とつまみ部のえぐり両面に加工し、刃部 先端には磨減がみられる。石材は頁岩である。3・4 は接合資料で、3 は 21 点、4 は 36 点の SFC が接 合した。1 個体に復元できなかつた。ともに片面に岩砕面を残すもので、3 は下縁には節理面を有して いる。3・4 は横剥ぎによる打ち欠き痕を残し、表皮側は総じて大きい破片が多い。4 の表面には中央 上端から右端にかけて縦位の研磨痕が認められることから、当初は磨製石斧を製作しようと原石に研 磨を施したが、大き過ぎるため途中で断念して打ち欠き成形に切り替えた可能性がある。5~7 はたた き石である。5 は IB3 類に属し、棒状礫の平坦面・側縁稜・端部にたたき痕を有する。たたき痕によ る窪みは表面に 3 カ所、裏面に 4 カ所所有する。6 は IIIA 類に属し、扁平な楕円形礫の両面中央にたたき 痕を有する。7 は IIIB 類に属し、球状礫の 1 カ所を平坦にし、縁の角を取り除き、平坦面の中央に浅い たたき痕を有している。5~7 の石材は砂岩である。8 は砥石で 2 点ともに片面を使用面とする砂岩で、 そのうち 1 点を掲載した。表面に砥面と数本の線条痕を有する。裏面は剥落している。

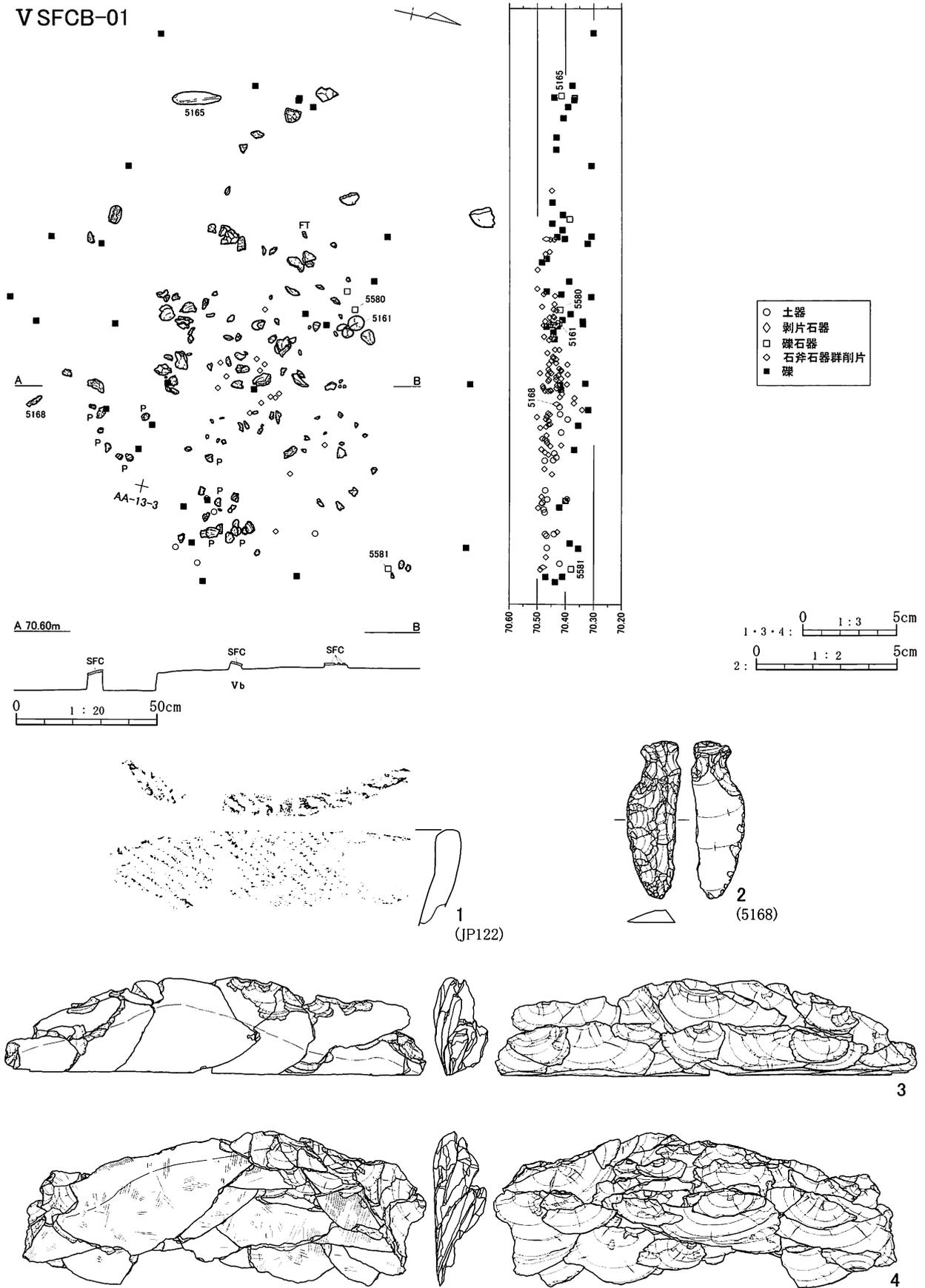
SFC は総点数 118 点、総重量 660g である。緑色泥岩の同一母岩から剥ぎ出されている。最大が 111.5 ×53.0×8.5mm、重量 47.8g あり、最小が 15.6×4.6×2.9mm、重量 0.2g である。総数の重量をみると 5.0g 以下が 88 点で、74%を占めている。

礫はほとんどが被熱した砂岩で、ほかに班れい岩 4 点などがある。

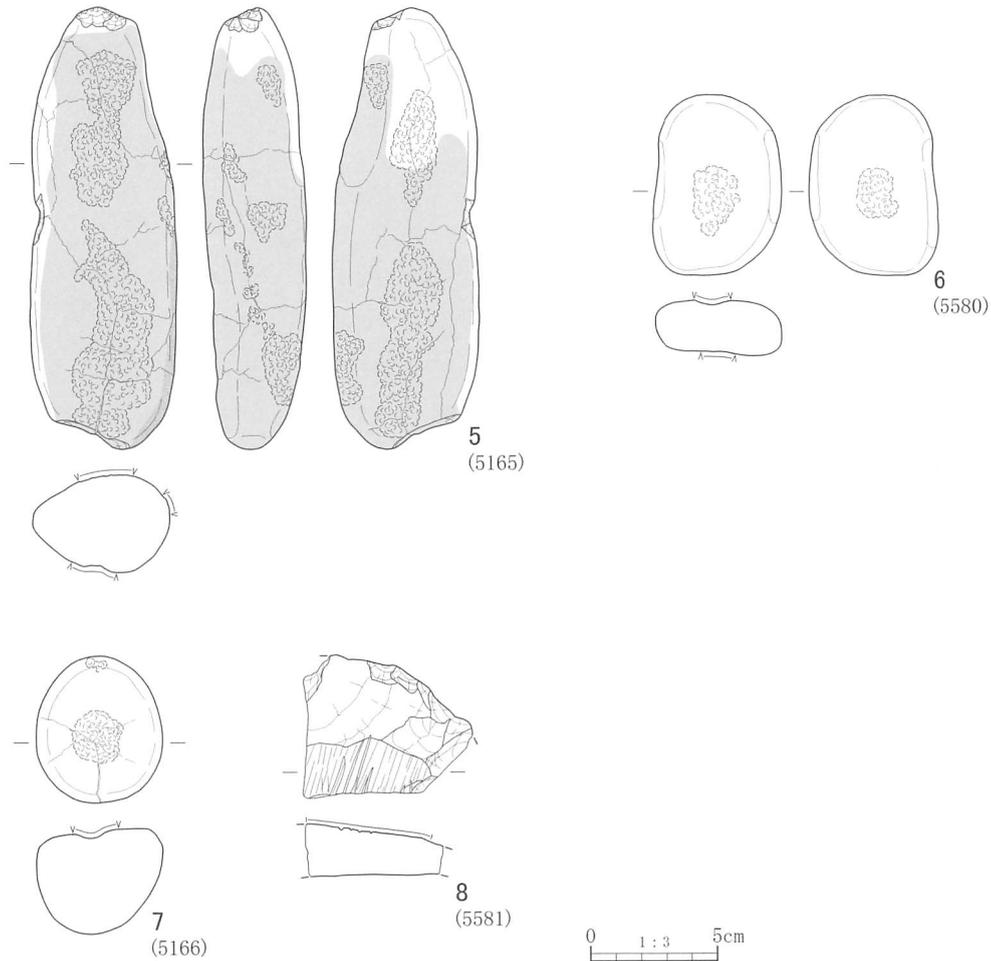
(工藤)

表Ⅱ-48 VSFCEB-01出土土器属性表

挿図番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/ 底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-79-1	64-1	JP122	IVA2	VSFCEB-01	Vb	5	口縁部	平縁-隅丸角状-外傾	RL縄文-RL斜縄文	砂粒多量	
				AA-13	Vb	1					
				表採	-	1					



図II-79 V SFCB-01 平面・断面・垂直分布図・出土遺物



図Ⅱ-80 VSFCB-01 出土石器

表Ⅱ-49 VSFCB-01出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-79-2	64-2	-	5168	ナイフ・スクレイパー類	A2	Vb	56.6	17.9	7.5	7.6	Sh.	完形
Ⅱ-79-3	64-3	-	5192	SFC	-	Vb	(224.2)	(52.5)	(23.5)	(250.5)	Gr-Mud.	接(5195・5196・5198・5203・ 5221・5222・5224-1・5234・ 5236・5239・5245・5246・ 5250・5253-3・5255・5257・ 5582・5590・5598・8011)
Ⅱ-79-4	64-4	-	5187	SFC	-	Vb	(215.0)	(82.0)	(26.5)	(320.0)	Gr-Mud.	接(5190・5193・5199・ 5201-1・2・5205・5209・ 5211・5215・5220・5226・ 5232・5233・5236・ 5241~5243・5244-1・ 5247・5254・5256・5259・ 5323・5583・5585・5588-1・ 5589・5591・5592・5596・ 5599・5602~5605)
Ⅱ-80-5	64-5	-	5165	たたき石	IB3	Vb	172.3	55.5	39.9	440.0	Sa.	完形
Ⅱ-80-6	64-6	-	5580	たたき石	ⅢA	Vb	71.9	51.2	21.8	110.7	Sa.	完形
Ⅱ-80-7	64-7	-	5166	たたき石	ⅢB	Vb	57.3	42.1	50.5	138.4	Sa.	完形、被熱
Ⅱ-80-8	64-8	-	5581	砥石	-	Vb	(67.0)	(54.2)	21.7	(70.9)	Sa.	欠損

第8節 剥片・削片集中

平成25年の調査において調査区南側の平坦部で1ヵ所を検出した。時期は伴出土器から判断して、縄文時代後期初頭に属すると思われる。

表II-50 VFCB-01属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
					長軸	短軸	
II-81	46-8	AC-11	Vc	不整楕円形	91	88	土器1点、石器1点、FC297点

VFCB-01 (図II-81 図版46-8、64-9・10)

位置：AC-11 検出層位：Vc層 平面形：不整楕円形 規模：91×88cm

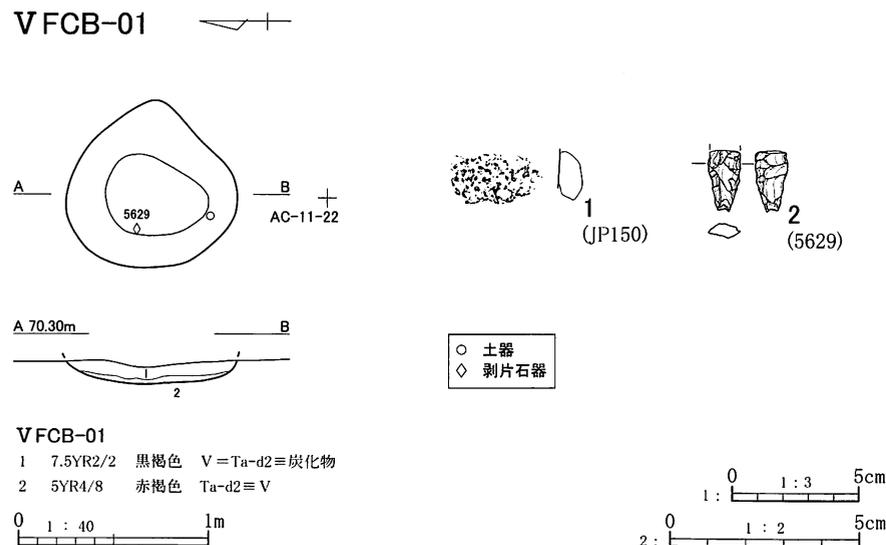
出土点数：土器1点、石器1点、FC297点

確認・調査：TP-22とVSB-18間を精査中、Vc層で検出した。当初、FCは黒褐色土の落ち込みから数点出土したのみで、多量の出土を想定していなかった。落ち込み中央にかけて東西トレンチを設定し、さらに四分割して土層断面を観察しながら南東側より北西側へと掘開して遺物を取り上げていった。その結果、炭化物を少量含む浅い窪み中央の覆土上位にFCが集中して出土した。

出土遺物 (図II-81-1・2)：1はIV群A2類に属する土器の胴部で、器面は剥落している。胎土には砂粒を少量含む。2はポイント類C類に属し、被熱している。薄く細身の柳葉形鏃の一部と思われる。茎部端が凹基状を呈する。FCの石材はすべて黒曜石で297点出土した。そのうち14点には被熱痕が認められる。サイズは5mm四方未満が主体を占め、総重量にして6.3gである。

(工藤)

VFCB-01



図II-81 VFCB-01 平面・断面図・出土遺物

表Ⅱ-51 VFCB-01出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-81-1	64-9	JP150	IVA2	AC-11	Vc	1	胴部	外傾	-	砂粒少量	

表Ⅱ-52 VFCB-01出土剥片石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	グリッド	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-81-2	64-10	-	5629	ポイント類	C	AC-11	Vc	(15.9)	8.5	3.8	(0.5)	Obs.	茎部片、被熱

第9節 包含層出土遺物

1. 土器 (図Ⅱ-82~88 図版 79~84-1~115)

平成 25 年・26 年の調査でV層から出土した土器は、遺構のものも含めて 4,218 点あり、そのうち包含層からは 2,880 点が出土している。I 群土器は平成 25 年調査区の南側 AF~AK-06~08 グリッドで散在して出土する。II 群土器は AA-10、Q-10、J-09 グリッドで出土する。III 群 B1 類土器は AB~AK-05~10 グリッドの範囲に広がり出土する。IV 群 A・B 類の土器は大部分が土器集中としてまとまって出土している。

I 群 B2 類土器 (図Ⅱ-82-1~4) : 1 は器面に 2 条の緩い波状と直線の隆起線文が貼付される。地文は LR 縄文で、隆起線には縄圧痕が施される。2 は地文に LR・RL 縄文、隆起線には縄圧痕が施される。3 は LR・RL 縄文が施される。4 は底部片で、縄文と縄圧痕が施される。

I 群 B3 類土器 (図Ⅱ-82-5~9) : 5 は絡条体圧痕文が施される。6 には絡条体圧痕文と微隆起線が認められる。7~9 は隆起線間に縄圧痕が施される。7・9 の隆起線間には R 縄文原体の圧痕が、8 の隆起線間には RL 縄文原体の圧痕が施される。

I 群 B4 類土器 (図Ⅱ-82-10~12) : 10 は横位一条の縄圧痕と、撚糸文が施される。11 は横・斜位の縄圧痕と撚糸文が認められる。12 は撚糸文が施される。

II 群 B2 類土器 (図Ⅱ-82-16~19) : 16~19 は同一個体で、16・17 は口縁部片で平縁となる。口唇部が角状をなし、縄文が施される。口唇部直下に縄線文が認められる。18・19 は羽状縄文を施す。

III 群 A 類土器 (図Ⅱ-82-13~15・21~24) : 13・14 は異なる撚りの縄を 3 条束にした縄線文が施される。13 は内面がよくミガキ調整される。15 は底部で器面には LR 縄文が施され、底面は平底となり内面がナデ調整される。21 は口縁部が三角形に肥厚し、肥厚帯とその下部に横位あるいは斜位の貼付文が施される。地文は LR 縄文である。内面はミガキ調整される。22 は口縁部に台形状の突起をもち突起にはこれから垂下するように貼付瘤を付し、肥厚帯に 4 条、口縁には 2 条の隆起文を貼付し、さらに棒状の工具で刻みを入れる。器面には結束第 1 種羽状縄文が、内面には横位のミガキが施されている。補修孔も認められる。23 は底部片で結束第 1 種羽状縄文が施される。24 は器面に縄文が施され底部が欠損している。

III 群 B1 類土器 (図Ⅱ-82~86-25~88) : 25 は口縁部に台形状突起をもち、突起部には 4 条、これ以外の口縁部には 2 条の貼付文をもつ。また、貼付文から垂下する貼付文と横位の貼付文が施され、貼付文にも「こ」・「ハ」の字状につまむ爪形文が施される。26 は口唇部が丸く口縁部は外傾する。2

条の貼付文に爪形文が、器面には結束第1種羽状縄文が施され、斜行する沈線が施される。27は小型の弁状突起部で、横位・縦位・楕円形に貼付文を配し、これに爪形文を施す。28は口唇部が尖り、口縁部は外傾する。2条の貼付文に爪形文が付され、器面には結束第1種羽状縄文が施される。内面はミガキが施される。29は横位の貼付文と斜位の沈線文が付される。地文はRL・LRの縄文である。30・31は結束第1種羽状縄文が施される。32は口縁部に棒状の突起を付し、肥厚帯や突起には竹管による刺突文、短い沈線文が施される。器面には縄文施文後に竹管外面による沈線文が施される。33は口縁部に小突起が付され、肥厚帯や突起には半截竹管の内面に対しほぼ並行して圧痕する。34は突起と突起から垂下する貼付文に半截竹管の刺突列が施される。35は口唇部に半截竹管外面の刺突が、器面には同施文具による縦・横位の沈線文が施され、補修孔が付される。36は刺突文列が施される。37は口縁部が肥厚し、肥厚帯に半截竹管による刺突文が施される。38・39は同一個体である。口縁部肥厚帯には棒状あるいは竹管施文具の外面による刺突文列が施される。口縁部から胴部にかけては半截竹管による押引文が施された隆起帯が貼付される。器面には縄文施文後に半截竹管による横位の沈線文が施される。40は山形の突起と口縁部肥厚帯に竹管文が、突起から垂下する貼付文に刻みが付され、器面には縄文施文後に竹管による刺突文が施される。41は肥厚帯と突起に半截竹管による沈線状の圧痕が施される。42は突起と口唇部に半截竹管による圧痕が付され、器面には同施文具による横位の沈線文が施される。43・44は同一個体である。口縁部は三角形状に肥厚しさらに貼付文が付され、貼付瘤、半截竹管による刺突文、圧痕文が施される。肥厚帯下部には縄文施文後に沈線文が施される。45はR斜縄文が、46・47は結束第2種羽状縄文を、48はLR斜縄文に半截竹管による沈線文が施される。49は肥厚帯及び胴部の貼付文に半截竹管文が施される。地文はRLR複節縄文である。50は突起部に2条の貼付文、三角形状肥厚帯に半截竹管文が、器面にはRLR複節縄文が施される。51・55は同一個体である。突起には半截竹管による沈線文、口縁部肥厚帯には竹管による刺突文、胴部の器面には直前段多条LR縄文が施される。52は口縁部が肥厚し、棒状の突起をもつ。肥厚帯と突起には半截竹管による刺突文が施される。胴部には縄文施文後に半截竹管による縦・横位の沈線文と刺突文が施される。53は口縁部三角形状肥厚帯と鎖状の貼付文に半截竹管の先端の刺突文が施される。54は「P」の字状の肥厚帯に竹管の外面による刺突文が施される。56は三角形状の肥厚帯に半截竹管文が施される。胴部には菱形の貼付文に半截竹管文が加えられている。貼付文の頂部からは横位の沈線文が施される。57は口縁部に肥厚帯と突起をもつ。肥厚帯と突起には半截竹管文による刺突文が施される。器面にはLR斜縄文が施される。58は肥厚帯、突起、器面に半截竹管の先端による刺突文が施される。59は山形突起の器面に楕円形の粘土瘤を貼付し、半截竹管の先端による刺突文が加えられる。60・66は口縁部が三角形状に肥厚し、肥厚帯と器面にLRL複節縄文が施される。61は口縁部肥厚帯とその下部の口縁部に半截竹管による刺突文が施される。62・63は口縁部肥厚帯に竹管文、器面には縄文が施される。64は小突起が付され、器面と内面に縄文が施される。65は口縁部の肥厚帯に半截竹管による刺突文、肥厚帯下部にはLR縄文施文後に半截竹管による沈線文が施される。67は口縁部が三角形状に肥厚し、半截竹管の内面による押圧文が施され、器面には縄文が施される。68は口唇部が角状をなし、器面に縦・横位の半截竹管による刺突文が施される。69・70は三角形状肥厚帯に縦位の貼付文、半截竹管の押圧、胴部上位には横位に3列の刺突文が施される。71は口縁部が肥厚し、竹管による刺突文が付され、器面にはRLR複節縄文が施される。72は横位の貼付文に刻みと、下から突き上げる刺突文が列状に施される。73は口縁部が外反し、胴部は上位がほぼ直立する。下位は底部に向かってすぼむ器形で

ある。74 は口縁部が肥厚し、口唇部には竹管の先端による刺突文が施される。器面には LR 斜縄文が施される。75 は口縁部に刺突文列と、R 単節斜縄文が施される。76 は口縁部が肥厚し、半截竹管による押圧文が施される。口縁部には「Y」の字状の貼付文の側縁に半截竹管の先端を刺突し、横位の沈線文が施される。地文は LR 斜縄文である。77 は瘤状の貼付文のほかに縦位の貼付文が付される。貼付文には半截竹管内面の刺突文が付され、貼付瘤から横位の沈線文が施される。78 は地文に RL 縄文、半截竹管による横位の押引文と沈線文が施される。79 は LR 縄文施文後に、半截竹管による縦位沈線が施される。80・81 は貼付文に半截竹管内面による刻み目が施され、81 には半截竹管による沈線文が施される。82 は貼付文に半截竹管による刻みを加え、胴部には LR 縄文施文後に竹管による刺突文が施される。83 は半截竹管による横位の沈線文と縦・横位の押引文が加えられる。84 の器面には LR 縄文と半截竹管による刺突文が、内面には爪形文による刻み目列が認められる。85 は底部で、器面と底面に縄文が施され、内面は剥落している。86 は器面に R 無節縄文が施される。底部はほぼ垂直に立ち上がる。87 は底部の立ち上がりは垂直に近く、器面と底面に R 無節縄文が施される。88 は底部が外へ張り出し、器面と底面に縄文が施される。

Ⅲ群 B2 類土器 (図Ⅱ-82-20) : 20 は口唇部が外截する切り出しナイフ状を呈する。口唇部と口縁部に 3 条の縄が押圧される。

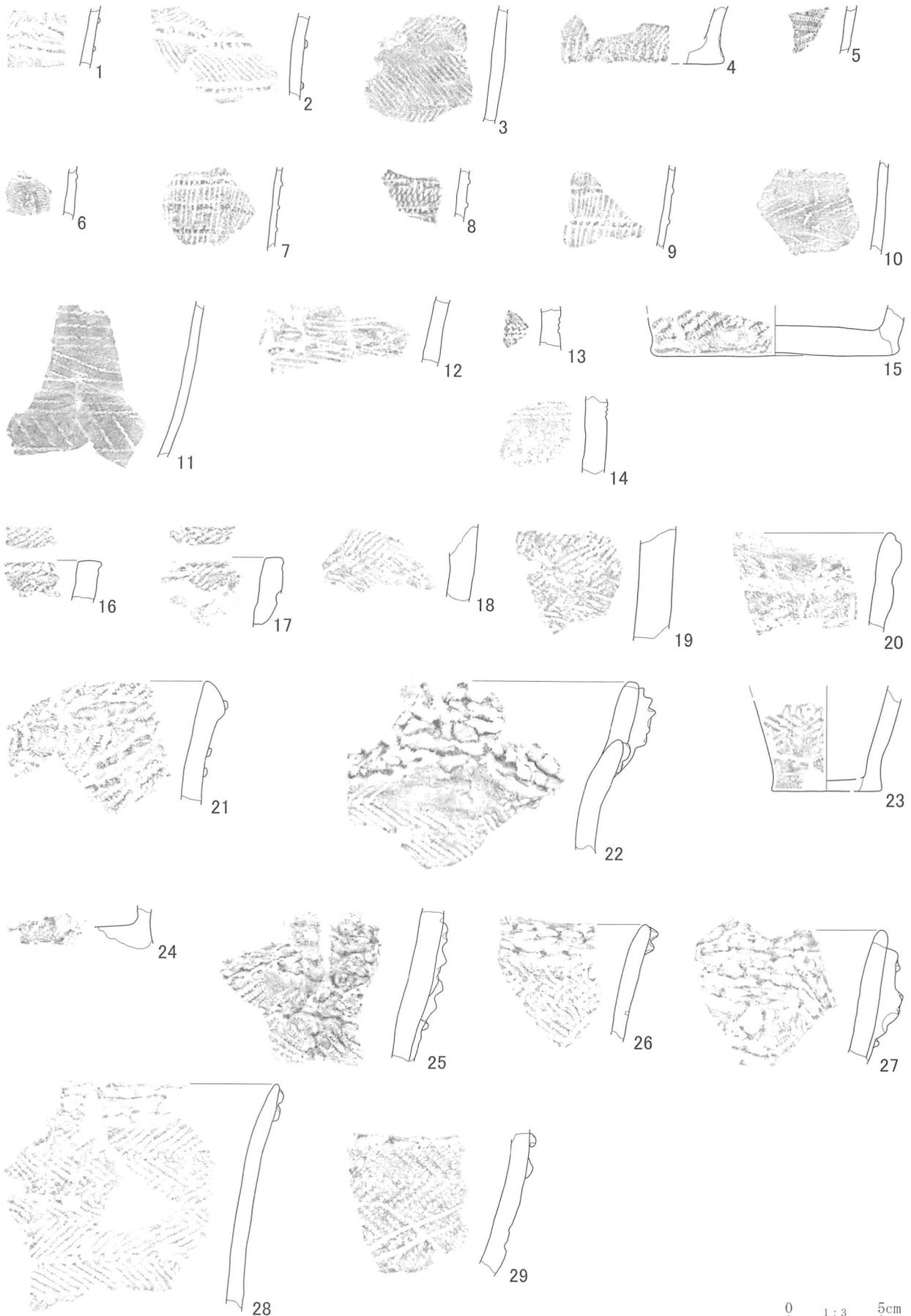
Ⅲ群 B3 類 a 土器 (図Ⅱ-86-89~92) : 89 は口縁部が三角形状に肥厚し、ここに刺突文列が 2 段施される。90 は口縁部が肥厚する。口唇部には竹管文が施される。91 は肥厚する口縁部に半截竹管による刺突文列、その下位に円形刺突文が施される。92 は口唇部が角状をなし、これに縄文を施す。器面に縄文と円形刺突文、内面には縄文が施される。

Ⅳ群 A1 類 a 土器 (図Ⅱ-86-93~101) : 93 は口縁部に幅約 2cm の肥厚帯があり、この下位に 2 条のタガ状の貼付帯がつけられる。地文は LR と RL 縄文である。94 は口縁部に肥厚帯をもつ。口唇部と肥厚帯に複節縄文が施される。肥厚帯下部の器面には縄文閉端部の圧痕が認められる。95 は口縁部の肥厚帯部分で、口唇部と肥厚帯に縄文が施される。96 は 2 条の貼付帯が認められ、貼付帯と器面に縄文が施される。97 は器面に縄文が施される。98~100 は同一個体で、口唇部が隅丸角状となり、口縁部に肥厚帯をもつ。底部は外傾して立ち上がる。胴部から底部にかけては羽状縄文が施される。101 は口唇部に縄文を施し、口縁部には肥厚帯が剥落した痕跡と円形刺突文が認められる。

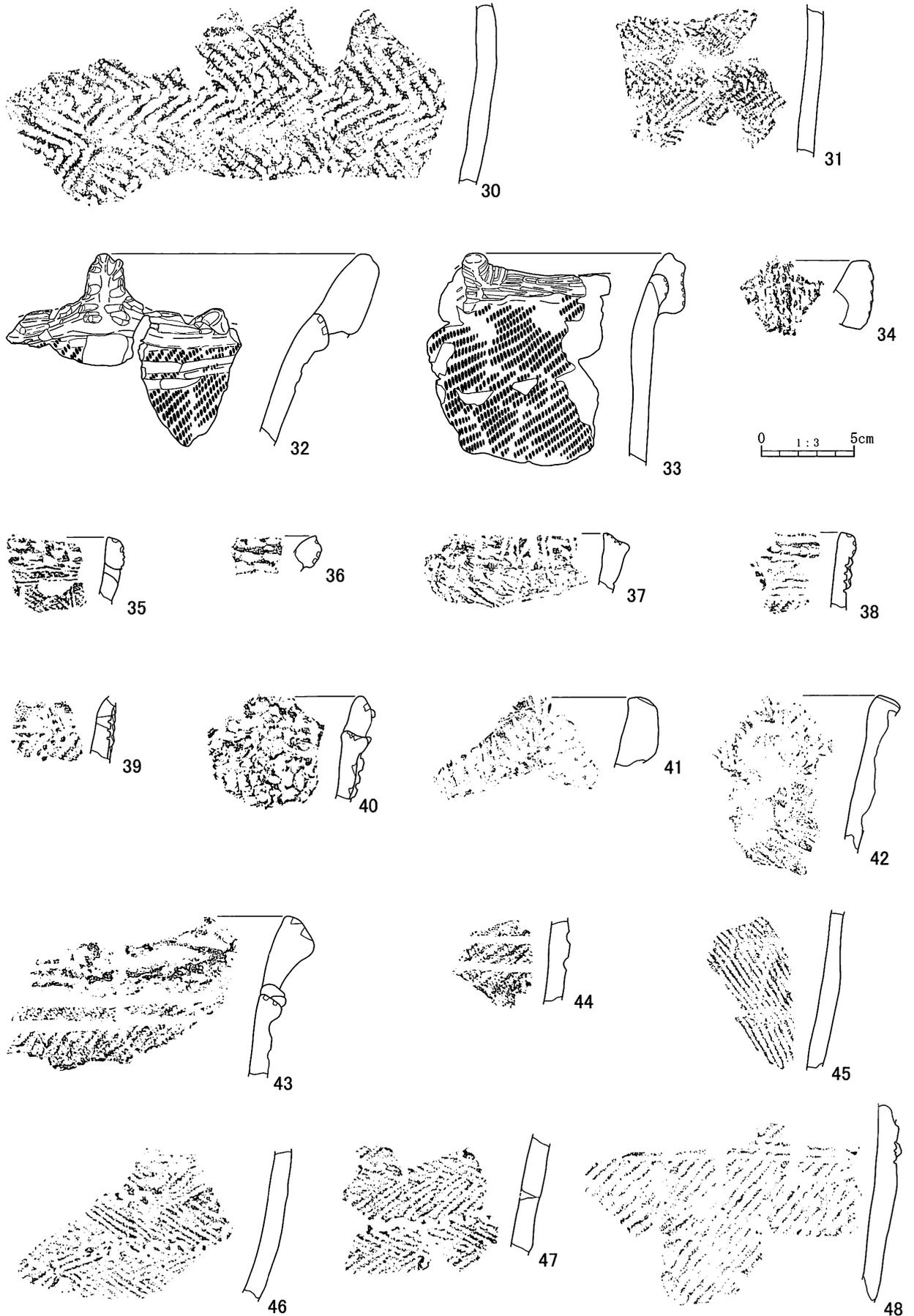
Ⅳ群 A2 類土器 (図Ⅱ-87-102~106) : 102 は口唇部が隅丸角状を呈し、縄文が施される。口縁部は肥厚し、RL 縄文が認められる。肥厚帯直下の口縁部には LR 縄文施文後に縄端圧痕による刺突文が施される。103 は口唇部が隅丸角状を呈し、器面には LR 縄文が施される。104 は口唇部が内截し、縄文が施される。口縁部の肥厚帯から縦位の縄線文が付けられた貼付帯が施される。貼付帯下部の器面には縄端圧痕による刺突文が施される。105 は口唇部が内截し、縄文が施される。肥厚帯下部には縄圧痕による刺突文が施される。106 は胴部に数ヵ所、縦位の縄圧痕が施される。

Ⅳ群 B1 類土器 (図Ⅱ-87・88-107~115) : 107~112 は口唇部が丸みを帯びるものや隅丸角状を呈するものがあり、108~112 の口唇部には縄文が施され、108・110・112 には縄文が内面に施される。113 は器形が筒状を呈し、胴部下半からすぼむ。底部は平底である。胴部上半には LR 斜縄文、下半には LR・RL 斜縄文が、底面に LR 縄文が施される。114・115 は同一個体で、底面は平坦、わずかに底部が張り出し、胴部が外傾して立ち上がる。器面はへら状の工具によるケズリが認められる。

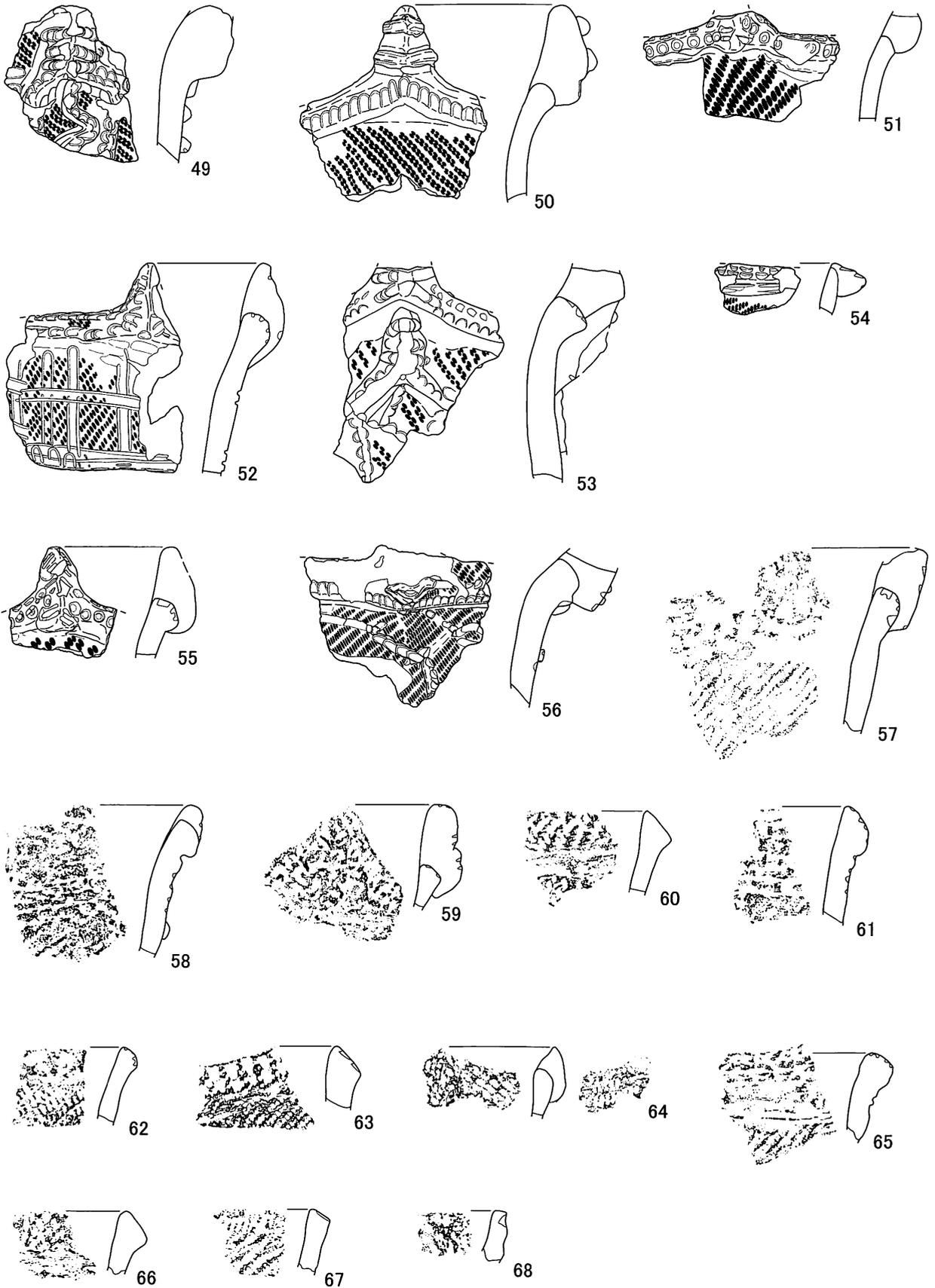
(長谷川)



図II-82 包含層出土土器(1)

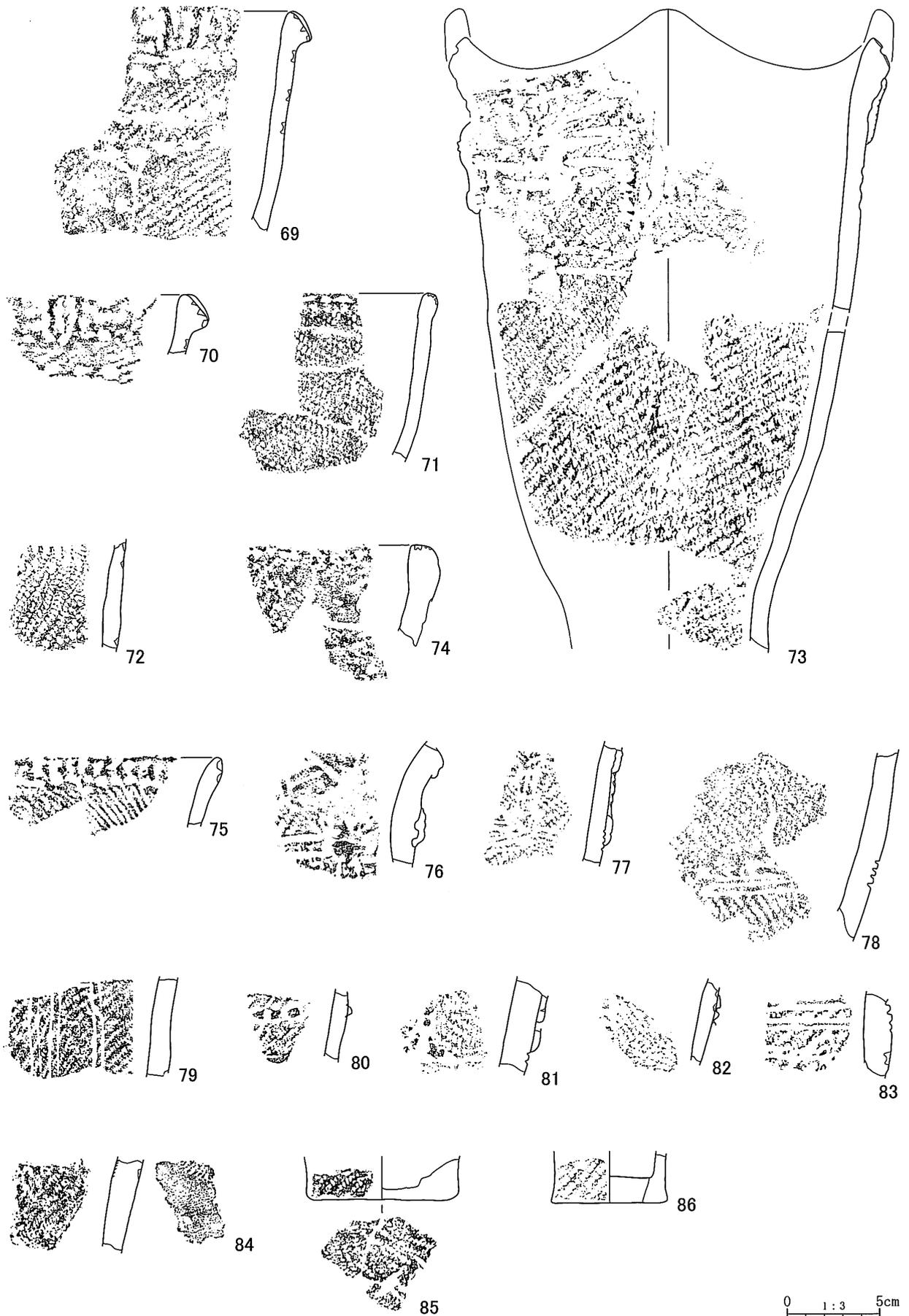


図Ⅱ-83 包含層出土土器(2)

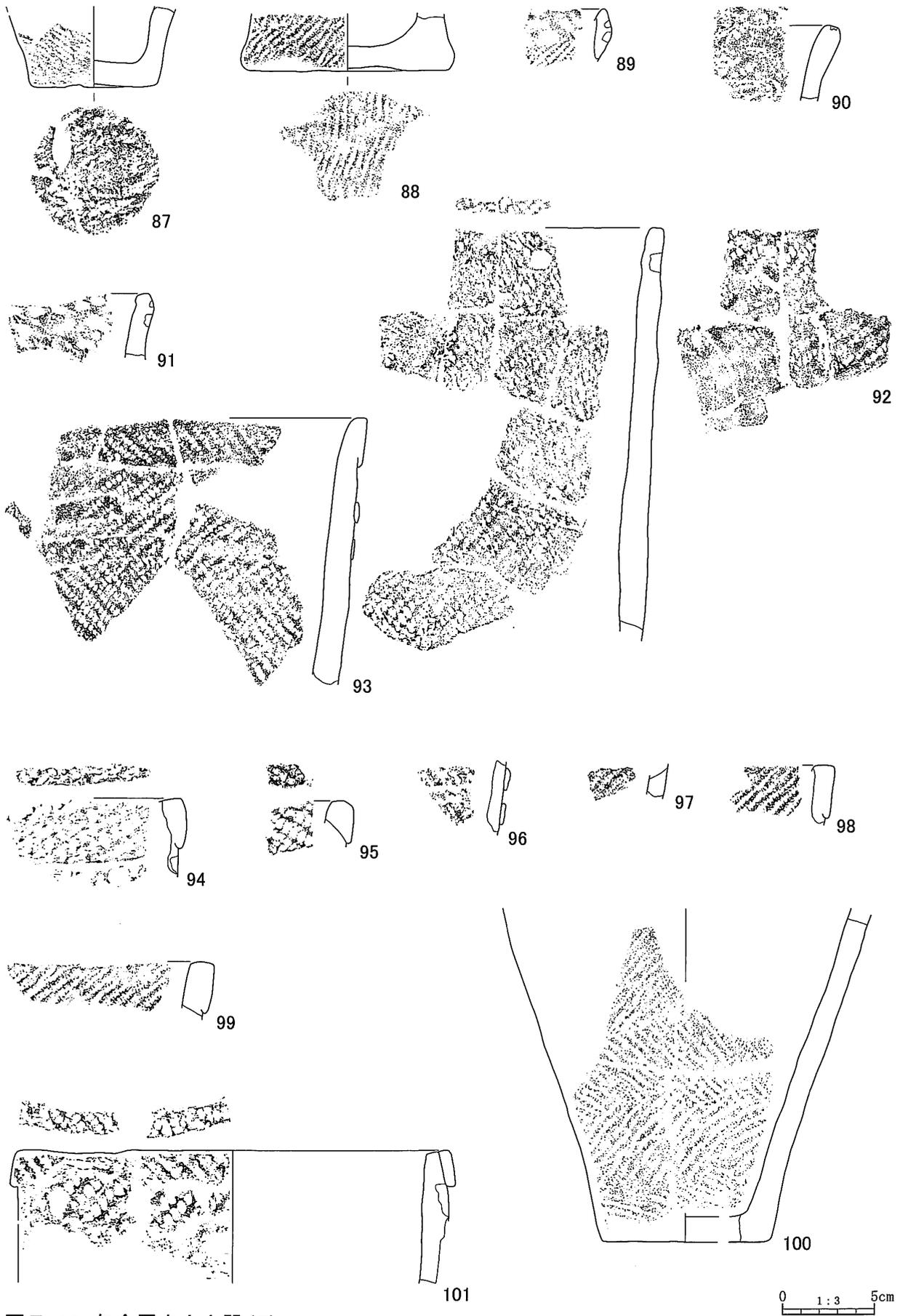


0 1:3 5cm

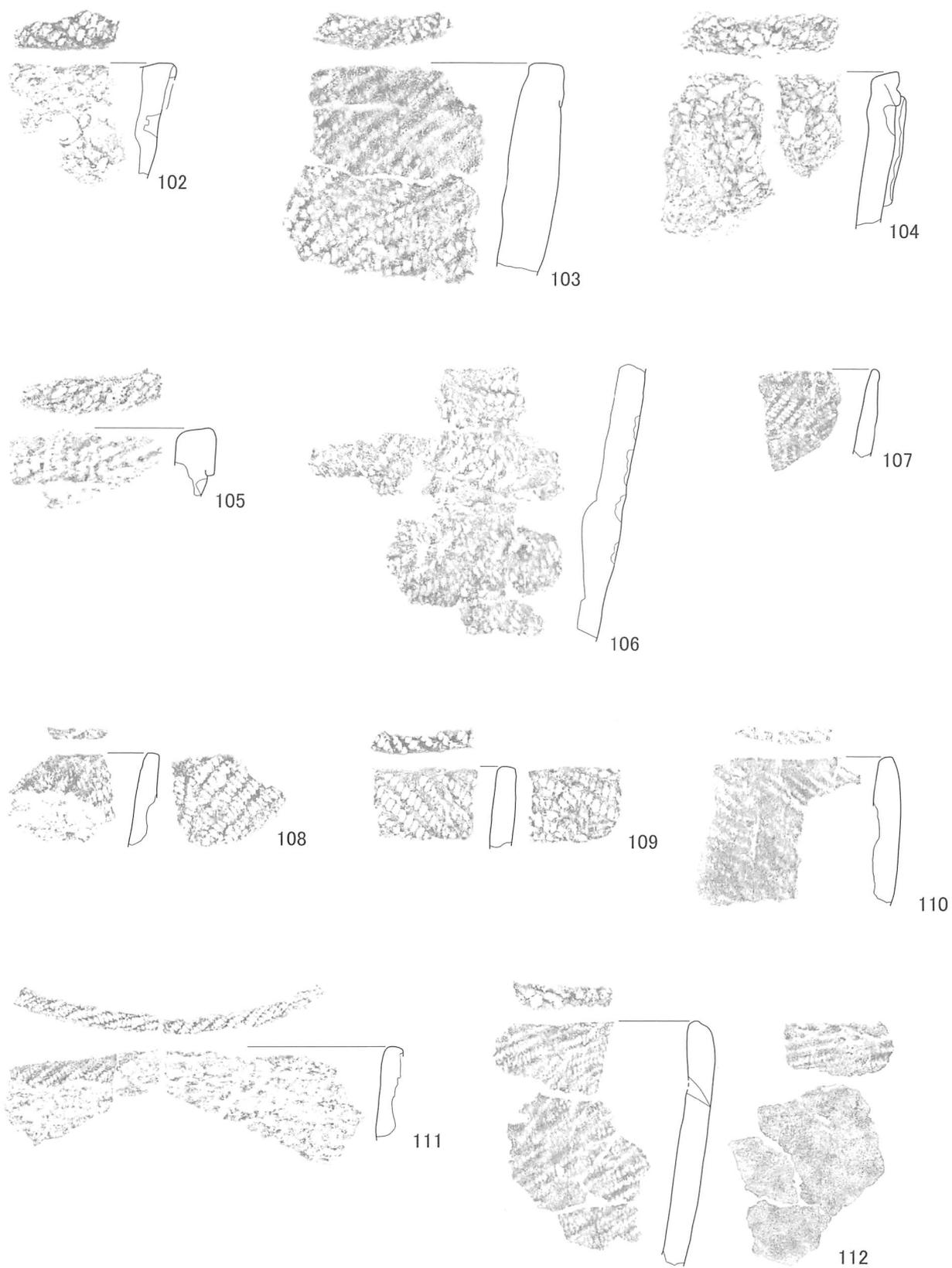
図II-84 包含層出土土器(3)



図Ⅱ-85 包含層出土土器(4)

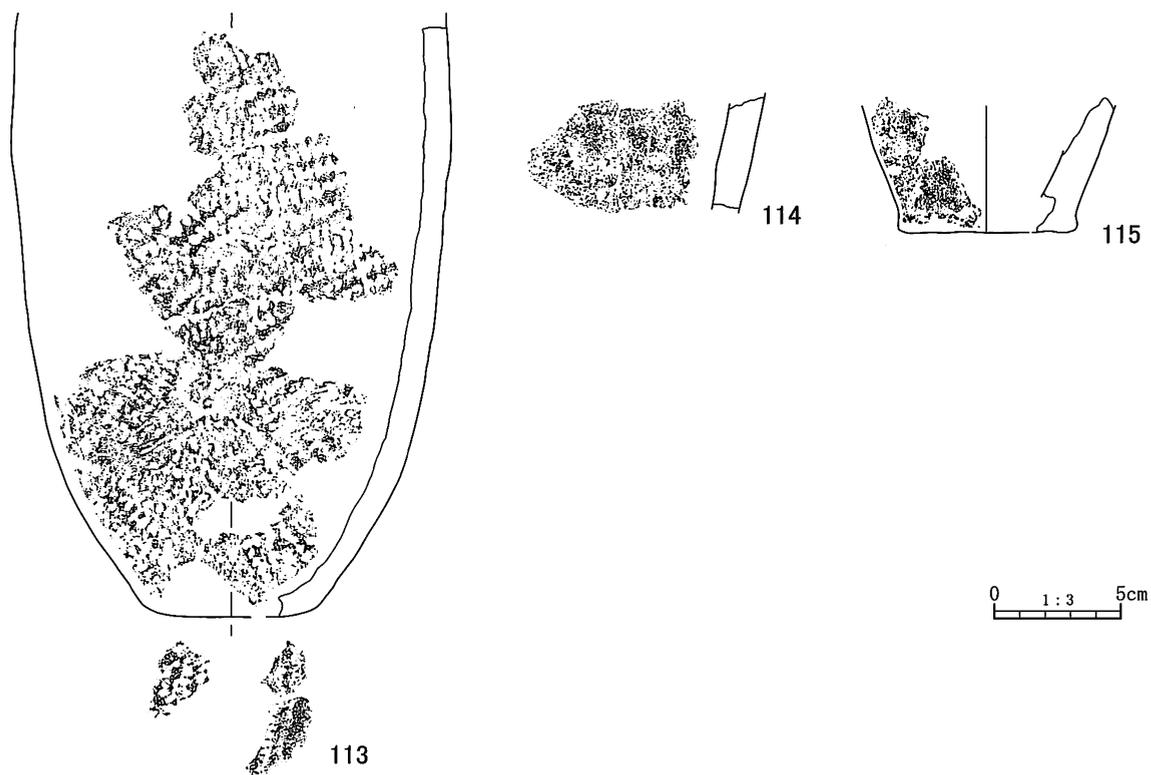


図II-86 包含層出土土器(5)



図Ⅱ-87 包含層出土土器(6)

0 1:3 5cm



図II-88 包含層出土土器(7)

表Ⅱ-53 包含層出土土器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-82-1	79-1	JP002	I B2	AG-09	Vb	1	胴部	外傾	RL斜縄文+ 縄圧痕・隆起線文	砂粒少量	炭化物付着
Ⅱ-82-2	79-2	JP001C	I B2	AI-07	Vb Vc	1 1	胴部	外傾	RL羽状縄文+ 縄圧痕・隆起線文	砂粒少量	
Ⅱ-82-3	79-3	JP001A	I B2	AG-08	Vc	1	胴部	外傾	RL羽状縄文	砂粒少量	炭化物付着
Ⅱ-82-4	79-4	JP003	I B2	AJ-06	Vb	1	底部	平底(外端張り出し)	LR縄文/縄圧痕	砂粒少量	
Ⅱ-82-5	79-5	JP005D	I B3	AK-05	Vb	1	胴部	外傾	絡条体圧痕文	砂粒少量	
Ⅱ-82-6	79-6	JP005C	I B3	AK-05	Vc	1	胴部	外傾	絡条体圧痕文+ 隆起線文	砂粒少量	
Ⅱ-82-7	79-7	JP005A	I B3	AK-05	Vc	1	胴部	外傾	LR縄文+隆起線文	砂粒少量	
Ⅱ-82-8	79-8	JP005B	I B3	AK-05	Vb	1	胴部	外傾	LR縄文+隆起線文	砂粒少量	
Ⅱ-82-9	79-9	JP004	I B3	AK-06	Vc	1	胴部	外傾	LR縄文+隆起線文	砂粒少量	
Ⅱ-82-10	79-10	JP008	I B4	AA-08	Vb	1	胴部	外傾	縄圧痕・羽状燃糸文	砂粒少量	
Ⅱ-82-11	79-11	JP007	I B4	AG-08 AE-08	Vc	2 1	胴部	外傾	燃糸文-縄圧痕	砂粒少量	
Ⅱ-82-12	79-12	JP006A	I B4	AB-07 AC-07	Vc	1 1	胴部	外傾	燃糸文	砂粒少量	
Ⅱ-82-13	79-13	JP109	ⅢA	AG-11	Vb	1	胴部	外傾	縄線文-ミガキ	繊維少量	
Ⅱ-82-14	79-14	JP053	ⅢA	AC-10	Vb	1	胴部	外傾	縄線文	繊維少量	被熱
Ⅱ-82-15	79-15	JP145	ⅢA	I-13	Sa-A	3	底部	平底	LR斜縄文-ナデ	砂粒・ 繊維少量	
Ⅱ-82-16	79-16	JP138B	ⅡB2	Q-10	VbM	1	口縁部	平縁・直立-角状	縄文- 縄線文・LR縄文	繊維少量	
Ⅱ-82-17	79-17	JP138A	ⅡB2	Q-10	VbM	1	口縁部	平縁・直立-角状	縄文- 縄線文・LR縄文	繊維少量	
Ⅱ-82-18	79-18	JP138D	ⅡB2	Q-10	VbM	1	胴部	直立	羽状縄文	繊維少量	
Ⅱ-82-19	79-19	JP138C	ⅡB2	Q-10	VbM	1	胴部	直立	羽状縄文	繊維少量	
Ⅱ-82-20	79-20	JP139	ⅢB2	P-11	VbM	2	口縁部	直立	縄線文- 斜縄文・縄線文	繊維少量	
Ⅱ-82-21	79-21	JP049	ⅢA	X-17	Va	2	口縁部	平縁- 断面三角形-外反	LR縄文・貼付文・LR 斜縄文・貼付文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-82-22	79-22	JP034	ⅢA	AF-07	Va	1	口縁部	台形状突起/外反	貼付瘤・貼付文・刻文/結束 第一種羽状縄文・ミガキ	砂粒少量	補修孔あり
Ⅱ-82-23	79-23	JP024	ⅢA	AF-09	Vb	5	底部	平底/外反	結束第一種羽状縄文・ナデ	砂粒少量	
Ⅱ-82-24	79-24	JP087	ⅢA	AG-07	Vb	1	底部	直立	斜縄文	繊維少量	
Ⅱ-82-25	79-25	JP032	ⅢB1	AG-08	Vb	2	口縁部	台形状突起/外反	爪形圧痕-ミガキ/ LR羽状縄文・貼付文・ 爪形圧痕-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-82-26	79-26	JP038B	ⅢB1	AF-10	Vb	1	口縁部	平縁	爪形圧痕/貼付文・ 結束羽状縄文・沈線文	砂粒少量	
Ⅱ-82-27	79-27	JP038A	ⅢB1	AH-08	Vb	1	口縁部	弁状突起/外反	爪形圧痕/ 貼付文・LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-82-28	79-28	JP035	ⅢB1	AF-07 AF-08	Vb	2 4	口縁部 ~胴部	平縁/外傾	横走貼付文・爪形圧痕- ミガキ/結束第一種 羽状縄文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-82-29	79-29	JP048	ⅢB1	AG-07	Vc	2	胴部	外傾	貼付文・RL・LR羽状縄文・ 沈線文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-83-30	79-30	JP144	ⅢB1	N-10	VbL VbM	7 1	胴部	外傾	結束LR羽状縄文・ナデ	砂粒少量	
Ⅱ-83-31	80-31	JP152	ⅢB1	AF-07	Vb	4	胴部	外傾	結束第一種羽状縄文-ミガキ	砂粒少量	
Ⅱ-83-32	80-32	JP037	ⅢB1	AB-08 AC-07	Vc	2 1	口縁部 ~胴部	山形突起・ 断面三角形/外反	竹管による押引刺突文/ LR斜縄文・沈線文	砂粒少量	
Ⅱ-83-33	80-33	JP028	ⅢB1	AG-08	Vb	6	口縁部 ~胴部	突起・平縁/直立	沈線文/LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-83-34	80-34	JP054	ⅢB1	AD-13	Vb	1	突起	山形突起	半截竹管文・貼付文	砂粒少量	
Ⅱ-83-35	80-35	JP055	ⅢB1	AI-06	Vc	1	口縁部	平縁・外傾	刺突文/斜縄文・ 沈線文	砂粒少量	孔(焼成前) あり

表II-53 包含層出土土器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
II-83-36	80-36	JP050A	III B1	AH-08	Vb	1	口縁部	平縁・断面三角形	刺突文列	砂粒少量	
II-83-37	80-37	JP023A	III B1	AH-07 AI-06	Vb	1 1	口縁部	平縁・ 断面三角形/直立	刺突文・沈線文/ 斜縄文	砂粒少量	
II-83-38	80-38	JP025B	III B1	AH-08	Vc	2	口縁部	平縁・ 断面肥厚/外反	刺突文/貼付文・ 押引沈線文・斜縄文	砂粒少量	
II-83-39	80-39	JP025C	III B1	AH-07	Vb	1	胴部	外傾	押引刺突文・ 貼付文・斜縄文	砂粒少量	補修孔あり
II-83-40	80-40	JP052	III B1	AH-07	Vb	1	口縁部	山形突起・外傾	竹管文/貼付文・ 刺突文・斜縄文	砂粒少量	
II-83-41	80-41	JP056	III B1	AH-08	Vb	1	突起	山形突起・直立	半截竹管による沈線状圧痕	砂粒少量	
II-83-42	80-42	JP025A	III B1	AI-06	Vb	3	口縁部 ~胴部	山形突起/外傾	半截竹管による沈線状 圧痕/沈線文・斜縄文	砂粒少量	
II-83-43	80-43	JP036A	III B1	AC-07	Vc	3	口縁部 ~胴部	山形突起・ 断面三角形/外傾	押引沈線文/ 沈線文・斜縄文	砂粒少量	
II-83-44	80-44	JP036B	III B1	AC-08	Vc	1	胴部	外傾	沈線文・LR斜縄文	砂粒少量	
II-83-45	80-45	JP040A	III B1	AJ-06	Vb Vc	1 1	胴部	外傾	R斜縄文	砂粒少量	
II-83-46	80-46	JP047A	III B1	AI-07	Vc	2	胴部	外傾	結束第二種羽状縄文	砂粒少量	
II-83-47	80-47	JP047B	III B1	AB-11 AC-08 AC-09	Vb Va Va Vc	1 1 1 1	胴部	外傾	結束第二種羽状縄文	砂粒少量	
II-83-48	80-48	JP061	III B1	AJ-05	Vb	2	胴部	直立	沈線文・LR斜縄文	砂粒少量	
II-84-49	80-49	JP016	III B1	AH-08	Vb	2	口縁部	直立	貼付帯・半截竹管文・ RLR複節縄文	砂粒少量	
II-84-50	80-50	JP010A	III B1	AH-08	Vb	2	口縁部 ~胴部	直立	山形突起・貼付帯・ 半截竹管文/ RLR複節縄文	砂粒少量	
II-84-51	80-51	JP022A	III B1	AG-07	Vb	3	口縁部 ~胴部	突起欠損・直立	竹管文/ 直前段多条LR縄文	砂粒少量	
II-84-52	80-52	JP106	III B1	Z-13	Vb Vc	2 1	口縁部 ~胴部	外傾	棒状突起/半截竹管文/ 沈線文・刺突文・LR斜縄文	砂粒少量	
II-84-53	80-53	JP011	III B1	TR-1 AH-07	V	1 1	口縁部 ~胴部	突起欠損・外反	半截竹管文/ 貼付文・半截竹管文・ RLR複節縄文	砂粒少量	VH-02・ VPB-04 出土土器と 同一個体
II-84-54	81-54	JP020B	III B1	AJ-07	Vb	1	口縁部	直立	半截竹管文・ 沈線文・ミガキ	砂粒少量	
II-84-55	81-55	JP022B	III B1	AH-07	Vc	1	突起部	外傾	山形突起・貼付帯・ 半截竹管による 刺突文・押引沈線文/ LR斜縄文・ナデ	砂粒少量	
II-84-56	81-56	JP029	III B1	AG-07	Vb	3	口縁部 ~胴部	突起欠損・ 断面三角形・ 外傾	LR縄文・半截竹管文・ 貼付文/半截竹管文・ LR斜縄文・沈線文	砂粒少量	
II-84-57	81-57	JP021	III B1	AB-09	Vb	3	口縁部 ~胴部	山形突起/ 断面丸く肥厚/外傾	半截竹管文/LR斜縄文	砂粒少量	
II-84-58	81-58	JP068	III B1	AH-08	Vb	1	口縁部 ~胴部	突起欠損/外反	半截竹管文/ 半截竹管による 押引沈線文・LR斜縄文	砂粒少量	
II-84-59	81-59	JP058	III B1	AC-10	Vc	1	突起部	山形突起	粘土粒・半截竹管文	砂粒少量	
II-84-60	81-60	JP019A	III B1	AB-08	Vb	1	口縁部	断面三角形・外傾	LRL複節縄文/ ナデ・LRL複節縄文	砂粒少量	
II-84-61	81-61	JP063	III B1	AH-07	Vb	1	口縁部	外傾	半截竹管による 刺突文・LR斜縄文	砂粒少量	
II-84-62	81-62	JP030C	III B1	AG-07	Vb	1	胴部	外傾	貼付文・竹管文・LR斜縄文	砂粒少量	

表Ⅱ-53 包含層出土土器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考		
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
Ⅱ-84-63	81-63	JP093	ⅢB1	AG-07	VbL	1	口縁部	平縁・断面三角形	LR斜縄文・半截竹管文- ミガキ/LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-84-64	81-64	JP065	ⅢB1	AG-09	Vb	1	突起部	直立	小突起・LR斜縄文- LR斜縄文/LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-84-65	81-65	JP071	ⅢB1	AI-06	Vc	1	口縁部	平縁・ 断面三角形/外反	押引半截竹管文/ ミガキ・沈線文・LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-84-66	81-66	JP019B	ⅢB1	AA-08	Vc	1	口縁部	平縁・ 断面三角形/外反	LRL複節縄文/ ナデ・LRL複節縄文	砂粒少量			
Ⅱ-84-67	81-67	JP057	ⅢB1	AB-10	Va	1	口縁部	平縁・外截/外傾	半截竹管による刻み目/ LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-84-68	81-68	JP060	ⅢB1	AH-07	Vb	1	口縁部	平縁・直立	刺突文	砂粒少量			
Ⅱ-85-69	81-69	JP039A	ⅢB1	AC-07	Vb	4	口縁部 ~胴部	断面三角形・ 平縁・外反	貼付帯・刺突文・ LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-70	81-70	JP039B	ⅢB1	AB-08	Vb	1	口縁部	断面三角形・ 平縁・外反	貼付帯・刺突文・ LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-71	81-71	JP012	ⅢB1	AH-07	Vb	2	口縁部 ~胴部	半円状肥厚帯・ 平縁・外反	竹管文/RRL複節縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-72	81-72	JP030A	ⅢB1	AH-07	Va	1	胴部	外傾	竹管文・LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-73	81-73	JP046A	ⅢB1	AE-08	Vb	13	口縁部 ~底部	山形突起	沈線文/ 貼付帯・ 沈線文・ 半截竹管文・ LR斜縄文	砂粒少量			
					Vc	2							
		JP046B			AF-08	Vb						8	
						AE-08						Vb	9
		JP046C			AC-07							Vb	1
						Vb						3	
						AD-07						Vb	1
												Vc	1
						AD-09						Vb	3
												Vc	1
AE-08	Vb	5											
	Ⅱ-85-74	81-74	JP013	ⅢB1	AH-07	Vb	2	口縁部	平縁・内反	竹管文/LR斜縄文	砂粒少量		
Ⅱ-85-75	82-75	JP041	ⅢB1	AJ-06	Vc	2	口縁部	平縁・外反	刺突文列・R単節斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-76	82-76	JP070	ⅢB1	AI-07	Vb	1	口縁部	突起・外反	沈線文/貼付帯・ 沈線文・半截竹管文・ 沈線文・LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-77	82-77	JP015	ⅢB1	AF-07 AG-08	Vb	1 1	胴部	外傾	貼付文・半截竹管文・ 沈線文・LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-78	82-78	JP017	ⅢB1	AK-06	Vb	2	胴部	外傾	半截竹管による 押引沈線文・RL斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-79	82-79	JP137	ⅢB1	T-16	VbU	1	胴部	外傾	半截竹管による縦位 沈線文・LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-80	82-80	JP069	ⅢB1	AI-06	Vc	1	胴部	外傾	貼付文・半截竹管文・ LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-81	82-81	JP014	ⅢB1	AH-07	Vc	2	胴部	外傾	貼付文・半截竹管文・ 押引文・RL斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-82	82-82	JP030C	ⅢB1	AG-07	Vc	1	胴部	外傾	貼付文・刻み目・ LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-83	82-83	JP059	ⅢB1	AB-08	Vb	1	胴部	外傾	半截竹管文・ 半截竹管による沈線文・ LR斜縄文	砂粒少量			
Ⅱ-85-84	82-84	JP151	ⅢB1	AC-09	Vc	1	胴部	外傾	半截竹管文・ LR斜縄文-爪形文	砂粒少量			
Ⅱ-85-85	82-85	JP027	ⅢB1	AG-07	Vb	2	底部	平底	LR斜縄文-LR斜縄文	砂粒・ 繊維少量			
Ⅱ-85-86	82-86	JP026	ⅢB1	AG-07	Vb	1	底部	平底	LR斜縄文-ミガキ	砂粒・ 繊維少量			

表Ⅱ-53 包含層出土土器属性表(4)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/ 胴部/底側面- 変換点-底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅱ-86-87	82-87	JP042	ⅢB1	AJ-06	Vb Vc	2 1	底部	平底	R無節縄文	砂粒少量	
Ⅱ-86-88	82-88	JP143	ⅢB1	G-07	Sa-A	1	底部	上げ底	LR斜縄文-LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-86-89	82-89	JP111	ⅢB3a	AI-06	Vc	1	口縁部	平縁・直立	ナデ/刺突文・LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-86-90	82-90	JP108	ⅢB3a	TR-1	V	1	口縁部	平縁・外傾	竹管文/LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-86-91	82-91	JP110	ⅢB3a	AH-06	Vc	1	口縁部	平縁・直立	ナデ/刺突文・円形刺突	砂粒少量	
Ⅱ-86-92	82-92	JP099	ⅢB3a	AJ-05	Vb	1	口縁部 ~胴部	平縁・直立	LR縄文-円形刺突文・ LR斜縄文-LR斜縄文/ LR斜縄文	砂粒少量	
				AJ-06	Vb	2					
					Vc	4					
Ⅱ-86-93	82-93	JP123	ⅣA1a	AA-12	Va	1	口縁部 ~胴部	平縁・直立	タガ状貼付帯・ LR・RL斜縄文	砂粒・ 砂礫中量	
				AB-11	Vb	1					
				Z-12	Vb	1					
Ⅱ-86-94	83-94	JP114A	ⅣA1a	W-13	Vc	2	口縁部	平縁・直立	RLR複節縄文- RLR複節縄文・縄圧痕	砂粒中量	
Ⅱ-86-95	83-95	JP132	ⅣA1a	S-11	VbM	1	口縁部	平縁・直立	RL縄文-RL斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-86-96	83-96	JP102	ⅣA1a	AJ-06	Vc	1	胴部	外傾	貼付帯・RL斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-86-97	83-97	JP154	ⅣA1a	AB-08	Vc	1	胴部	外傾	LR斜縄文	砂粒少量	
Ⅱ-86-98	83-98	JP124B	ⅣA1a	AE-09	Vb	1	口縁部	平縁・ 隅丸角状・直立	LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-86-99	83-99	JP124C	ⅣA1a	AE-09	Vb	1	口縁部	平縁・ 隅丸角状・直立	LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-86-100	83-100	JP124A	ⅣA1a	AD-09	Va	1	胴部~ 底部	外傾・平底	羽状縄文	砂粒中量	
				AE-09	Vb	13					
Ⅱ-86-101	83-101	JP115	ⅣA1a	AE-09	Vb	1	口縁部 ~胴部	平縁・直立・内截	RL縄文-貼付帯- 縄端圧痕・RL斜縄文	砂粒・ 砂礫中量	
				AE-10	Vb	5					
				AF-09	Va	2					
Ⅱ-87-102	83-102	JP128	ⅣA2	AB-07	Vb	2	口縁部	平縁・直立	RL縄文-縄端圧痕 刺突文・RL斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-87-103	83-103	JP131	ⅣA2	K-11	VbM	2	口縁部 ~胴部	平縁・隅丸角状・ 直立・折り返し口縁	LR縄文-LR斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-87-104	83-104	JP153	ⅣA2	AD-08	Vb	2	口縁部	平縁・内截・直立	RL縄文-貼付帯- 縄端圧痕・RL斜縄文・ 貼付帯・LR縄文・ LR縄線文・縄端 圧痕による突瘤文	砂粒多量	
Ⅱ-87-105	83-105	JP113	ⅣA2	W-12	Vc	1	口縁部	平縁・内截・直立	LRL複節縄文-貼付帯・ RLR複節縄文・ 縄端圧痕/ナデ	砂粒多量	
Ⅱ-87-106	83-106	JP107	ⅣA2	Z-17 AH-07	Va	8	胴部	外傾	LR縄端圧痕・LR縄文・ LR斜縄文・ナデ	砂粒多量	
Ⅱ-87-107	83-107	JP134	ⅣB1	I-13	VI	1	口縁部	平縁・外傾	ナデ-LR斜縄文	砂粒多量	
Ⅱ-87-108	83-108	JP135	ⅣB1	J-13	VI	1	口縁部	平縁・直立	LR縄文-LR斜縄文- LR斜縄文	砂粒多量	
Ⅱ-87-109	83-109	JP136	ⅣB1	H-13	VI	1	口縁部	平縁- 隅丸角状・直立	RL縄文-RL斜縄文- RL斜縄文	砂粒中量	
Ⅱ-87-110	83-110	JP100	ⅣB1	AC-09	Vc	1	口縁部	平縁- 隅丸角状・直立	RL縄文- RL斜縄文・ナデ	砂粒中量	
Ⅱ-87-111	83-111	JP141	ⅣB1	AB-18	Va	2	口縁部	平縁- 隅丸角状・直立	LR縄文- LR斜縄文・ナデ	砂粒中量	
Ⅱ-87-112	84-112	JP142	ⅣB1	Z-17	Va	4	口縁部 ~胴部	平縁- 丸味をもつ・直立	LR縄文・押し文- LR斜縄文/縞縄文-ミガキ	砂粒中量	
Ⅱ-88-113	84-113	JP126	ⅣB1	AC-14	Va	22	胴部~ 底部	筒状・ 底部すぼむ・平底	LR・RL斜縄文・ナデ/ LR・RL縄文・ナデ	砂粒中量	
Ⅱ-88-114	84-114	JP129A	ⅣB1	AF-07	Va	1	胴部	外傾	無文・ケズリ	砂粒中量	
Ⅱ-88-115	84-115	JP129B	ⅣB1	AF-08	Vb	3	胴部~ 底部	外傾/底部外端 張り出し・平底	無文・ケズリ	砂粒中量	

2. 剥片石器 (図Ⅱ-89・90 図版 85・86-1~46)

V層の剥片石器は遺構を含め352点あり、そのうち271点が包含層から出土している。内訳はポイント類の石鏃42点、石槍・石銛44点、石鏃の未成品5点、石槍・石銛の未成品6点、破片のため分類不能なもの13点である。石錐は5点、ナイフ・スクレイパー類はつまみ付きナイフ29点、ラウンド・スクレイパー6点、エンド・スクレイパー8点、サイド・スクレイパー17点、コンケイブ・スクレイパー2点、ナイフ2点である。RF37点、UF52点、石核3点である。出土した剥片石器は平成25年調査区のVF-01~03、VSB-07・17、VSFCB-01周辺に集中している。平成26年調査区では、剥片石器はB1区北側からC区南側に集中している。器種別による分布状況の偏りは認められない。出土層位はVa~Vc層で、出土土器から縄文時代早期末葉から後期初頭に相当する。なかでもVb層からの出土量が際立っており、縄文時代中期相当の遺物が大半を占めると思われる。使用石材は黒曜石を主に用いているが、つまみ付きナイフは頁岩が多数を占める。

ポイント類

石鏃 (図Ⅱ-89-1~11) : 1・2はA1類に属し、細身で薄く両面に細かな調整剥離が施されている。3~6はA2類に属し、無茎で基部が内湾する凹基であり、両面に細かな調整剥離が施されている。7~9はA3類に属し、明瞭な茎部をもつもので茎部端が尖り、鏃身部は茎部より長い。表面は急角度に調整を施している。10・11はA4類に属し、不明瞭な茎部をもつもので鏃身部に比べ茎部が長くなっている。両面に粗い調整が施されている。

石槍・石銛 (図Ⅱ-89-12~23) : 12はB1a類に属し、明瞭な茎部をもち茎部端が平らなものである。両面に粗い調整剥離を施している。13~17はB1b類に属し、明瞭な茎部をもち茎部端が尖る。13・16・17は菱形を呈し主に両面の周縁を加工しており、身部の方が茎部よりも細かな調整を施している。14はA3類の石鏃と形態が類似している。明瞭な茎部をもち、茎部端が尖り身部は茎部よりも長い。両面に密な加工を施しており、先端部に近くなるほど丁寧な調整が施される。15は菱形で主に表面の周縁と裏面の身部に加工を施している。18はB1c類に属し、茎部端にえぐりをもち先端部を欠損している。両面に粗い調整を施している。19~23はB2類に属し、不明瞭な茎部をもつものである。21はA2類の石鏃に形状が類似しており大型の石鏃の可能性はあるが、4cm以上のものは石槍・石銛に分類されるためB2類とした。両面の側縁に細かな調整を施しており、基部は内湾する凹基である。19・20・22は菱形を呈し、主に両面の周縁に剥離調整が施されている。23は柳葉形で両面に粗い調整の後に縁辺に細かな剥離を施している。石材は18が頁岩で、ほかは黒曜石である。

石錐 (図Ⅱ-89-24・25) : 24は剥片の一部に機能部を作出したものである。上端面に素材面を残す。25は柄と機能部の区別が不明瞭な棒状のものである。基部端を欠損している。石材は24がメノウ質頁岩で25は頁岩である。

ナイフ・スクレイパー類

つまみ付きナイフ (図Ⅱ-89・90-26~34) : 26~30はA1類に属し、素材の周縁部にのみ加工が施されている。28は使用による微細剥離が裏面の左側縁から下縁にかけて認められる。29は下縁を欠損している。31~34はA2類に属し、素材の片面全体に加工が施されている。33は裏面の左側縁下半部に使用によると思われる微細剥離が認められる。34はA3類に属し、表面の左側縁から下縁にかけ、使用によると思われる微細剥離と磨滅痕が認められる。裏面の大部分に幅広の並行剥離が認められる。石材は30のみ黒曜石で、ほかは頁岩である。

ラウンド・スクレイパー (図Ⅱ-90-35・36) : 35・36 は B1 類に属し、素材端部に刃部が作出されるものである。周縁部を円形に近い形状に調整し、刃部を作出している。石材は 35 が黒曜石で被熱しており、36 は頁岩である。

エンド・スクレイパー (図Ⅱ-90-37~39) : 37~39 は B2 類に属し、素材端部に刃部を作出するものである。37 は原石面を残す楕円形剥片素材の周縁に加工を施している。38 は表面の右側縁下半部に使用によると思われる微細剥離が認められる。39 は原石面を残す不整形な剥片素材で左側縁に加工を施しており、使用によると思われる微細剥離が認められる。石材は 37・39 が黒曜石で 38 はメノウ質頁岩である。

サイド・スクレイパー (図Ⅱ-90-40・41) : 40・41 は C1b 類に属し、素材側縁に刃部が作出されているものである。40 は両側縁に加工を施している。41 は左側縁を除く周縁に加工を施している。共に黒曜石を石材としており、原石面をもつ。

コンケイブ・スクレイパー (図Ⅱ-90-42・43) : 42・43 は C2b 類に属し、素材の側縁に内湾する刃部を作出したものである。左側縁に内湾する刃部と他方の側縁にも鋭角な刃部を作出するための加工を施している。石材は黒曜石である。

ナイフ (図Ⅱ-90-44・45) : 44・45 は F 類に属し、石槍・石銛からの転用品である。44 は右側面の上半に両面から再調整を施している。45 は先端部の両側面に両面から再調整を施している。加工形態からナイフとしての再利用が考えられる。石材はいずれも黒曜石である。

石核 (図Ⅱ-90-46) : 46 は左側面に転礫面が残る厚みのある剥片を素材とする。上面には打面形成のための剥離が残る。表面上端部に打点が集中し、数回の打面転移を経て現状に至る。石材は黒曜石である。

3. 礫石器・その他 (図Ⅱ-91~101 図版 87~92-1~57)

V層の礫石器は遺構を含め 979 点あり、そのうち 734 点が包含層から出土している。内訳は石斧及び石斧未成品 106 点、たたき石 337 点、すり石 60 点、砥石 85 点、石鋸 9 点、石錘 1 点、線条痕のある礫 2 点、石皿 73 点、台石 36 点、棍棒形石器 2 点、棍棒様石器 1 点、加工痕のある礫 20 点、擦り切り溝のある礫 1 点、石棒 1 点で、そのほかは石製品 1 点、黒色物質付着礫 1 点、自然有孔礫 6 点である。礫石器は平成 25 年調査区の TP-26・27・29・VPB-06・VSB-17 周辺と VSB-01・18 が隣接する周辺で集中的に出土している。平成 26 年調査では VPB-10・VSB-26 の周辺でまとまった出土が認められる。礫石器に用いられる石材は砂岩を主体としているが、石斧は緑色泥岩を主体としている。

石斧 (図Ⅱ-91・92-1~16) : 1~6 は A1 類に属し、緑色泥岩を用い全面に研磨を施している両刃の石斧である。1 は両側縁に剥離調整と表面に敲打調整が認められる。刃部は丁寧に研磨調整され、円刃に近い形状である。2 は両面に敲打調整が認められる。側縁から刃部にかけて研磨調整が施され、刃部は斜刃である。3 は両側面に打ち欠き整形、敲打調整、研磨調整が認められる。刃部は研磨調整が施され、直刃である。4 は左側面に擦り切り痕が僅かに残る。表面に敲打痕が認められる。ほぼ全面に研磨調整が施され、刃部は円刃である。2 点の接合である。5 は側面に敲打調整と、ほぼ全面に研磨調整による線条痕が認められる。刃部は斜刃である。6 は両面に剥離調整と左側面上端部に敲打痕が認められる。ほぼ全面に研磨調整が施され、刃部は斜刃である。7~10 は A2 類に属し、緑色泥岩を用い全面に研磨調整を施した片刃石斧である。7・9・10 は両側縁に擦り切り痕を残す。刃部には使用によると思われる微細な刃こぼれが認められる。また、10 は 2 点の接合である。7 は全面に研磨が施さ

れ、刃部は直刃である。8 は全面に研磨調整を施したもので、基部が被熱により黒色化している。刃部には僅かに磨滅が認められる。11～13 は未成品である。11 は緑色泥岩、12・13 は片岩である。11 は6点が接合したもので、打ち欠き成形後に研磨調整と敲打調整を施す途中で破損したものである。12 は両面に原石面を多く残し、打ち欠き成形後、両側面に剥離調整を施している。13 は全面に剥離調整が認められる。表面と右側縁に原石面を残す。14・15 は砂岩の小型石斧で石材や規格から実用品とは考えられない。F 類に属する。全面に研磨調整が施され、両面全体に横位の線条痕が残る。刃部は両刃で斜刃である。16 は刃部を欠くもので石材は緑色泥岩である。両面と基部には敲打調整と全面に研磨調整の際に生じた線条痕が認められる。右側面に擦り切り痕が残る。

たたき石 (図Ⅱ-92・93-17～24) : 17 は I A1 類に属し、縦長の扁平礫の両面に僅かにたたき痕が認められる。18 は I A2 類に属し、縦長の扁平礫の右側縁稜と端部に僅かにたたき痕が認められる。19 は I A3 類に属している。長楕円形状の扁平礫の表面に浅い窪みのたたき痕が2ヵ所、裏面には長軸方向にめぐる帯状のたたき痕、両端には密集した、たたき痕が認められる。20 は I B3 類に属し、棒状礫の平坦面と側縁稜及び端部にたたき痕が認められる。21 は II A1 類に属し、不整形な扁平礫の両面に僅かにたたき痕が認められる。裏面の広範囲に黒色物質の付着が認められる。22 は II A3 類に属し、不整形で幅広な扁平礫の平坦面や側縁稜に僅かにたたき痕が認められる。23 は III A 類に属し、円形の扁平礫の表面と右側縁に僅かにたたき痕があり、左側縁にはたたきによる剥離が認められる。24 は III B 類に属し、球状礫の周縁にたたき痕が認められる。石材はすべて砂岩である。

すり石 (図Ⅱ-93～95-25～31) : 25～29 は北海道式石冠(D 類)、30・31 はすり石(E 類)に属する。なお本遺跡では A・B・C 類のすり石は出土していない。25・29 は敲打調整がほぼ全面に施されている。下面にはすり痕による線条痕があり、表面下半部には使用時のものと思われる剥離が認められる。29 は器体の右半分以上が欠損している。26・27 は素材礫面を残し、握部を作出するように敲打調整が施されている。下面にはすり痕による線状痕があり、表面の下縁には使用によると思われる剥離が認められる。28 は下面にすり痕が認められないことから北海道式石冠の未成品と思われる。30・31 は北海道式石冠と同様に握部を作出するように敲打調整を施しているが、扁平な板状礫を素材としているため、下面の幅は狭い。30 は3点が接合したものである。敲打調整時に破損したものである。31 は両面と側縁の頭頂部から握部までを敲打調整が施されている。下面にはすり痕による線状痕が認められる。石材は26のみが安山岩で、ほかは砂岩である。

砥石 (図Ⅱ-95・96-32～34) : 32 は扁平礫の両面に使用面をもつもので、2点が接合した欠損品である。砥面は浅く窪み、長軸方向の浅い線条痕とやや深い線条痕が認められる。33 は両面を砥面とするもので、窪んでおり、長軸方向の浅い線条痕と深い線条痕、弧を描く線条痕が認められる。34 は断面四角形の4面を砥面としている。両面及び右側面は浅く窪み、左側面は平坦である。いずれも長軸方向に線条痕が認められる。

石鋸 (図Ⅱ-96-35・36) : 板状の砂岩礫を素材としたものである。35 は下縁に断面「U」の字状の刃部を形成しており、長軸方向に線条痕が認められる。摩耗していることから使用頻度は高かったと思われる。36 は下縁に刃部を形成し、線条痕が認められる。刃部に一部欠損がある。

石錘 (図Ⅱ-96-37) : 37 は片麻岩の扁平礫を素材とする。長軸端に打ち欠きを有するタイプの石錘片である。

線条痕のある礫 (図Ⅱ-96-38) : 38 は砂岩の円礫を素材とし、両面に幅 1mm ほどの線条痕が複数認められる。下半が欠損している。

石皿 (図Ⅱ-97-39・40) : 39 は不整形の大型礫を素材とする石皿である。表面に円状に窪むすり面と、周縁にたたき痕が認められる。裏面半部を欠く欠損品である。40 は大型の板状礫を素材としている。表面の上半部に擦り痕による線条痕と右側縁上部にたたき痕が認められる。石材は両方とも砂岩である。

台石 (図Ⅱ-98・99-41~45) : 41 は不整形の扁平礫を素材とした台石である。主に両面の周縁と側面端部に密に連なるたたき痕が認められる。42 は角柱状の礫を素材としている。上面全体にたたき痕が認められる。43 は不整形な礫を素材とし、2 点が接合したものである。両面の頂端部にたたき痕の集中が認められる。下面に集中するたたき痕と、その周縁にもたたき痕が認められ、たたき石としても使用されたと思われる。44 は大型の扁平礫を素材としている。2 点が接合したものである。表面に帯状に連なるたたき痕が認められる。器体の左側面と下面は欠損している。45 は扁平な大型亜円礫を素材として表面に部分的にたたき痕と、周縁に剥離痕が認められる。石材はいずれも砂岩である。

棍棒形石器 (図Ⅱ-99-46・47) : 46・47 は刃部を欠く棍棒形石器の柄部である。柄部としての機能を作成するため両面と両側面に剥離調整が認められる。46 は青色片岩、47 は片岩を石材としている。46 は VSB-18・VSFCB-01 周辺から、47 は VSB-26 の西端に隣接して出土している。46 出土付近からは同じ Vb 層から IV 群 A2 類土器が出土しており、縄文時代後期初頭のものとして推定される。

棍棒様石器 (図Ⅱ-100-48) : 48 は縦長の砂岩礫を素材としている。周縁部に敲打調整と剥離調整が認められる。たたき石の可能性も考慮できる。V 層検出時に地すべり堆積層 A 直下から出土している。

加工痕のある礫 (図Ⅱ-100-49・50) : 49 は半円状の扁平礫を素材にして調整加工を加えている。半円部の両面に剥離調整を施している。50 は横長の扁平礫を素材にして調整加工を加えたものである。左側面と上面に敲打剥離が施されている。形状や加工工程から北海道式石冠の未成品の可能性はある。石材はいずれも砂岩である。

擦り切り溝のある礫 (図Ⅱ-101-51) : 51 は長楕円形状の扁平礫のほぼ全面に敲打調整を施しており、両面の側縁に剥離調整が認められる。両面中央の長軸方向に擦り切り加工を施している。緑色泥岩を石材としている。擦り切り技法による石斧素材の可能性はある。

石棒 (図Ⅱ-101-52) : 52 は棒状の砂岩礫を素材としたものである。2 点が接合している。表面の頂端部には長軸方向の敲打調整が施されている。下面縁辺部から右縁辺部には敲打調整が浅い溝状に施されている。欠損していることから敲打調整が途中で止まっていると思われる。上下面は敲打痕の集中により丸みをもっている。

石製品 (図Ⅱ-101-53) : 53 は平板な円礫を研磨した石製品である。素材の全面が研磨されており、両面に長軸方向の線条痕が認められる。石材は砂岩である。用途は不明である。

黒色物質付着礫 (図Ⅱ-101-54) : 54 は角柱状の礫にタール状の黒色物質が付着している。石材は砂岩である。

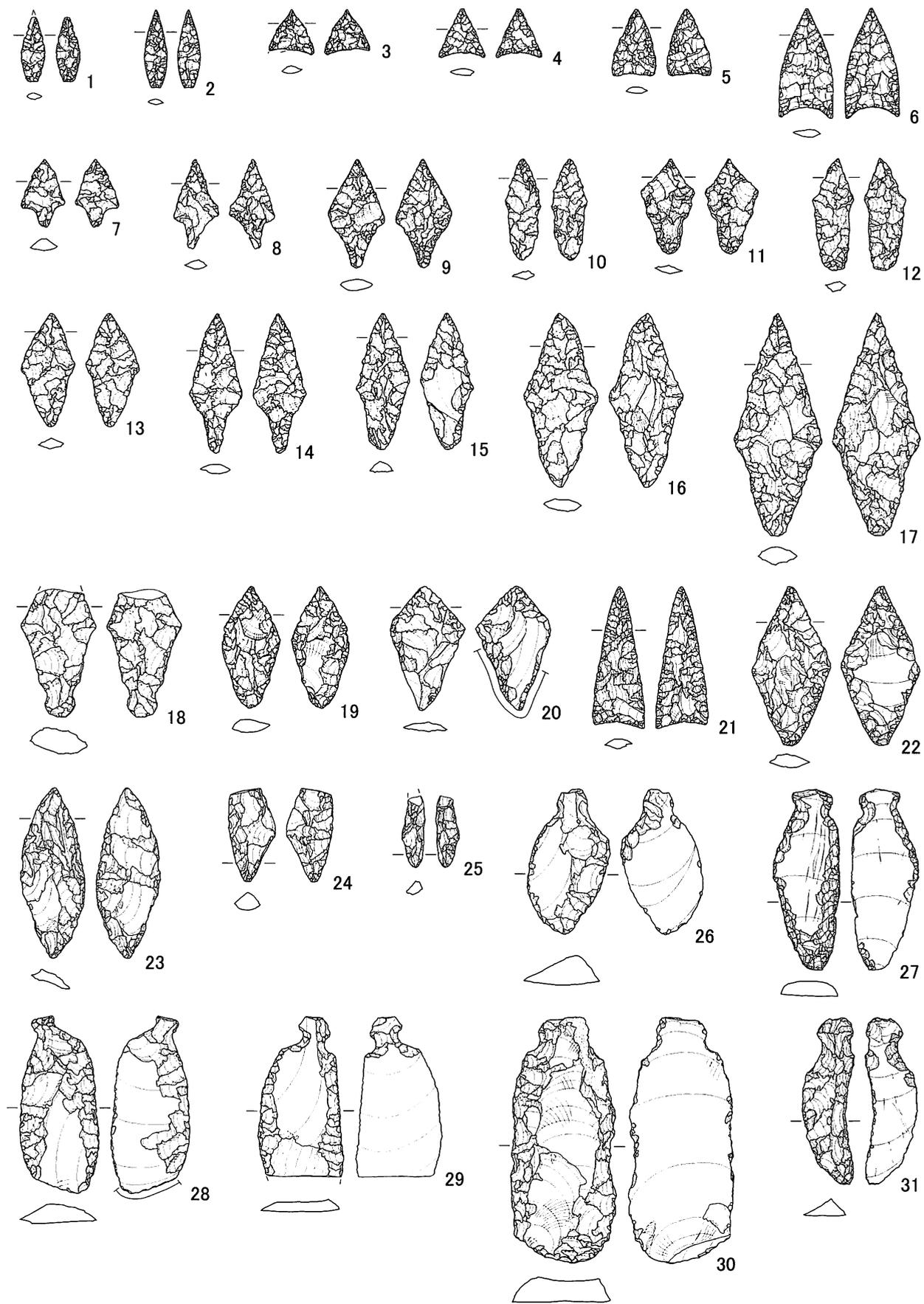
自然有孔礫 (図Ⅱ-101-55~57) : 55 は不整形の扁平礫を素材としている。56 は不整形の扁平礫を素材としている。57 は扁平な円礫を素材としている。3 点とも自然的な孔が貫通している。石材は砂岩である。

礫：礫が多く出土しているグリッドは住居跡、落とし穴、礫集中近くで出土するものが多い。詳細は表Ⅱ-56を参照していただきたい。

(大谷)

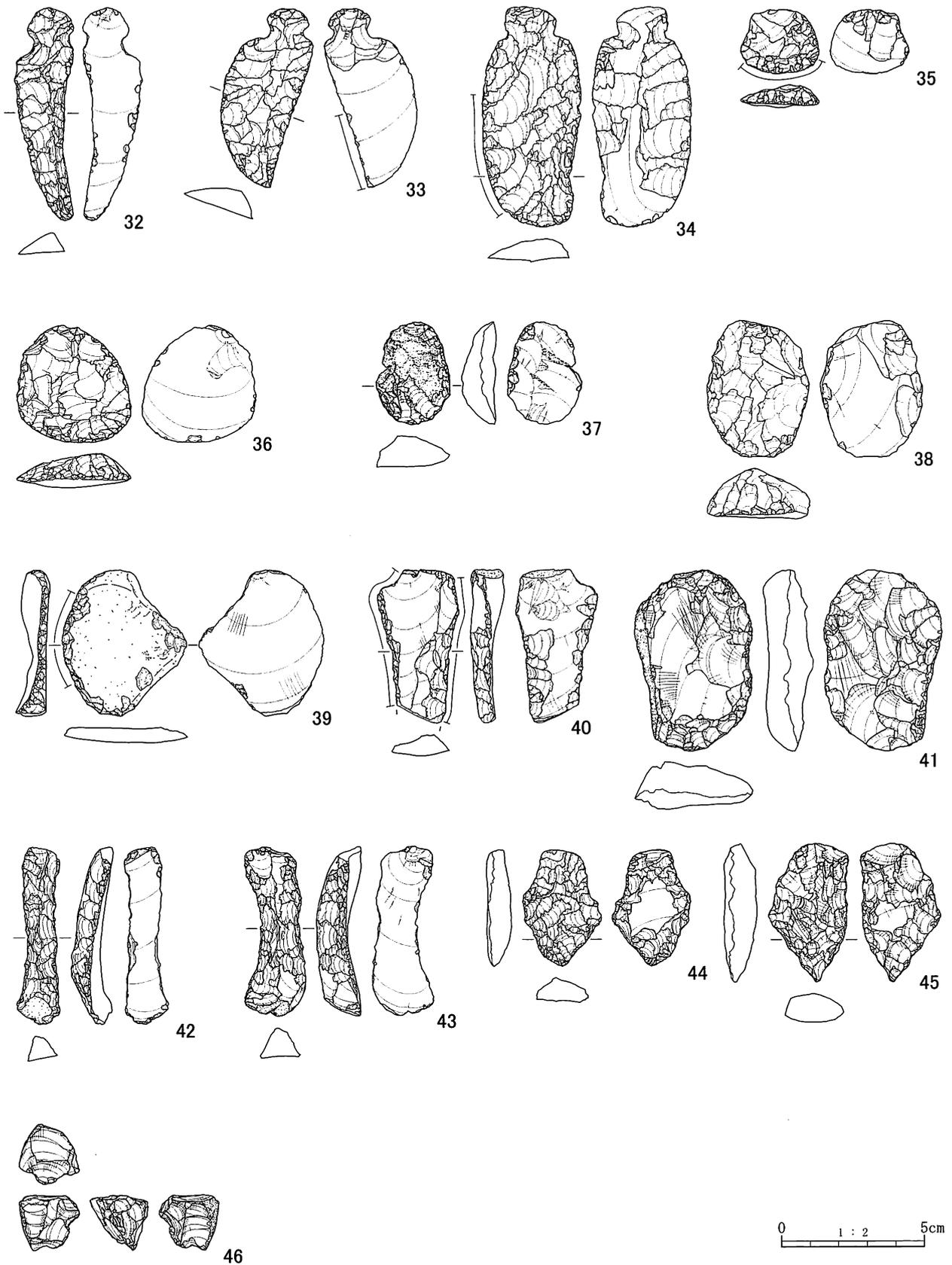
表Ⅱ-54 包含層出土剥片石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	グリッド	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-89-1	85-1	-	4095	ポイント類	A1	AA-11	Vb	(23.3)	8.7	2.4	(0.4)	Obs.	略完形
II-89-2	85-2	-	5442	ポイント類	A1	Z-11	Va	28.5	7.9	2.3	0.4	Obs.	完形
II-89-3	85-3	-	5437	ポイント類	A2	Y-11	Vb	14.8	15.9	2.5	0.5	Obs.	完形
II-89-4	85-4	-	3096	ポイント類	A2	AD-11	Vc	17.8	16.4	2.6	0.5	Obs.	完形
II-89-5	85-5	-	3556	ポイント類	A2	AB-11	Vb	23.8	15.7	4.2	1.2	Obs.	完形
II-89-6	85-6	-	2635	ポイント類	A2	AD-12	Vb	39.1	19.5	4.0	2.9	Sh.	完形
II-89-7	85-7	-	8553	ポイント類	A3	AE-09	Vb	24.3	15.4	4.3	1.1	Obs.	完形
II-89-8	85-8	-	2529	ポイント類	A3	AE-07	Va	32.1	16.0	4.3	1.3	Obs.	完形
II-89-9	85-9	-	10488	ポイント類	A3	J-12	Sa-A	38.0	19.4	5.1	2.2	Obs.	完形
II-89-10	85-10	-	2958	ポイント類	A4	AF-08	Vb	36.2	12.7	5.5	1.8	Obs.	完形
II-89-11	85-11	-	357	ポイント類	A4	AJ-06	Vb	33.9	18.8	5.3	2.5	Obs.	完形
II-89-12	85-12	-	5749	ポイント類	B1a	AC-07	Vc	40.1	14.7	6.3	3.1	Obs.	完形
II-89-13	85-13	-	3217	ポイント類	B1b	AC-11	Vc	40.8	18.8	7.1	3.7	Obs.	完形
II-89-14	85-14	-	9730	ポイント類	B1b	G-07	VbM	48.0	18.2	4.8	3.1	Obs.	完形
II-89-15	85-15	-	2538	ポイント類	B1b	AE-07	Vb	49.0	18.8	5.8	4.5	Obs.	完形
II-89-16	85-16	-	3192	ポイント類	B1b	AC-14	Vc	62.5	26.2	6.8	8.6	Obs.	完形
II-89-17	85-17	-	4096	ポイント類	B1b	AA-11	Vb	79.7	31.2	10.3	17.9	Obs.	完形
II-89-18	85-18	-	3350	ポイント類	B1c	AD-10	Vc	(46.3)	26.6	9.1	(11.0)	Sh.	先端欠
II-89-19	85-19	-	9790	ポイント類	B2	J-09	VbU	43.3	19.7	6.3	4.7	Obs.	完形
II-89-20	85-20	-	68	ポイント類	B2	AJ-06	Vb	44.6	26.6	6.5	6.0	Obs.	完形
II-89-21	85-21	-	5546	ポイント類	B2	AA-14	Vc	50.0	18.6	4.6	3.6	Obs.	完形
II-89-22	85-22	-	336	ポイント類	B2	AJ-06	Vb	57.0	27.8	7.7	8.9	Obs.	完形
II-89-23	85-23	-	4714	ポイント類	B2	Y-14	Vc	61.3	22.8	8.9	9.3	Obs.	完形
II-89-24	85-24	-	3522	石錐	A	AB-15	Vb	32.9	16.6	11.8	5.5	Aga-Sh.	完形
II-89-25	85-25	-	4649	石錐	D	X-15	Va	(26.1)	8.2	7.0	(1.5)	Sh.	基部欠
II-89-26	85-26	-	21	ナイフ・スクレイパー類	A1	AK-06	Vb	52.1	28.0	11.1	13.2	Sh.	完形
II-89-27	85-27	-	10821	ナイフ・スクレイパー類	A1	K-012	VbM	64.7	23.1	5.4	10.6	Sh.	完形
II-89-28	85-28	-	3202	ナイフ・スクレイパー類	A1	AC-13	Va	64.7	28.1	8.6	16.1	Sh.	完形
II-89-29	85-29	-	3537	ナイフ・スクレイパー類	A1	AB-14	Vb	(58.6)	30.1	6.3	(11.9)	Sh.	先端欠
II-89-30	85-30	-	3438	ナイフ・スクレイパー類	A1	AE-13	Vc	88.7	37.5	11.8	45.6	Obs.	完形
II-89-31	85-31	-	4602	ナイフ・スクレイパー類	A2	Z-12	Vb	60.1	16.3	7.5	8.1	Sh.	完形
II-90-32	86-32	-	5436	ナイフ・スクレイパー類	A2	Y-11	Vb	74.9	17.8	7.5	10.5	Sh.	完形
II-90-33	86-33	-	8852	ナイフ・スクレイパー類	A2	O-11	VbL	63.0	26.3	7.8	13.0	Sh.	完形
II-90-34	86-34	-	4601	ナイフ・スクレイパー類	A3	Z-12	Vb	78.2	34.7	9.3	28.8	Sh.	完形
II-90-35	86-35	-	3538	ナイフ・スクレイパー類	B1	AB-14	Vb	27.0	22.7	6.9	4.5	Obs.	完形、被熱
II-90-36	86-36	-	4156	ナイフ・スクレイパー類	B1	AA-13	Vb	43.8	39.2	10.8	19.9	Sh.	完形
II-90-37	86-37	-	10436	ナイフ・スクレイパー類	B2	J-08	VbM	35.5	25.5	10.7	9.4	Obs.	完形
II-90-38	86-38	-	4039	ナイフ・スクレイパー類	B2	AB-10	Vb	(48.8)	35.4	17.0	(33.1)	Aga-Sh.	基部欠
II-90-39	86-39	-	10335	ナイフ・スクレイパー類	B2	L-10	VbM	50.8	43.5	9.4	17.5	Obs.	完形
II-90-40	86-40	-	4708	ナイフ・スクレイパー類	C1b	Y-14	Vb	52.3	28.4	8.3	12.2	Obs.	完形
II-90-41	86-41	-	114	ナイフ・スクレイパー類	C1b	AI-08	Vb	63.8	41.5	14.6	42.2	Obs.	完形
II-90-42	86-42	-	3008	ナイフ・スクレイパー類	C2b	AE-09	Vb	62.3	16.4	9.3	8.3	Obs.	完形
II-90-43	86-43	-	3478	ナイフ・スクレイパー類	C2b	AB-09	Vb	58.9	19.8	11.1	14.8	Obs.	完形
II-90-44	86-44	-	2481	ナイフ・スクレイパー類	F	AH-07	Vc	41.2	27.9	8.3	9.0	Obs.	完形、石槍からの転用品
II-90-45	86-45	-	5105	ナイフ・スクレイパー類	F	AC-07	Vc	48.9	27.5	10.8	14.8	Obs.	完形、石槍からの転用品
II-90-46	86-46	-	8423	石核	-	AC-14	Vb	22.2	20.4	17.7	6.8	Obs.	完形

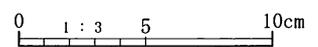
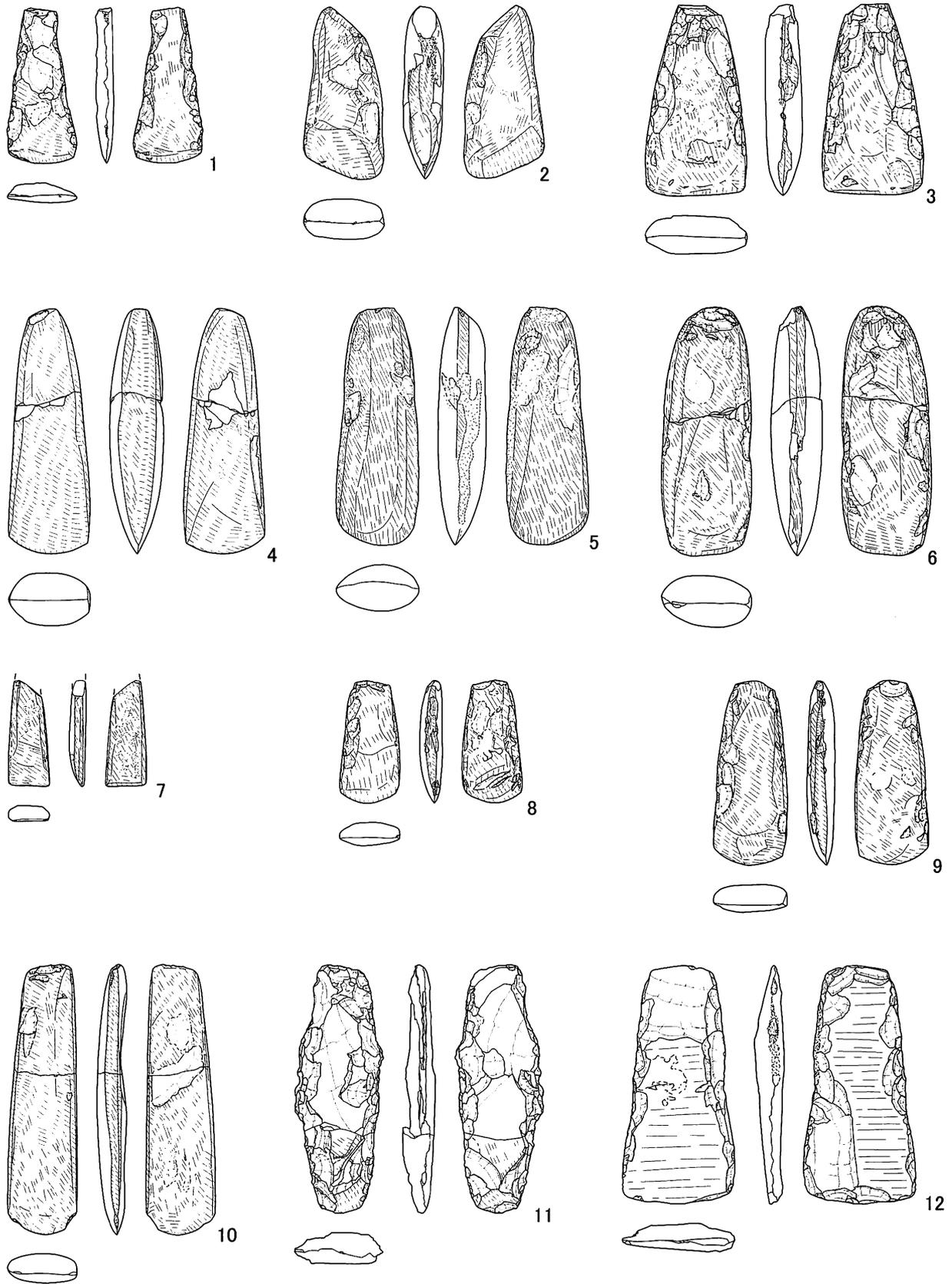


図II-89 包含層出土剥片石器(1)

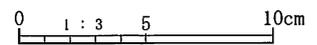
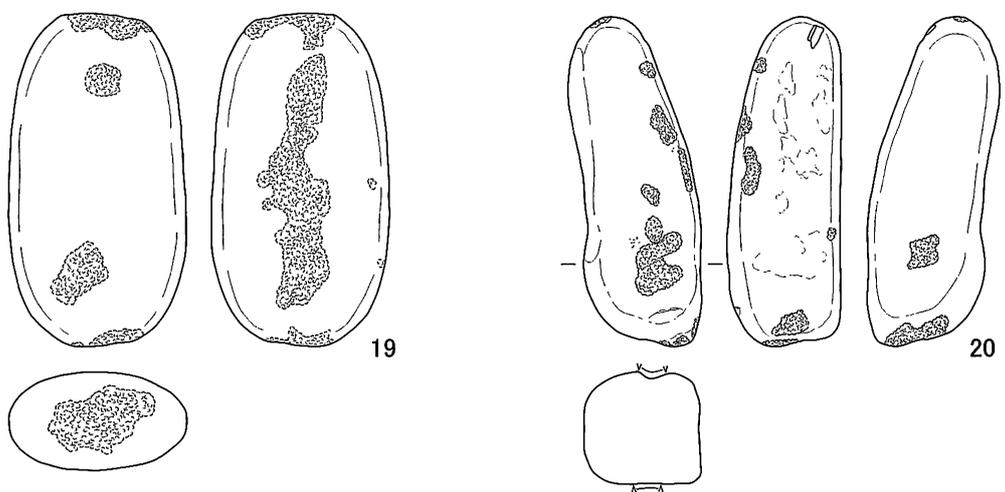
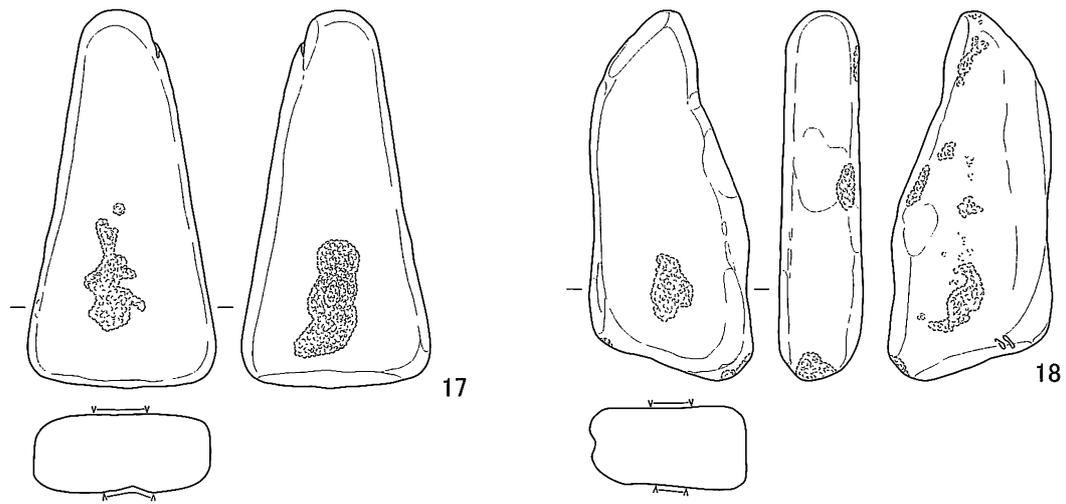
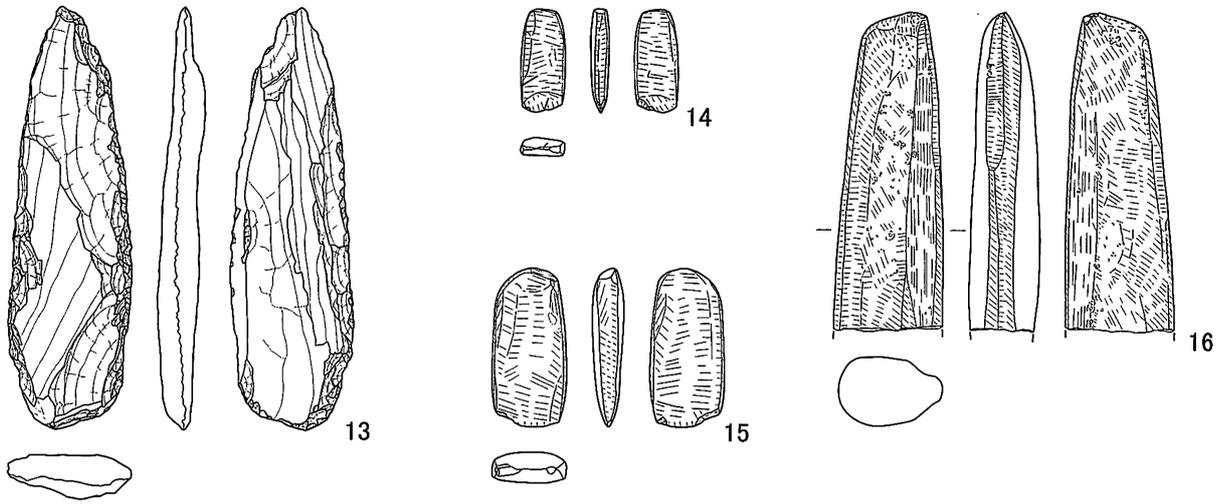
0 1:2 5cm



図Ⅱ-90 包含層出土剥片石器(2)



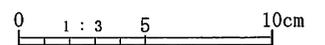
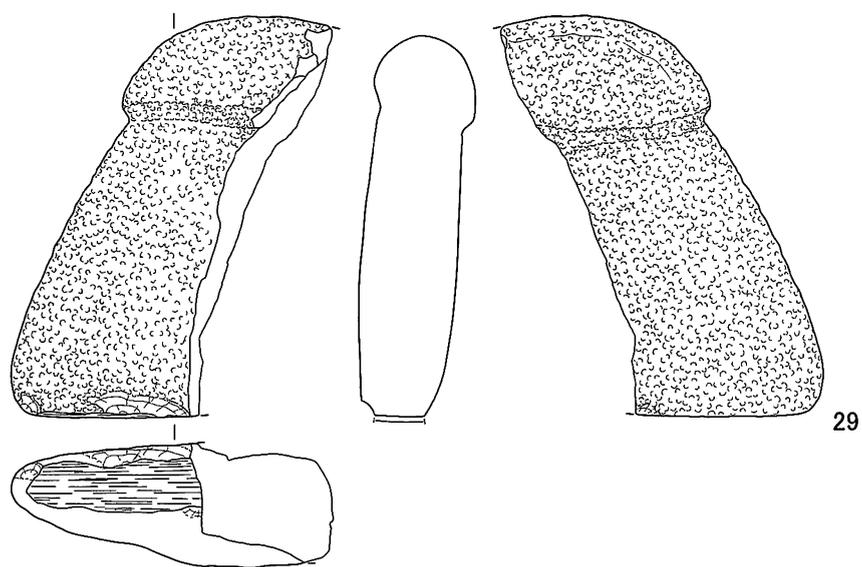
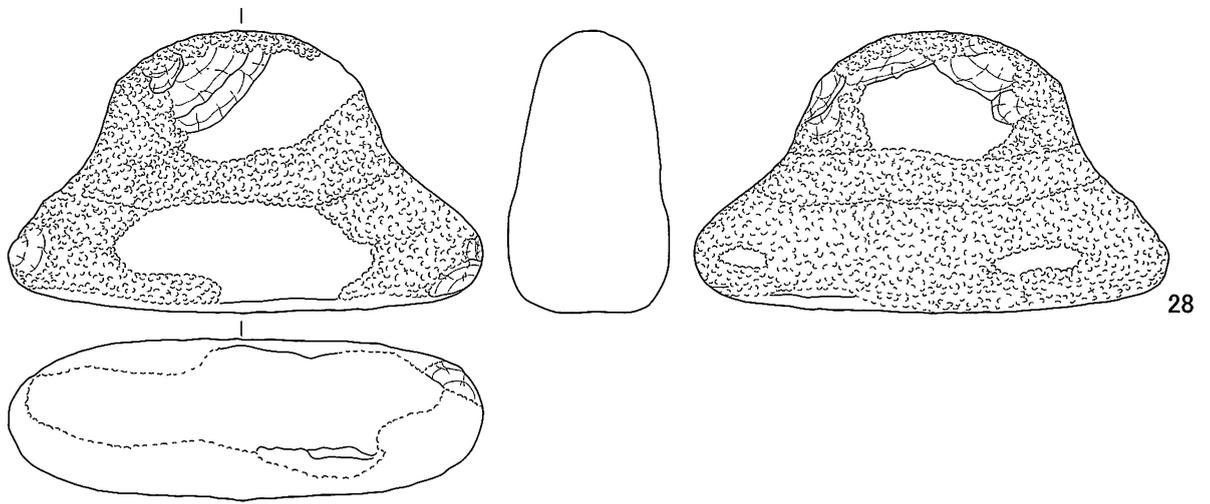
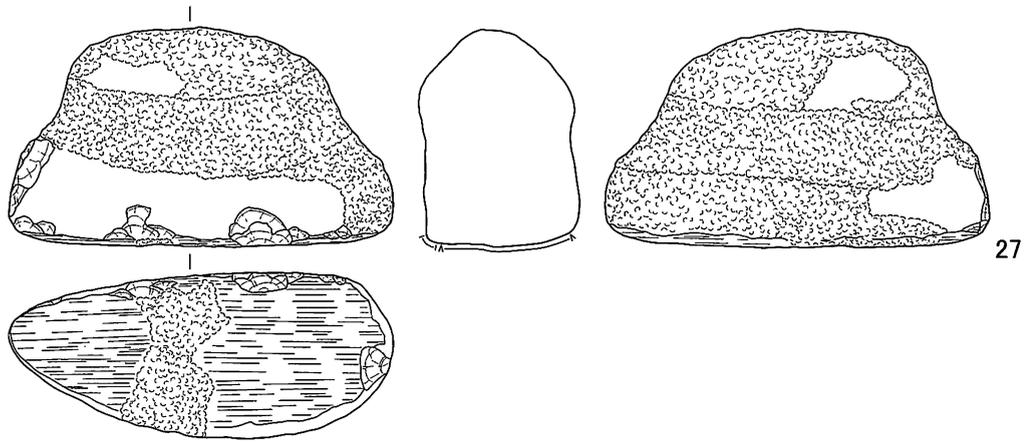
図II-91 包含層出土礫石器(1)



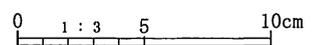
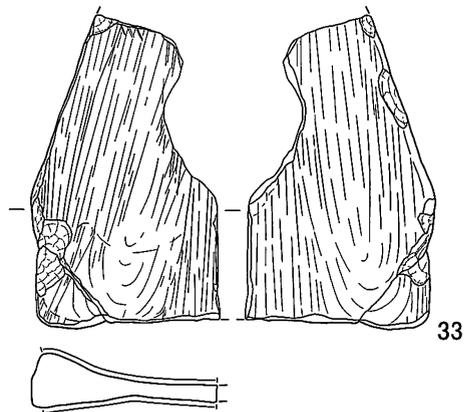
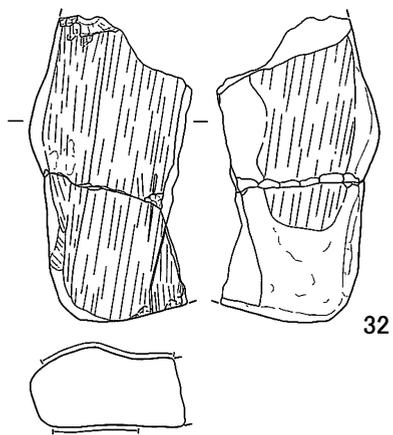
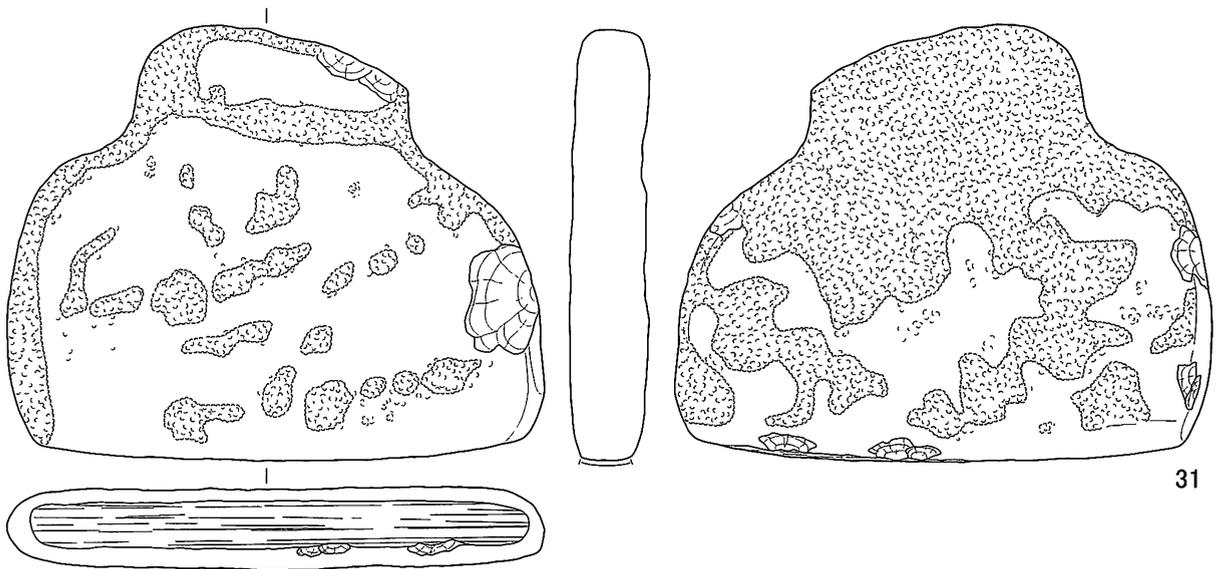
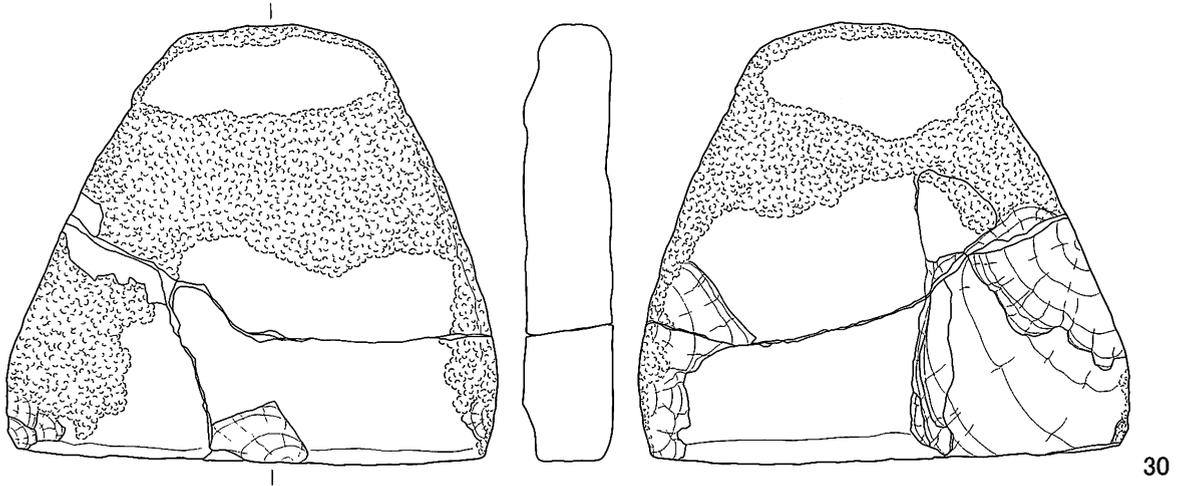
図II-92 包含層出土礫石器(2)



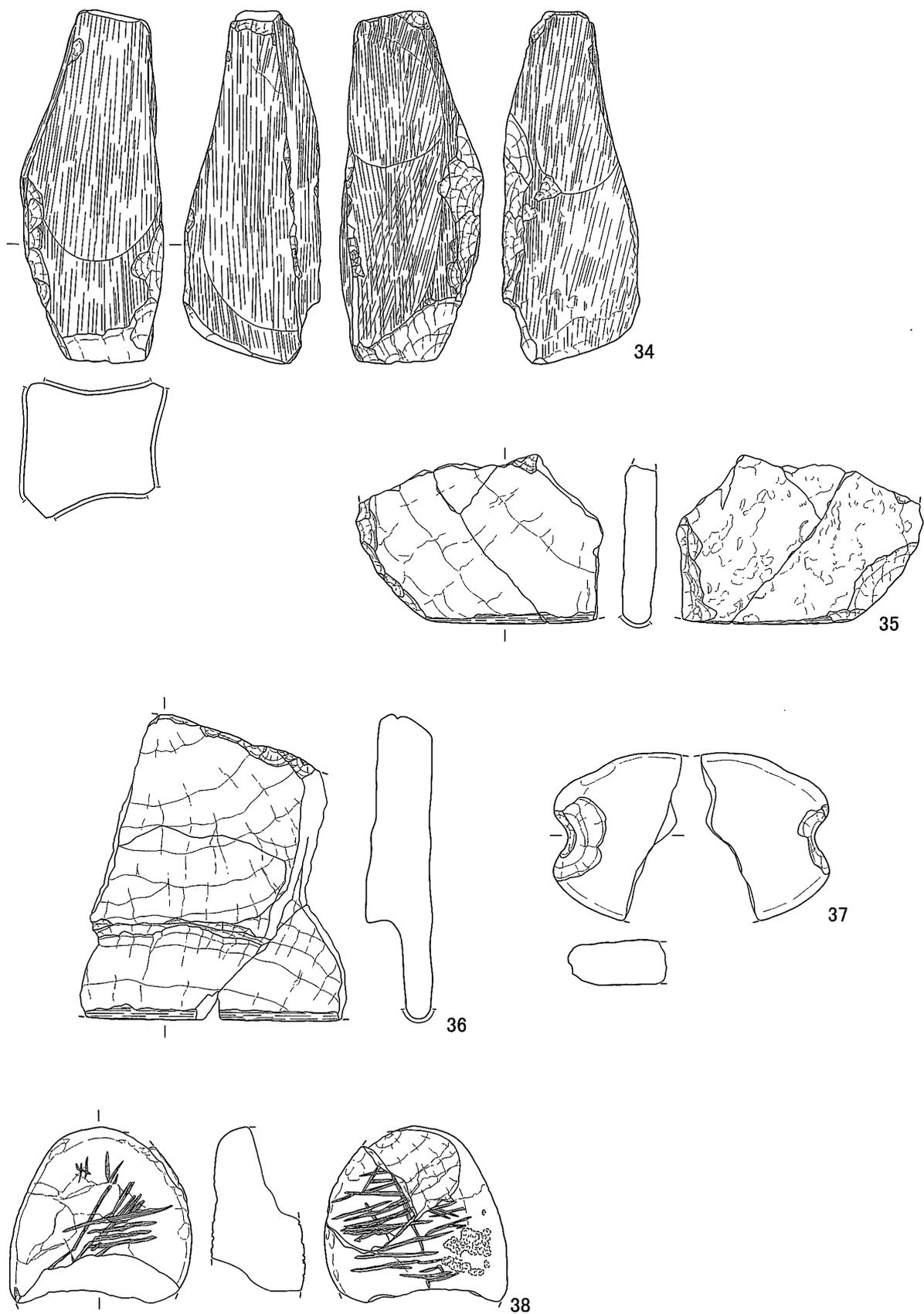
図II-93 包含層出土礫石器(3)



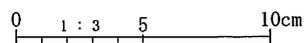
図Ⅱ-94 包含層出土礫石器(4)

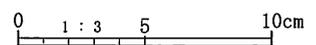
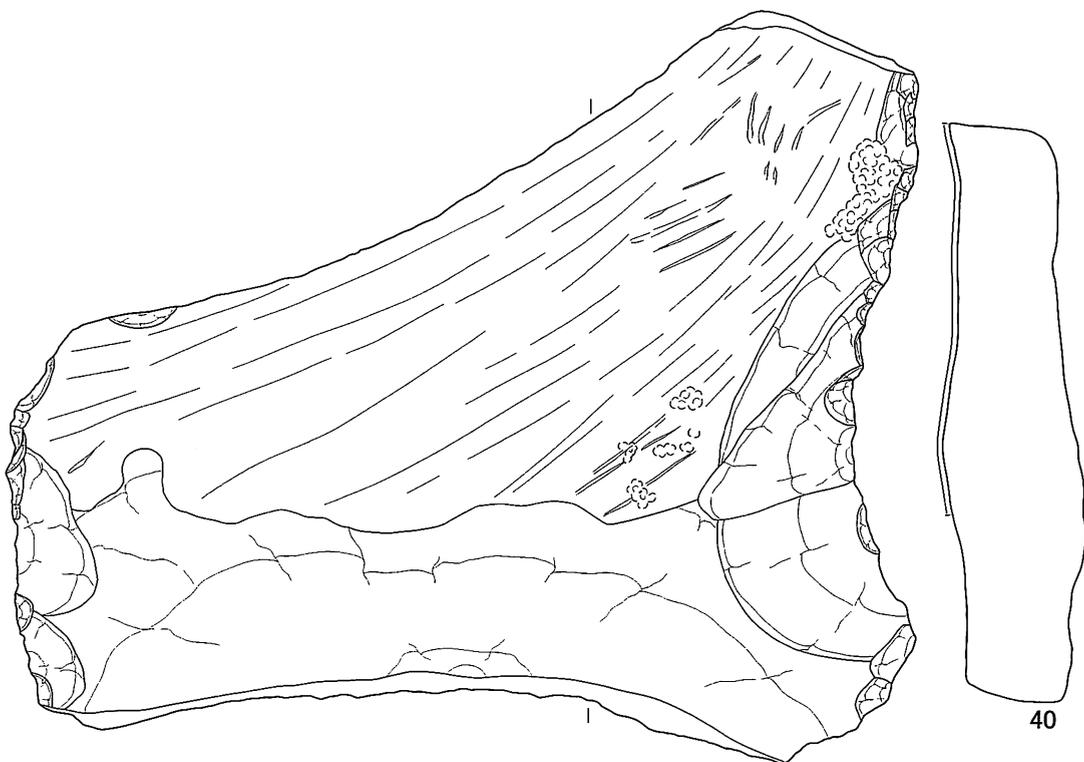
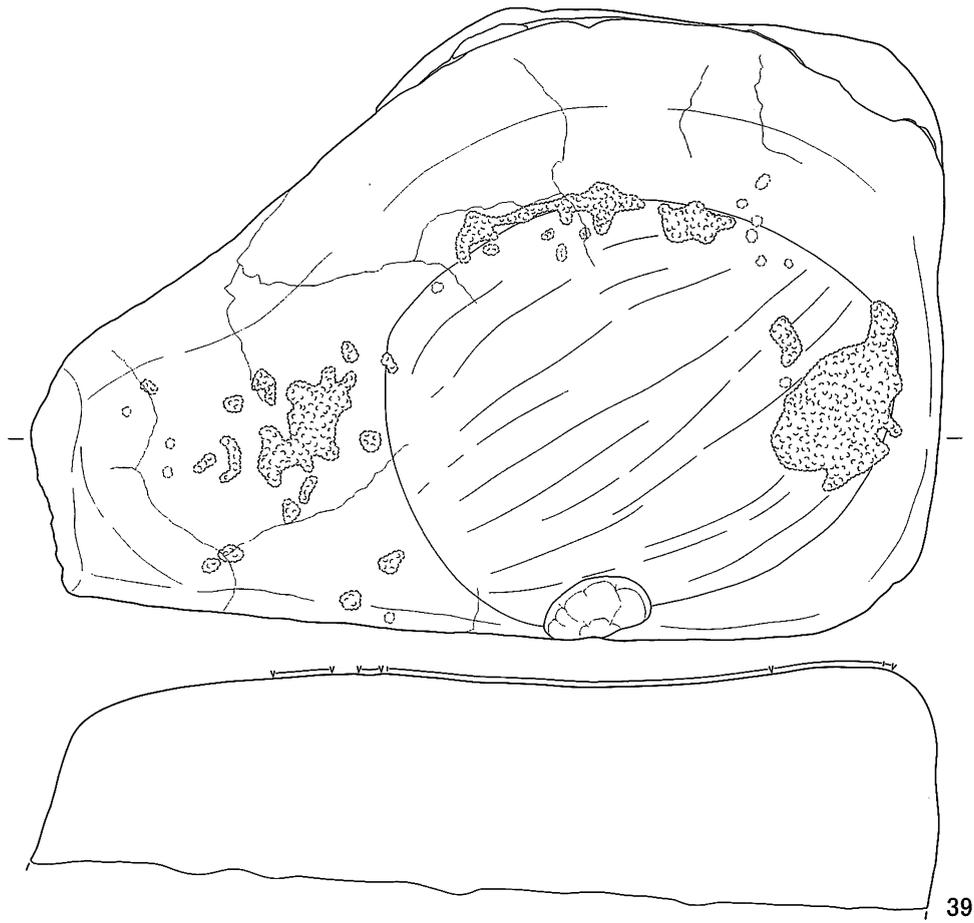


図II-95 包含層出土礫石器(5)

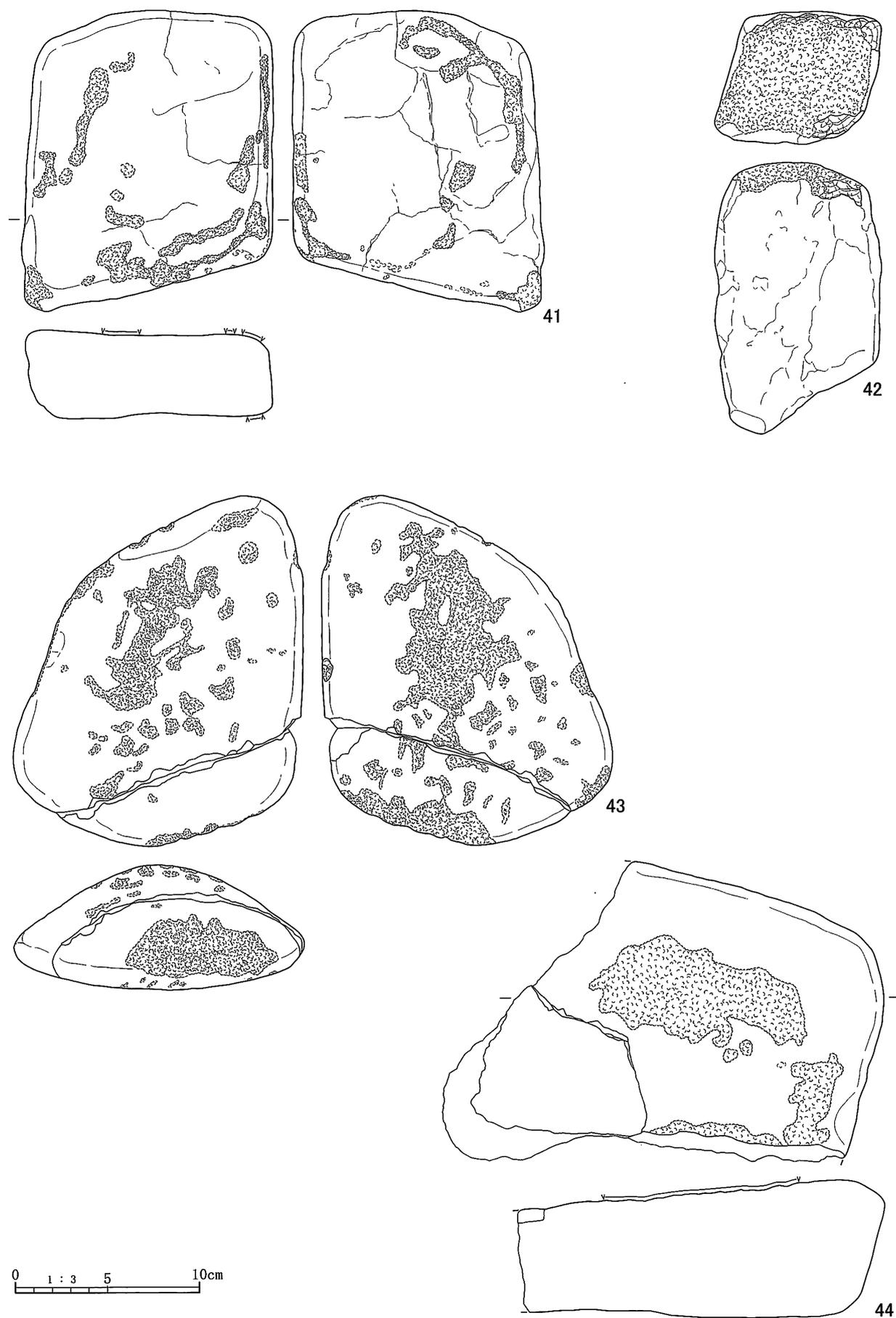


図Ⅱ-96 包含層出土礫石器(6)

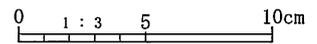
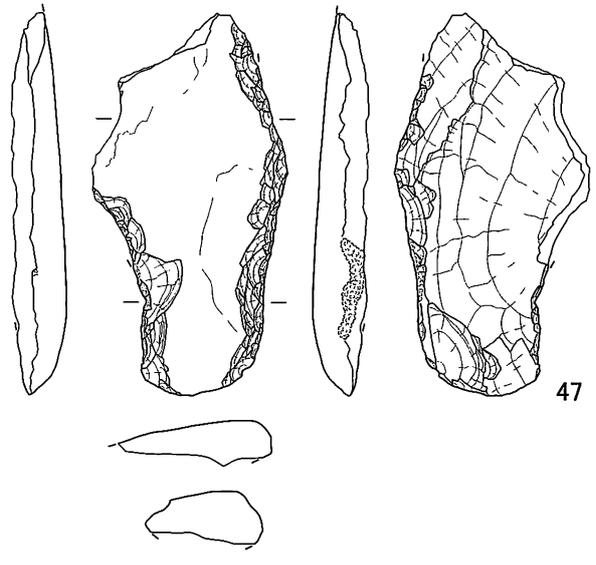
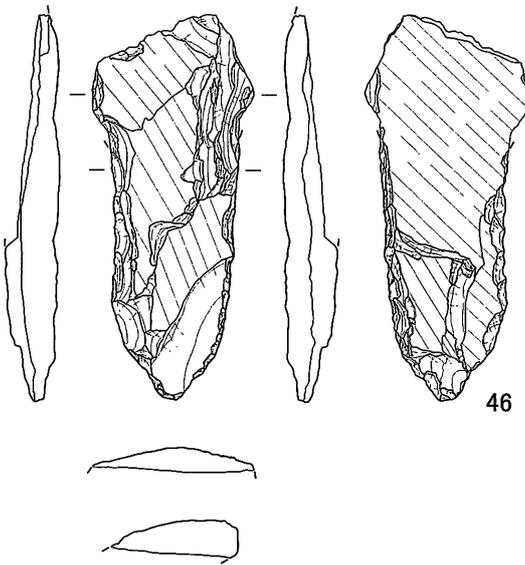
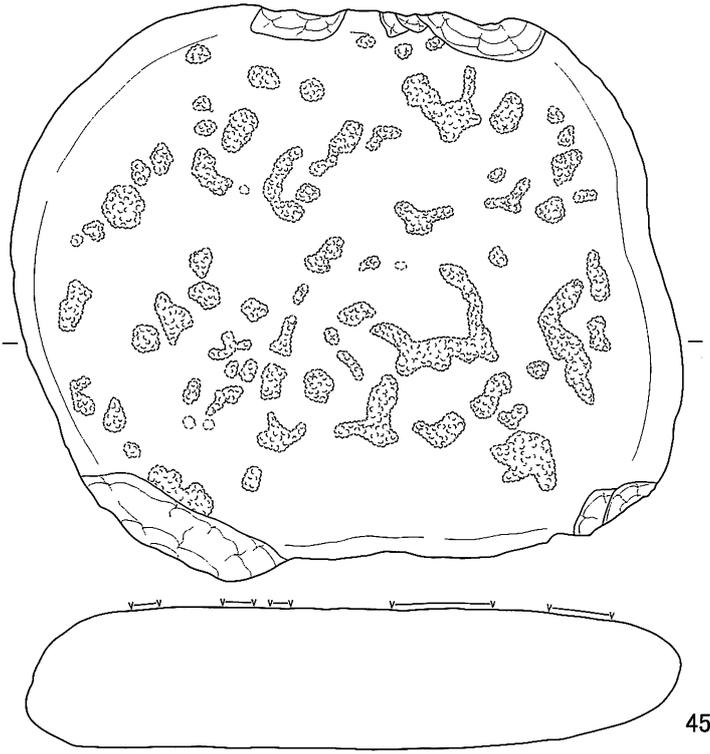




図II-97 包含層出土礫石器(7)



図Ⅱ-98 包含層出土礫石器(8)



図II-99 包含層出土礫石器(9)

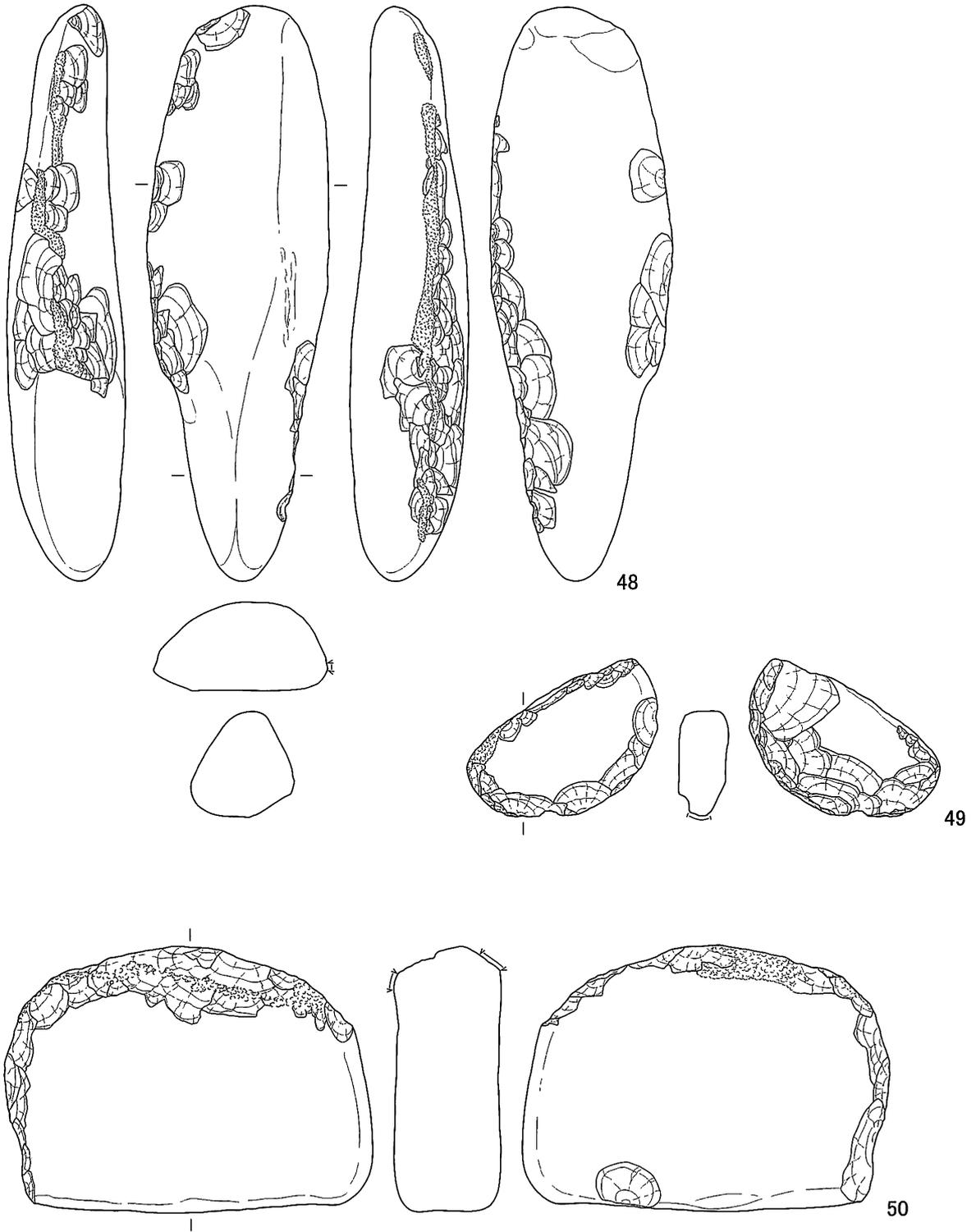
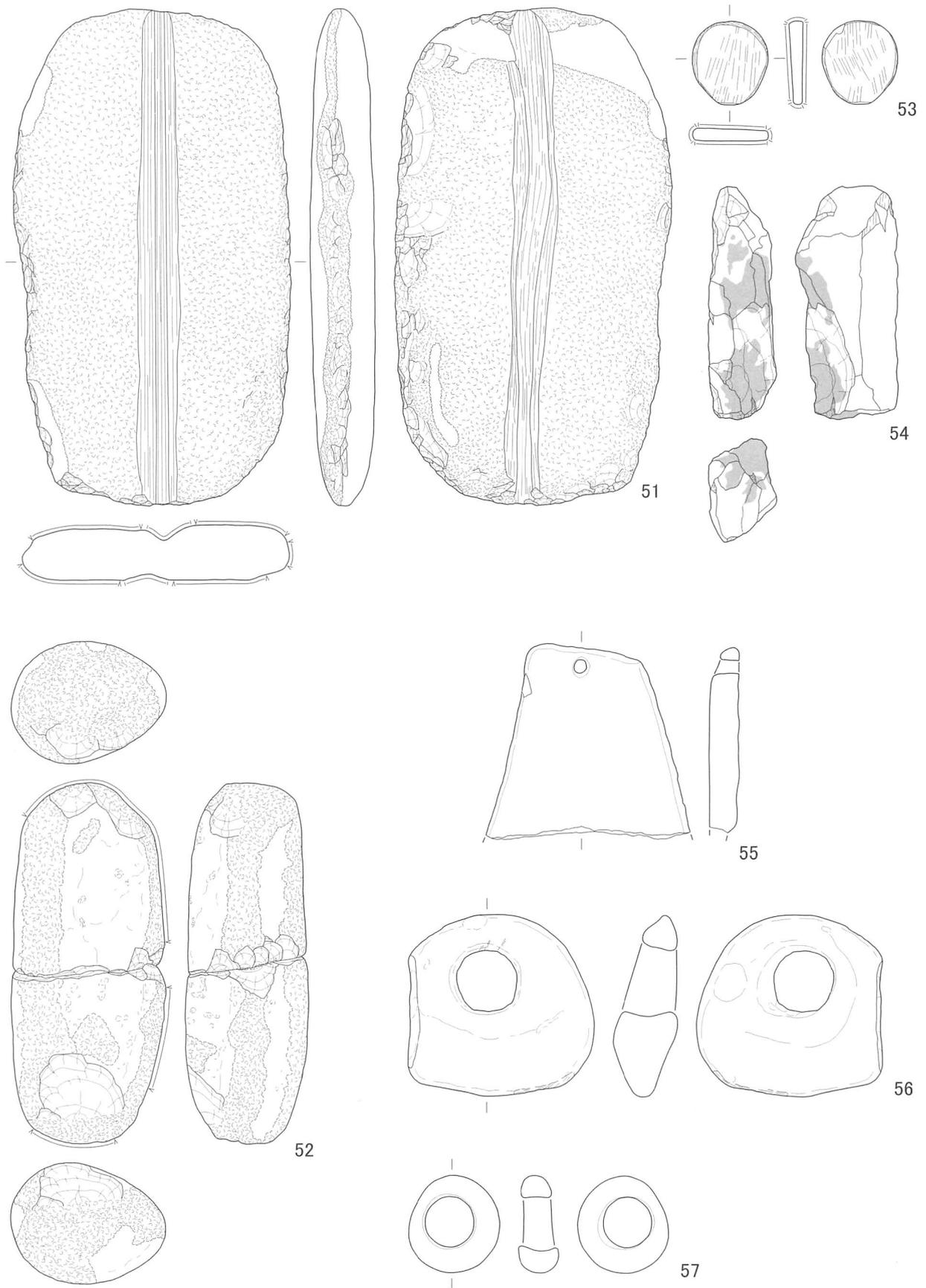


図 II-100 包含層出土礫石器(10)



図II-101 包含層出土礫石器(11)その他

表Ⅱ-55 包含層出土礫石器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	グリッド	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-91-1	87-1	-	2639	石斧	A1	AD-12	Vc	79.9	35.1	8.7	35.0	Gr-Mud.	完形
Ⅱ-91-2	87-2	-	3351	石斧	A1	AD-10	Vc	89.6	42.0	21.5	121.4	Gr-Mud.	完形
Ⅱ-91-3	87-3	-	3157	石斧	A1	AC-14	Va	97.6	51.6	18.9	148.9	Gr-Mud.	完形
Ⅱ-91-4	87-4	VST003	3206	石斧	A1	AC-09・12	Vc・Vb	127.8	42.0	28.5	232.7	Gr-Mud.	完形、接(3254)擦切痕あり
Ⅱ-91-5	87-5	-	9080	石斧	A1	U-16	VbL	120.2	42.1	24.8	202.5	Gr-Mud.	完形
Ⅱ-91-6	87-6	VST001	3152	石斧	A1	AA-11・AC-14	Vb・Vc	127.8	46.0	26.1	257.2	Gr-Mud.	完形、接(4086)
Ⅱ-91-7	87-7	-	3551	石斧	A2	AB-12	Vb	54.6	20.6	8.4	17.3	Gr-Mud.	完形、擦切痕あり
Ⅱ-91-8	87-8	-	3468	石斧	A2	AB-08	Vb	63.2	30.6	11.9	38.2	Gr-Mud.	完形、基部に黒色物質付着
Ⅱ-91-9	87-9	-	3194	石斧	A2	AC-13	Vb	95.4	37.7	13.8	86.6	Gr-Mud.	完形、擦切痕あり
Ⅱ-91-10	87-10	VST004	205	石斧	A2	AD-09	Vb	57.9	30.9	11.4	40.9	Gr-Mud.	完形、擦切痕あり接(3088)
Ⅱ-91-11	87-11	VST045	3425	石斧	B1	AE-07	Va~Vc	128.0	44.0	16.2	104.3	Gr-Mud.	完形、接(3426・3427・3429・3430・4589)
Ⅱ-91-12	87-12	-	89	石斧	B1	AI-06	Vb	123.6	56.7	14.4	119.8	Sch.	完形
Ⅱ-92-13	87-13	-	8815	石斧	B1	O-09	VbM	159.0	47.5	16.4	142.3	Sch.	完形
Ⅱ-92-14	87-14	-	4069	石斧	F	AB-13	Vb	40.9	17.4	6.6	7.2	Sa.	完形
Ⅱ-92-15	87-15	-	3543	石斧	F	AB-13	Vb	62.4	29.8	12.3	30.1	Sa.	略完形
Ⅱ-92-16	87-16	-	3085	石斧	E	AD-09	Vb	(127.7)	42.7	28.7	(265.0)	Gr-Mud.	刃部欠擦切痕あり
Ⅱ-92-17	87-17	-	563	たたき石	I A1	AG-08	Vc	148.3	74.0	30.9	455.0	Sa.	完形
Ⅱ-92-18	87-18	-	7855	たたき石	I A2	AD-10-2	Vb	147.0	63.4	31.2	420.0	Sa.	完形
Ⅱ-92-19	87-19	-	7539	たたき石	I A3	AK-06-3	Va	132.1	70.5	38.6	525.0	Sa.	完形
Ⅱ-92-20	88-20	-	6676	たたき石	I B3	AA-11-1	Vb	131.8	45.9	44.7	400.0	Sa.	完形
Ⅱ-93-21	88-21	-	8022	たたき石	Ⅱ A1	AE-08-4	Vb	165.8	85.8	31.4	535.0	Sa.	完形 黒色物質付着
Ⅱ-93-22	88-22	-	6528	たたき石	Ⅱ A3	AH-08-1	Va	182.2	102.8	30.9	815.0	Sa.	完形
Ⅱ-93-23	88-23	-	6536	たたき石	Ⅲ A	AH-07-3	Vb	111.8	110.3	24.9	435.0	Sa.	完形
Ⅱ-93-24	88-24	-	6615	たたき石	Ⅲ B	AC-10-4	Vb	49.5	50.7	40.8	135.0	Sa.	完形
Ⅱ-93-25	88-25	-	9734	すり石	D	H-07	VbL (103.8)	87.6	56.5	(660.3)	Sa.	欠損	
Ⅱ-93-26	88-26	-	2137	すり石	D	AE-13	Vb	100.4	123.2	45.0	860.0	And.	完形
Ⅱ-94-27	88-27	-	3003	すり石	D	AE-09	Vc	86.9	151.1	65.2	1,350.0	Sa.	完形
Ⅱ-94-28	88-28	-	3533	すり石	D	AB-14	Vb	113.3	188.1	64.4	1,710.0	Sa.	完形
Ⅱ-94-29	88-29	-	3437	すり石	D	AE-13	Vb	172.7	(75.7)	38.5	(655.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-95-30	88-30	VST044	6616	すり石	E	AC-13	Vb	173.1	193.2	37.1	1,670.0	Sa.	略完形、接(6630)
Ⅱ-95-31	88-31	-	10840	すり石	E	K-11	VbM	172.8	213.0	30.9	1,690.0	Sa.	完形
Ⅱ-95-32	89-32	VST012	3436	砥石	-	AE-08・11	Vb・Vc	(119.8)	(46.8)	34.9	(365.0)	Sa.	欠損、接(7837)
Ⅱ-95-33	89-33	-	7523	砥石	-	AB-11-4	Vb	(121.5)	(73.4)	23.5	(160.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-96-34	89-34	-	5615	砥石	-	Y-10	Vb	180.4	70.4	62.7	925.0	Sa.	完形、四面使用
Ⅱ-96-35	89-35	-	6553	石鋸	-	AD-13-1	Vc	(123.7)	(87.4)	16.8	(250.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-96-36	89-36	-	7530	石鋸	-	AB-08-2	Vb	(155.6)	(135.0)	30.5	(680.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-96-37	89-37	-	4070	石錘	-	AB-13	Vb	90.2	(60.1)	25.7	(166.6)	Gni.	欠損
Ⅱ-96-38	89-38	VST009	7961	線条痕のある礫	-	Z-12	Vc	(85.1)	92.2	49.0	(410.0)	Sa.	欠損、接(7962)
Ⅱ-97-39	89-39	-	7871	石皿	-	AE-12-1	Vb	362.0	(254.5)	(132.5)	(13,280.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-97-40	90-40	-	6683	石皿	-	AA-12-3	Vb	376.0	293.2	49.3	6,200.0	Sa.	完形
Ⅱ-98-41	90-41	-	6558	台石	-	AD-12-3	Vc	156.2	140.7	47.6	1,675.0	Sa.	完形
Ⅱ-98-42	90-42	-	7863	台石	-	AF-12-3	Vb	147.0	81.8	71.9	1,310.0	Sa.	完形
Ⅱ-98-43	90-43	VST014	7958	台石	-	Z-13-2・AD-11-3	Vb	194.1	151.5	61.2	1,820.0	Sa.	完形、接(7959)
Ⅱ-98-44	90-44	VST016	944	台石	-	AJ-06	V	(218.0)	(174.0)	82.0	(3,700.0)	Sa.	欠損、接(945)
Ⅱ-99-45	91-45	-	7942	台石	-	Z-15-4	Vb	267.1	230.3	59.4	5,050.0	Sa.	完形
Ⅱ-99-46	91-46	-	3211	棍棒形石器	-	AC-11	Vb	(152.5)	64.2	17.3	(170.0)	Bl-Sch.	欠損、柄部片
Ⅱ-99-47	91-47	-	9522	棍棒形石器	-	O-09	VbL	(146.0)	74.5	20.2	(262.8)	Sch.	欠損、柄部片
Ⅱ-100-48	91-48	-	9722	棍棒様石器	-	H-14	Va	274.0	86.9	55.2	1,600.0	Sa.	完形
Ⅱ-100-49	91-49	-	9043	加工痕のある礫	-	U-16	VbM	99.5	58.4	22.7	125.0	Sa.	完形
Ⅱ-100-50	91-50	-	3195	加工痕のある礫	-	AC-13	Vb	171.0	129.0	45.7	2,005.0	Sa.	完形

表II-55 包含層出土礫石器属性表(2)その他

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	グリッド	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-101-51	92-51	-	9290	擦り切り溝 のある礫	-	AB-18	Va	259.5	143.4	32.1	2,402.0	Gr-Mud.	完形
II-101-52	92-52	-	6587	石棒	-	AE-13-2	Vb	194.6	81.7	63.4	1,420.0	Sa.	完形
II-101-53	92-53	-	7983	石製品	-	AG-12-1	Vc	44.2	39.9	6.6	16.7	Sa.	完形
II-101-54	92-54	-	8825	黒色物質付着礫	-	O-08	VbL	125.2	49.2	33.4	249.8	Sa.	完形
II-101-55	92-55	-	4612	自然有孔礫	-	Z-14	Vb	(99.8)	105.8	16.1	(265.0)	Sa.	欠損
II-101-56	92-56	-	3209	自然有孔礫	-	AC-11	Vc	99.6	96.9	31.9	265.0	Sa.	完形
II-101-57	92-57	-	11026	自然有孔礫	-	M-08	VbM	51.2	47.4	18.9	40.0	Sa.	完形

表Ⅱ-56 包含層出土礫重量表

グリッド	重量(g)	グリッド	重量(g)	グリッド	重量(g)	グリッド	重量(g)
H-11	150.6	Q-17	23,099.4	Z-16	8,278.0	AE-11	41,923.0
H-12	51.1	R-09	159.1	Z-17	3,904.2	AE-12	25,150.0
H-13	1,823.3	R-10	562.7	Z-18	2,976.7	AE-13	27,145.0
I-08	46,048.3	R-12	611.2	Z-19	48.0	AE-14	7,457.0
I-09	663.2	R-16	64.9	AA-09	675.0	AF-06	1,320.0
I-10	3,728.4	R-17	689.4	AA-10	103,326.2	AF-07	25,261.8
I-11	1,026.0	S-10	26.5	AA-11	12,377.9	AF-08	30,871.7
I-12	2,523.5	S-11	925.8	AA-12	46,007.2	AF-09	10,148.0
I-13	1,501.2	S-12	459.1	AA-13	26,704.1	AF-10	23,327.0
I-15	5,050.0	S-17	169.3	AA-14	4,830.0	AF-11	41,923.0
J-08	6,734.6	T-11	171.6	AA-15	8,070.0	AF-12	37,521.0
J-09	28,437.3	T-12	2,823.0	AA-16	1,809.2	AF-13	30,929.3
J-10	26,588.1	U-12	34.8	AA-17	10,229.7	AF-14	5,020.0
J-11	8,556.7	U-16	1,665.8	AA-18	3,406.9	AG-06	18,349.7
J-12	41,502.2	U-18	955.7	AB-07	12,595.0	AG-07	51,125.1
J-13	305.0	V-18	171.5	AB-08	39,500.0	AG-08	37,701.0
K-08	6,746.6	W-11	105.0	AB-09	5,350.0	AG-09	13,250.0
K-09	7,817.2	W-12	5,708.0	AB-10	31,190.4	AG-10	3,588.0
K-10	2,013.8	W-13	5,216.8	AB-11	11,231.6	AG-11	34,760.0
K-11	3,733.8	W-14	1,165.0	AB-12	13,500.0	AG-12	22,298.0
K-12	1,045.6	W-15	1,195.0	AB-13	17,856.7	AG-13	18,762.8
K-14	507.7	W-16	250.8	AB-14	31,405.0	AH-06	24,259.9
L-10	6,580.4	W-18	2,983.0	AB-15	21,104.5	AH-07	61,658.1
L-11	2,488.9	W-19	54.6	AB-16	2,278.0	AH-08	34,536.8
L-12	5,926.2	X-10	912.1	AB-17	29,835.7	AI-06	13,911.0
M-08	6,084.4	X-11	16,699.0	AB-18	880.6	AI-07	33,998.0
M-09	144.5	X-12	8,375.0	AC-07	15,167.0	AI-08	4,105.0
M-10	5,275.8	X-13	35,971.3	AC-08	14,689.0	AJ-05	16,627.0
M-11	10,361.7	X-14	20,300.6	AC-09	10,963.0	AJ-06	22,655.0
M-12	11.8	X-15	7,015.8	AC-10	45,005.0	AJ-07	9,022.0
N-09	2,099.8	X-16	1,700.0	AC-11	7,010.0	AK-05	11,221.0
N-10	11,127.7	X-17	1,472.0	AC-12	9,342.0	AK-06	5,056.0
O-08	12,281.5	X-18	46,621.5	AC-13	15,545.0	AL-05	330.0
O-09	4,576.3	X-19	12,731.2	AC-14	315,375.5	AL-06	60.0
O-10	3,113.7	Y-10	684.9	AC-15	38,584.0	AN-07	2,710.0
O-11	821.4	Y-11	15,441.9	AC-16	1,134.0	AT-07	3,040.0
O-12	1,501.6	Y-12	13,330.0	AD-07	7,630.0		
O-13	50.7	Y-13	8,243.0	AD-08	5,628.3		
P-08	489.9	Y-14	29,963.0	AD-09	15,170.0		
P-09	1,735.8	Y-15	1,410.0	AD-10	18,497.0		
P-10	3,749.7	Y-16	11,455.0	AD-11	25,330.0		
P-11	3,437.6	Y-17	10,830.0	AD-12	13,700.0		
P-12	207.8	Y-18	2,973.4	AD-13	19,515.0		
P-17	11,520.0	Z-10	69,100.2	AD-14	16,791.0		
Q-08	194.4	Z-11	17,180.0	AD-15	7,825.0		
Q-09	178.8	Z-12	42,803.8	AE-07	22,946.0		
Q-10	27,490.9	Z-13	26,029.9	AE-08	10,906.0		
Q-11	259.9	Z-14	7,556.7	AE-09	46,948.6		
Q-12	390.0	Z-15	6,073.0	AE-10	166,760.0		
小計	318,655.4	小計	464,141.3	小計	1,299,832.0	小計	751,021.2
						合計	2,833,649.9

第Ⅲ章 自然科学的分析

第1節 ショロマ2遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

ショロマ2遺跡は、北海道勇払郡厚真町字幌内 96-1・2 (北緯 42° 46' 46"、東経 142° 00' 03") に所在する。測定対象試料は、住居跡から出土したクルミ 1 点である (表 1)。

2 測定の意義

試料が出土した遺構は、考古学的に帰属時期を決定づけるには条件が乏しいため、年代測定結果を参考情報として活用する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (H₂Ox II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。

ある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい(^{14}C が少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2、3に示した。なお、暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表2、図1に、後者を表3、図2に示した。

6 測定結果

測定結果を表1~3、図1、2に示す。較正年代は、cal BPとcal BC/ADの2通りで算出したが、以下の説明ではcal BPの値で記載し(表2、図1)、cal BC/ADの値は図表のみ提示した(表3、図2)。

試料の ^{14}C 年代は $5020\pm 30\text{yrBP}$ 、暦年較正年代(1σ)は5880~5664cal BPの間に4つの範囲で示され、縄文時代前期後半頃に相当する(小林編2008)。

試料の炭素含有率は45%というおおむね適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-143195	委託 No.13	VH-06.HF01 Vb 層中位	クルミ	AAA	-28.04 ± 0.66	5,020 ± 30	53.55 ± 0.20

[#7169]

表2 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C 未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代 cal BP)

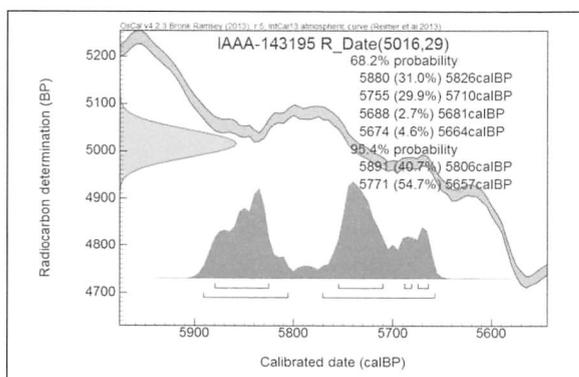
測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-143195	5,070 ± 30	53.22 ± 0.18	5,016 ± 29	5880calBP - 5826calBP (31.0%) 5755calBP - 5710calBP (29.9%) 5688calBP - 5681calBP (2.7%) 5674calBP - 5664calBP (4.6%)	5891calBP - 5806calBP (40.7%) 5771calBP - 5657calBP (54.7%)

[参考値]

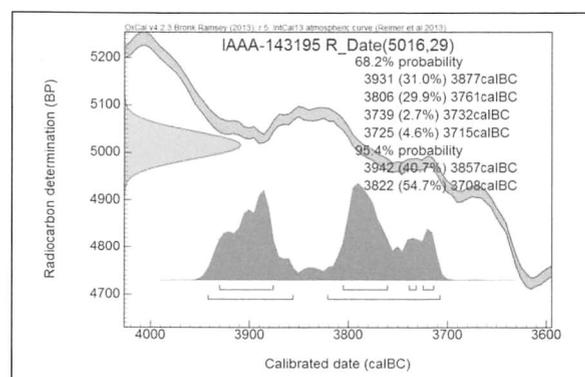
表3 放射性炭素年代測定結果(較正年代 cal BC/AD)

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-143195	-	-	-	3931calBC - 3877calBC (31.0%) 3806calBC - 3761calBC (29.9%) 3739calBC - 3732calBC (2.7%) 3725calBC - 3715calBC (4.6%)	3942calBC - 3857calBC (40.7%) 3822calBC - 3708calBC (54.7%)

[参考値]



[図 1] 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)



[図 2] 暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)

第2節 ショロマ2遺跡から検出された植物種子

Project Seeds 考古植物研究会 椿坂 恭代

1. 遺跡の所在と性格

遺跡の名称 : ショロマ2遺跡
所在地 : 北海道勇払郡厚真町字幌内96-1・2
発掘調査期間 : 平成25年6月18日～同年10月31日、平成26年5月13日～同年7月31日
発掘調査面積 : 平成25年度 2,305㎡、平成26年度 3,647㎡
調査担当者 : 乾 哲也、長谷川 徹
遺構の主な時期 : 縄文時代中期後葉、後期初頭～前葉
遺跡の立地 : 遺跡は厚真川河口より約35km遡った厚真川上流域、夕張山地の南端に位置し、支流ショロマ川との合流点より約430mの右岸、標高70～73mの河岸段丘上に立地している。
その他の検出遺構・遺物などの詳細については本編を参照していただきたい。

2. 扱った資料

分析対象として扱った資料は平成25年度・26年度に発掘調査を実施した遺跡からのものである。縄文時代中期後葉と推定される竪穴式住居跡、焼土、土坑、土器集中、礫集中などの遺構から土壌を採取し、フローテーション処理を行い、第1次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。これらの資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子は表と図に示しておく。

3. 検出された植物種子

ブドウ科 VITIDACEAE (図1a・b : VF-07から出土)

焼土 (VF-07)、礫集中 (VSB-32) から出土。堅果は広倒卵形。背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなし稜の両側に針形の凹みがある。これらの特徴からブドウ属に分類される。形態の類似した種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat.、サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb.、エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata*、があるが、サンカクズル、エビヅルの分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat. と判断される。計測値はL3.10×W2.60×T1.90 (mm)

キハダ属 *Phellodendron* Rupr. (図2 : VSB-32から出土)

焼土 (VF-16・18)、礫集中 (VSB-32) から出土。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。計測値はL3.60×W2.10×T1.30 (mm)

サクラ属 *Prunus* L. (図3a・b : VF-18から出土)

焼土 (VF-18) から出土。核は広楕円形、腹面には縦にベルト状の隆条があり核面は粗面でサクラ属種子の特徴を示す。すべて破片であったので、詳細な分類は困難である。破片のため計測はしていない。

コナラ属 *QUERCUS* L. (図4a・b: VH-01から出土)

竪穴式住居跡 (VH-01)、焼土 (VF-04)、グリッド (AH-07, 08) から子葉の破片が合わせて2.016g 出土。子葉は長楕円形で表面には縦条がある。この資料の形態と大きさはミズナラ *Quercus crispula* Blume. に近い大きさや形態を示す。しかし、このような形態を持つ種類にはミズナラ、コナラ、カシワなどがあり、子葉の形態から詳細な分類をするのは困難である (吉崎・椿坂 2000)。計測値はL15.48×W10.45 (mm)。参考までに自然乾燥処理の現生ミズナラ子葉の1個の重さは約1.7gである。

クルミ属 *Juglans* L. (図6: VSB-32から出土)

竪穴式住居跡 (VH-01, 04, 06)、焼土 (VF-03, 08, 11, 13, 18)、土坑 (VP-01)、土器集中 (VPB-08)、礫集中 (VSB-32) グリッド (AH-07) から内果皮の細片が合わせて8.763g出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maximと判断される。細片のため計測はしていない。参考までに自然乾燥処理の現生オニグルミ核1個の重さは約6.0gである。

菌類? (図5a・b: VH-01から出土)

竪穴式住居跡 (VH-01) から1片出土。表面は乳頭状の突起がある。これまでも各時期の遺構から同じ組織構造の資料が検出されている。しかし、その形と大きさが一定していないことから、種子や堅果類ではないようである。その実態は不明である。計測値はL5.30×W5.60 (mm)

表1 ショロマ2遺跡 植物遺存体出土一覧

調査年度	遺構名	グリッド	時期	ブドウ科		キハダ属		サクラ属	コナラ属	クルミ属	菌類?	不明炭化物
				(粒)	(粒)	(片)	(片)	(g)	(g)	(片)	(片)	
H25	VH-01	AH-06・07,AG-06	縄文中期後葉							0.149	1	
H25	VH-01 (単独No.582)	AH-06・07,AG-06	縄文中期後葉						0.311			
H25	VH-03,HF-01	AC-07	縄文中期後葉							0.280		
H25	VH-04 (単独No.4693)	X・Y-13・14	縄文後期初頭							0.212		
H26	VH-06,HF01	J-08・09,K-08・09	縄文中期～後期							0.007		
H25	VF-03	AJ-05	縄文中期後葉							0.016		
H25	VF-04	AJ-05	縄文中期後葉						0.128			
H25	VF-07	AE-09	縄文時代	1								
H25	VF-08	AC-12	縄文時代							0.012		
H25	VF-11	AG-07	縄文時代							0.589		
H26	VF-16	X-18	縄文時代			1						
H26	VF-17	I-14	縄文時代									2
H26	VF-18	J-09	縄文時代			8	3			0.112		3
H26	VF-19	I-13	縄文後期初頭									1
H26	VF-20	L-11	縄文時代									1
H26	VF-21	I-08・09	縄文時代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H25	VP-01	AG-06	縄文中期後葉以前							0.154		
H25	VPB-08 (単独No.5614)	AW-12・13	縄文中期後葉							0.091		
H26	VSB-32	J-12	縄文中期	1	1					6.935		1
H25	AH-07 (単独No.385)	AH-07	縄文中期後葉						0.920			
H25	AH-07 (単独No.1315)	AH-07	縄文中期後葉						0.147			
H25	AH-07 (単独No.1719)	AH-07	縄文中期後葉							0.206		
H25	AH-07 (単独No.2711)	AH-07	縄文中期後葉						0.411			
H25	AH-08 (単独No.1617)	AH-08	縄文中期後葉						0.099			
合計				2	1	9	3		2.016	8.763	1	8
酸化状態の種子												

4. 若干のコメント

検出できた植物遺体は野生植物木本類のブドウ科、キハダ属、サクラ属、コナラ属、クルミ属の堅果類のみであった。いずれも集落の周囲に一般的に認められるものである。これまでの検出例からみても縄文時代に普遍的に利用されていたものばかりである。その中で礫集中 (VSB-32) の遺構からクルミ属の内果皮の細片が纏まって検出されている。

クルミ属は日本各地、樺太に分布しており、利用の多い食料資源である。アイヌの人たちは、クルミを大量に貯蔵して、冬になってから炉の中に並べ、焚き火に炙り、裂け目のできた堅果を刃物でこじ開けて胚を食べていた。また、樹皮は染料としても利用されていたという (知里 1993)。クルミ属は、縄文時代から近世まで連続と検出されているが、その利用方法について、まだ確実にわかっていないのが現状である。こうした問題を明らかにするための手段として、考古学的な事例の蓄積と民俗学的な事例を参考にしながら検討して行くことが重要であると考えられる。

引用文献

吉崎昌一・椿坂恭代

2000 : 「キウス4遺跡Q地区から出土した縄文時代の植物種子」『千歳市キウス4遺跡 (7)』第2分冊 347-352
北埋調報152 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

知里真志保

1993 : 「分類アイヌ語辞典植物編・動物編」184-186 『知里真志保著作集』別巻 I 平凡社

図版1



1a

ブドウ科背面



1b

腹面



2

キハダ属



3a

サクラ属表面



3b

内面



4a

コナラ属子葉表面



4b

内面



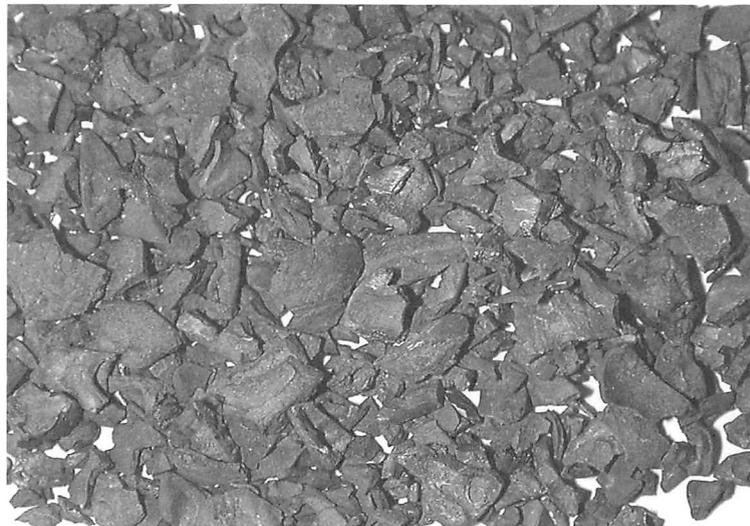
5a

菌類? 表面



5b

内面



6

クルミ属内果皮片

第IV章 まとめ

ショロマ2遺跡は、ショロマ川と厚真川との合流点から約430m遡ったショロマ川下流域右岸に形成された標高70~73mの河岸段丘上に立地する。

発掘調査の結果、遺物を包蔵するV層の文化層1枚を確認した。以下、主なものについて述べる。

V層の文化層は縄文時代晩期後葉に降下した樽前cテフラ層下の黒色腐植土層で、縄文時代早期後葉のコッタロ式から後期前葉のタプコプ式期の遺構・遺物を確認している。遺構では住居跡6軒、落とし穴45基、土坑14基、焼土21基、土器集中12ヵ所、礫集中31ヵ所、石斧石器群削片集中1ヵ所、剥片・削片集中1ヵ所がある。

住居跡は調査区南端の尾根上で3軒検出した。VH-01・04は石組炉を配し、縄文時代中期後葉の土器が出土している。VH-02・03には地床炉があり、覆土から縄文時代中期後葉の土器が出土している。VH-05には炉跡がなく、縄文時代後期前葉の土器が出土している。VH-06には石組炉が確認されているが土器は伴っていない。

落とし穴は調査区の北西から南東側の緩斜面にかけて検出した。落とし穴は軸方向や形状・規格を同じにするものがあり、規則的に配列する可能性が考えられるものがある。そこで検出面を覆うTa-d2テフラを見い出すものから、覆土上部が黒色土のみで埋まったものを抽出し、同時期として列を見い出そうとし、隣り合うものから埋め戻しの状況で、落とし穴の新旧を見い出すことができるか確認した。しかしながら必ずしも隣接している落とし穴から埋め戻した形跡は見い出せなかった。またタイプ別の分類抽出においても隣接する落とし穴との時間差は確認することができなかった。落とし穴の構築時期については、遺構の重複関係からTP-01はVH-02よりも古いことが確認できた。VH-02からは天神山式期の土器が出土しており、縄文時代中期に相当する遺構である。このことからTP-01は少なくとも縄文時代中期後葉より遡るものと考えられる。なお天神山式期の住居跡と溝状タイプ(A1型)の落とし穴の重複関係は千歳市「イヨマイ6遺跡」住居跡H28・29(千歳市教委1997)、札幌市「M67遺跡」第6号竪穴住居跡(札幌市教委1988)で同様な重複状況がみられる。また天神山式期より新しい柏木川式期以降の千歳市「ユカンボシC15遺跡」住居跡H20(道埋文1999)、縄文時代中期末葉の苫小牧市「静川遺跡B地区」住居跡D-18(苫埋文2002)、中期末葉~後期初頭の厚真町「上幌内モイ遺跡」石組炉VF-05(厚真町教委2006)では重複状況がみられることから落とし穴の年代推定に関わる重要な類例と言える。

土坑は調査区の北側と南側の緩斜面から検出されている。VP-01・03からは天神山式期の土器が出土しており、縄文時代中期後葉に相当するものと考えられる。他は土器が出土していないため時期は明らかにならなかった。

焼土は調査区の南側に集中し検出した。VF-03には萩ヶ岡2式期、VF-04には萩ヶ岡2式・天神山式期、VF-14からは天神山式期の土器が出土しており、縄文時代中期後葉を中心とする時期である可能性が考えられる。

土器集中は縄文時代中期後葉に属す、Ⅲ群B1類土器が調査区の南側で多く出土している。縄文時代後期前葉のⅣ群A・B類土器は南側から中央にかけて検出されている。

礫集中は縄文時代前期前葉のものが調査区南東側の湧水地から1ヵ所、ほか30ヵ所は縄文時代中期後葉から後期前葉のもので、調査区平坦部や緩斜面から確認されている。縄文時代中期後葉のものは

被熱した円礫が多い。後期前葉のものは調査区南端から中央にかけて分布し、板状礫が伴うものには未被熱のものが多く。

石斧石器群削片集中は1ヵ所検出され石斧製作跡と思われ、新段階のタプコプ式土器が伴っており同時期に属する遺構と考えられる。

剥片・削片集中は後期初頭の土器が伴出しているため、この時期の遺構と判断した。

包含層出土土器は住居跡が集中する南東から南側の平坦部及び斜面に多く分布している。復元作業により160個体ほどを確認した。この結果、縄文時代早期後葉のコッタロ式、中茶路式、東釧路IV式、前期後葉の植苗式、中期前葉の円筒上層式、中期後葉の萩ヶ岡1・2式、天神山式、柏木川式や末葉の北筒式（トコロ6類）、後期前葉の新段階のタプコプ式が出土した。主体となすものは中期後葉の萩ヶ岡1・2式や天神山式、後期前葉の余市式、タプコプ式である。

(長谷川・工藤・大谷)

引用・参考文献

- 赤石慎三 2004 「苫小牧地方における縄文時代中期後半の土器について」『館報』第3号 苫小牧市博物館
- 厚真町 1986 『厚真町史』
- 厚真町 1998 『増補 厚真町史』
- 厚真町教育委員会 2001 『鯉沼2遺跡』
- 厚真町教育委員会 2004 『厚幌1遺跡』
- 厚真町教育委員会 2006 『上幌内モイ遺跡(1)』
- 厚真町教育委員会 2007 『上幌内モイ遺跡(2)』
- 厚真町教育委員会 2009 『上幌内モイ遺跡(3)』
- 厚真町教育委員会 2010 『厚幌1遺跡(2)・幌内7遺跡(1)』
- 厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ2遺跡』
- 厚真町教育委員会 2013 『オニキシベ5遺跡』
- 厚真町教育委員会 2013 『フチャラセナイチャン跡・フチャラセナイ遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014 『厚幌1遺跡(3)』
- 厚真町教育委員会 2014 『フチャラセナイ遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ6遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014 『シヨロマ3遺跡』
- 厚真村 1956 『厚真村史』
- 厚真村郷土研究会 1956 『厚真村古代史』
- 出穂雅美 2006 「第三章第2節 ジオアーケオロジー」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 恵庭市教育委員会 1981 『柏木B遺跡』
- 江別市教育委員会 1970 『江別市大麻第V遺跡発掘調査報告』
- 江別市教育委員会 1982 『萩ヶ岡遺跡』
- 大泉博嗣 1987 「落し穴」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群II』苫小牧市教育委員会
- 大沼忠春 1989 「北筒式土器様式」『縄文土器大観1』小学館
- 菊池俊彦 1967 「札幌市平岸天神山出土の土器について」『北海道考古学』3 北海道考古学会

- 工藤研治 2008 「北筒式土器」『総覧 縄文土器』同刊行委員会
- 札幌市教育委員会 1988 『M67 遺跡』札幌市文化財調査報告書 34
- 其田良雄・河野本道編 1980 『知床国立公園・幌別川口遺跡』斜里町教育委員会
- 田近・大津・八幡 2004 「厚幌1 遺跡の地すべり堆積物」『厚幌1 遺跡』
- 千歳市教育委員会 1997 『イヨマイ6 遺跡における考古学的調査3』千歳市文化財調査報告書 24
- 苫小牧市教育委員会 1976 『植苗貝塚』
- 苫小牧市教育委員会 1984 『タブコブ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1986 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1990 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1992 『静川 37 遺跡』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1992 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1998 『美沢東遺跡群』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 2002 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅶ』
- 野村崇・杉浦重信 2005 「棍棒形石器について」『物質文化』30 物質文化研究会
- 畑 宏明 1966 「札幌市平岸坊主山遺跡」『Ainu Moshiri』II 北海道教育大学考古学研究会
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市ユカンボシC15 遺跡(2)』北埋調報 133
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『厚真町浜厚真 3 遺跡』北埋調報 186
- 野澤謙庵 1692 「蝦夷記」『續々群書類従』第九 國書圖書刊行会
- 松浦武四郎(高倉新一郎校訂) 1985 『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中 北海道出版企画センター
- 蕨島栄紀 2005 「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高Ⅰ)』苫小牧
駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所
- 森田知忠・遠藤香澄 1984 「Tピット論」『北海道の研究』1 清文堂
- 渡辺俊一 1978 「厚真1遺跡のTピットについて」『郷土の研究』4 苫小牧郷土文化研究会